

公民館事業 市民意識調査 報告書

平成21年4月

日光市教育委員会

は じ め に

社会教育法が施行されて60年が経ち、これまで公民館は、多種・多様な学級・講座等の事業を展開し、地域住民の身近な学習の場、交流の場として学習活動や地域づくりの支援に大きな業績をあげてまいりました。

しかし、今、私たちを取り巻く環境は、景気の低迷、本格的な少子高齢化、家族形態の多様化、ライフスタイルや就業形態の変化、高度情報化などに加え、地域社会での結びつきの希薄化など社会の急激な変化に伴い、市民の学習ニーズは多様化・高度化してきており、公民館の役割も少しずつ変化が求められるようになりました。

平成18年に改正された教育基本法では、生涯学習の理念が規定され、地域課題・生活課題や現代的課題の解決に向けた取組みが示される一方、地方自治体においては地方分権化が進む中で住民と行政の連携が求められており、これからの公民館は今まで以上に人づくり・地域づくりの拠点となることが求められることになり、公民館の役割はますます重要視されています。

そのようなことを受け、本市では平成19年11月に策定した日光市生涯学習推進構想の中で、「地域づくりの拠点として公民館の充実」を施策の柱の一つとして掲げ、「公民館での学習機会の拡充」や「地域づくりに向けた学習を支援」することなどを主な施策として位置づけました。

このような状況の中で、市民の公民館事業に関する考え方や意見、あるいは期待することなど実情を把握し、今後の公民館における事業の企画立案や公民館運営の基礎資料とすることを目的に「公民館事業市民意識調査」を実施いたしました。

このたび、その結果をまとめ報告する運びとなりました。調査の実施にあたり、調査にご協力いただきました市民の皆様に心からお礼申し上げますとともに、調査票の作成、集計分析、報告書の作成とご尽力いただきました宇都宮大学教育学部 小原一馬准教授に感謝を申し上げます。

平成21年4月

日光市教育委員会

教育長 金 田 勇

目次

第一章	調査の概要	5
1.	調査の目的	5
2.	調査の対象・抽出方法	5
3.	調査・分析主体	5
第二章	調査結果	6
1.	調査対象の基本属性	6
①	男女別・年齢別	6
②	職業	8
③	世帯構成	11
④	居住歴	13
⑤	勤務地	15
2.	市立公民館やコミュニティーセンターの利用頻度	17
①	男女別・年齢別	17
②	職業別	18
③	居住歴	19
④	世帯構成	20
⑤	勤務地	20
⑥	地域別	21
⑦	まとめ	22
3.	公民館の利用の仕方	24
①	男女別・年齢別	24
②	職業別	27
③	地域別	29
④	利用種別の相互関係	30
⑤	まとめ	31
4.	講座参加の傾向	32
①	男女別・年齢別	32
②	職業別	35
③	居住歴	36
④	勤務地	37
⑤	地域別	38
⑥	まとめ	39
5.	公民館の講座や教室にこの3年間不参加だった理由	40
①	回答パターン	40
②	男女別・年齢別	45
③	地域別	49

④	まとめ.....	50
6.	公民館の参加講座の種類	51
①	回答パターン	51
②	男女別・年齢別	56
③	地域別.....	58
④	まとめ.....	59
7.	公民館の希望講座の種類	60
①	回答パターン	60
②	男女別・年齢別	64
③	地域別.....	67
④	公民館希望講座のまとめ	69
8.	最近三年間の生涯学習の実践	70
①	回答パターン	71
②	男女別・年齢別	79
③	地域別.....	82
④	生涯学習の実践のまとめ	83
9.	来年度以降この数年間に取り組みたい生涯学習	84
①	回答パターン	84
②	男女別・年齢別	91
③	地域別.....	96
④	まとめ.....	97
10.	公民館事業（講座・イベント）に都合の良い時間帯	98
①	男女別・年齢別	98
②	職業別.....	101
③	地域別.....	103
第三章	まとめと結論	105
1.	年齢・性別ごとの特徴.....	105
①	公民館利用	105
②	公民館講座	105
③	生涯学習	106
2.	職業ごとの特徴	106
①	公民館利用	106
②	公民館講座	106
③	生涯学習	107
3.	居住歴ごとの特徴.....	107
①	公民館利用	107
②	公民館講座	107
③	生涯学習	107

4. 地域ごとの特徴	107
① 公民館利用	107
② 公民館講座	107
③ 生涯学習	108
5. 結論	109
6. 自由意見	110
7. 付録（調査票）	129

第一章 調査の概要

1. 調査の目的

中央公民館及び地域づくりの核となる地区公民館事業を推進するにあたり、市民の公民館事業に関する考えや意見、あるいは期待すること等、実情を把握し、公民館における事業の企画立案や公民館運営の基盤づくりの基礎資料とするため「公民館事業市民意識調査」を実施する。

2. 調査の対象・抽出方法

調査の対象：日光市に住む18歳以上の市民 3000 名

抽出方法：住民基本台帳（平成20年9月1日現在）から地域ごとに無作為抽出

地域の傾向を見るため、足尾地域、栗山地域地区に関しては実際の人口比以上の調査票を配布している。

各地域の人口と調査票配布数、回収数

	今市	日光	藤原	足尾	栗山	合計	平成12年国勢調査に基づく
実際の人口比	64.5%	17.8%	11.8%	3.8%	2.2%	100.0%	
調査票配布数	1,500	750	450	150	150	3000	
有効回答	522	285	141	65	54	1067	
有効回答比率	48.92%	26.71%	13.21%	6.09%	5.06%	100.0%	
回収率	34.8%	38.0%	31.3%	43.3%	36.0%	35.9%	
地域バランス復元後の有効回答	522	144	98	31	18	813	
地域バランス復元後の有効回答比率	64.2%	17.7%	12.1%	3.8%	2.2%	100.0%	

なお以下の分析では、全体の傾向に関しては実際の人口比を再現するため、今市以外の地域においては回収した調査票の一部のみを使用し、各地域の傾向を見る場合には全体の回答を用いている。

3. 調査・分析主体

調査実施機関 日光市教育委員会

調査票作成 日光市教育委員会事務局中央公民館、宇都宮大学教育学部 小原一馬

調査票分析 宇都宮大学教育学部 小原一馬

報告書作成 宇都宮大学教育学部 小原一馬、日光市教育委員会事務局中央公民館

第二章 調査結果

1. 調査対象の基本属性

① 男女別・年齢別

図 1-1

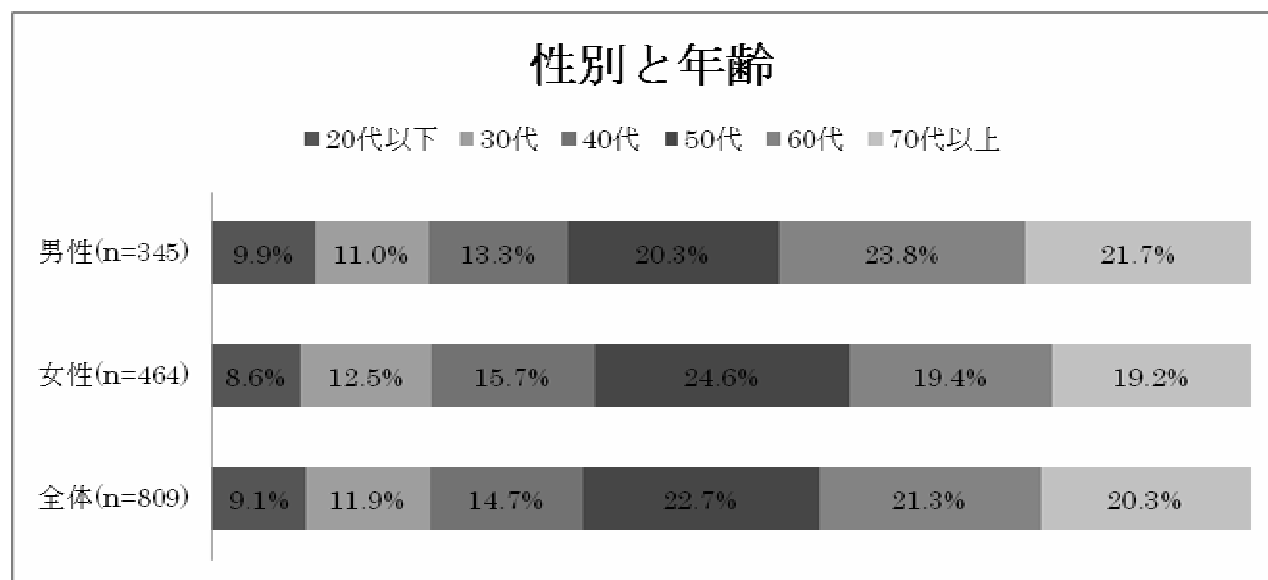
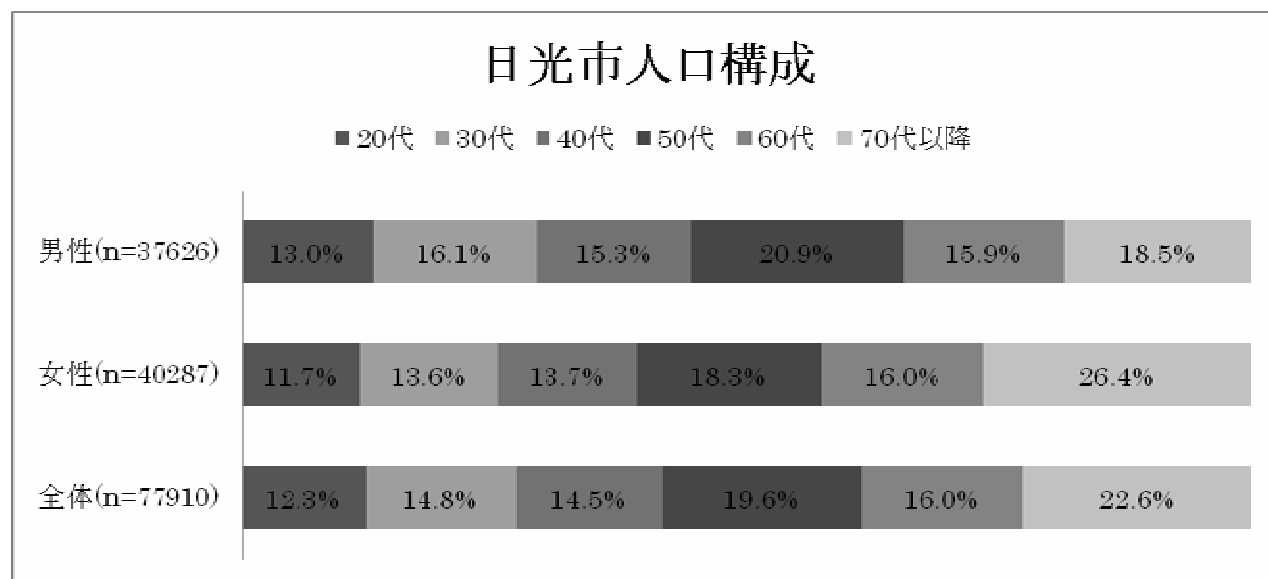


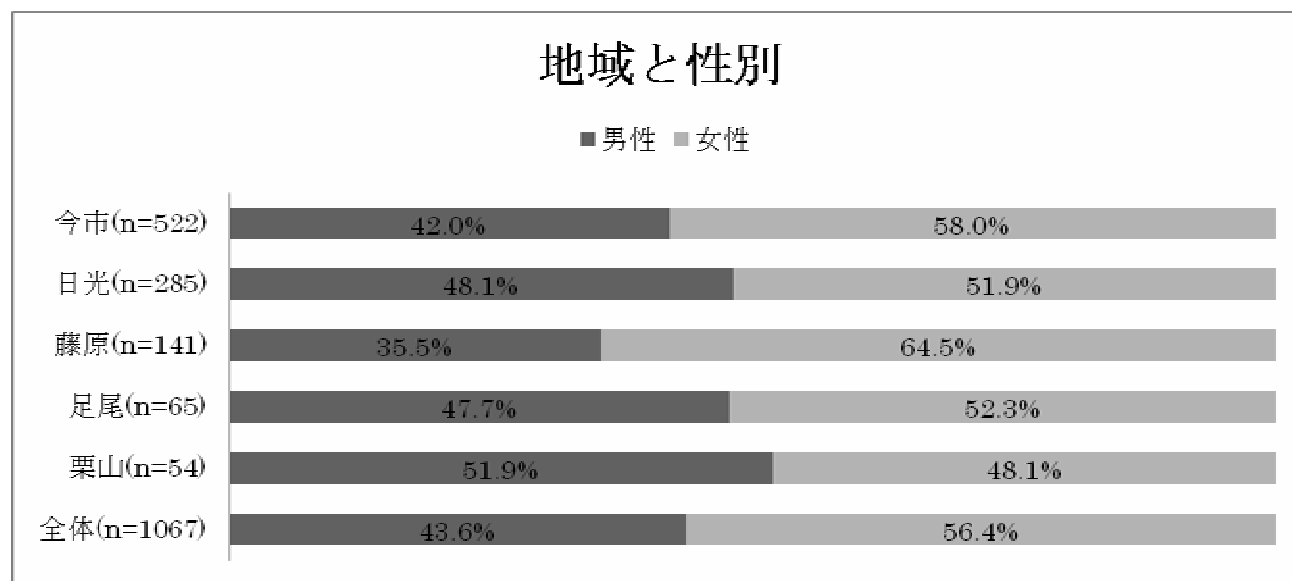
図 1-2



性別と年齢は調査票問 1、2 でたずねている。

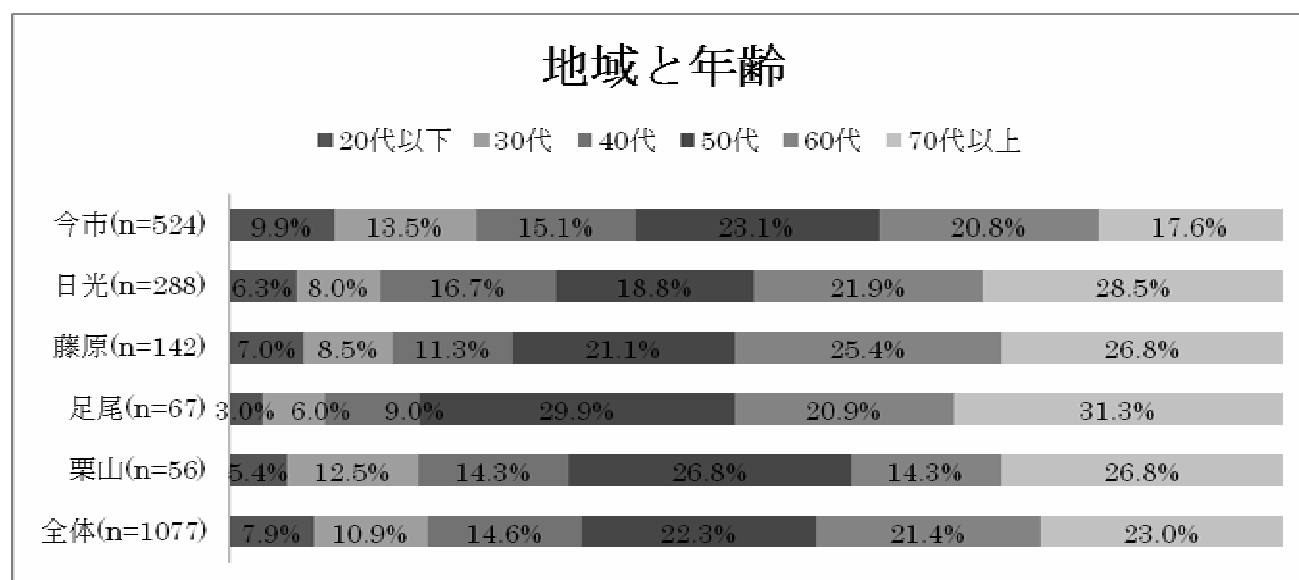
年齢が高くなるにつれて回答者数の割合が高くなっている。日光市の実際の人口構成の割合と比較すると、30 代以下の回答者の割合が低く、60 代の回答者の割合が高くなっている。これは回収率の違いが影響したものと考えられる。

図 1-3



日光市全体の人口構成（男性 48.7%、女性 51.3%）と比較して、全体的に女性の割合が高く、特に藤原地域においては顕著である。これは女性の回収率のほうが若干高かったことによるものと考えられる。

図 1-4

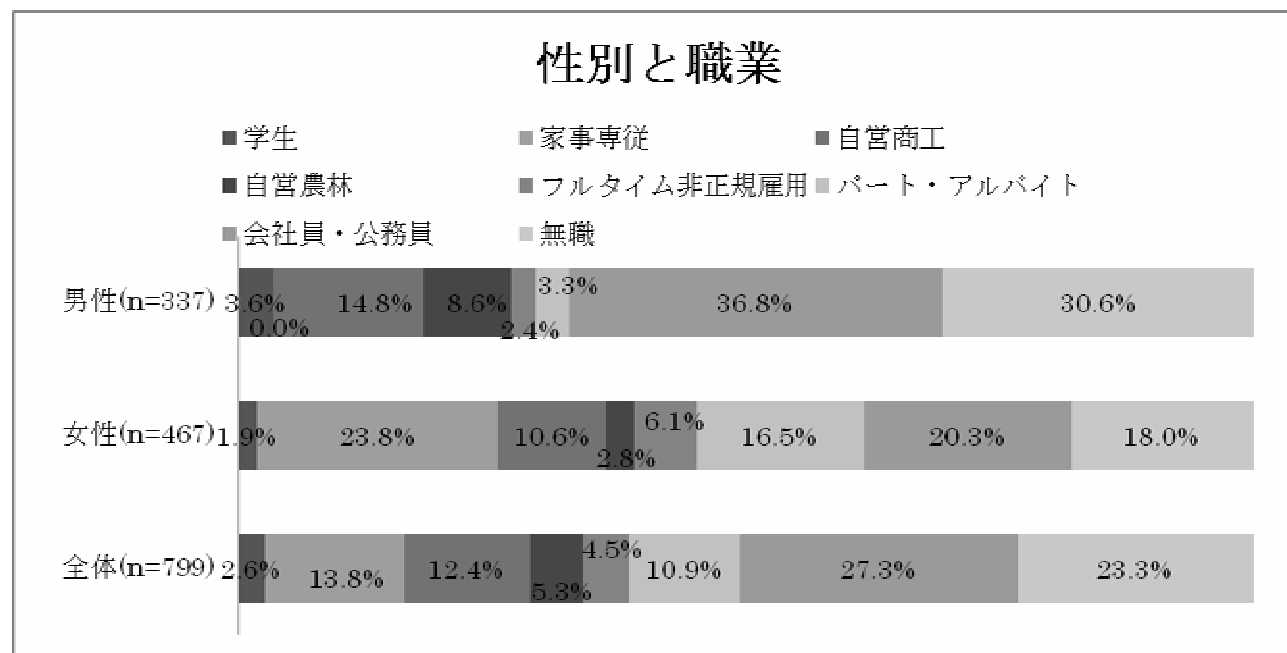


日光市全体の人口構成と比較して、日光、藤原、足尾地域の人口構成はより高齢者に偏っている。特に足尾地域は 40 代以下の人口が他地域に比べ少なく、50 代と 70 代以上の割合が高い。栗山地域は平均的で、今市地域は比較的 30 代以下の割合が高い。

② 職業

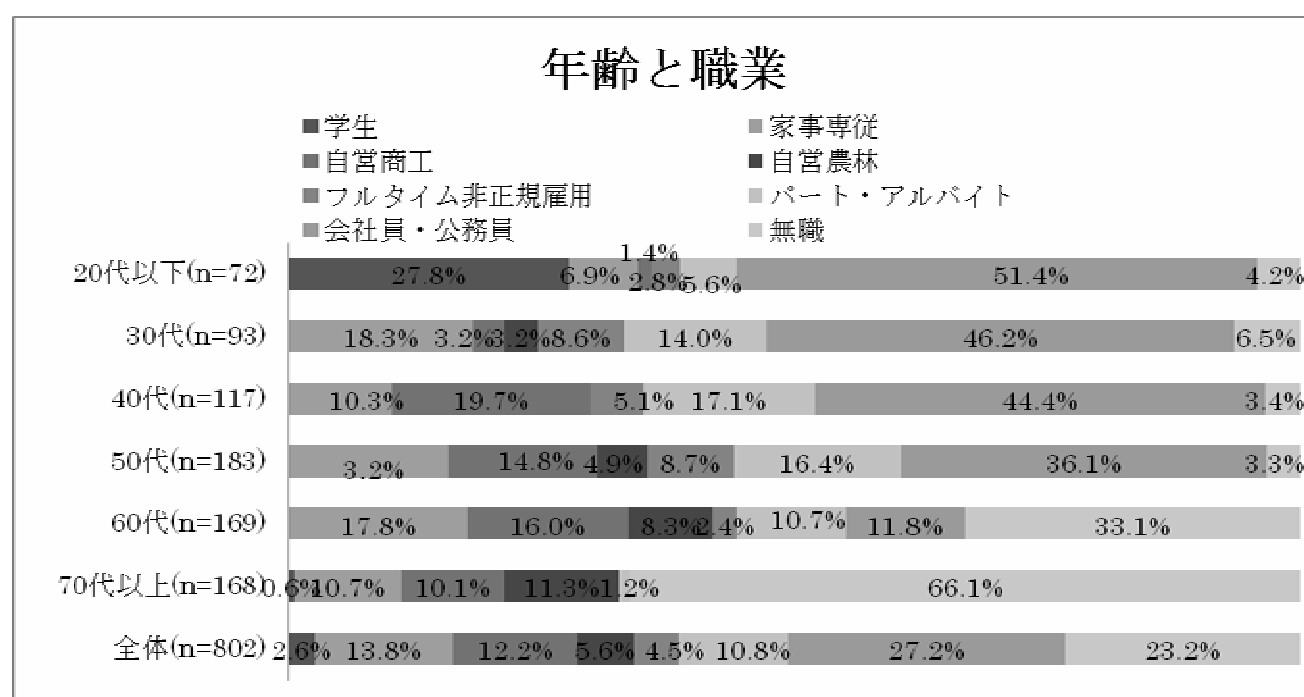
職業は調査票問3（本書巻末に収録）でたずねており、ここでの分類もそれに従っている。

図 1-5



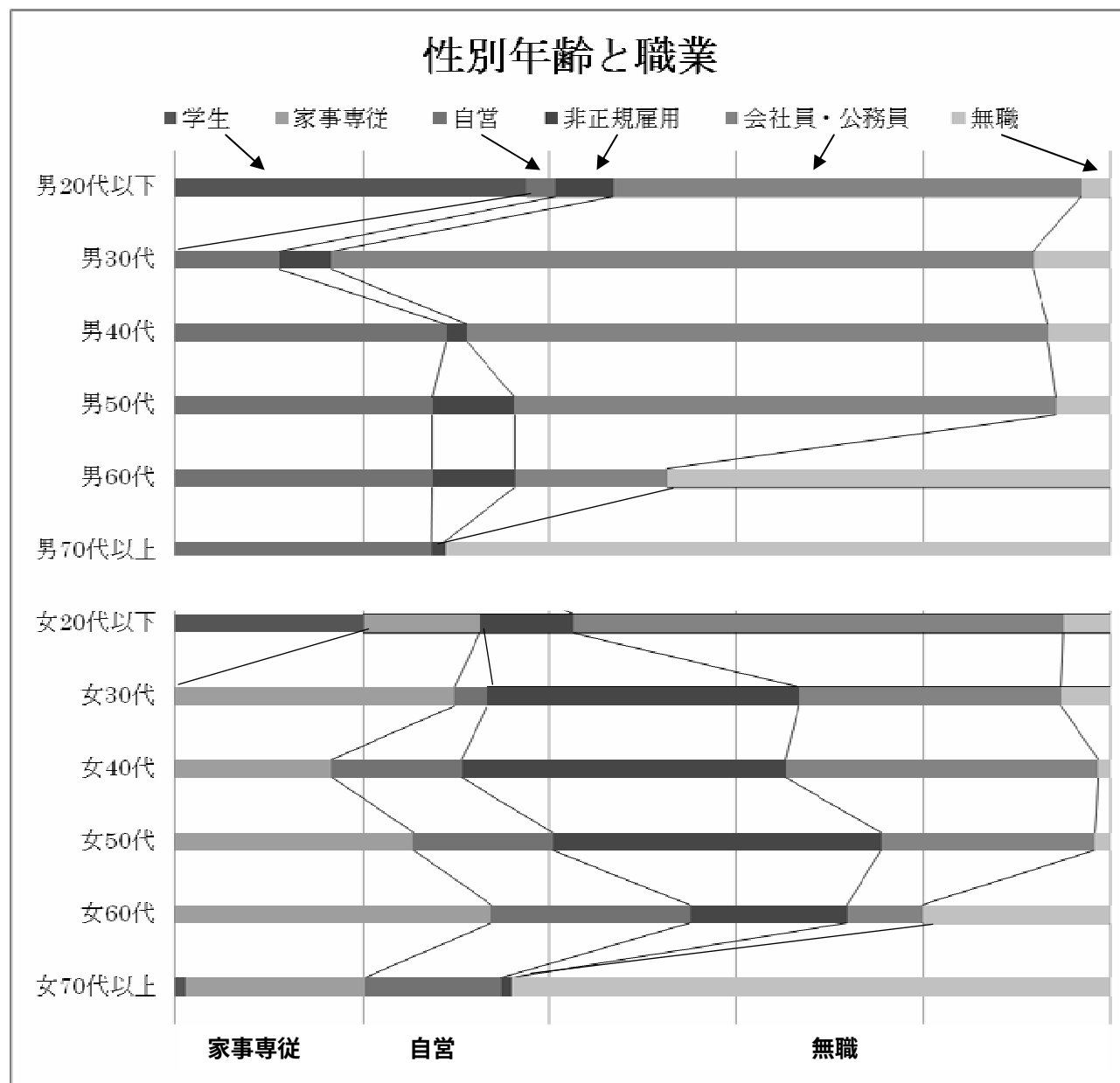
女性では、家事専従の回答者が最も多く、次いで、正規雇用者（会社員・公務員）、無職と続いている。男性では正規雇用者（会社員・公務員）の回答者の割合が最も高く、次いで無職の回答者の割合が高い。

図 1-6



学生はほぼすべて 20 代以下である。家事専従は 40 代が少ない。自営は 30 代以下が少ない。非正規雇用は 30 代から 50 代が中心である。無職は 60 代から多くなる。

図 1-7



上図は職業の分類をより大きくして（自営を一つに、フルタイム非正規雇用とパートタイムを一つにまとめ）、性別ごとに年齢と職業の関係をみたものである。

ここから日光における一般的なライフコースを描くと次のようになるだろう。

男性は 20 代あるいはそれ以前に就職し、30 代は多くが正規雇用者（会社員・公務員）として勤め、40 代になると独立して自営業の割合が増える。自営業の割合は 70 代以降までそのまま変わらない。60 代から退職が増え、70 代では自営業者以外はほとんど退職する。

女性の場合は男性よりも若干早めに就職し、20 代の間は正規雇用者が多いが 30 代で結婚・出産などで退職し一部が専業主婦になり、一部が非正規雇用（派遣、パートなど）に移る。非正規雇用者はその後

50代まで務め60代の間に退職する。40代から家業を継いだり夫とともに起業したりして自営業の割合が増え、自営業の割合はその後70代までほとんど変わらない。

図 1-8

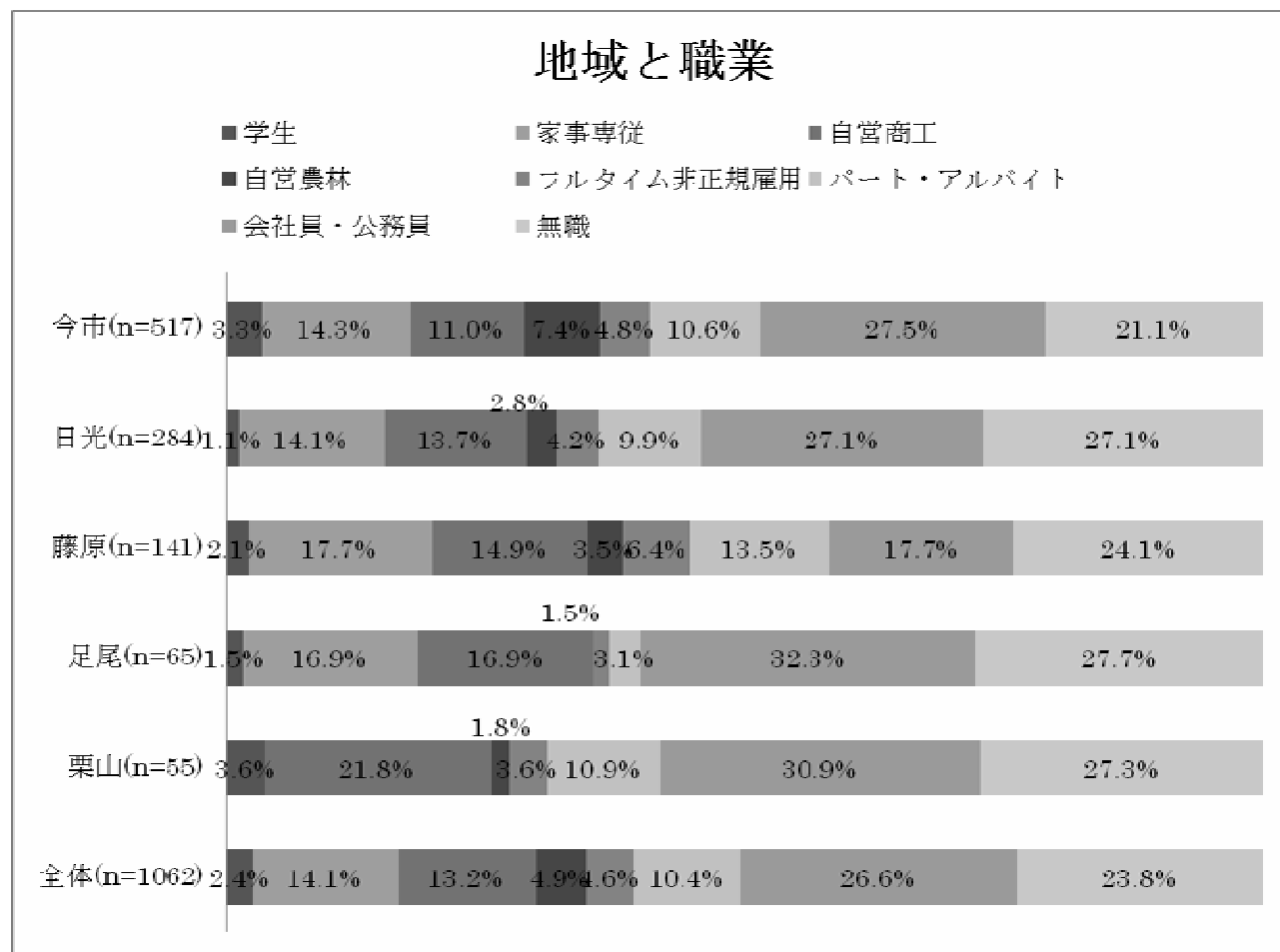


表 1-1

	学生	家事専従	自営商工	自営農林	フルタイム非正規	パート・アルバイト	会社員・公務員	無職
今市	<u>1.4</u>	1.0	0.8	<u>1.5</u>	1.0	1.0	1.0	0.9
日光	<u>0.5</u>	1.0	1.0	<u>0.6</u>	0.9	1.0	1.0	1.1
藤原	0.9	<u>1.3</u>	1.1	<u>0.7</u>	<u>1.4</u>	<u>1.3</u>	<u>0.7</u>	1.0
足尾	<u>0.6</u>	1.2	1.3	<u>0.0</u>	<u>0.3</u>	<u>0.3</u>	1.2	1.2
栗山	<u>1.5</u>	<u>0.0</u>	<u>1.7</u>	<u>0.4</u>	0.8	1.0	1.2	1.1

表の数字は各地域におけるそれぞれの職業の割合を全体における各職業の割合で割ったものである。たとえば今市の学生 1.4 という数字は、今市地域の学生の割合 3.3%を全体における学生の割合 2.4%で割った値となっている。平均に比べて比較的割合の大きいものを□で囲み、小さいものを下線付きイタリックであらわしている。ちょうど全体における各職業の割合と、その地域における職業の割合が等しい場合 1.0 になる。以下の番号付きの表はみなこれで同じようにまとめている。

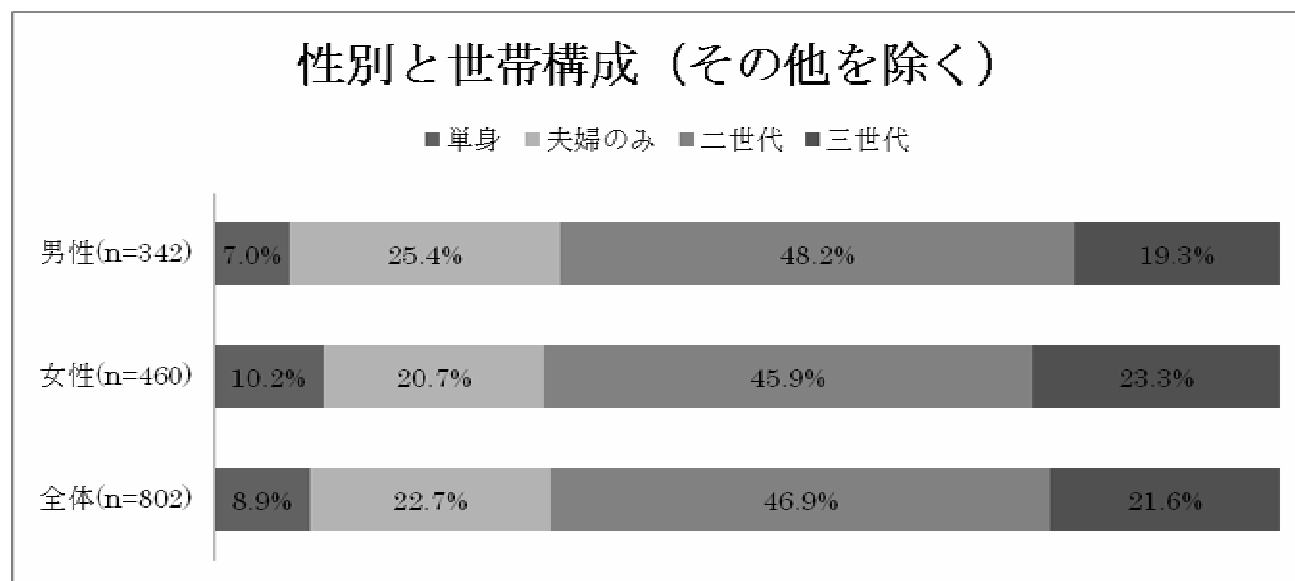
この表から、

今市地域では学生と自営農林漁業者が多く、
 日光地域では学生と自営農林漁業者が少なく、
 藤原地域では家事専従、パートタイム就業者、フルタイム非正規就業者が多く、正規雇用者（会社員・公務員）、自営農林漁業者が少なく、
 足尾地域では、パートタイム就業者、フルタイム非正規就業者、自営農林漁業者が特に少なく
 栗山地域では、家事専従、自営農林漁業者が特に少なく、自営商工業者と学生が多いことがわかる。

③ 世帯構成

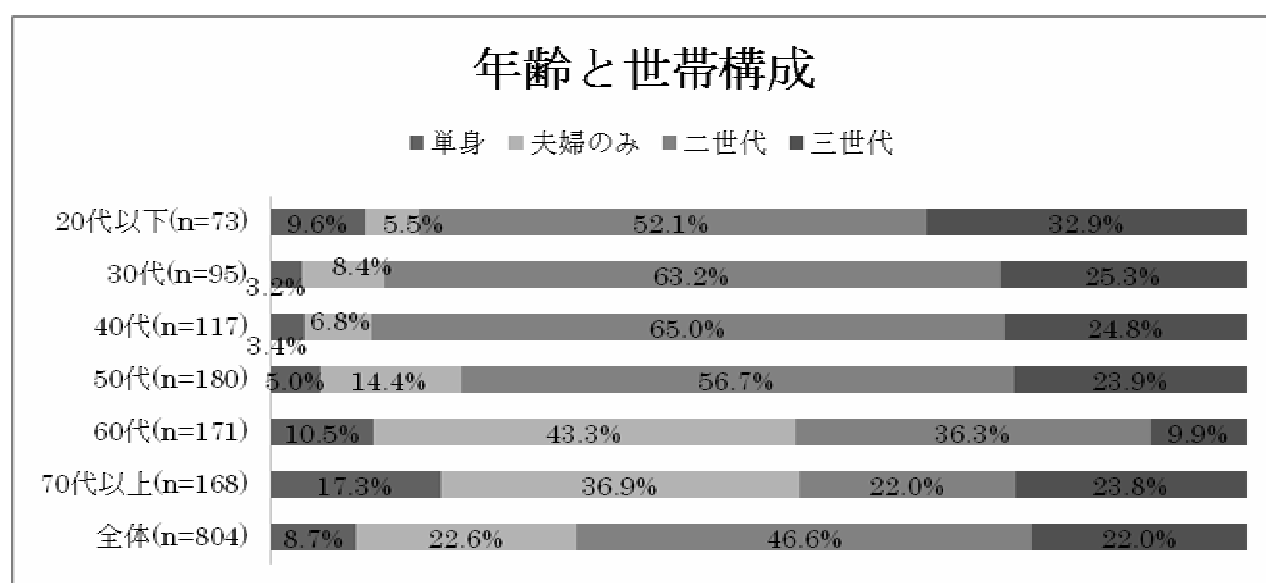
世帯構成は調査票問4（本書巻末）でたずねており、分類もそれによっている。

図 1-9



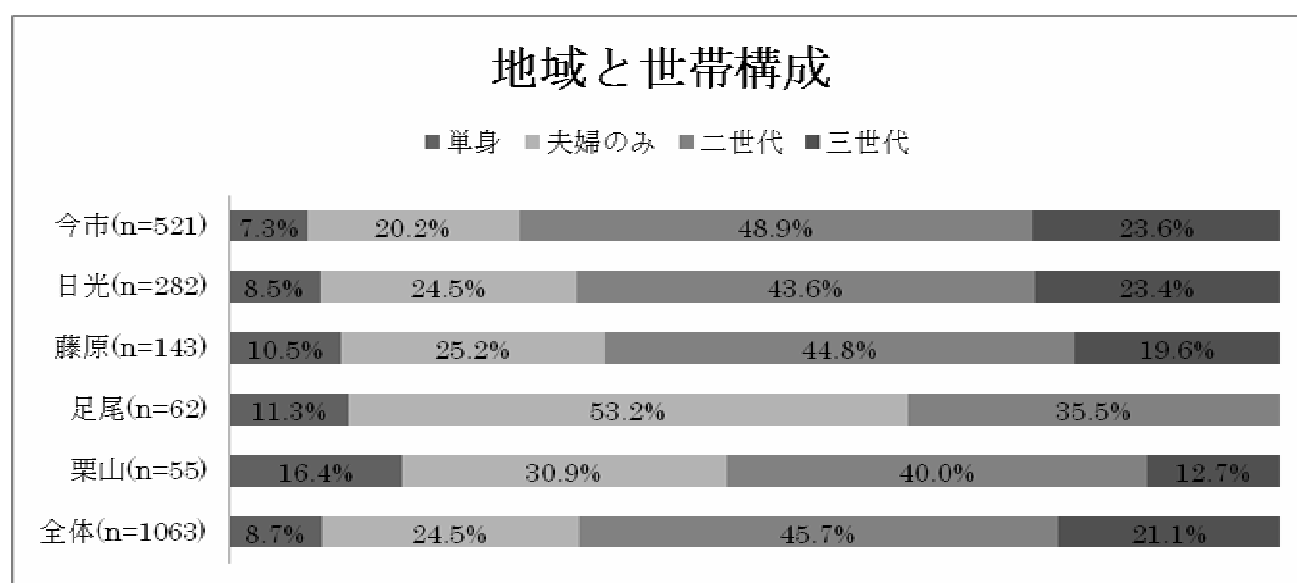
世帯構成は男女とも二世帯が最も多く、次いで夫婦のみの家庭が多い。女性で高齢者が多い関係で単身と三世帯世帯が多くなっている。

図 1-10



世帯構成を年齢ごとに見ていくと、20代以下から50代までは二世帯が大多数を占めるが、60代以降、夫婦のみで世帯を持つ回答者が多くなり、70代以上で夫と死別する女性が増えることにより、単身および再び同居をはじめた三世帯世帯が多くなる。

図 1-11

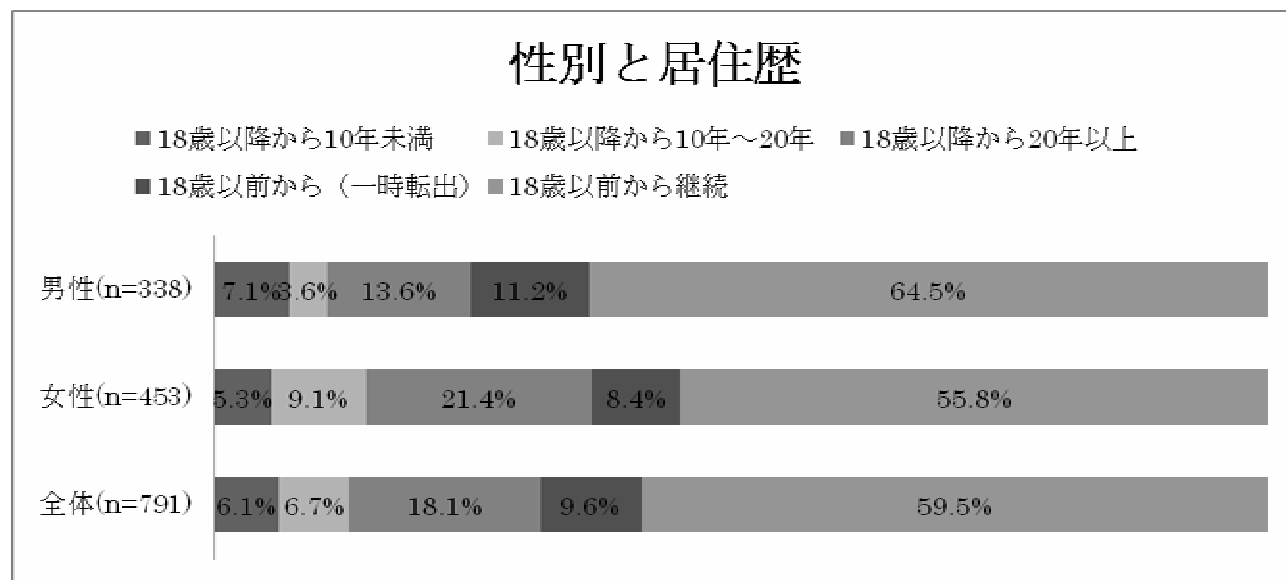


世帯構成を地域ごとに見ると、今市地域、日光地域、藤原地域は日光市全体の構成とほとんど変わらないが特に足尾地域では夫婦のみの世帯が多く、三世帯世帯からの回答はない。これは年齢構成で見たように、足尾地域において30代以下の住民が特に少ないことによると考えられる。また栗山地域でも単身および夫婦のみの世帯割合が比較的高く、三世帯世帯が少ない。

④ 居住歴

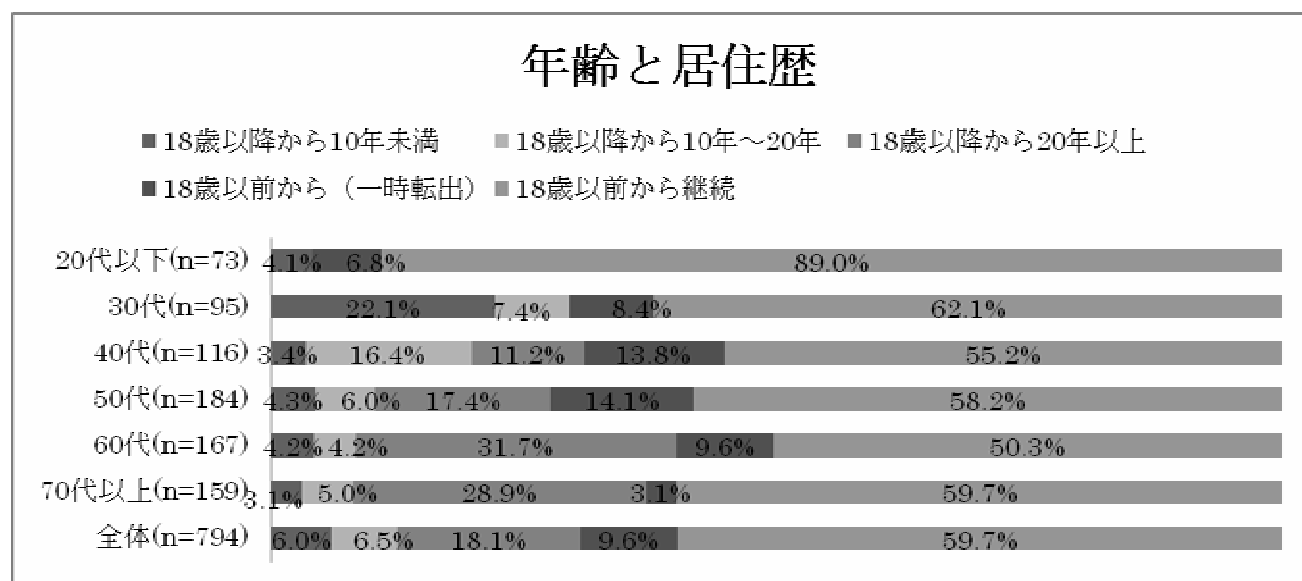
居住歴については、調査票問5と問6の質問への回答を組み合わせ、18歳以降から10年未満、18歳以降から10年～20年、18歳以降から20年以上、18歳以前から（一時転出）、18歳以前から継続の5カテゴリーに分類した。

図 1-12



男女とも18歳以前から継続して住む回答者が多い。また18歳以降に日光市に転入し、10年以上住んでいる人は女性のほうが多い。これは日光市に住む男性の元に他市町村から嫁いできた女性が多いことを示しているものと考えられる。

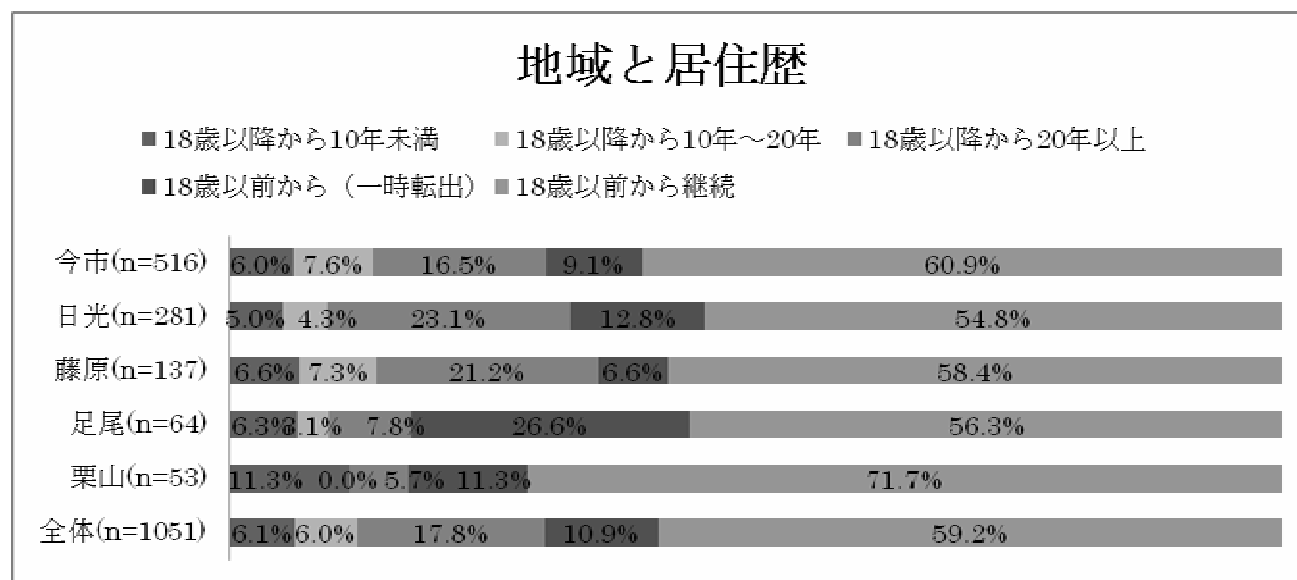
図 1-13



居住歴を年齢別に見ると、20代では18歳以降に転入したという者の割合が4%にすぎなかったのに30

代では 18 歳以降に転入した人が 3 割に達し、その後その割合はほぼ安定している。このことから 20 代終わりから 30 代はじめにかけて日光市に転入してくる人が多く、それ以降の転入が少ないことがわかる。

図 1-14

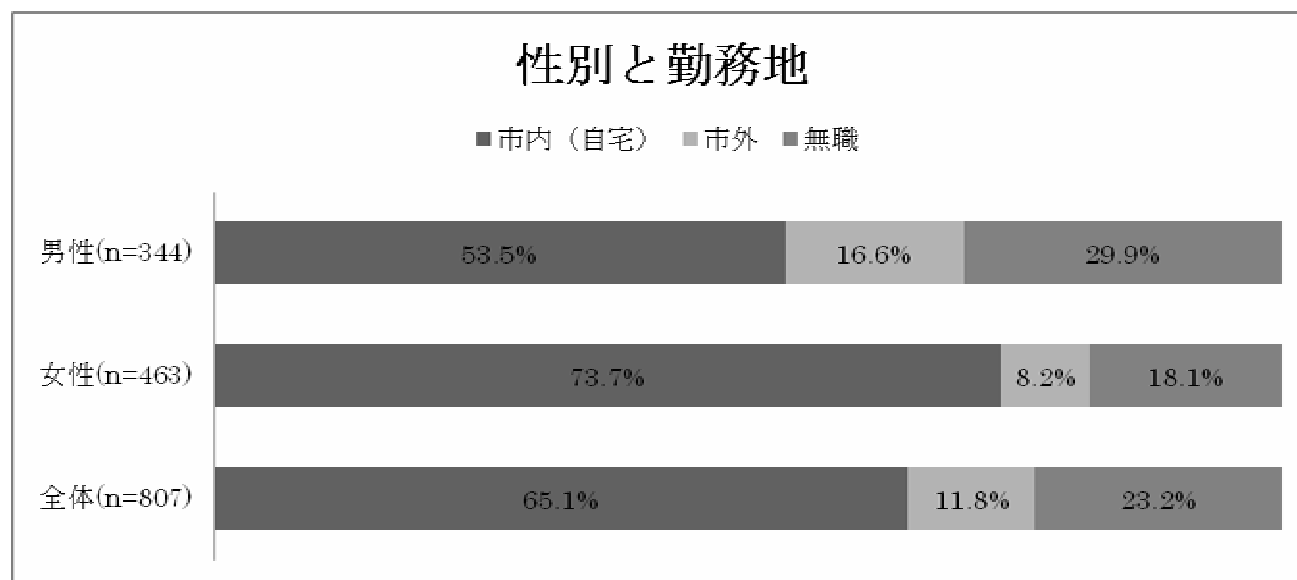


居住歴を地域別に見ると、今市、日光、藤原地域は日光市の平均に近いのに対し、足尾地域では 18 歳以前から日光市に住み、一時転出していた人の割合が多い。また栗山地域では日光市の外に住んでいたことのある人の割合が比較的小さい。

⑤ 勤務地

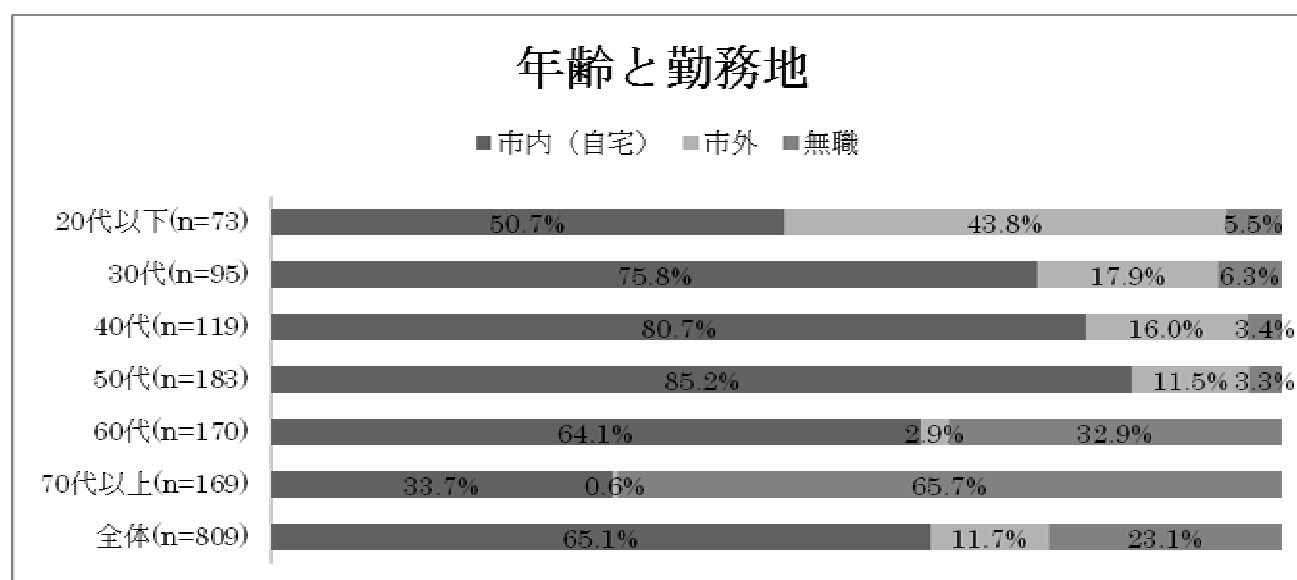
勤務地（働いている・通学している場所）は、調査票問3と問7から市内（自宅）、市外、無職の3カテゴリーに分類した。家事専従と自営業は市内（自宅）に分類している。

図 1-15



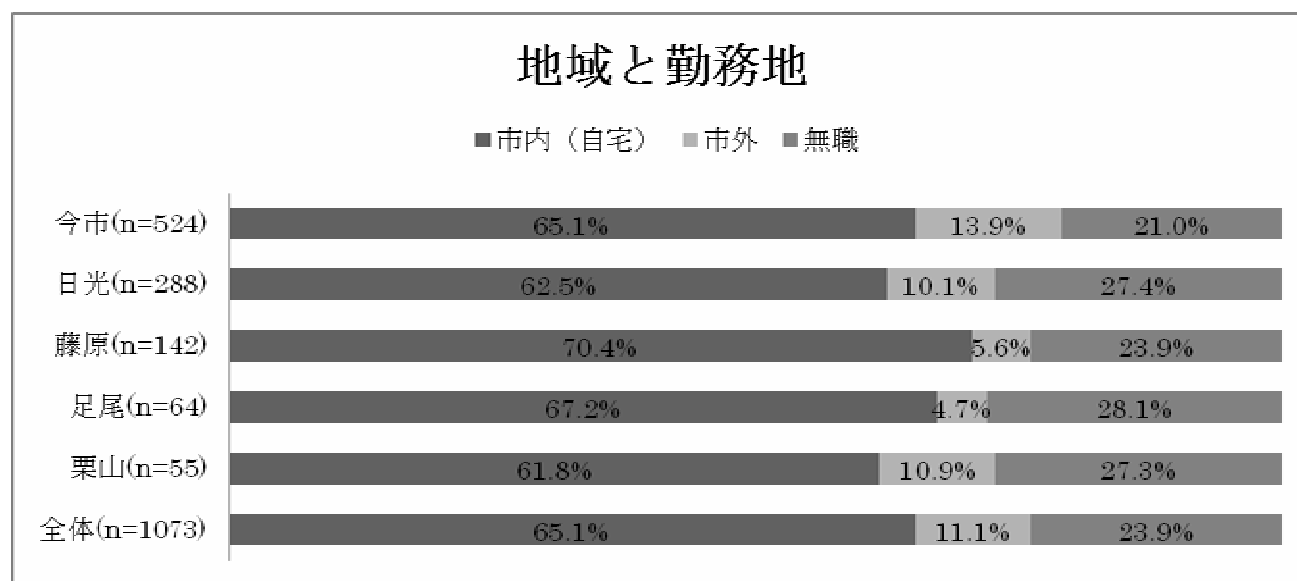
市外で働く人は男性が女性のほぼ倍にあたる。女性は市内にて就業する人が多い。これは家事専従を含めているためである。

図 1-16



30代以降は市内で就業する者が多いが、20代では市外で就業（就学）する割合も多い。60代、70代では徐々に無職の割合が高くなっている。

図 1-17



市外で働いている人の多いのは今市地域で、栗山、日光地域がそれに続く。足尾と藤原地域は市外勤務者の割合が日光市全体の半分程度である。

2. 市立公民館やコミュニティーセンターの利用頻度

① 男女別・年齢別

質問票問9の結果に従い、市立公民館の利用頻度を男女別、年齢別にまとめる。

図 2-1

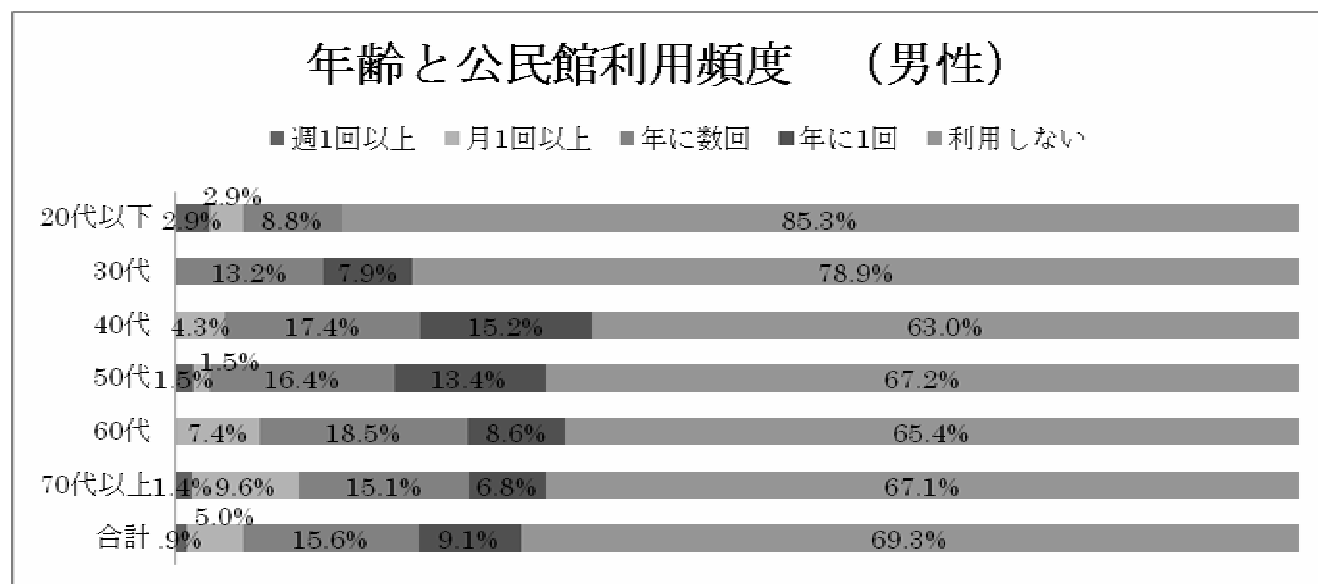
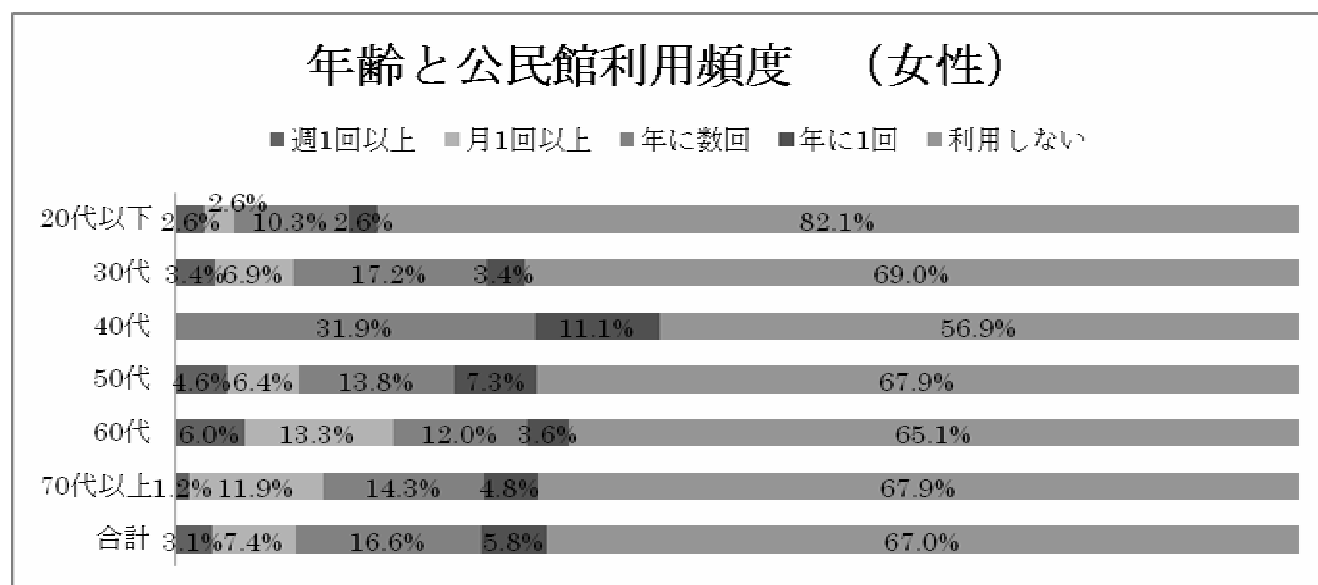


図 2-2



市立公民館の利用頻度は、男女とも年1回以上利用する人が1／3、年に1回も利用しない人が2／3程度で、男女差はほとんどない。

しかし、月1回以上利用するリピーターの割合は男性では6％、女性では11％で女性が男性の倍である。

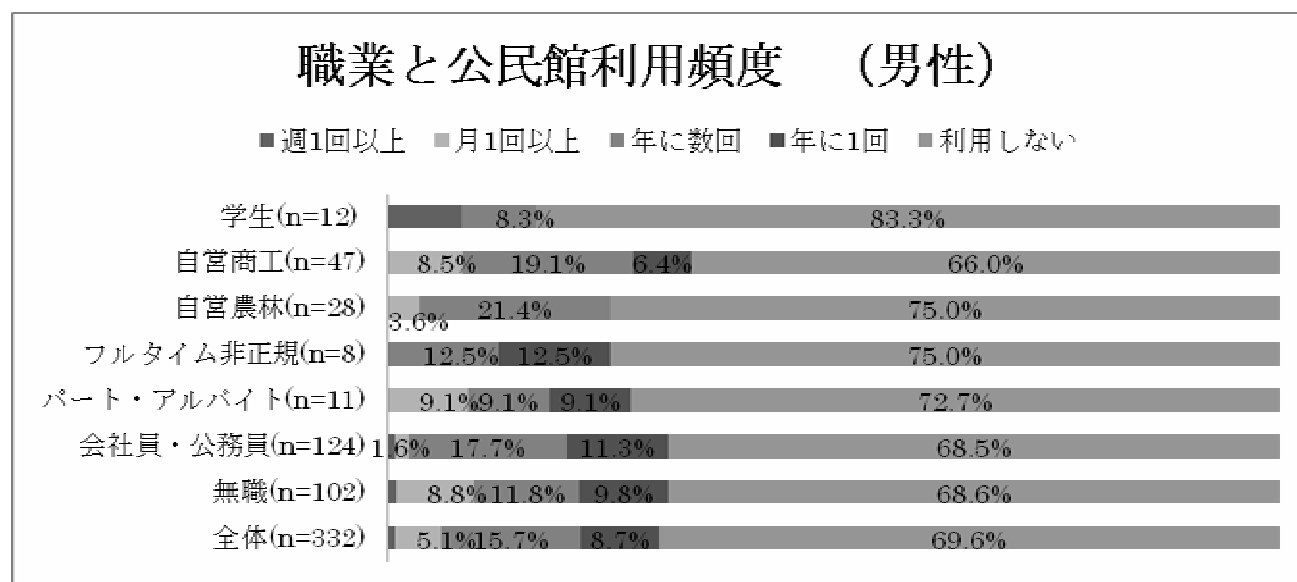
年齢ごとにみると、年1回以上使用する人の数は男女とも40代でもっとも多く、40代まで年齢が上がるにつれ増える。50代以降、男性はゆるやかに減るが、女性は40代のみが突出して、50代以降は30

代と同程度の数値になる。

また月1回以上利用するリピーターは、男性で60代、70代以上が多く、女性では50代から70代以上が多い。リピーターの最も多い層は男性は70代以上、女性では60代である。

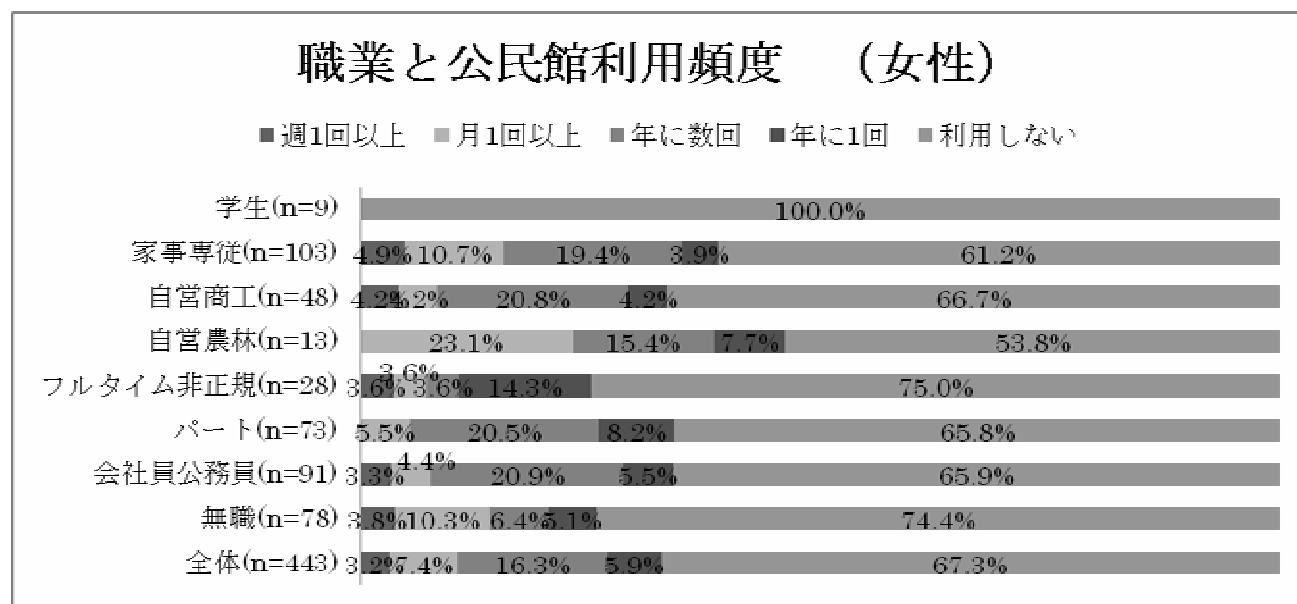
② 職業別

図 2-3



男性では（学生を除けば）職業ごとに大きな差はない。年に1回以上利用するのは自営商工業者が最も多く、逆にもっとも少ないのは自営農林業者とフルタイム非正規就業者である。月1回以上利用する割合が相対的に高いのは自営商工業者、パートタイム就業者、無職であり、1割程である。

図 2-4

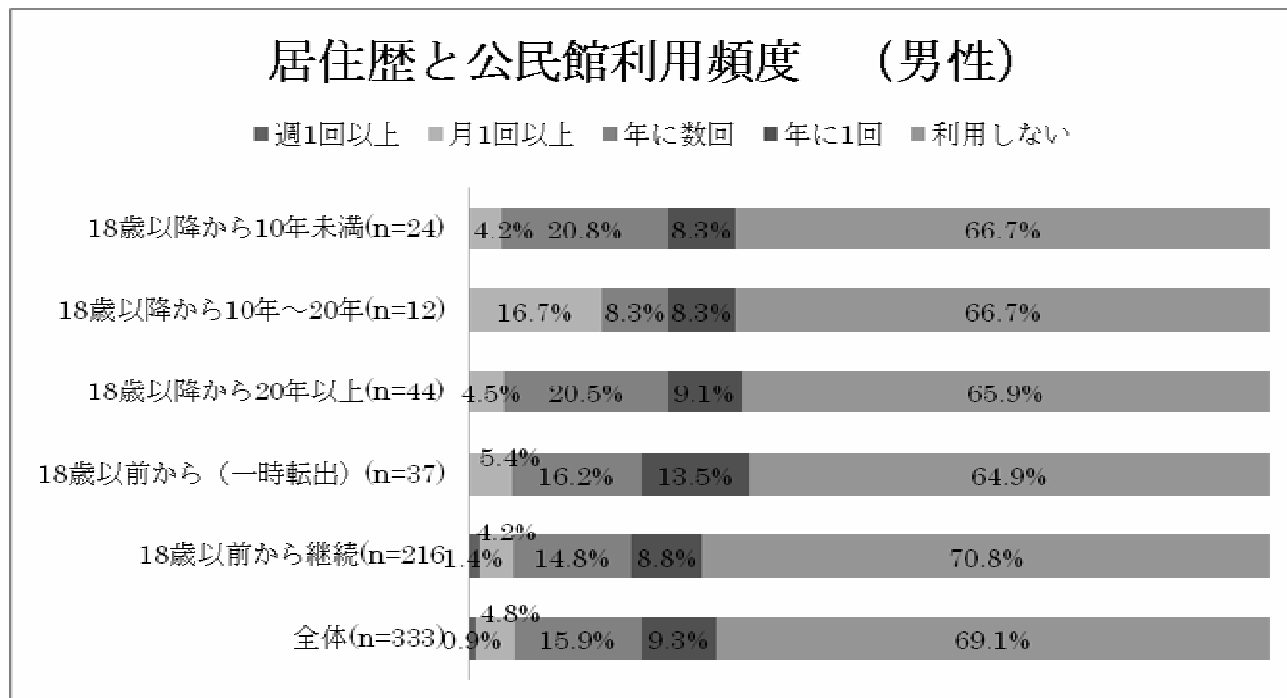


女性では、年1回以上利用する人が最も多いのは自営農林漁業者であり、ついで家事専従者となってい

る。もっとも利用者の少ないのは、フルタイム非正規就業者と無職である。月 1 回以上利用しているものがもっとも多いのは自営農林漁業者、家事専従、無職で、無職の女性に二極化の傾向が見られる。

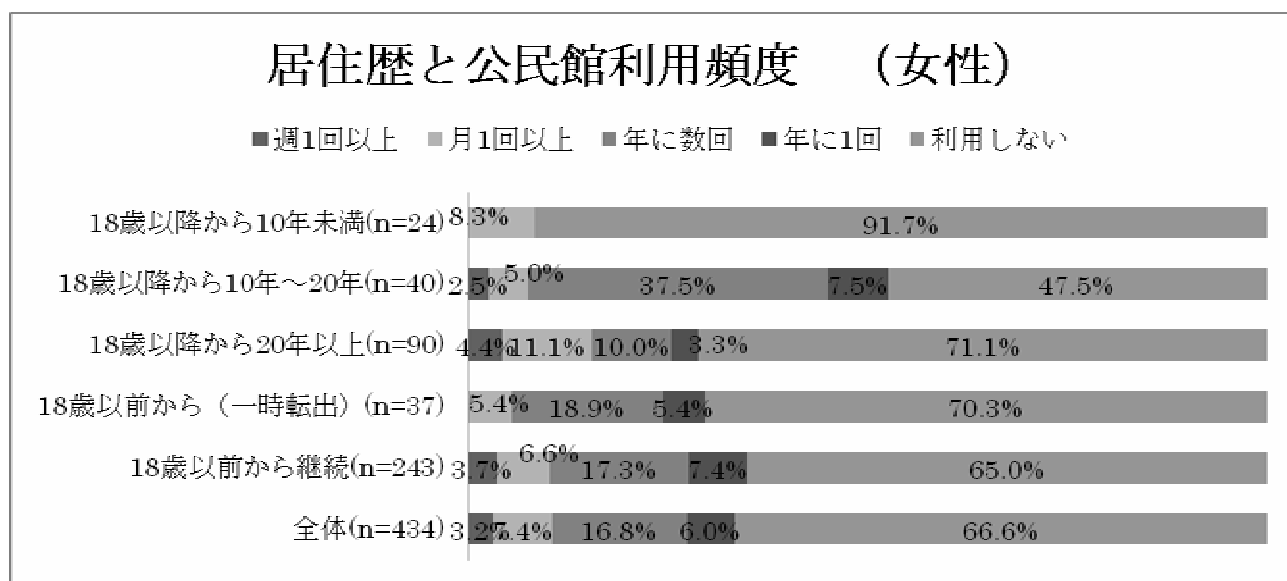
③ 居住歴

図 2-5



性別ごとに居住歴で公民館利用頻度を見ると、男性ではあまり大きな差は見られないが、月 1 回以上の利用者に関しては、18 歳以降からの日光居住者のうち居住歴 10 年～20 年の者が突出している（ただしこのグループに属するものは調査対象者中 12 名だけ）。

図 2-6

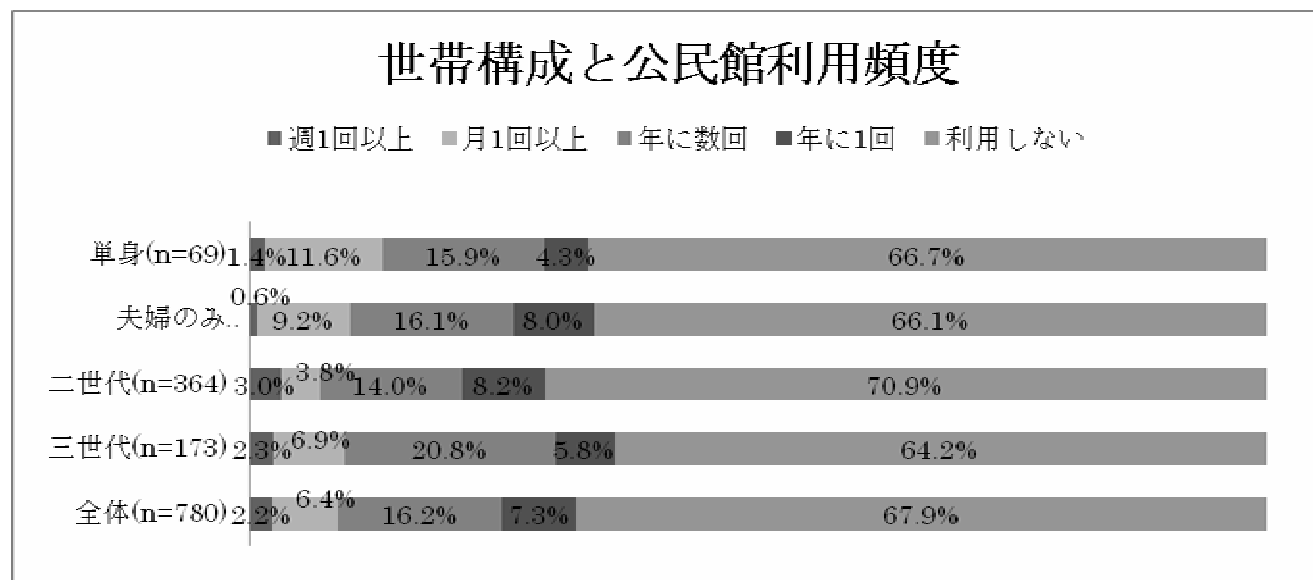


女性においては、18 歳以降からの日光居住者のうち居住歴 10 年～20 年の者で年 1 回以上の利用が突出している。これはこの層がもっとも利用者の多い女性 40 代と重なっていることと関係している。逆に

女性 40 代の利用者が多い原因も、この層が中心になっているからとも言える。

④ 世帯構成

図 2-7



世帯構成はあまり公民館の利用頻度と関係していないことがわかる。グラフは省略するが、男女別に見てもやはり同様である。

⑤ 勤務地

図 2-8

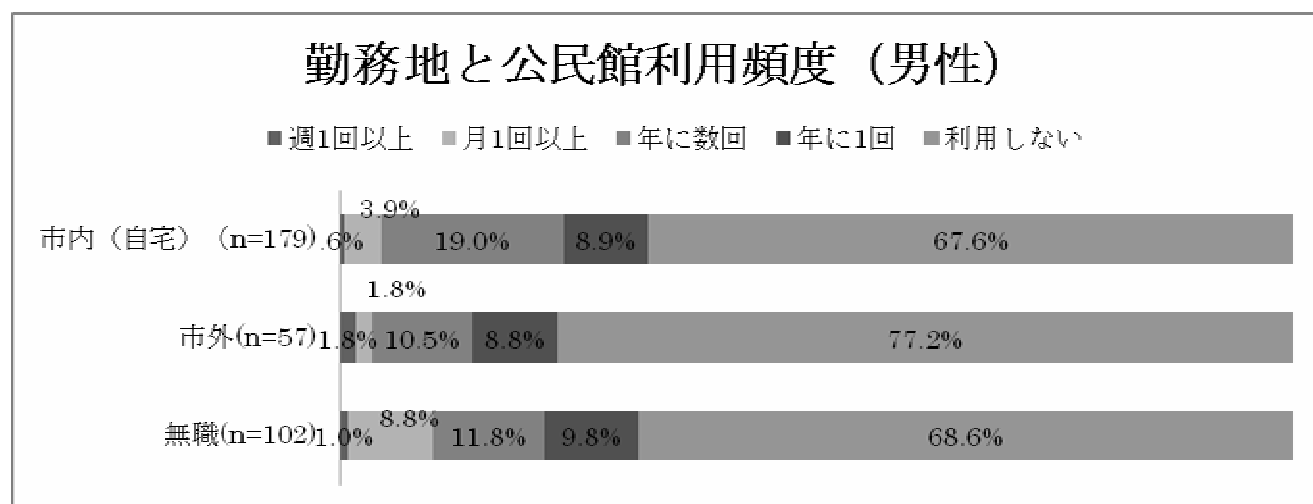
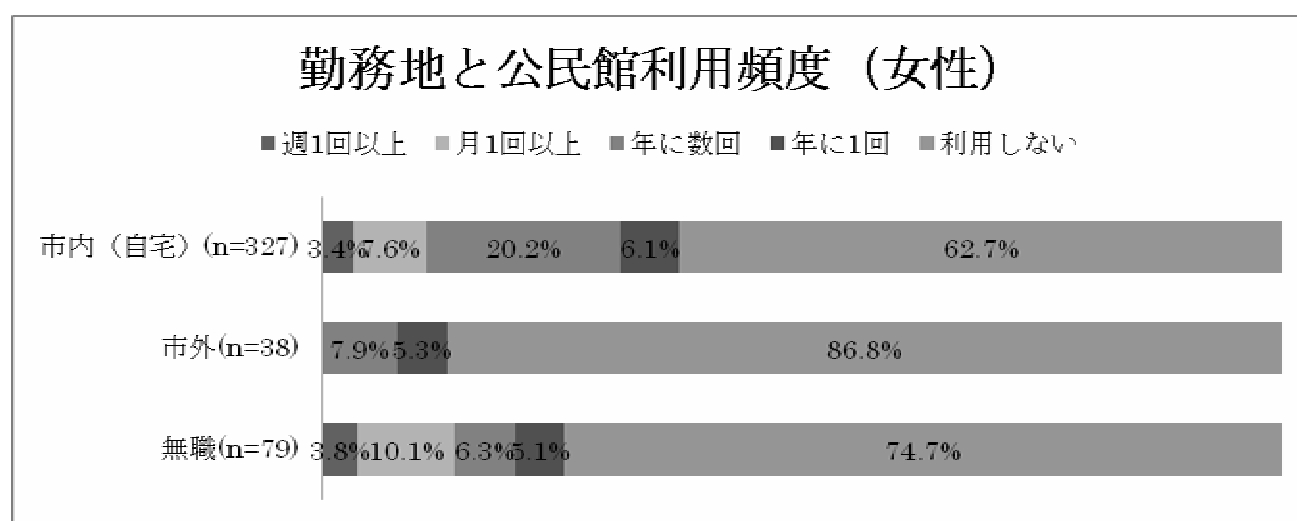


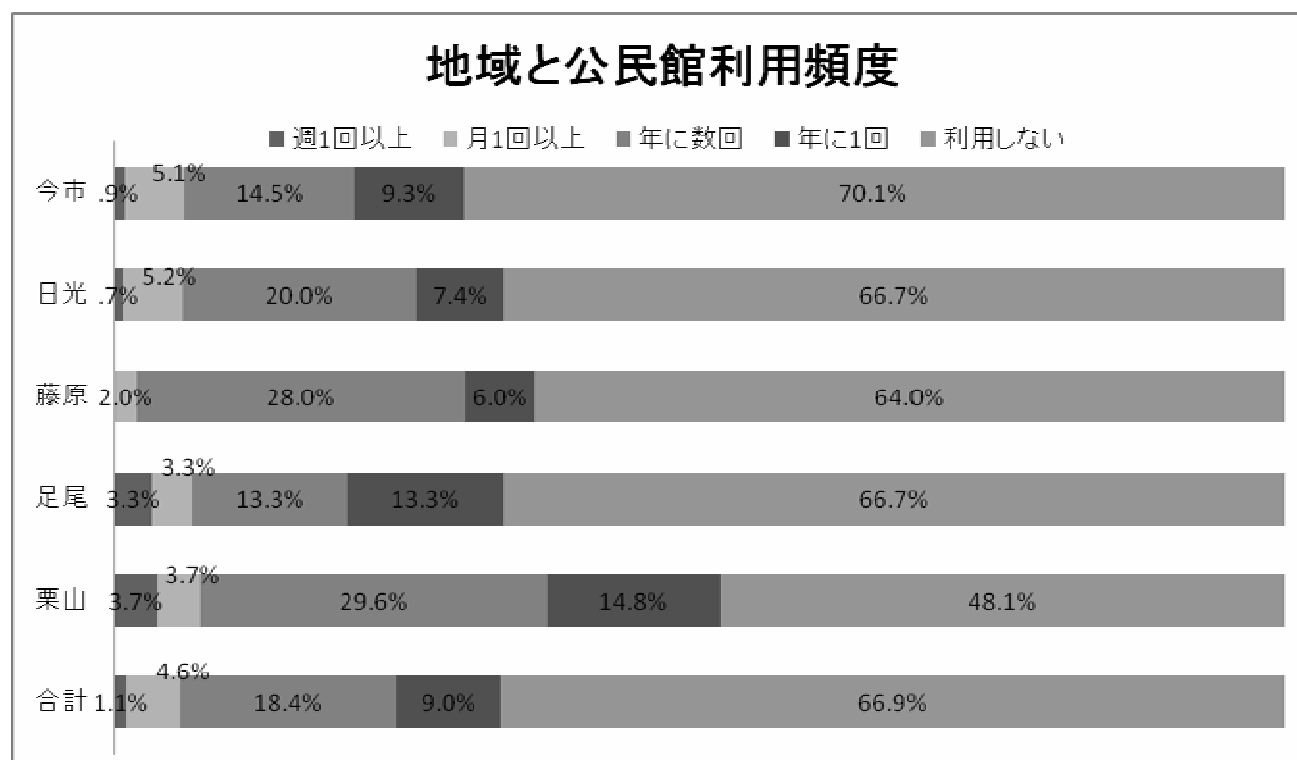
図 2-9



男女とも、市外に勤めている人の公民館利用頻度が少ないことが分かる。

⑥ 地域別

図 2-10



地域別に利用頻度をみると、年に1度でも利用した人の割合は栗山地域で突出し、50%を超えている。

図 2-11

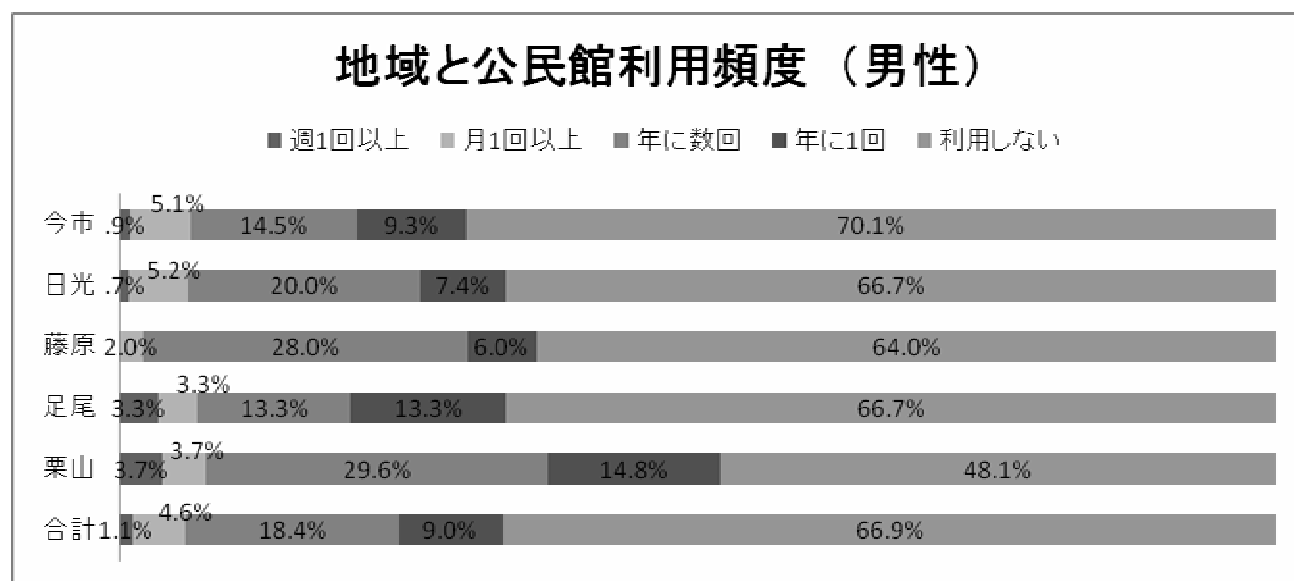
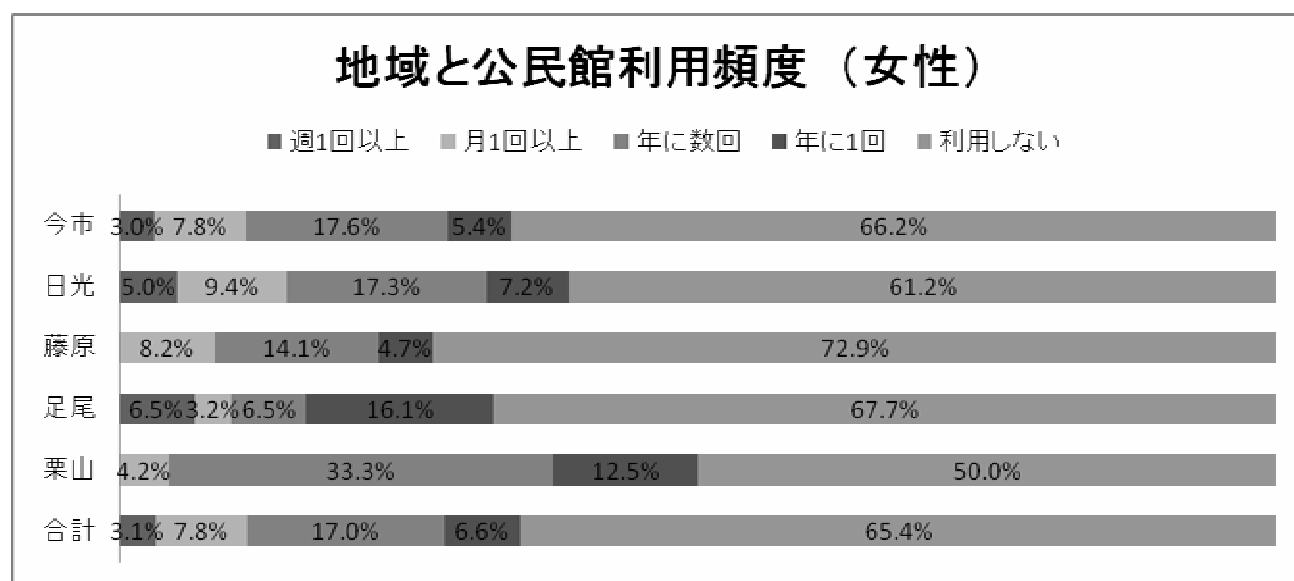


図 2-12



こうした地域別の利用頻度の傾向は、男女別々に見てもやはり栗山地域が突出する。それ以外の地域では、藤原地域の女性の利用頻度が低めになっている。

⑦ まとめ

- 市立公民館は 20 代、30 代にあまり利用されていない。
- 利用の中心は女性は 50 代から 70 代、男性は 60 代から 70 代。リピーターは女性が男性の倍近い。

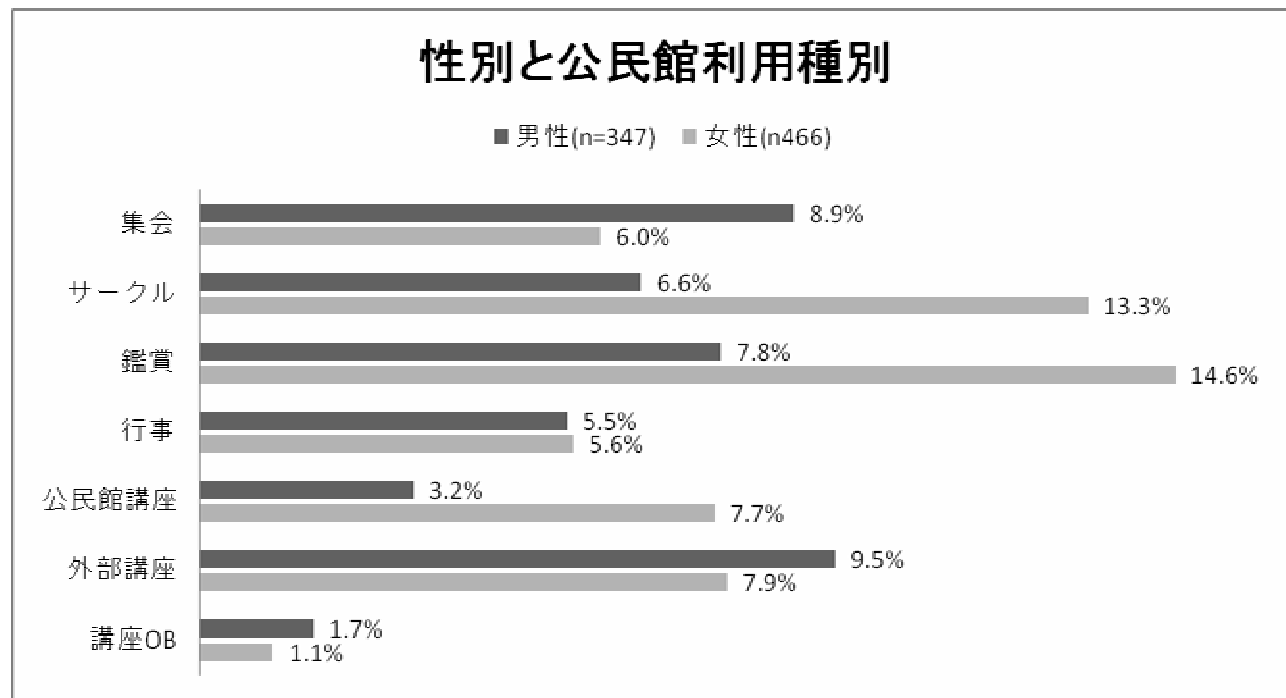
- 男性は職業ごとにあまり大きな差はないが、女性は職業によって利用に差が大きい。フルタイム非正規就業者の利用が男女とも少なく、無職の女性ではリピーター的な利用とまったく利用しない人たちの二極化が見られる。
- 女性で市外に勤めている人はあまり公民館を利用できていない。
- 栗山地域の利用が多く、藤原地域の女性の利用が少なめ。

3. 公民館の利用の仕方

① 男女別・年齢別

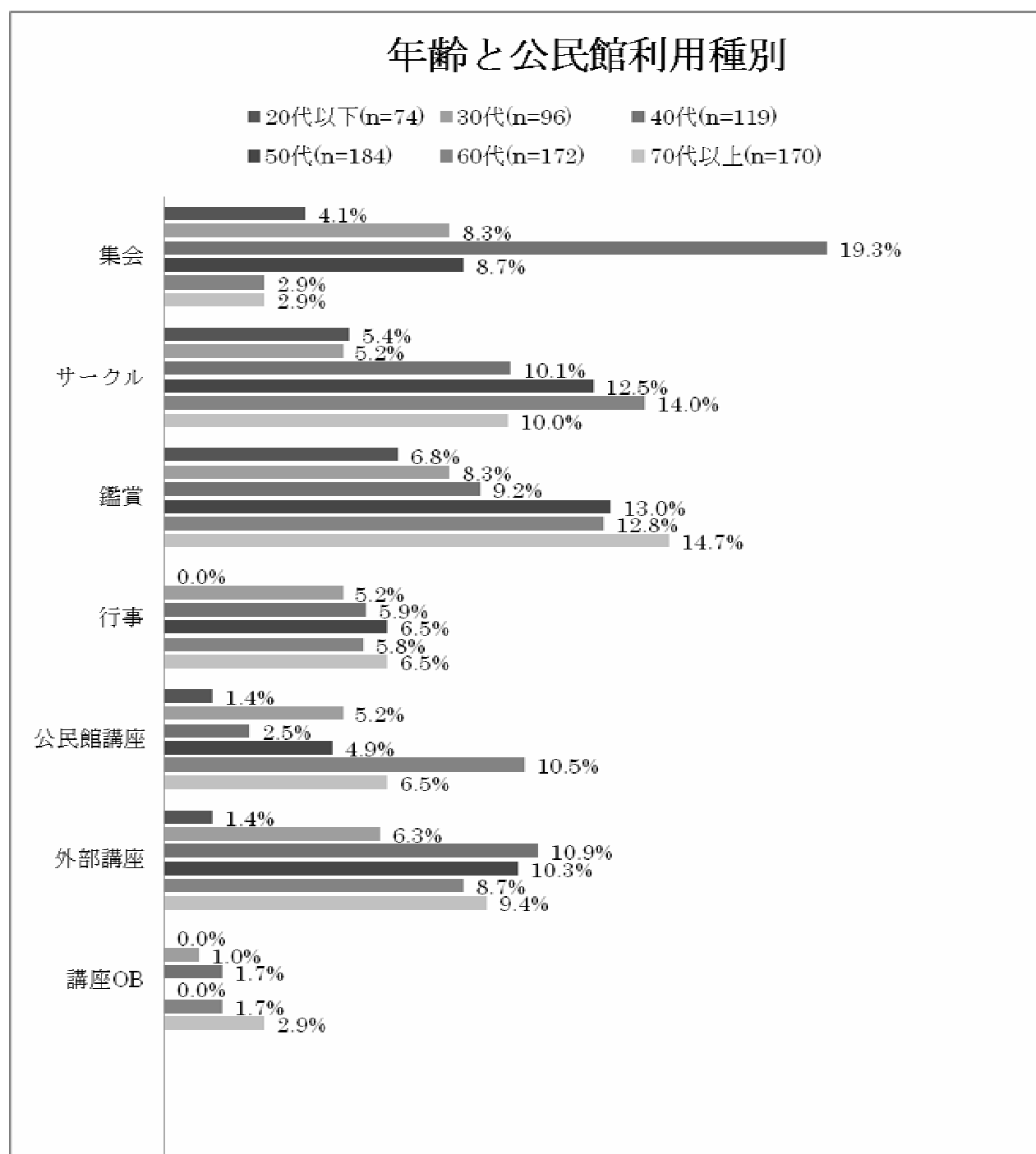
質問票問 11 の結果に従い、市立公民館の利用の仕方の種類を男女別、年齢別にまとめる。

図 3-1



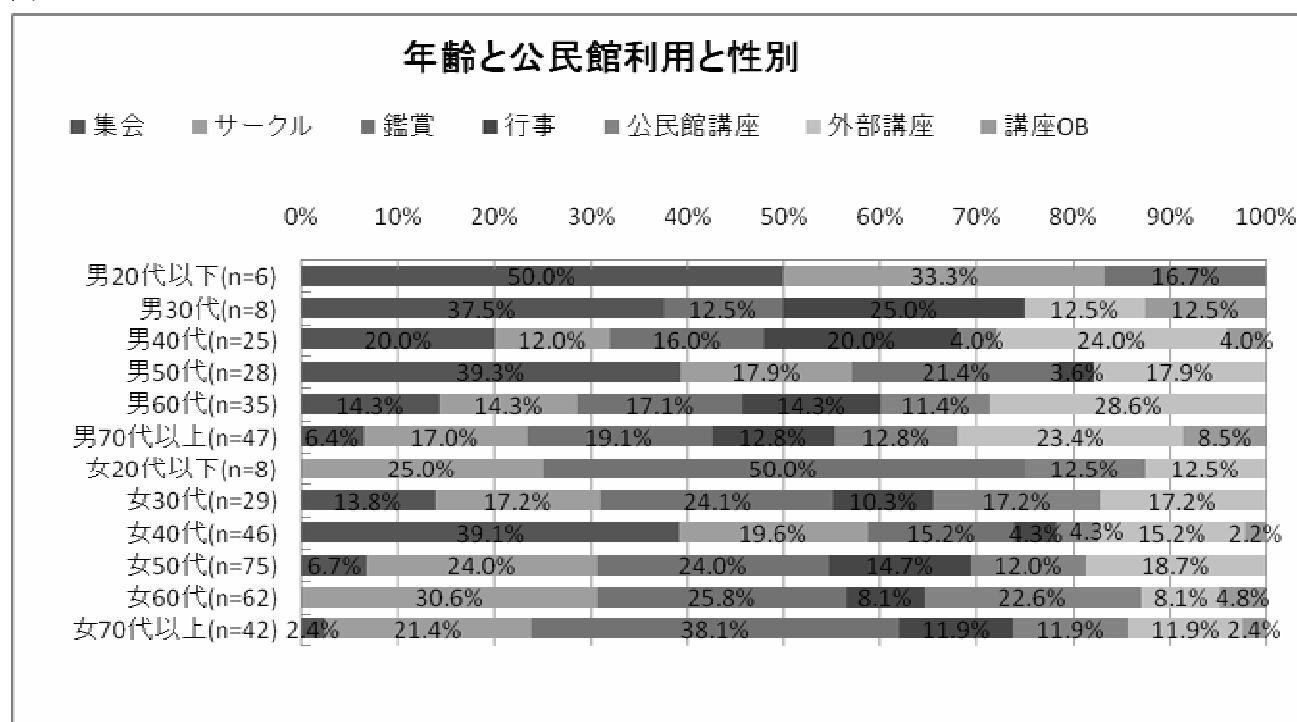
男性では集会、講座OBサークルとしての利用が多く、女性ではサークル、作品鑑賞、公民館講座の利用が多い。

図 3-2



年齢ごとに見ると、40代で集会利用が多く、60代でサークル、公民館講座利用、70代で作品鑑賞、講座OBサークルとしての利用が多い。

図 3-3



各性別年齢層ごとに、公民館利用の延べ数を 100%としてそれぞれの種類の利用の割合を示したグラフである。ここで n=〇〇の数値は、その性別・年齢層における公民館利用者数の合計である（以下の表・グラフでも同様）。

表 3-1

	集会	サークル	鑑賞	行事	公民館講座	外部講座
男 40 代 (n=25)	<u>1.4</u>	0.6	0.7	<u>1.8</u>	<u>0.4</u>	1.4
男 50 代 (n=28)	<u>2.7</u>	0.9	0.9	<u>0.3</u>	<u>0.0</u>	1.1
男 60 代 (n=35)	1.0	0.7	0.7	1.3	1.0	<u>1.7</u>
男 70 代以上 (n=47)	<u>0.4</u>	0.8	0.8	1.2	1.1	<u>1.4</u>
女 30 代 (n=29)	1.0	0.8	1.0	0.9	<u>1.5</u>	1.0
女 40 代 (n=46)	<u>2.7</u>	0.9	0.7	<u>0.4</u>	<u>0.4</u>	0.9
女 50 代 (n=75)	<u>0.5</u>	1.2	1.0	1.3	1.1	1.1
女 60 代 (n=62)	<u>0.0</u>	<u>1.5</u>	1.1	0.7	<u>2.0</u>	0.5
女 70 代以上 (n=42)	<u>0.2</u>	1.0	<u>1.7</u>	1.1	1.0	0.7

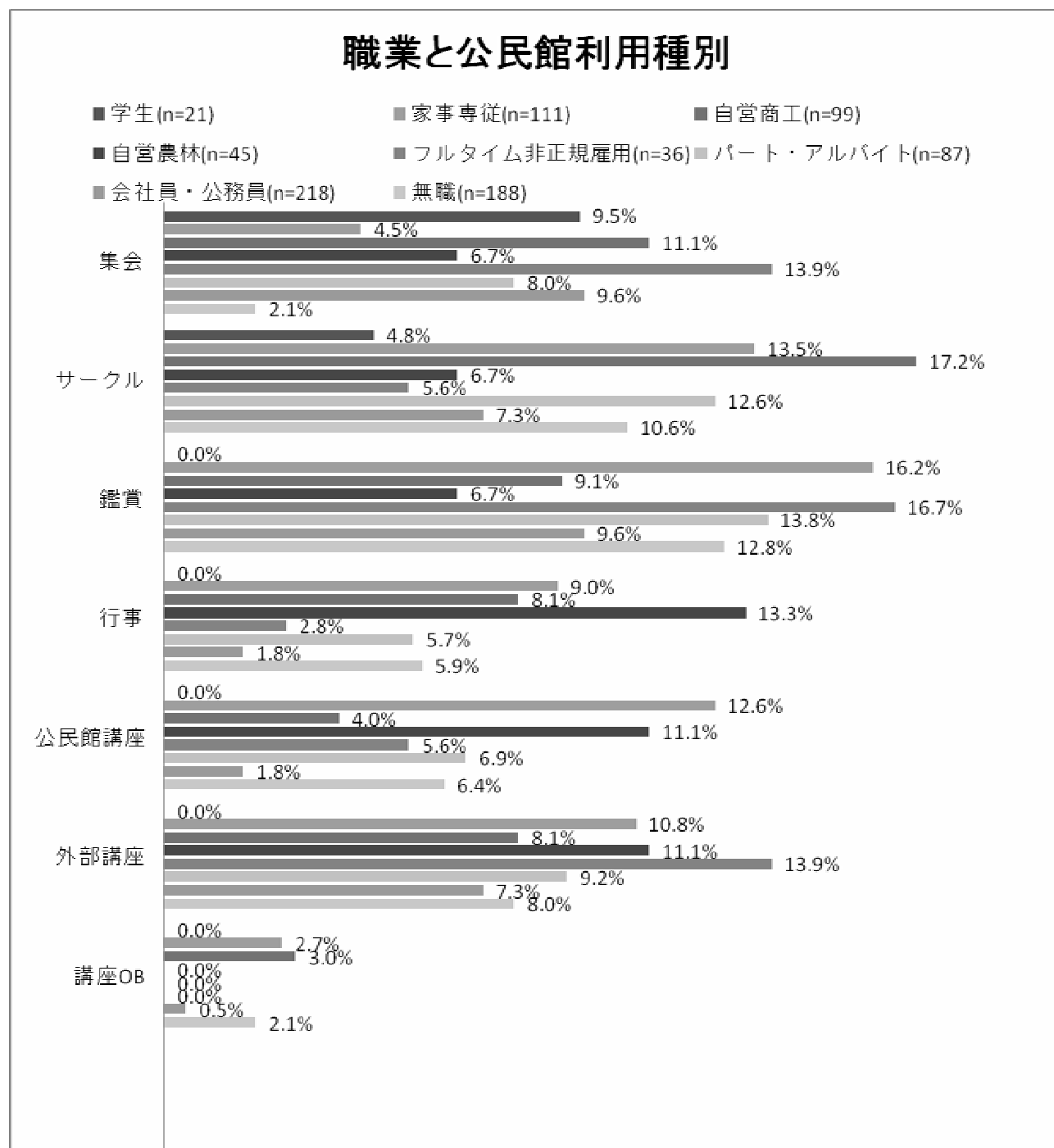
上記のグラフのままで情報が多すぎて結果がわかりにくいので、各性別・年齢層におけるそれぞれの利用種別の割合の数値を、全体におけるそれぞれの利用種別の割合の数値で割ったのが次のグラフである。それぞれのグループの人数が少なすぎて、数値に意味がないものは省略してある（男性 30 代以下、女性 20 代以下、講座OBサークルとしての利用）。表の見方は表 1-1 と同じで、□で囲った数字はその割合が大きいもの、下線付きイタリック体（斜体）はその割合が少ないものを示している。全体における割合とちょうど同じ割合になった場合には数字は 1.0 となる。

集会利用の割合が高いのは、男性 40、50 代、女性 40 代である。

同様にサークル利用の割合が高いのは女性 60 代、
 作品鑑賞の割合が高いのは女性 70 代、
 公民館主催講座の利用が多いのは、女性 30、60 代、
 外部団体企画講座の利用が多いのは、男性 60、70 代 という結果となった。

② 職業別

図 3-4



グラフの結果は情報量が多すぎて読みにくいので、年齢と同様、それぞれの職業の利用種別の割合を全

体における割合の数値で割った数値を以下に示す。

表 3-2

	集会	サークル	鑑賞	行事	公民館講座	外部講座
学生 (n=21)	<u>4.7</u>	1.6	<u>0.0</u>	<u>0.0</u>	<u>0.0</u>	<u>0.0</u>
家事専従 (n=111)	<u>0.5</u>	0.9	1.0	1.2	<u>1.6</u>	0.9
自営商工 (n=99)	1.3	<u>1.4</u>	0.7	1.2	<u>0.6</u>	0.8
自営農林 (n=45)	0.9	<u>0.6</u>	<u>0.5</u>	<u>2.2</u>	<u>1.7</u>	1.2
フルタイム非正規 (n=36)	<u>1.7</u>	<u>0.5</u>	1.3	<u>0.4</u>	0.8	<u>1.4</u>
パート・アルバイト (n=87)	1.0	1.1	1.1	0.9	1.1	1.0
会社員・公務員 (n=218)	<u>1.8</u>	0.9	1.1	<u>0.4</u>	<u>0.4</u>	1.1
無職 (n=188)	0.3	1.1	1.2	1.1	1.2	1.0

今までの表と同様、他に比べて割合の高い数値を□で囲み、低い数値を下線付きイタリック体（斜体）で示すと、学生、フルタイム非正規雇用就業者、正規雇用者（会社員・公務員）は集会の利用が多く、家事専従は講座の利用が、

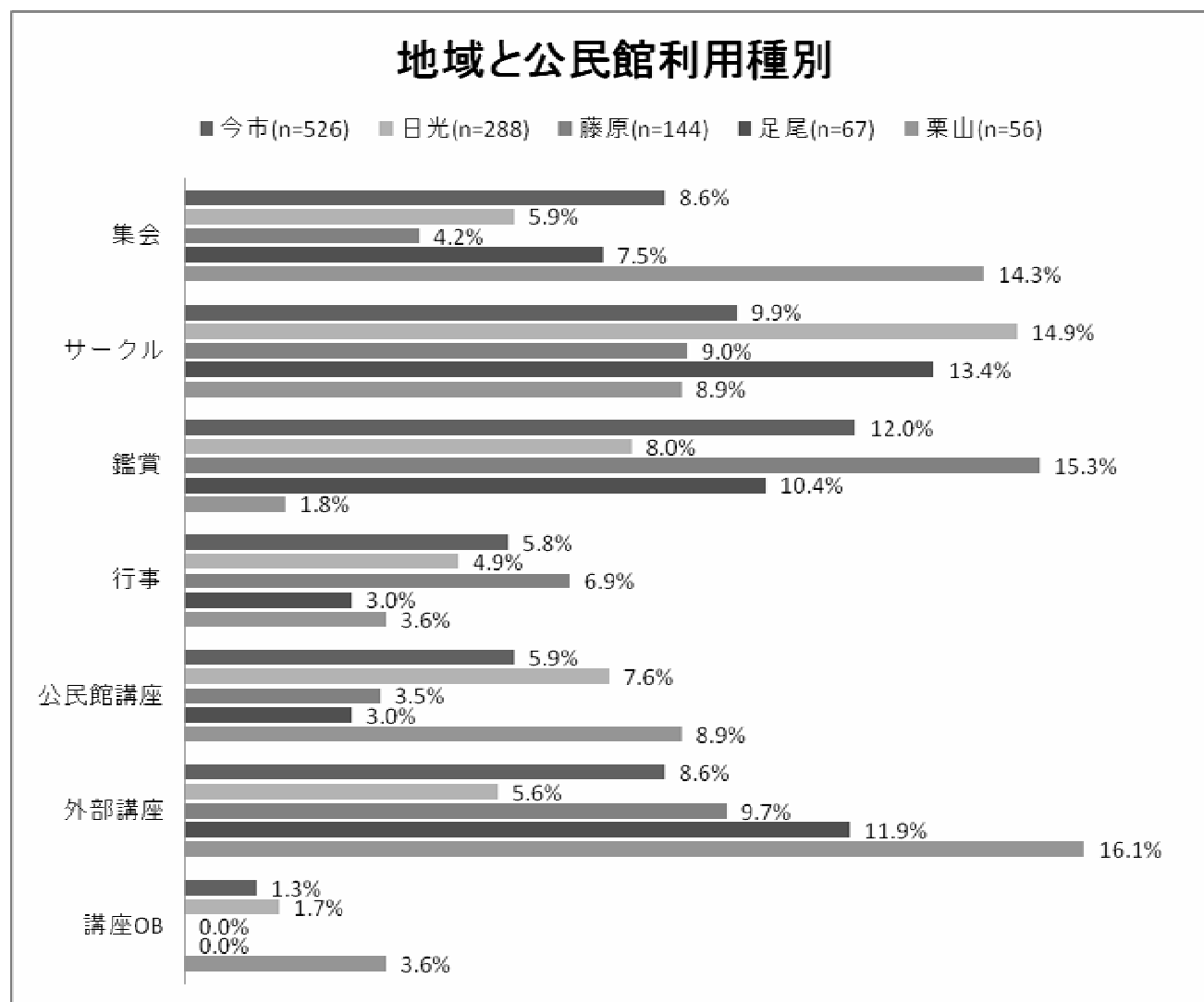
自営商工業者はサークルの利用が

自営農林漁業者は行事と講座の利用がそれぞれ多いことが分かった。

パートタイム就業者の利用の仕方は平均的である。

③ 地域別

図 3-5



グラフの結果は情報量が多すぎて読みにくいので、これまでと同様、それぞれの地域の利用種別の割合を以下のグラフに示し、さらにその割合を全体における割合の数値で割った数値を以下の表に示す。

図 3-6

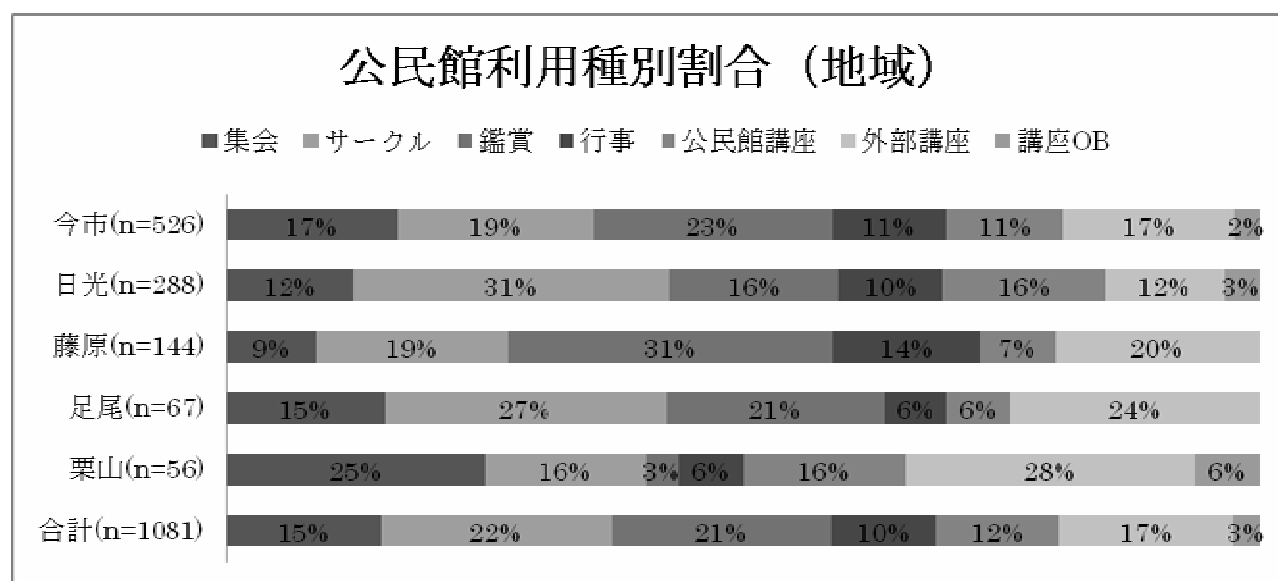


表 3-3

	集会	サークル	鑑賞	行事	公民館講座	外部講座
今市	1.1	0.8	1.1	1.1	1.0	1.0
日光	0.8	1.4	0.8	1.0	1.3	0.7
藤原	0.6	0.8	1.5	1.4	0.6	1.2
足尾	1.0	1.2	1.0	0.6	0.5	1.4
栗山	1.7	0.7	0.1	0.6	1.3	1.7

今までの表と同様、他に比べて割合の高い数値を□で囲み、低い数値を下線付きイタリック体（斜体）で示すと上表のような結果となる。日光地域ではサークル利用の割合が高く、藤原地域では作品鑑賞と行事利用が、足尾地域では外部企画の講座の利用が多く、逆に公民館企画の講座の利用は少なめ、栗山地域は集会利用と外部企画の講座の利用が多く、作品鑑賞の利用が少ないことがわかった。

④ 利用種別の相互関係

表 3-4 公民館利用種別の相互関係（順位相関係数）

	集会	サークル	鑑賞	行事	講座	外部講座	講座OB
集会	1.000	.027	.044	.056	-.029	.015	.049
サークル	.027	1.000	.177**	.217**	.226**	.182**	.204**
鑑賞	.044	.177**	1.000	.197**	.255**	.230**	.156**
行事	.056	.217**	.197**	1.000	.332**	.310**	.112**
公民館講座	-.029	.226**	.255**	.332**	1.000	.244**	.245**
外部講座	.015	.182**	.230**	.310**	.244**	1.000	.078*
講座OB	.049	.204**	.156**	.112**	.245**	.078*	1.000

1%有意の相関には** 5%有意の相関には*

表 3-5 は、市立公民館をどのように利用しているのか、ある利用の仕方をしている人がほかにどのような利用の仕方をしているのか、その関係をみたものである。数値が大きいほど関係が強い。

集会の行を横に見ると値が 0.06 未満であり相関関係が有意なものがひとつもないことがわかる。集会の列も同様で、それ以外はすべて有意の相関関係が見られた。

ここから、集会として利用するかどうかは、他の様々な利用の仕方とほぼ無関係であり、集会以外の利用の仕方をしている人は、他の利用の仕方もする傾向があることがわかる。つまりサークルとして利用している人は、映画や音楽会などの作品鑑賞の場として公民館を利用したり、公民館主催の行事に参加したりしており、その逆も言えるということだ。また関係の数値はおおむね似通っていて、特に強い関係、弱い関係があるわけでもないことがわかる。

⑤ まとめ

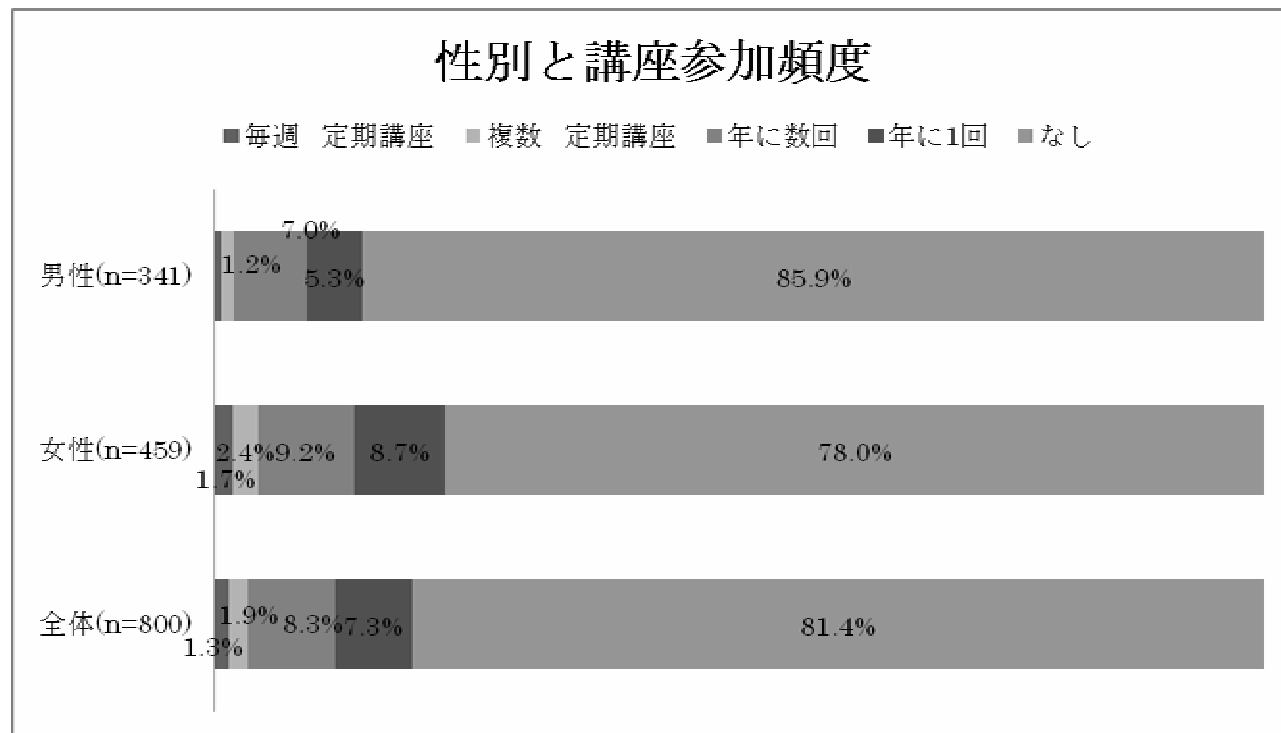
- 男性は集会の、女性はサークル、作品鑑賞、公民館主催講座の利用が多い。
- 40 代は集会の利用が、60 代はサークル、講座の利用が、70 代は作品鑑賞の利用が多い。
- 特に栗山地域で作品鑑賞としての公民館利用者が少なかった。

4. 講座参加の傾向

① 男女別・年齢別

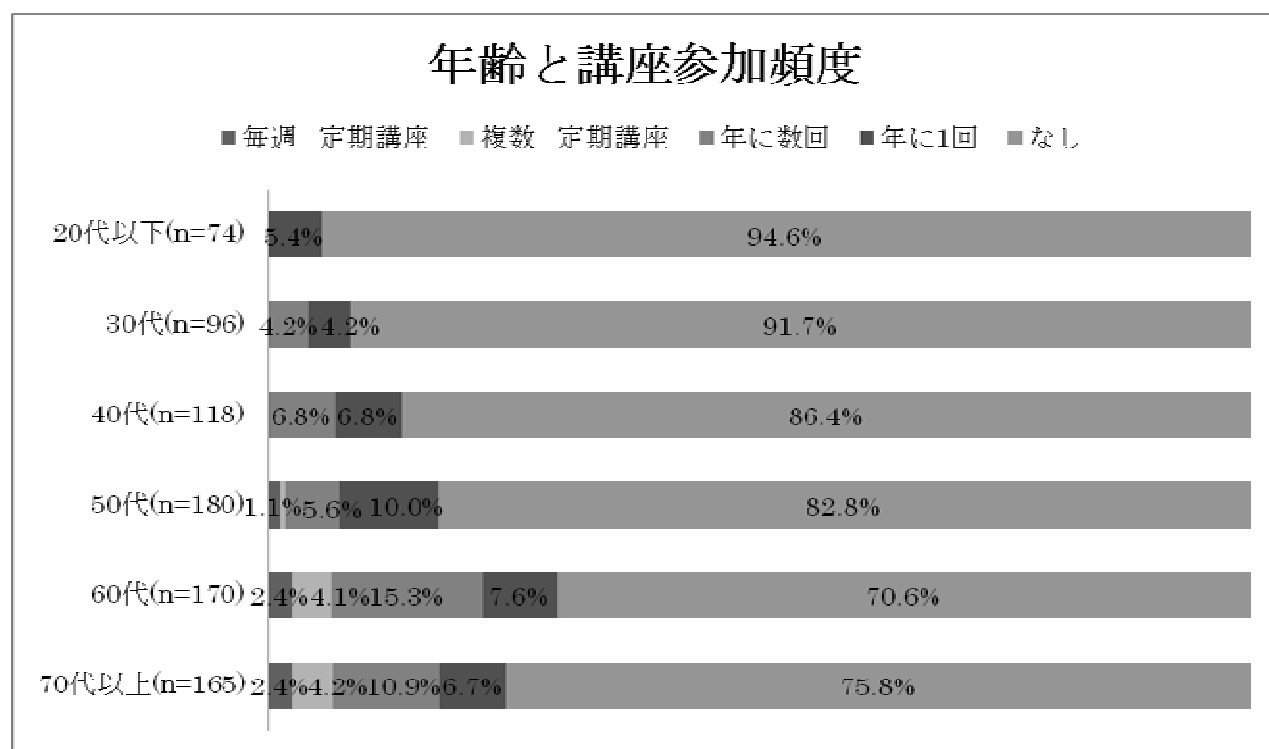
質問票問 10 の結果に従い、市立公民館の講座参加頻度を男女別、年齢別にまとめる。

図 4-1



年1回以上の利用者に関しても、定期的に講座に参加というリピーター層に関しても、女性のほうが割合が高い。特にリピーター層は女性が倍以上存在する。

図 4-2



60代までは年齢が上がるにつれて講座参加頻度が増加する傾向にある。

これをさらに男女別に見ると（次頁）

図 4-3

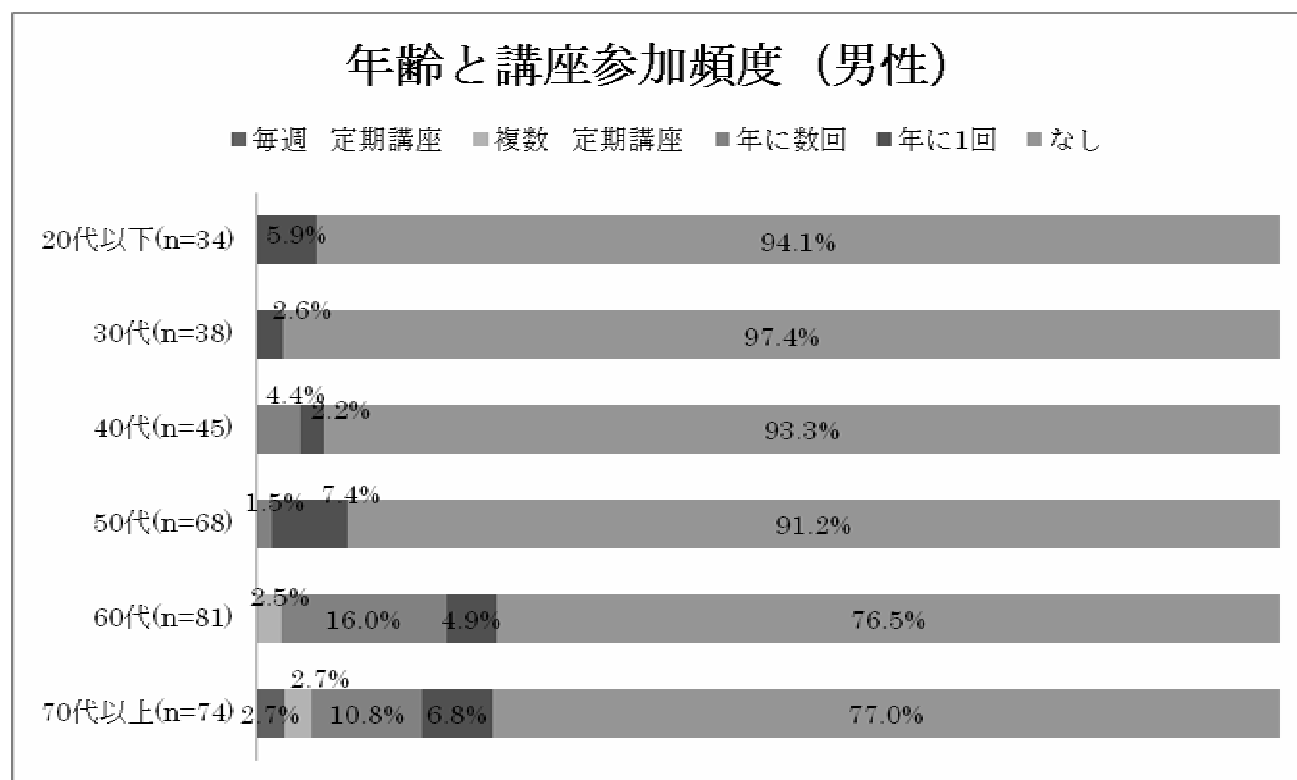
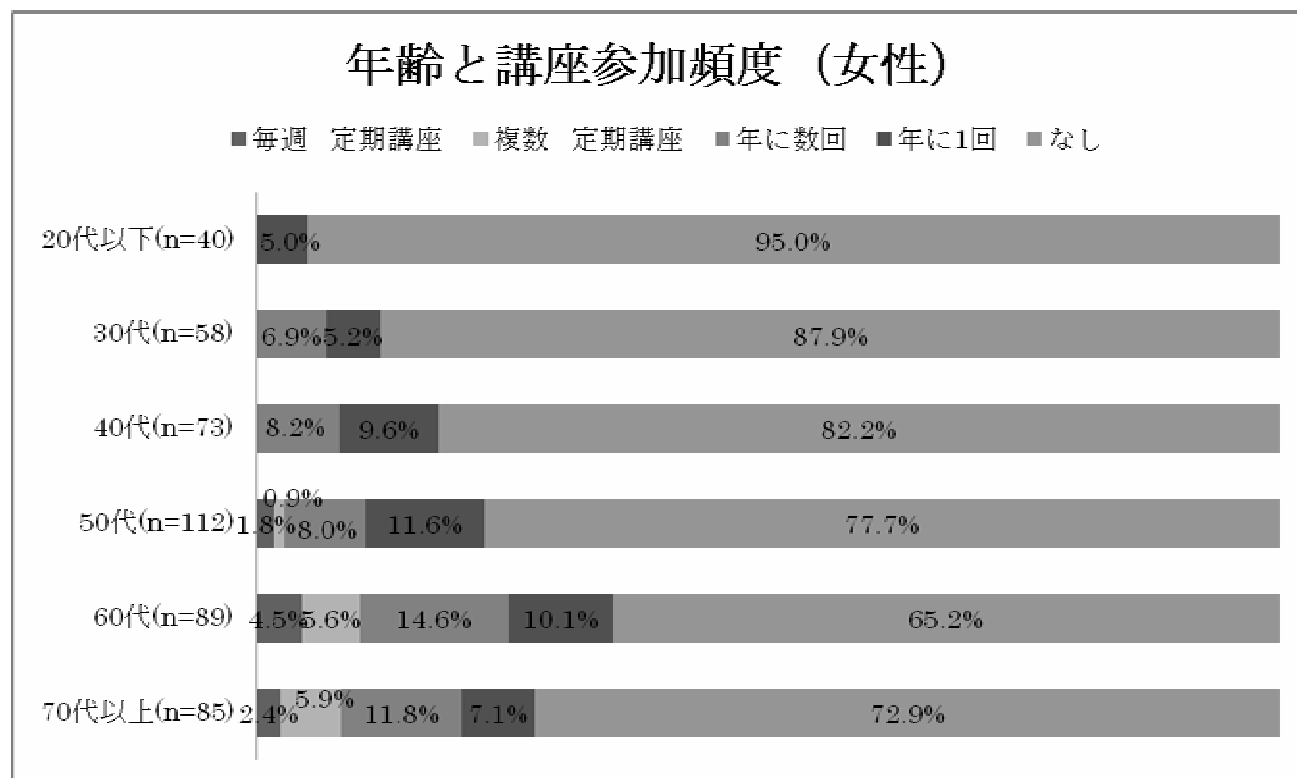


図 4-4



男性は 20 代から 50 代までは講座参加が少なく、60 代、70 代のみが多い。女性では 20 代から 60 代ま

で講座参加頻度はずっと上がり続け、70代以上で大きく下がっている。

② 職業別

図 4-5

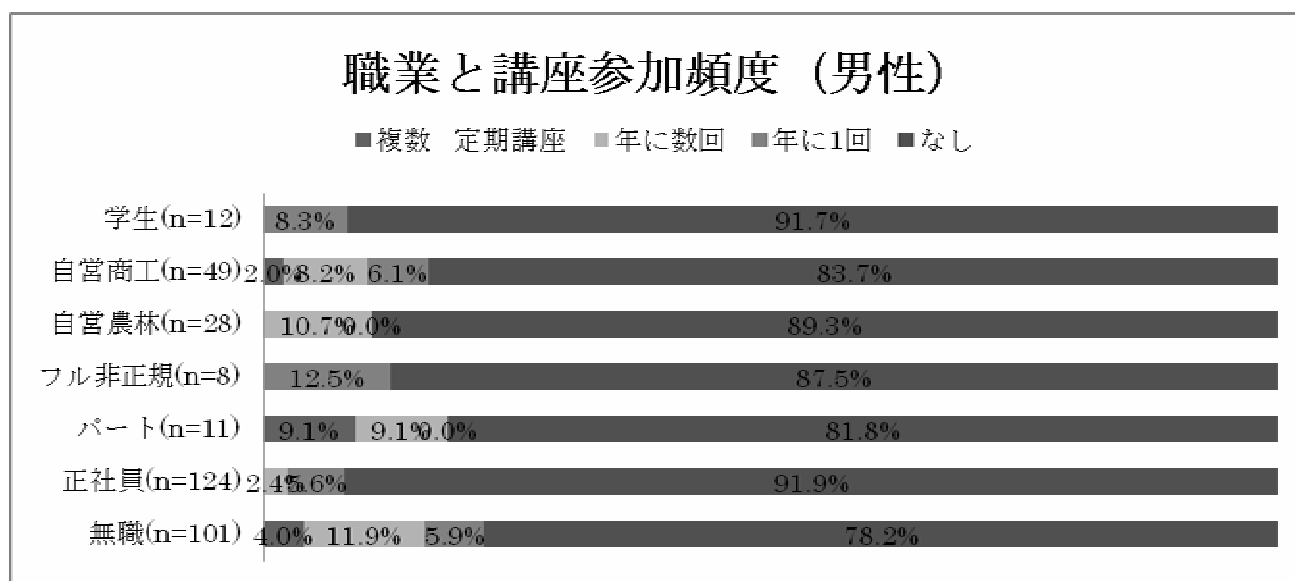
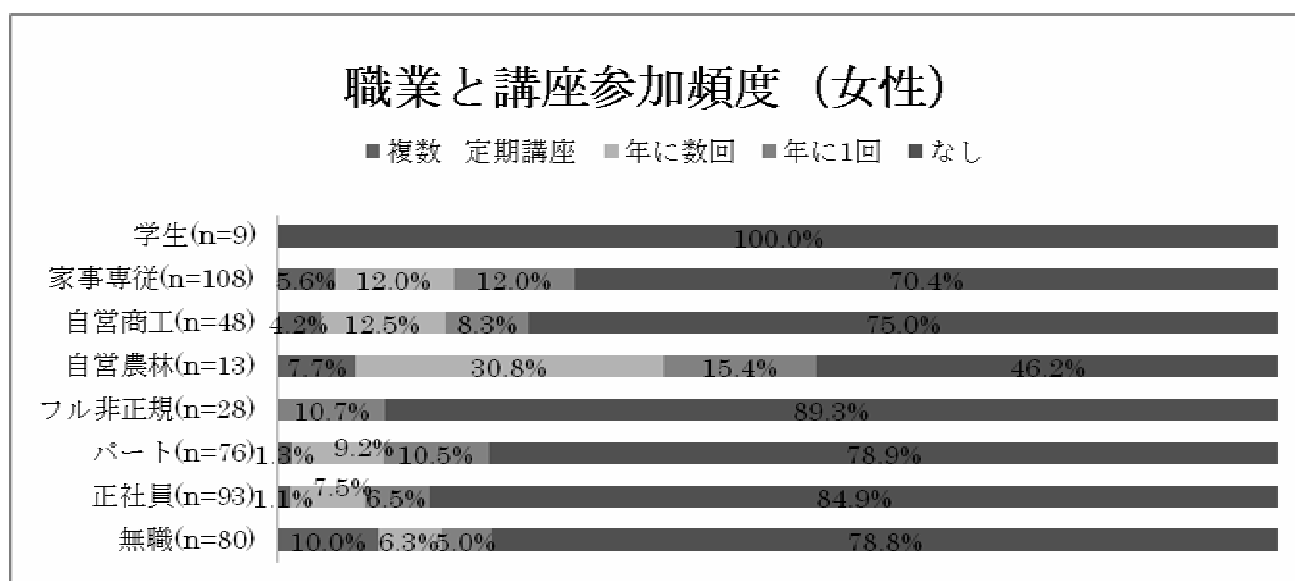


図 4-6



職業別に見ると、男性で比較的参加が多いのは無職であり、複数の定期講座に参加しているというリピーターが比較的多いのはパートタイム就業者である（ただし人数は11名にすぎない）。

女性の中で、講座参加の多いのは（人数は13名と少ないが）自営農林漁業者で、家事専従、自営商工業者が続く。最も少ないのはフルタイム非正規雇用就業者と正規雇用者（会社員・公務員）である。

③ 居住歴

図 4-7

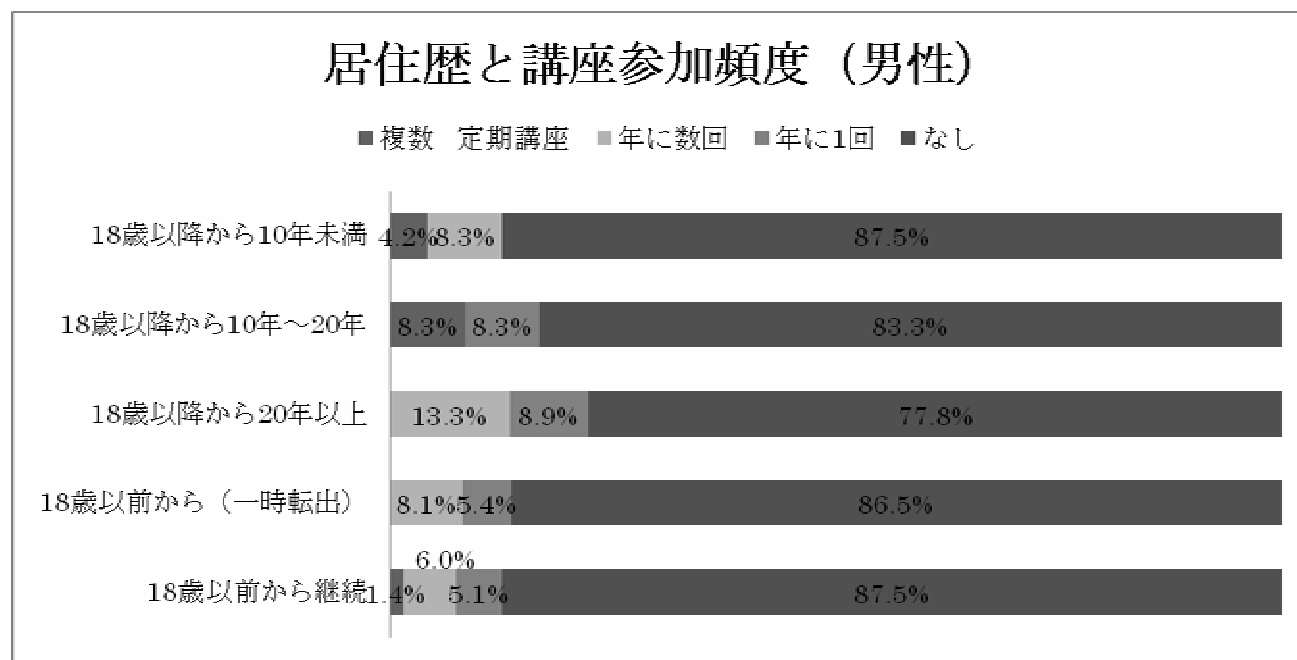
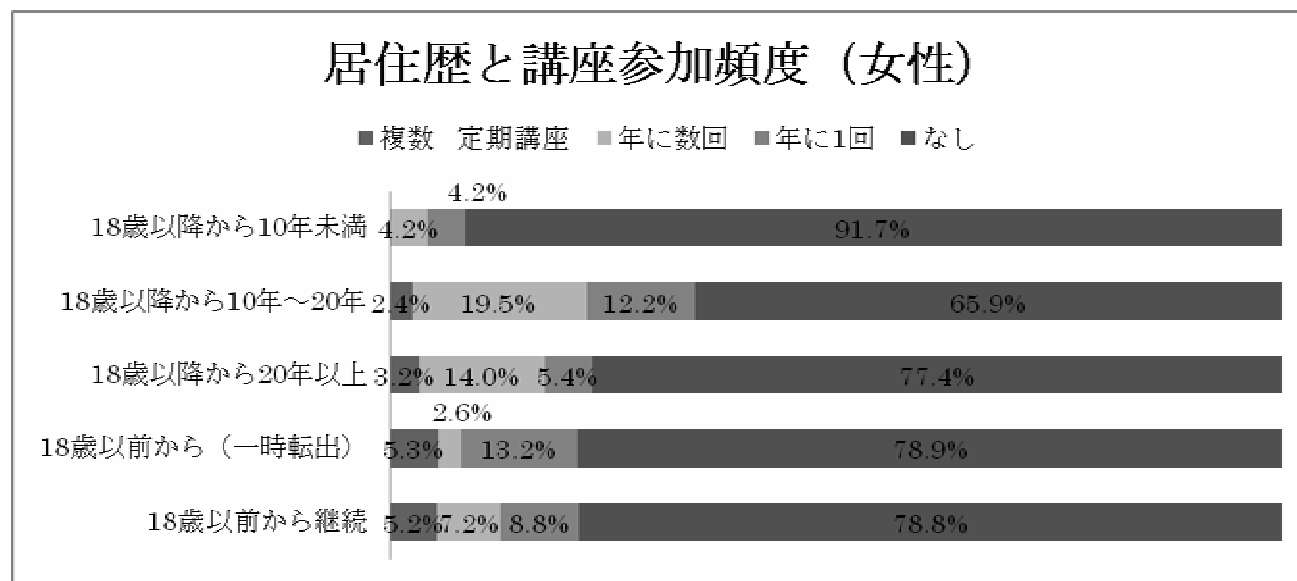


図 4-8



男性では年に1回以上講座に参加する人が多いのは18歳以降に日光市に転入し、居住歴20年以上の人たちで、複数の講座に定期的に参加するというリピーターが多いのは居住歴10年から20年の人たちである。

女性では、年に1回以上講座に参加する人が多いのは居住歴10年から20年の人たちである。複数の講座に参加するというリピーターが多いのは18歳以前から日光市に住む人たちである。

④ 勤務地

図 4-9

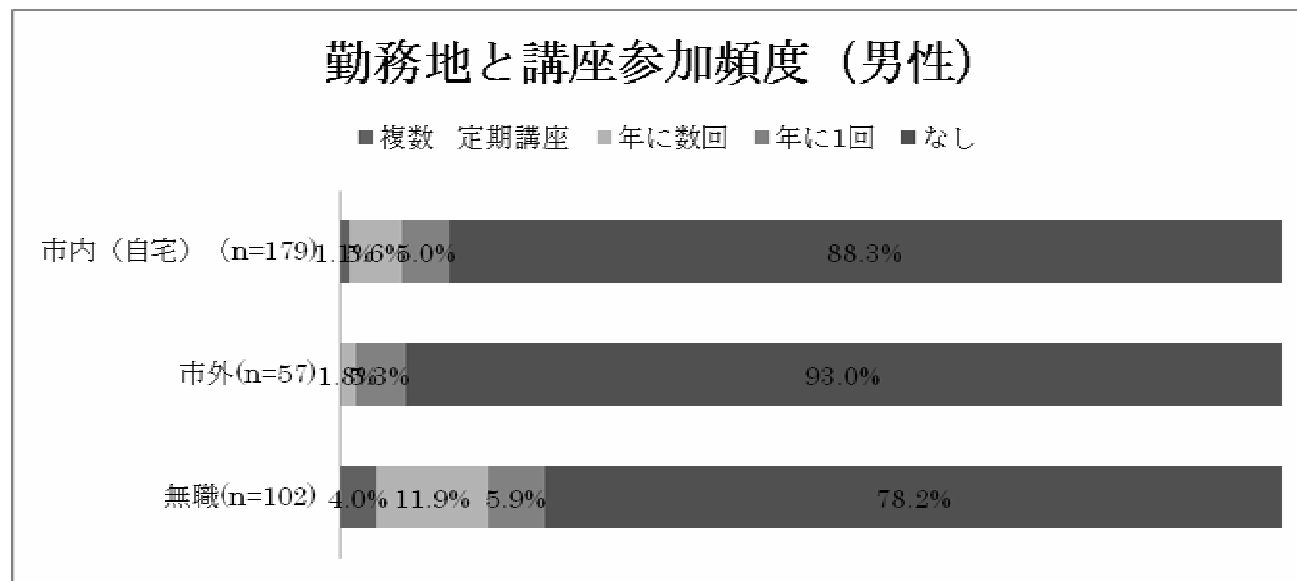
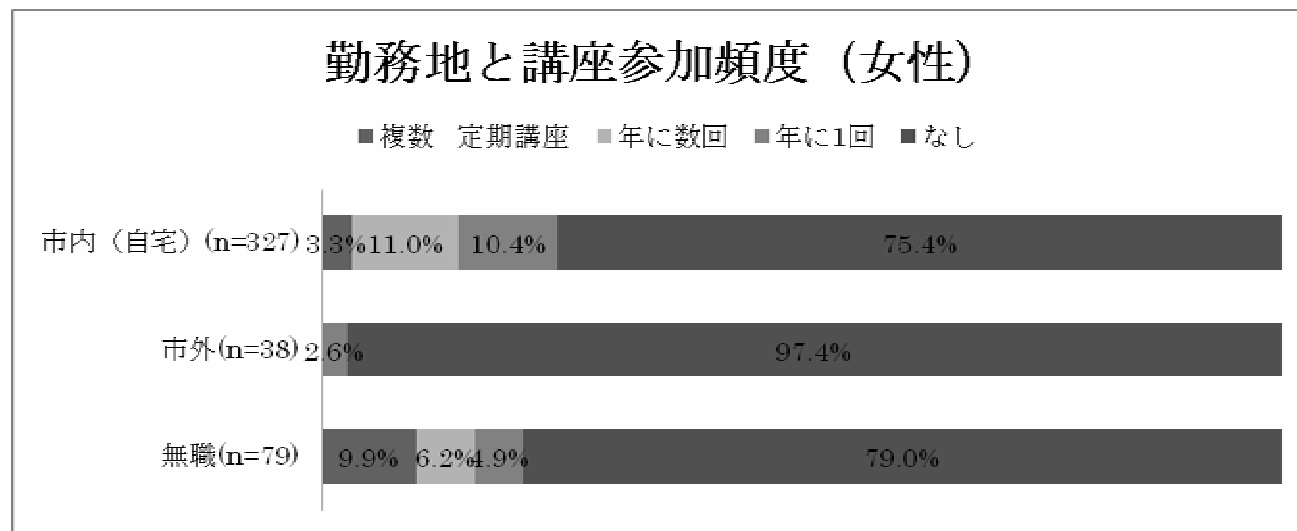


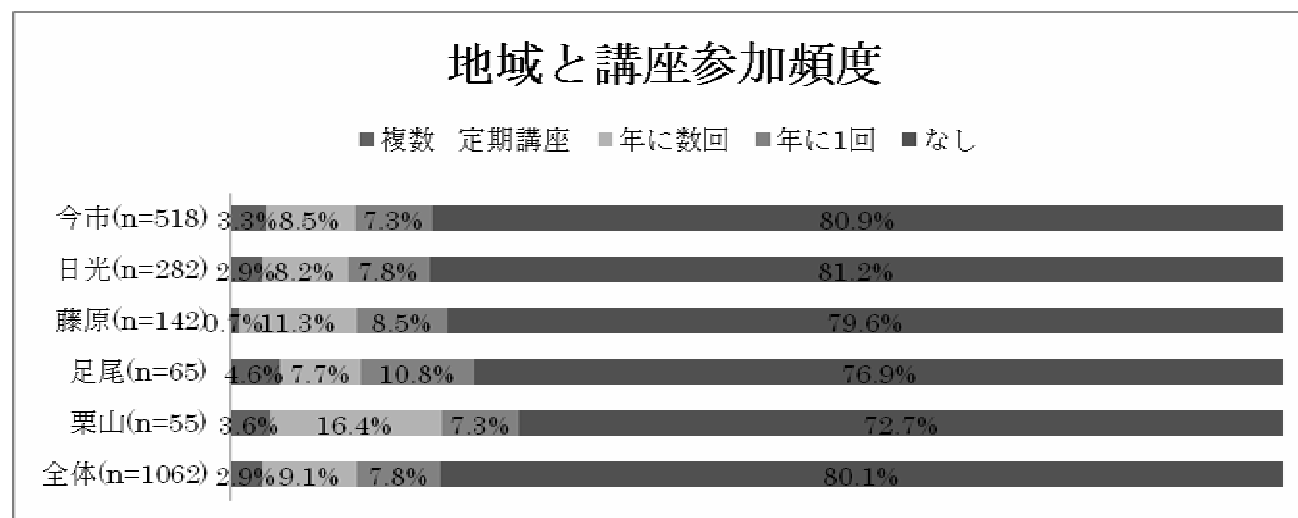
図 4-10



男女とも、市外に勤務している人は公民館講座にほとんど参加できていないことがわかる。

⑤ 地域別

図 4-11



講座参加頻度は地域の人口が少なくなるほど高くなり、栗山地域が最も高い。

図 4-12

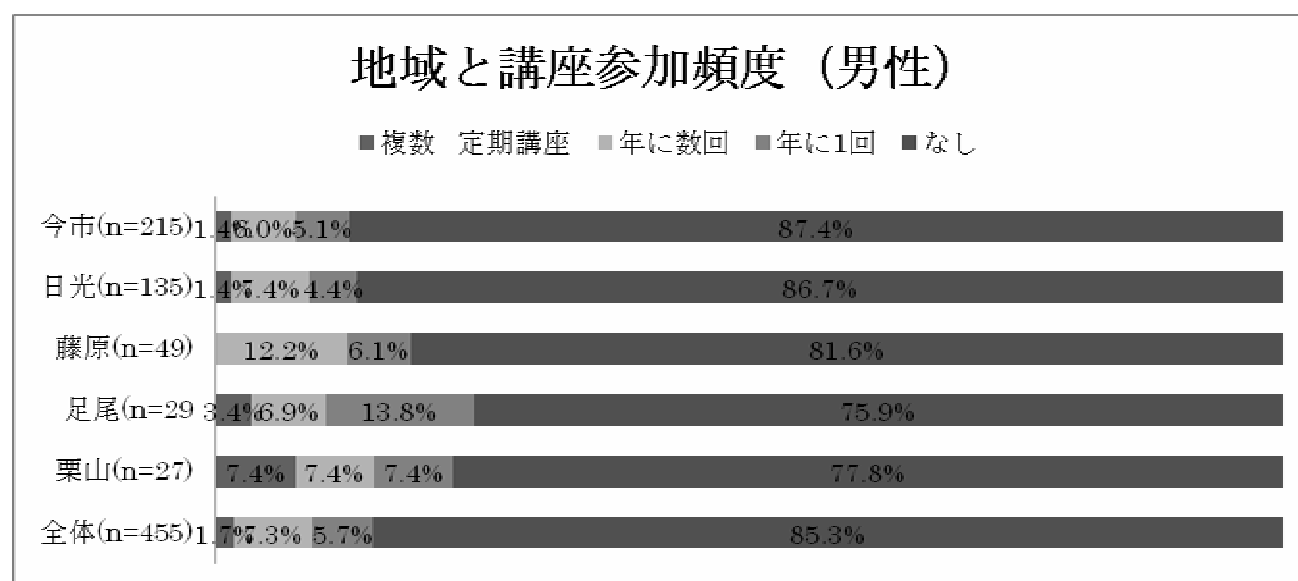
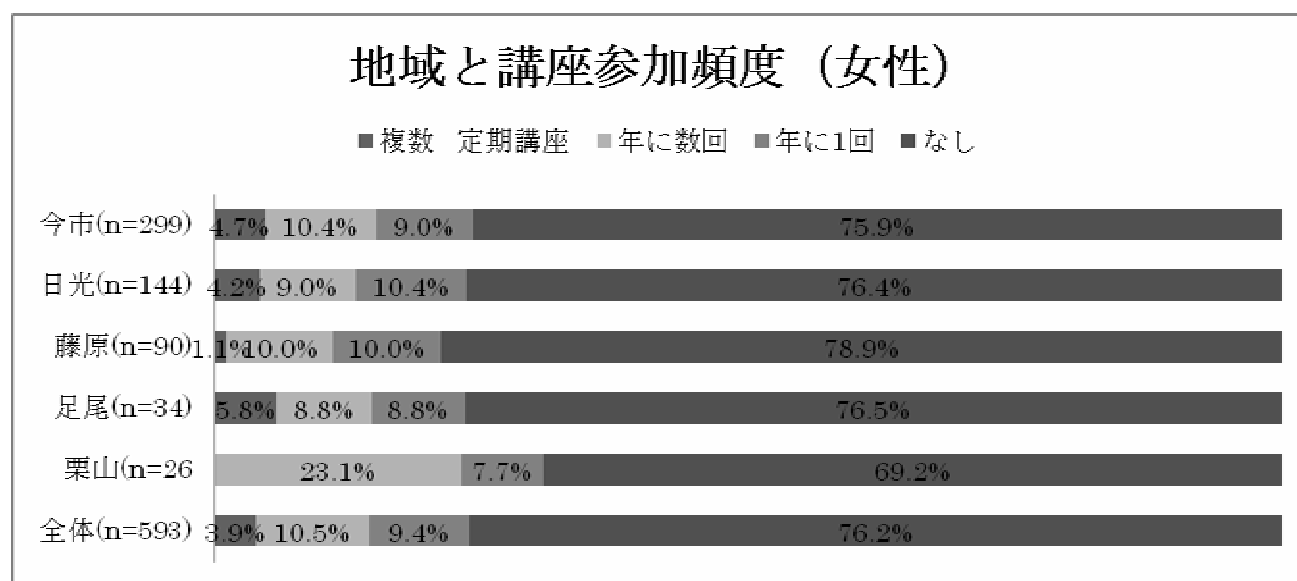


図 4-13



男性だけ見ると、年に1回以上講座に参加する人が多いのは足尾地域で、栗山地域がそれに続く。もっとも少ないのは今市地域である。複数の講座に定期的に参加する人が多いのは栗山地域である。一方女性だけ見ると、年に1回以上講座に参加する人が多いのは栗山地域であり、もっとも少ないのは藤原地域である。複数の講座に定期的に参加する人が多いのは足尾地域である。

⑥ まとめ

- 公民館講座は、男性は20代から50代にはあまり利用されていないようである。女性の利用は年齢が上がるにつれて徐々に増えていき60代がもっとも多い。
- リピーターの利用は女性は60代から70代、男性は70代が中心。
- 男性は職業ごとにあまり大きな差はないが、女性は職業によって参加頻度に差が大きい。女性で年に一度も参加していない人の割合が高いのはフルタイム雇用者（正規雇用者、非正規雇用とも）で、逆に年に一度は参加している人の多いのは自営業（特に農林漁業）と家事専従である。リピーターが最も多いのは女性は無職で、男性はパートタイム就業者、次に無職である。
- 女性で市外に勤務している人はほとんど公民館講座に参加できていない。
- 日光市在住10年から20年の女性で年1回以上の参加が多い。
- 栗山地域の女性と足尾地域の男性で年1回以上の参加が多い。

5. 公民館の講座や教室にこの3年間不参加だった理由

不参加理由は質問票問11に従い分類した。

- 1 公民館の講座にそもそも興味・関心がない、めんどろだ
→興味なし
- 2 自分の希望に合う講座がない
→希望講座なし
- 3 講座の情報（内容・費用など）が得られない
→情報なし
- 4 地理的に交通が不便だから、通えない
→地理的不便
- 5 興味はあるが一人では参加しにくい
→単独抵抗
- 6 参加する時間がない、あるいは時間が合わない
→時間なし
- 7 家族や職場など周囲の理解が得られない
→周囲の不理解
- 8 自主的に活動したり民間施設を利用しているから
→民間利用
- 9 健康上の不安がある
→健康不安
- 10 かつて参加してみたが、つまらなかった・役に立たなかった
→つまらない経験
- 11 公民館の講座は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある
→決まった人だけ
- 12 公民館の講座は、まじめでかたそうなイメージがある
→まじめイメージ

① 回答パターン

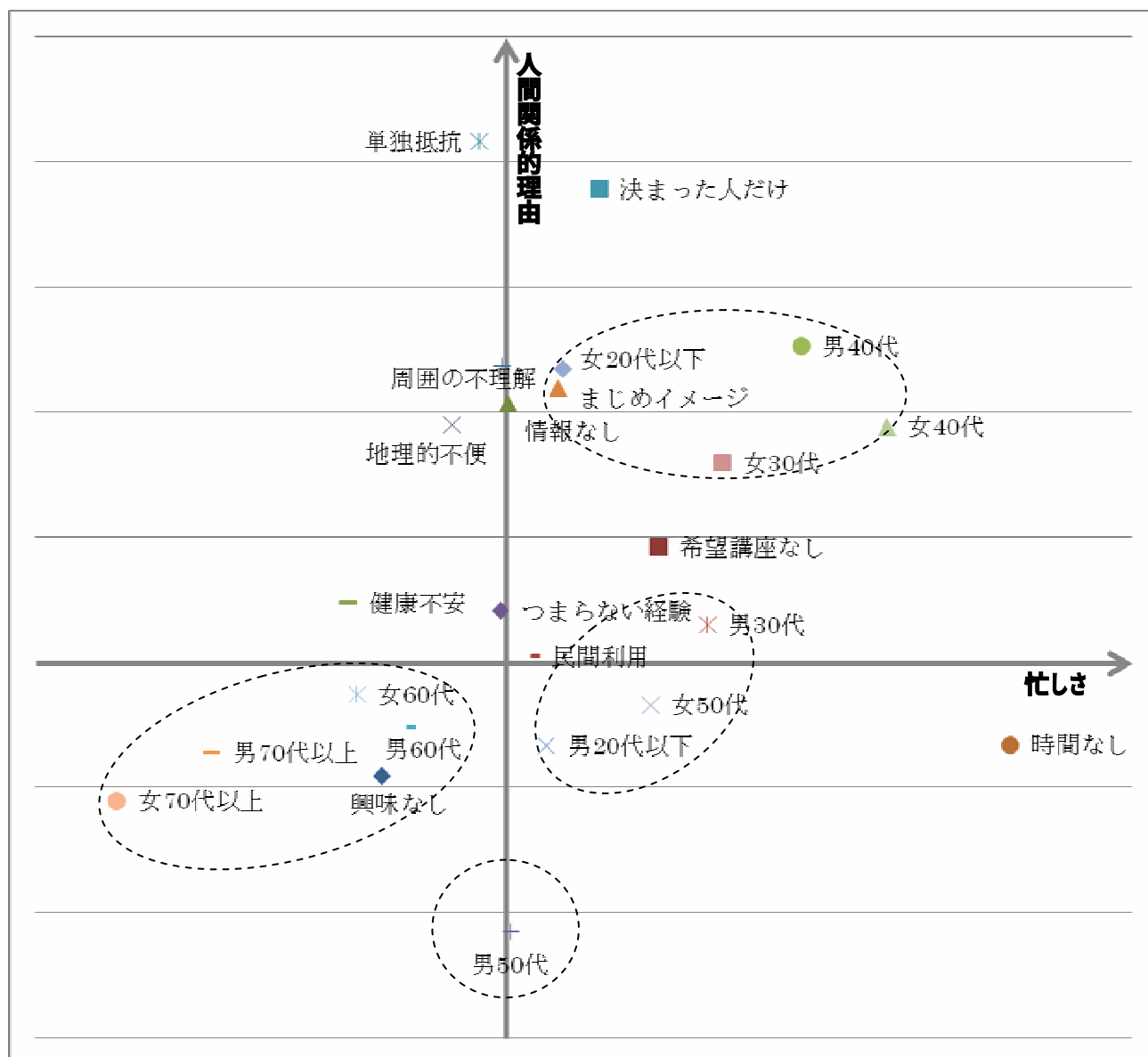
問11の数多くの選択肢の回答のパターンを見るため、因子分析を行った。

因子分析は、多数の要因間の複雑な相互作用をわかりやすく示すための統計分析技法である。

次ページはその結果である。

（因子数2、主因子法 プロマックス回転、因子間の相関は0.25）

図 5-1 公民館講座不参加の理由 因子分析結果（パターン変数と男女・年齢別の因子得点平均点）



〔図の見方〕

左右の位置は、「時間なし」という理由が示すように、右に行けば行くほど忙しい人が選びやすい理由であり、左に行けば行くほどその逆に時間はある人が選びやすい理由となっている（「健康不安」「興味なし」など）。上下の位置は、上に行けば行くほど人間関係的な問題で講座に参加しないという人が選びやすい理由になっている（「単独抵抗」「決まった人だけ」など）。逆に下に行けば行くほど、「時間なし」「興味なし」など、人間関係以前の、より直接的な理由になる。矢印の交差した点が0であり、0から遠いほどそうした性格が強くなり、0に近づけばその性格は弱くなる。

交点を通して反対方向に位置するのは、一方を選んだ人は、もう一方は選ばない傾向があることを示す。たとえば左下の象限に位置する、公民館の講座そのものに興味がない（「興味なし」）を選んだ人は、右上の象限に位置する「決まった人だけ」「まじめイメージ」「希望講座なし」を選ばない傾向がある。交点に近い、「民間利用」や「つまらない経験」を選んだ人に共通するような傾向は、このグラフが示すような「忙しさ」や「人間関係的理由」とは無関係であり、それらの項目ごとの独自の原因によってい

ると考えられる。

この後の節でも、さまざまな項目に関する因子分析の結果のグラフを示すが、こうした見方はどれもに共通する。

講座不参加の理由に関して、年齢・性別のグループは四つに分類される。

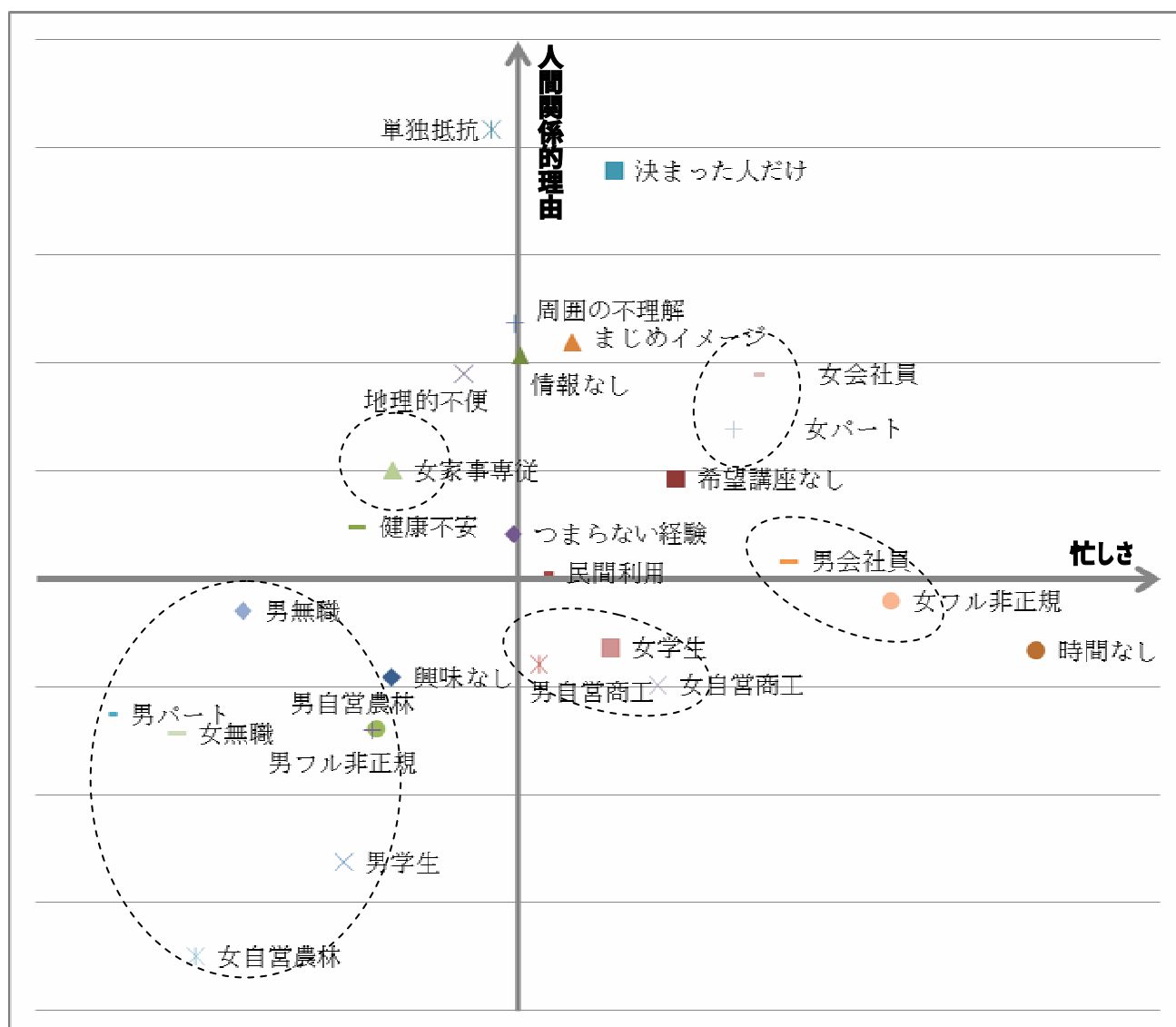
1 番目のグループは右上に位置する人々で、忙しいが公民館の講座自体には興味はあり、人間関係的な理由でなかなか参加できないといった人々である。女性 20 代から 40 代、男性 40 代があてはまる。

2 番目のグループは、公民館講座に参加できない理由として、忙しさが中心となるグループであり、20 代以下から 30 代までの男性と、50 代の女性があてはまる。

3 番目は、忙しさを理由に挙げる程度は平均的だが、人間関係的な理由をほとんど挙げず、より直接的な理由を挙げる傾向の強いグループで、男性 50 代だけが含まれる。公民館の講座にもっとも無関心な層であると考えられる。

最後が時間は十分あるが体力的に参加が難しく、また講座にもあまり興味が持てないというグループで、これは 60 代以上の男女があてはまる。

図 5-2 公民館講座不参加の理由 因子分析結果（パターン変数と性別・職業別の因子得点平均点）



図の見方：基本的な見方は前図と同様。

性別・職業別に講座の不参加理由をみると、5つのグループにわけられる。

第一が忙しくかつ人間関係的な理由を挙げたグループで女性の正規雇用者（図では会社員）、パートタイム就業者があてはまる。

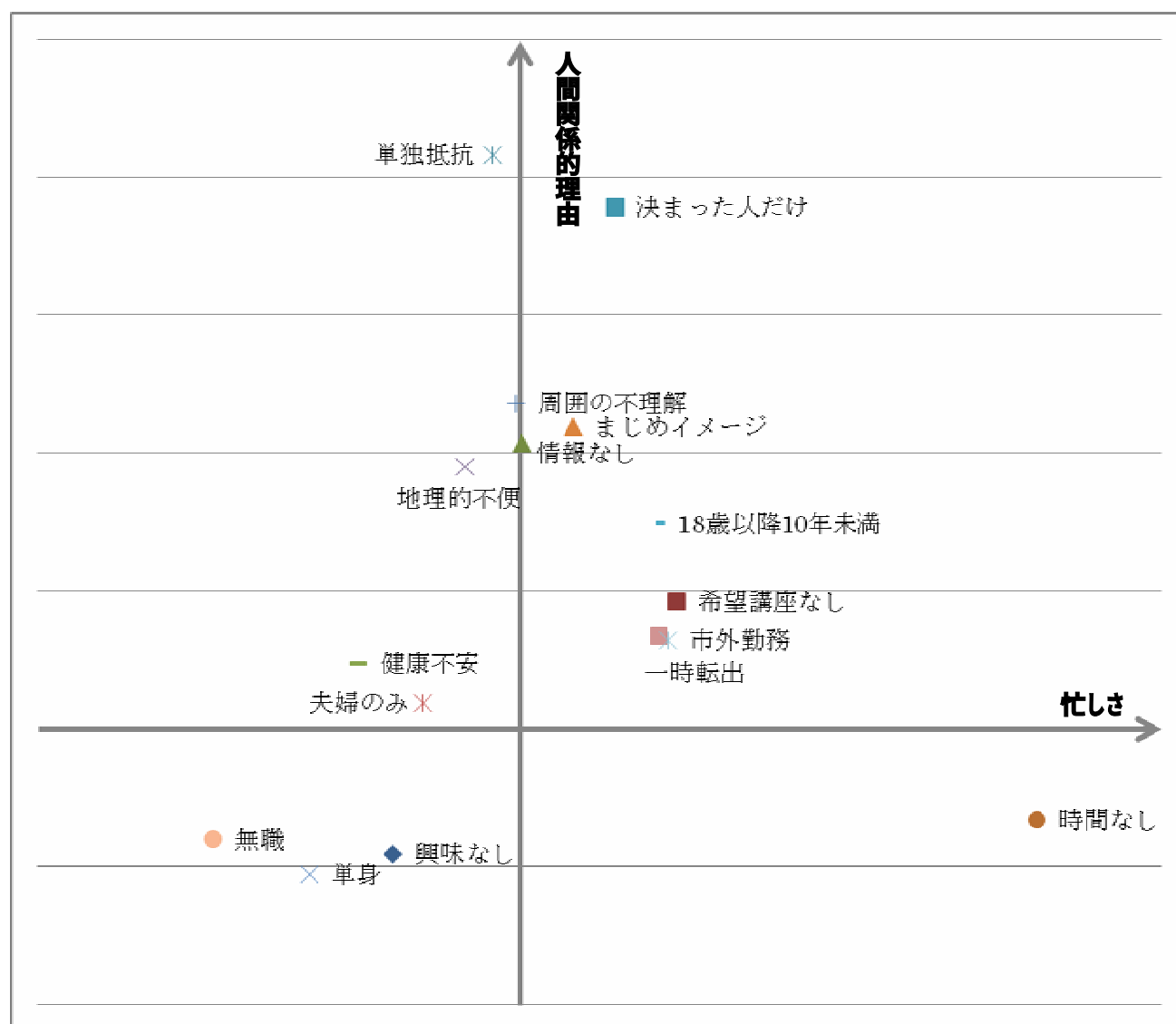
第二が忙しさを中心的な理由として挙げたグループで男性の正規雇用者（図では会社員）、女性のフルタイム非正規雇用就業者があてはまる。

第三が、第二より忙しさを理由に挙げる程度は下がり、より直接的な理由を挙げる人々で、男女の商工自営業者と女子学生があてはまる。

第四が比較的時間に余裕があり、人間関係的な理由を挙げている人々で家事専従者が含まれる。

最後はそれ以外の人々で、時間はあるが、人間関係的な理由よりも直接的な理由を挙げている人々である。

図 5-3 公民館講座不参加の理由 因子分析結果（パターン変数とその他の基本変数の因子得点平均点）



（因子得点 0.1 以下は項目名を省略した）。

家族構成や居住歴、勤務地などのその他の変数による各グループの因子得点の平均点を表示した。以下特徴的な項目について触れる。

家族構成に関しては、単身者は時間があり、直接的な理由を挙げる傾向を示した。男子学生や無職の人の傾向に重なる。

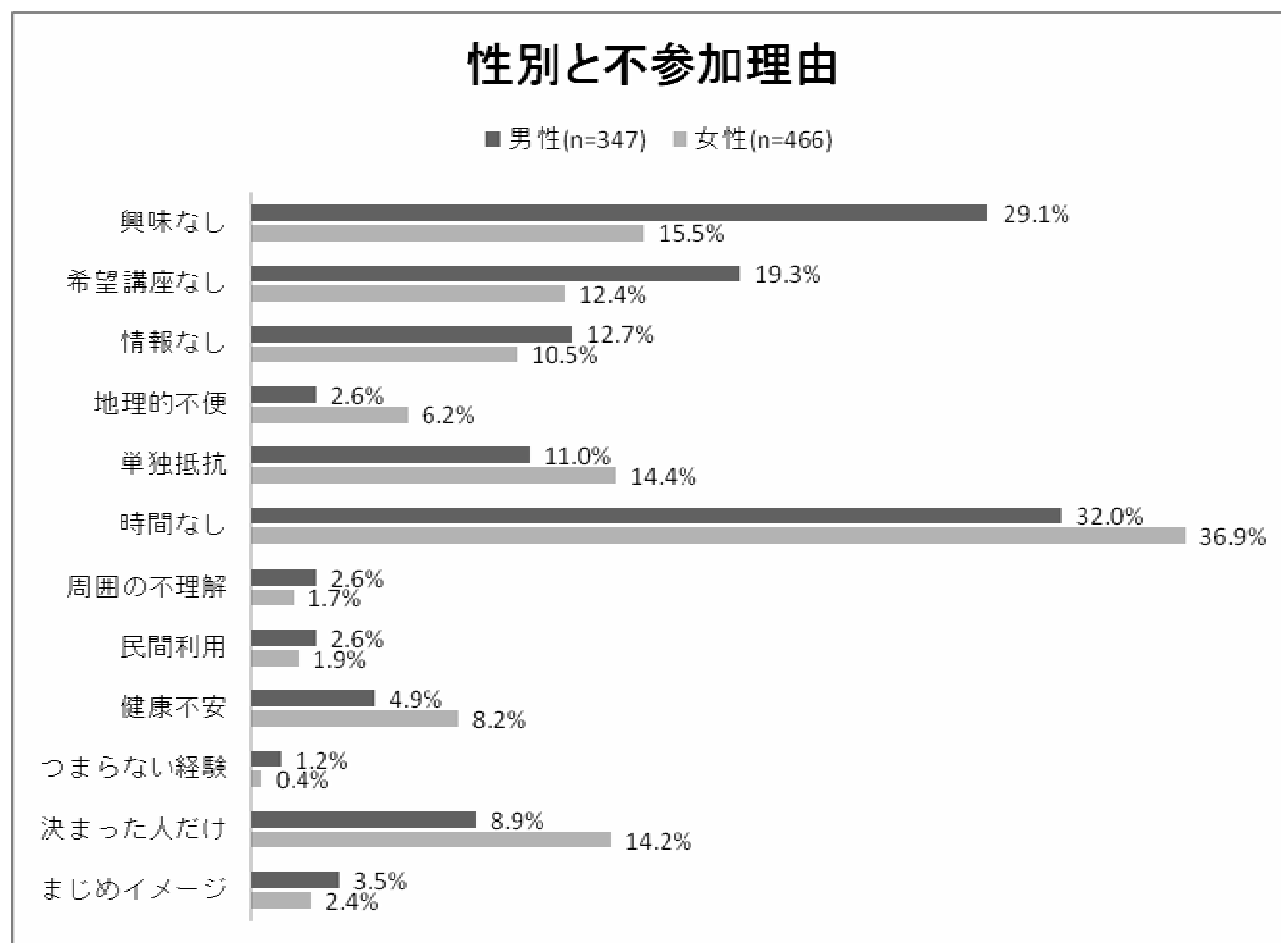
居住歴に関しては、18 歳以前から日光市に住み一時転出した人と、10 年未満の居住歴の者はともに忙しく、かつ人間関係的な理由を挙げる傾向があった。

勤務地に関しては、市外勤務の人がやはり忙しく、かつ人間関係的な理由を挙げる傾向があった。

地域に関しては、どの地域も平均的な傾向を示した。

② 男女別・年齢別

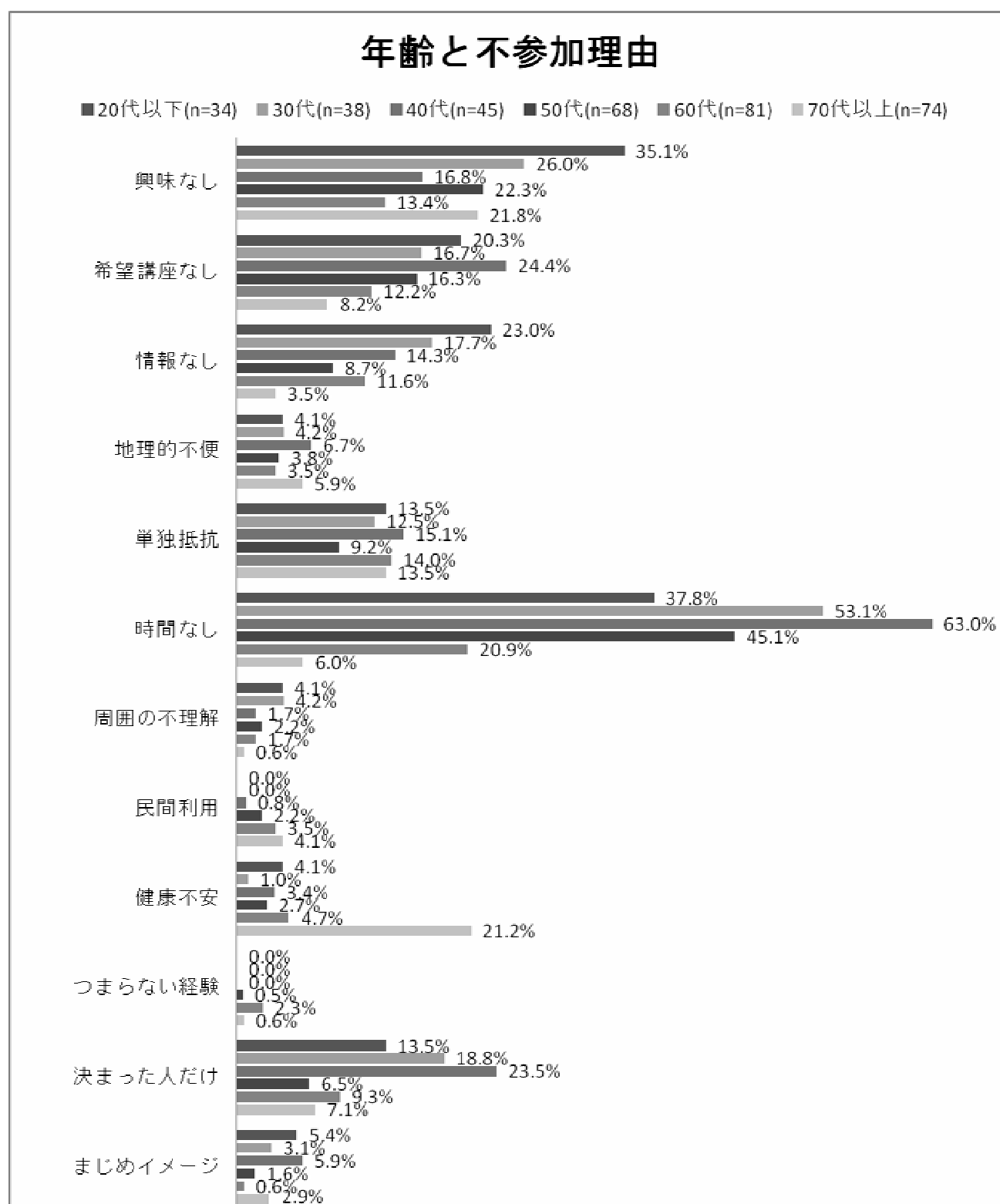
図 5-4



公民館主催講座への不参加理由として、もっとも選択が多かったのは「時間なし」で、続けて「興味なし」「希望講座なし」だった。

男女で比較すると、男性では「興味なし」「希望講座なし」など、直接的な理由が多く、女性では「決まった人だけ」「単独抵抗」などの人間関係的な理由や「健康不安」「地理的不便」などといった《興味はあるけれど他に障害がある》といった間接的な理由が多かった。

図 5-5



年齢ごとに見ると、20代、30代など若い人ほど多い理由として「情報なし」

30代から50代など働き盛りに多い理由として「時間なし」

20代から40代が多いものとして「決まった人だけ」

70代以上が多いのは「健康不安」だった。

図 5-6

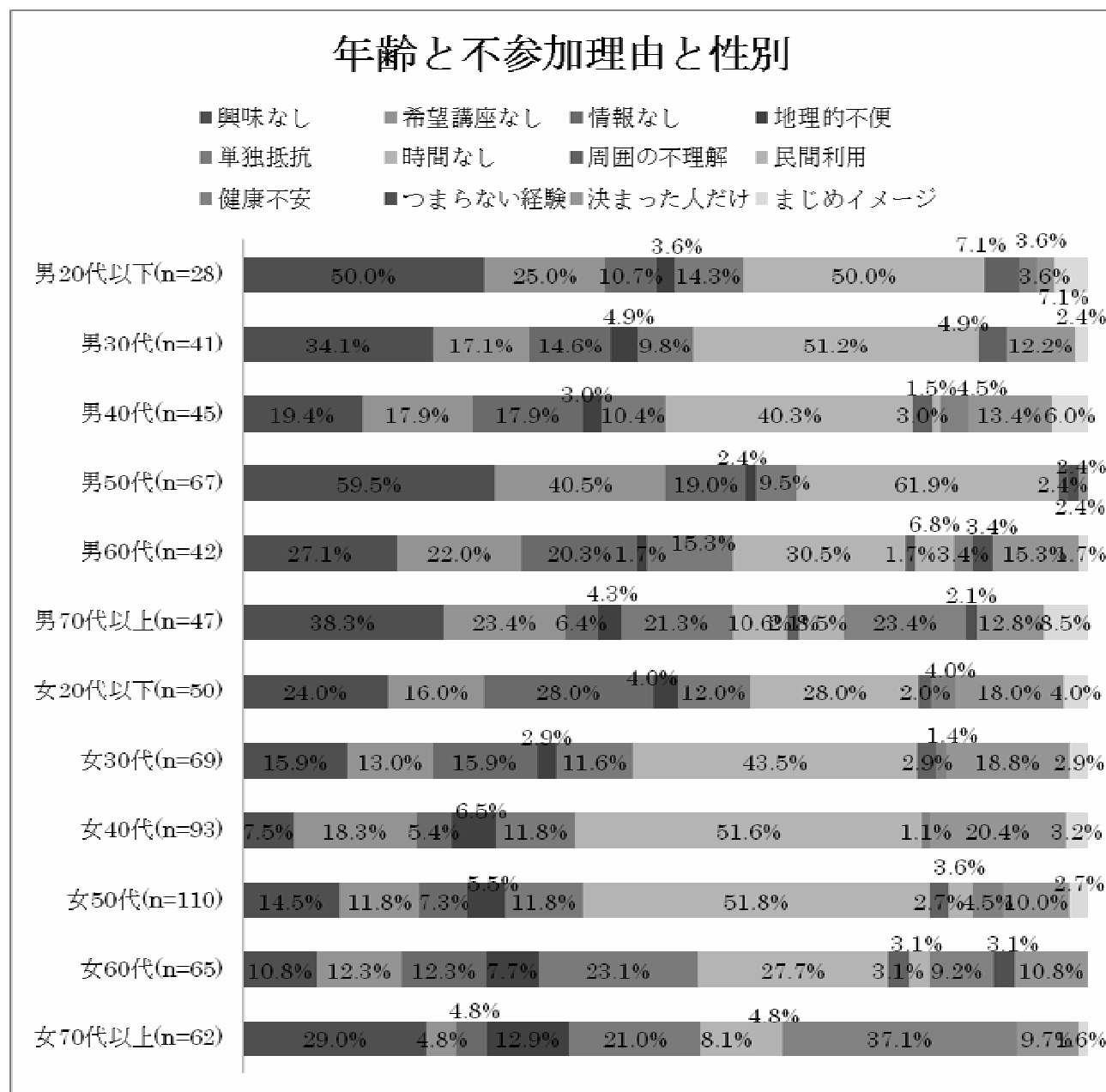


表 5-1

	興味なし	希望講座 なし	情報なし	地理的不 便	単独抵抗	時間なし	健康不安	決まった 人だけ
男 20 代以下 (n=28)	<u>2.1</u>	<u>1.5</u>	0.8	0.7	1.0	1.3	<u>0.5</u>	<u>0.3</u>
男 30 代 (n=41)	<u>1.5</u>	1.0	1.2	0.9	0.7	1.3	<u>0.0</u>	0.9
男 40 代 (n=45)	0.8	1.1	<u>1.4</u>	0.6	0.7	1.0	0.6	1.0
男 50 代 (n=67)	<u>2.6</u>	<u>2.4</u>	<u>1.5</u>	<u>0.5</u>	0.7	<u>1.6</u>	<u>0.0</u>	<u>0.2</u>
男 60 代 (n=42)	1.2	1.3	<u>1.6</u>	<u>0.3</u>	1.1	0.8	<u>0.5</u>	1.2
男 70 代以上 (n=47)	<u>1.6</u>	1.4	0.5	0.8	<u>1.5</u>	<u>0.3</u>	<u>3.1</u>	1.0
女 20 代以下 (n=50)	1.0	0.9	<u>2.2</u>	0.8	0.8	0.7	<u>0.5</u>	<u>1.4</u>
女 30 代 (n=69)	0.7	0.8	1.3	0.6	0.8	1.1	<u>0.2</u>	<u>1.4</u>
女 40 代 (n=93)	<u>0.3</u>	1.1	<u>0.4</u>	1.2	0.8	<u>1.3</u>	<u>0.1</u>	<u>1.6</u>
女 50 代 (n=110)	0.6	0.7	0.6	1.1	0.8	<u>1.3</u>	0.6	0.8
女 60 代 (n=65)	<u>0.5</u>	0.7	1.0	<u>1.5</u>	<u>1.6</u>	0.7	1.2	0.8
女 70 代以上 (n=62)	1.2	0.3	0.4	<u>2.5</u>	<u>1.5</u>	<u>0.2</u>	<u>4.9</u>	0.7

上の表はこれまでと同様、ある性別・年齢層においてある選択肢を選んだ人の割合を、全体においてその選択肢を選んだ人の割合で割った数値である。平均と同じなら 1.0 になる。平均に比べて比較的割合の大きいものを□で囲み、小さいものを下線付きイタリック体（斜体）であらわしている。ちょうど全体における各職業の割合と、その地域における職業の割合が等しい場合 1.0 になる。ここでは不参加理由として選んだ人の少ない選択肢を除いて表示している。以下、全体的な回答パターンの分析では十分見られなかった特徴的な傾向について述べる。

「興味なし」は、40 代以外の男性で割合が高いことがわかる。逆に女性でこの割合が高いのは 70 代以上のみである。

「情報なし」は男性の 40 代から 60 代で多く、女性では 20 代以下のみで多い。

「地理的不便」は女性 60 代以上で多い。クルマ社会において、運転免許を持たない女性高年齢層にしろよせがいつている可能性が高いことを示している。

「単独抵抗」は男女とも高齢者に多い回答である。高齢になるとコミュニティとの関係が薄くなり、周囲に誘ってもらわなければならないことを示しているものとも捉えられる。

「時間なし」は男性 50 代、女性 40 代、50 代に多い。

「健康不安」は男女とも 70 代以上に多い。

「決まった人だけ」は女性の 20 代から 40 代に多い。講座に興味を持っても、50 代以上の女性によって占められているという現実から来るのであろう。

③ 地域別

図 5-7

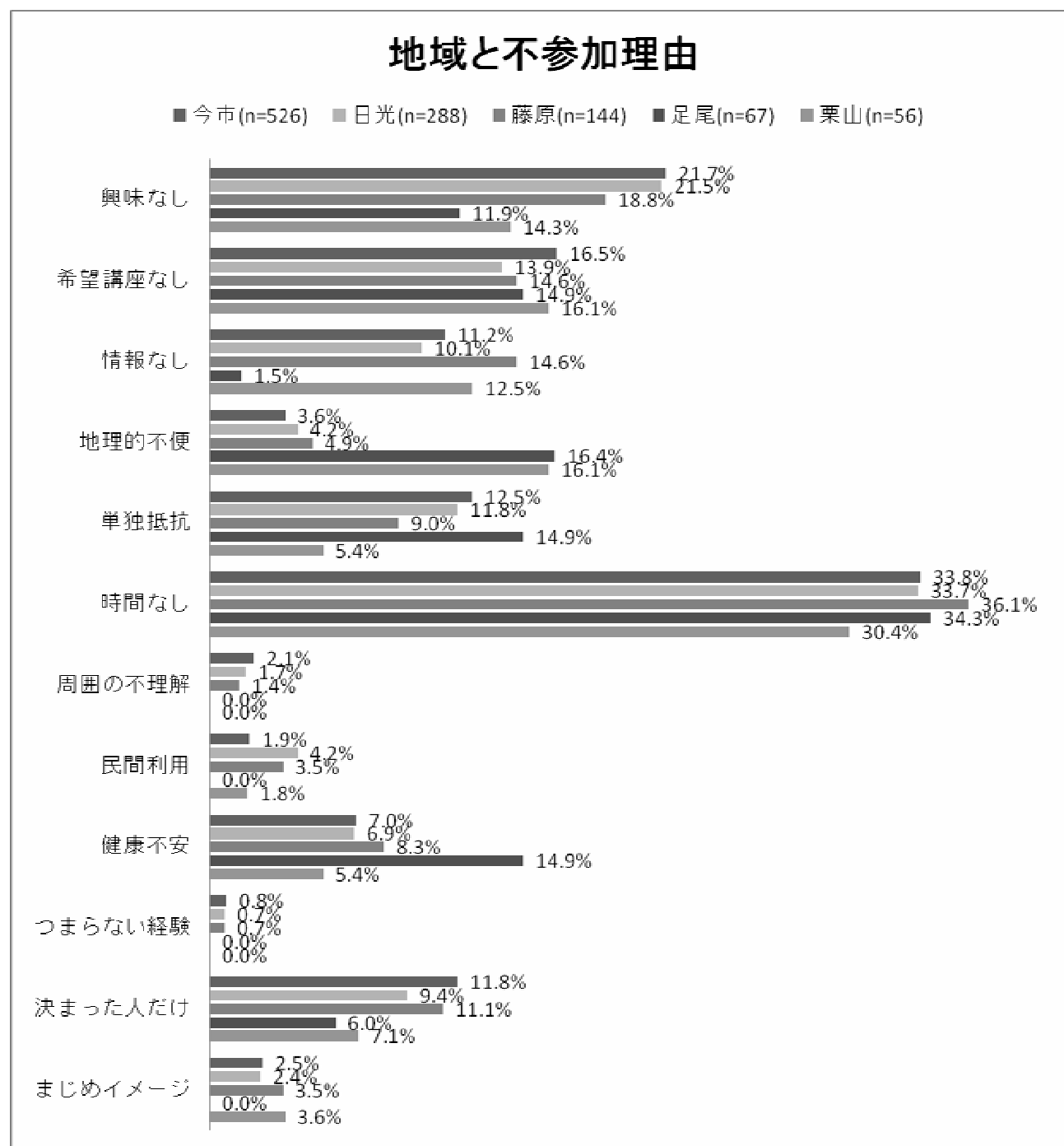


表 5-2

	興味なし	希望講座なし	情報なし	地理的不便	単独抵抗	時間なし	健康不安	決まった人だけ
今市 (n=526)	1.0	1.1	1.0	0.7	1.0	1.0	0.9	1.1
日光 (n=288)	1.1	0.9	1.0	0.8	1.0	1.0	0.9	0.9
藤原 (n=144)	0.9	0.9	<u>1.3</u>	0.9	<i>0.7</i>	1.0	1.1	1.0
足尾 (n=67)	<u>0.6</u>	1.0	<u>0.1</u>	<u>3.3</u>	<u>1.4</u>	1.1	<u>2.1</u>	<u>0.6</u>
栗山 (n=56)	0.8	1.1	<u>1.3</u>	<u>3.3</u>	<u>0.5</u>	1.0	0.8	0.7

上の表もこれまでと同様、ある地域においてある選択肢を選んだ人の割合を、全体においてその選択肢を選んだ人の割合で割った数値である。その割合が平均と同じなら1になる。

不参加理由として選んだ人の少ない選択肢を除いて表示している。割合の比較的大きいものを□で囲み、小さいものを下線付きイタリック体（斜体）で表示している。

「情報なし」は藤原、栗山が多めで足尾が少ない。

「地理的不便」は人口の少ない足尾と栗山が多めになっている。

「単独抵抗」は足尾で多く、藤原、栗山で少ない。

「決まった人だけ」は足尾で少ない。

「健康不安」は足尾が多い。

④ まとめ

- 講座の不参加理由は男性は講座にそもそも興味がないなど直接的が多く、
- 女性は一人での参加に抵抗があるや、決まった人だけなど人間関係的理由が多い。
- 女性 50 代、男性 30 代以下と 50 代は忙しさだけを、
- 女性 40 代以下、男性 40 代は忙しさ以外に、人間関係的理由が多く、
- 男女とも 60 代以上はそもそも興味がなく、健康不安などという理由が多い。
- 足尾と栗山地域で地理的不便を訴える理由が突出していた。

6. 公民館の参加講座の種類

市民が過去3年間に参加した公民館の参加講座の種類は、質問票問12に従い、分類した。

- 1 趣味・芸術的なもの（音楽・美術・華道・舞踏・書道・園芸・囲碁など）
→趣味芸術
- 2 教養的な知識を学ぶもの（文学・歴史・科学・語学など）
→教養
- 3 自然体験や歴史体験、地域探訪などの体験活動（自然観察、史跡散策、地域探訪など）
→体験活動
- 4 育児・教育（子育て・家庭教育・教育問題など）
→育児教育
- 5 家庭生活に役立つ技能（料理・そば打ち・編み物・手工芸・しめ飾りづくりなど）
→家庭生活
- 6 社会生活に役立つ知識（行政の仕組み・裁判員など新しい制度・税金・法律）
→社会生活
- 7 社会問題（時事問題・環境問題・人権問題・経済問題・少子化問題など）
→社会問題
- 8 健康や医学に関する知識を学ぶもの（生活習慣病予防・応急処置など）
→健康知識
- 9 健康・体力づくり（エアロビクス、ヨガ、ジョギング、ウォーキングなど）
→健康づくり
- 10 スポーツ・レクリエーション（各種スポーツ、ハイキング、トレッキング）
→スポーツ
- 11 ボランティアや社会福祉活動（子ども会などの団体活動・手話・介護・地域環境美化など）
→ボランティア
- 12 まちづくりや地域の活性化に関するもの（地域環境美化、駅前活性化、観光促進など）
→まちづくり
- 13 情報通信技術（パソコン・インターネットなど）に関すること
→情報通信
- 14 その他（具体的に：
→その他

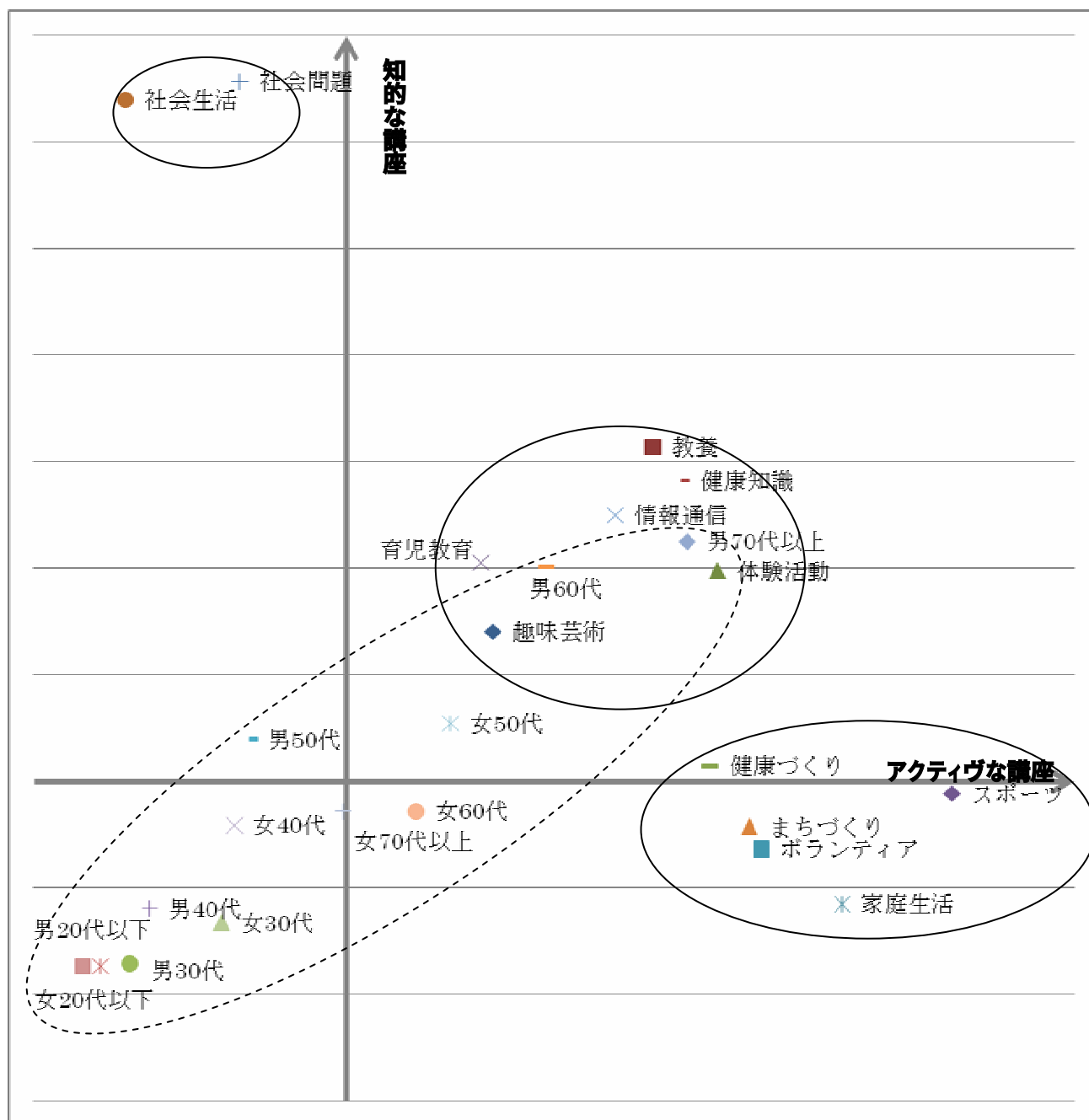
① 回答パターン

問12の数多くの選択肢の回答のパターンを見るため、因子分析を行った。

（因子数2、主因子法 プロマックス回転、因子間の相関は0.43）

因子間の相関はかなり大きく、また各因子への負荷値もほとんどプラスであることから、ある種類の講座に参加している人は、他の種類の講座にも参加している傾向が強いことがわかる。

図 6-1 公民館参加講座の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点）



図の見方：矢印で示された軸の交点が0であり、そこからの方向によって講座の性格がわかり、その性格の強さ弱さが交点からの距離によってわかる。

参加者の重複する傾向によって講座は3つのグループに分類できることがわかる。

1つは「スポーツ」「健康づくり」「まちづくり」「ボランティア」「家庭生活」などアクティブな性格の強い講座である。一方、それらとは参加する人の重なりが比較的小さい種類の講座が「社会生活」と「社会問題」である。これらの講座に共通する性格をここでは「知的」としている。最後に、これらの中間的な性格を持つのが三番目のグループで、「教養」「健康知識」「情報通信」「体験活動」「育児教育」「趣味芸術」でこれらはアクティブでかつ知的な性格を持っていると考えられる。

上図には年齢・性別ごとの平均点を加えているが、45°の線に沿った楕円の範囲に分布し（破線）、年齢・性別によってアクティブな講座、知的な講座のどちらかに参加の種類が偏るということは特になく、どちらかの種類によく参加していれば他方にも参加しているという傾向を示している。

ただし同じ年齢ごとに男女を比較すると（次図）、30代、40代までは種類に関係なく、女性のほうがよ

く講座に参加しているが、50代では知的な講座への参加は特に男女変わらず、女性のほうがよりアクティヴな種類の講座に参加していることがわかる。一方、60代、70代では30代、40代とは矢印が逆転し、男性のほうが双方の種類の講座により積極的に参加していることがわかる。

図 6-2 公民館参加講座の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点 2）

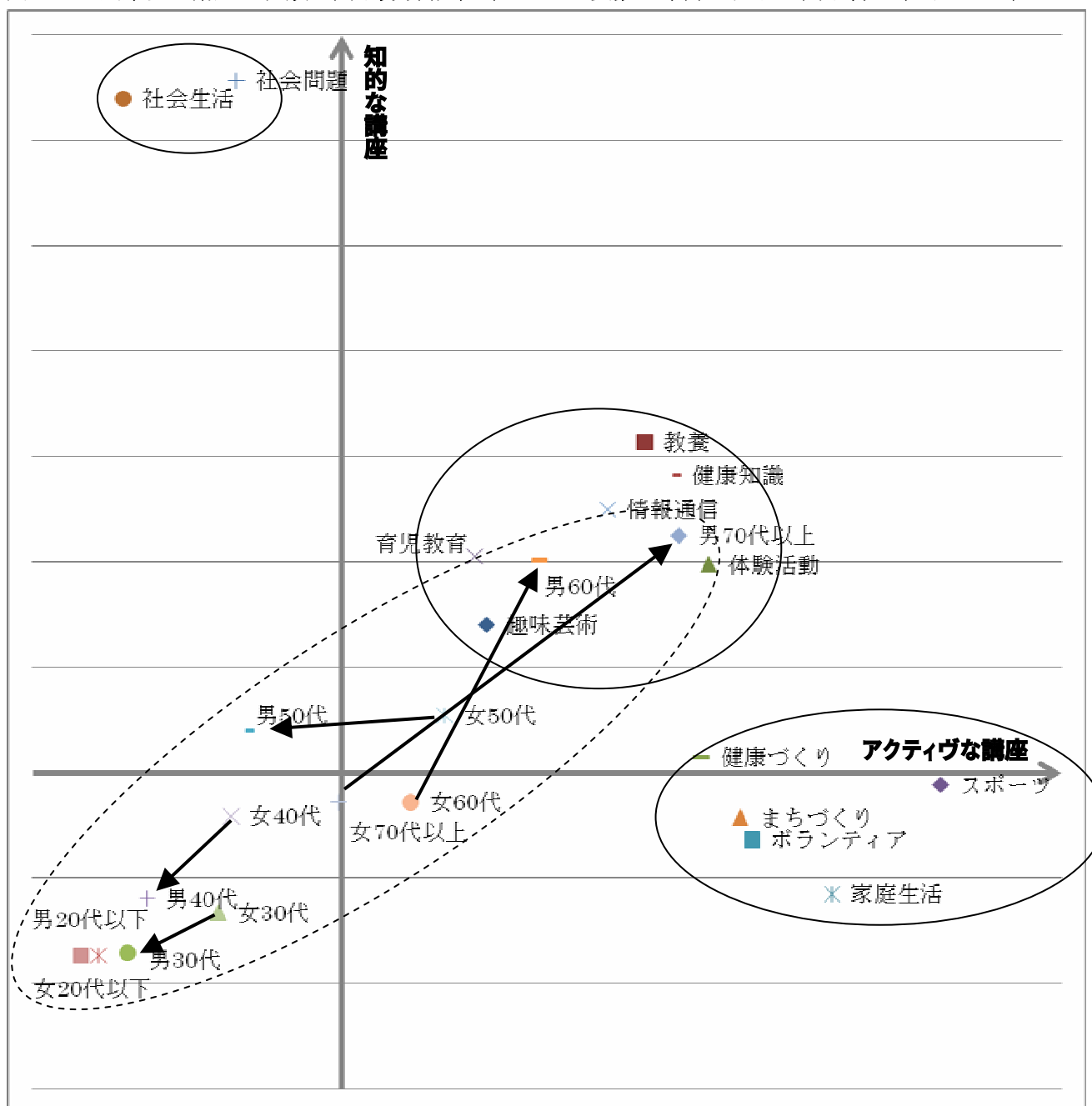
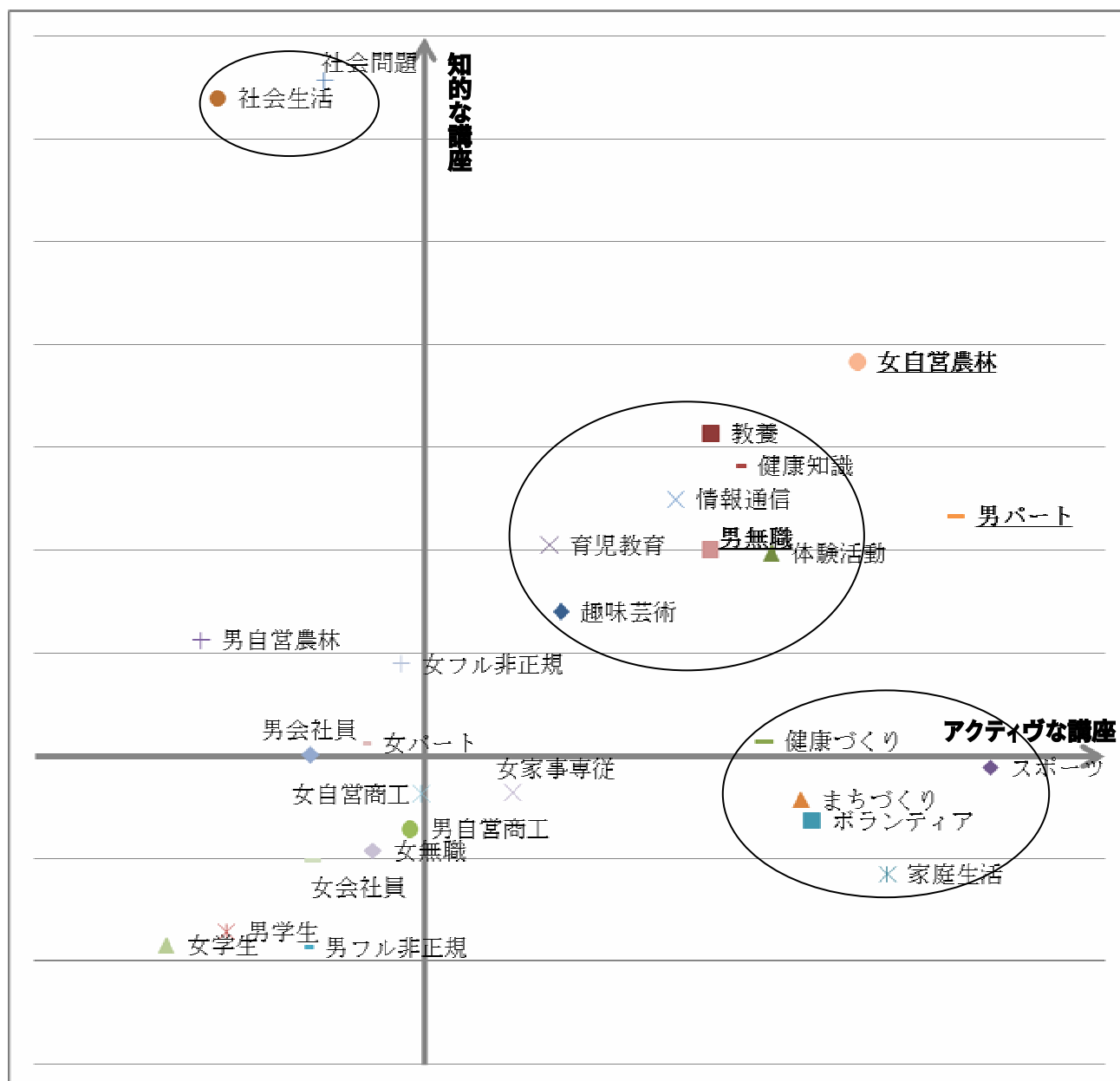
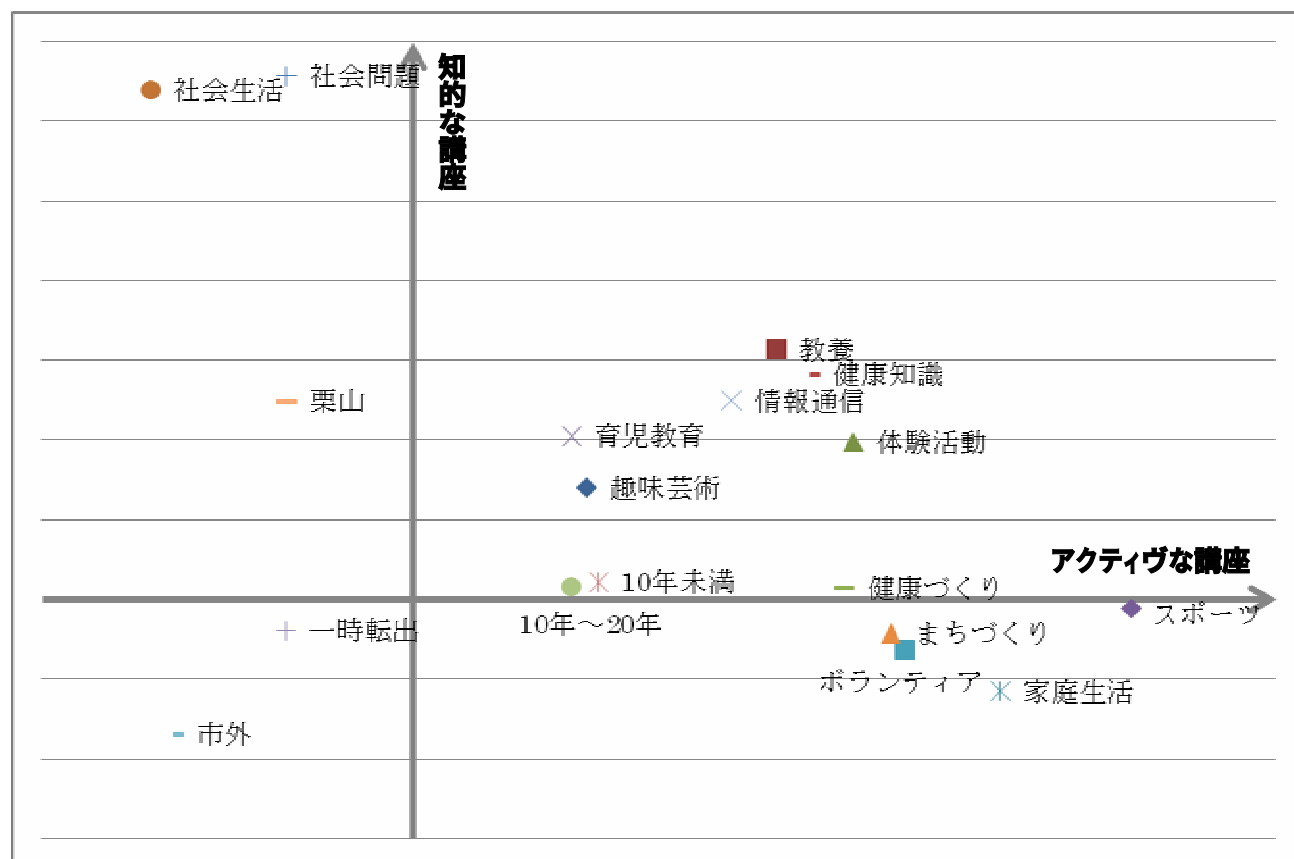


図 6-3 公民館参加講座の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点）



図の見方：性別職業別にみると、ほとんどが平均値に近いが、男性無職、男性パートタイム就業者、女性自営農林漁業者（上図太字下線）が特に活発に講座に参加していることがわかる。ただし男性パートタイム就業者は該当者が11名、女性自営農林漁業者は該当者が13名と人数がたいへん少ないのでサンプルの偏りによる可能性は否定できない。

図 6-4 公民館参加講座の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の変数の因子得点平均点）



（因子得点 0.1 以下は項目名を省略した）。

家族構成や居住歴、勤務地などのその他の変数による各グループの因子得点の平均点を表示した。以下特徴的な項目について触れる。

地域に関しては、栗山地域以外は平均に近い値を示したが、栗山地域だけはアクティブな性格の講座への参加が少なく、知的な性格への講座の参加が特に多いという結果となった。

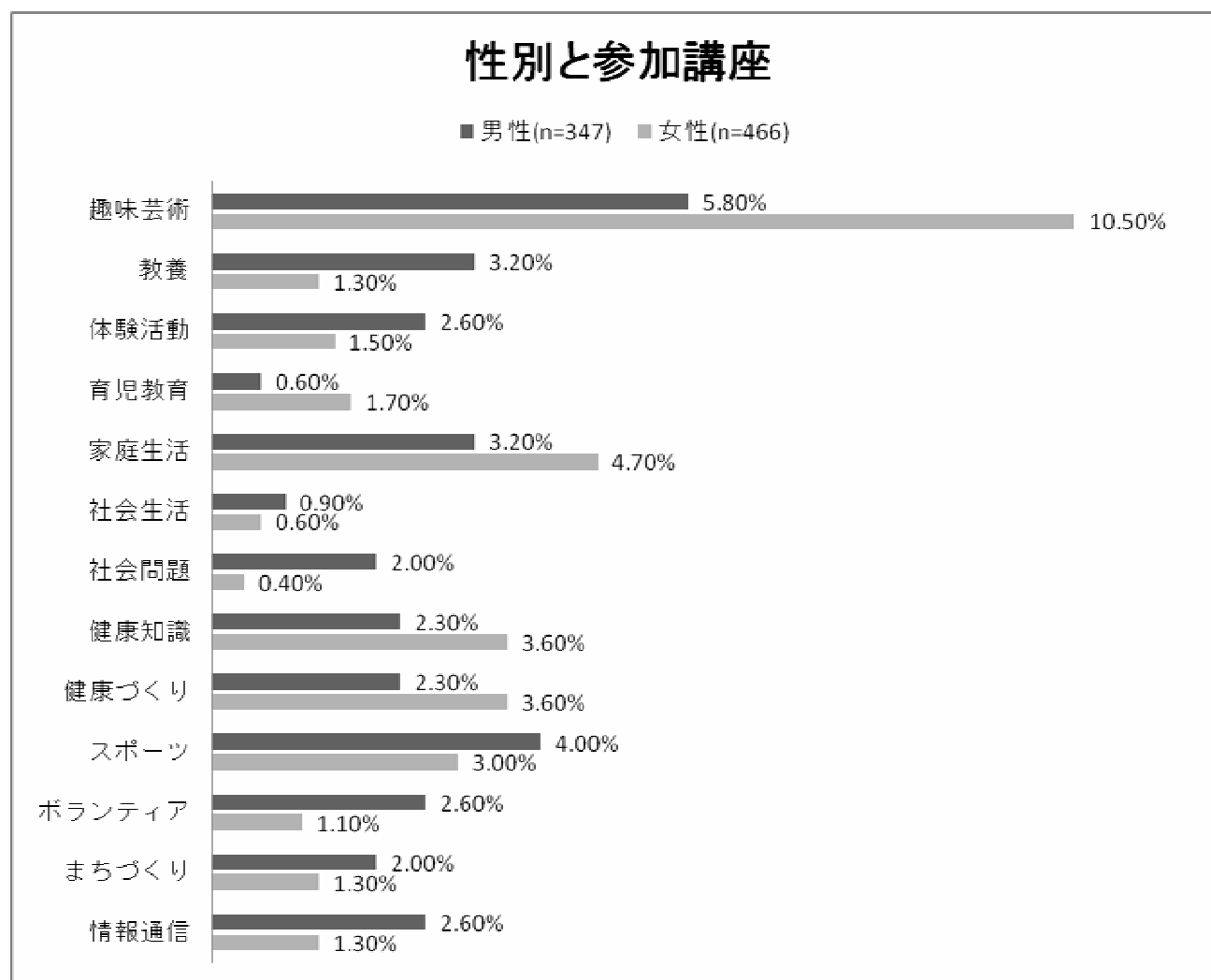
居住歴に関しては、日光市への居住歴 20 年未満の人たちは、アクティブな講座への参加が比較的多く、一時転出していた人は逆にそうした講座への参加が少ない。

勤務地に関しては、市外勤務の人はどのような講座への参加も少ないことがわかる。

家族構成に関してはどの種類の家族も平均的であることがわかった。

② 男女別・年齢別

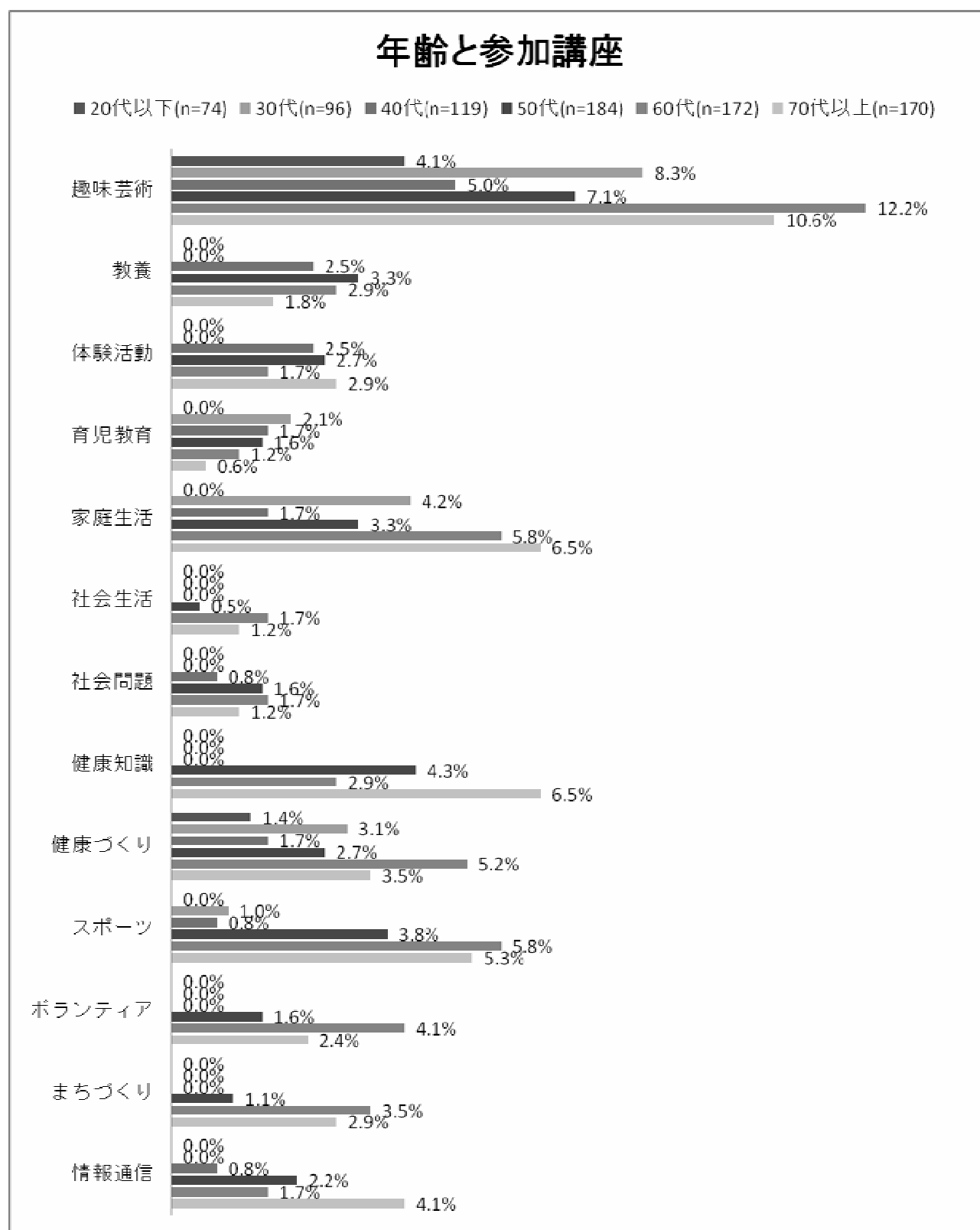
図 6-5



男性の参加が比較的多いのは、「体験活動」「スポーツ」など体を動かす要素が強いもの、「社会生活」「社会問題」「ボランティア」「まちづくり」など社会的な性格の強いものである。その他「教養」「情報通信」なども男性の参加が多かった。

一方、女性の参加が比較的多いのは「健康知識」「健康づくり」など個人的な性格が強いもの、「育児教育」「家庭生活」など家庭的な性格の強いものであった。「趣味芸術」も講座の内容から言えば、やはり家庭的な性格が強いと考えられる。

図 6-6



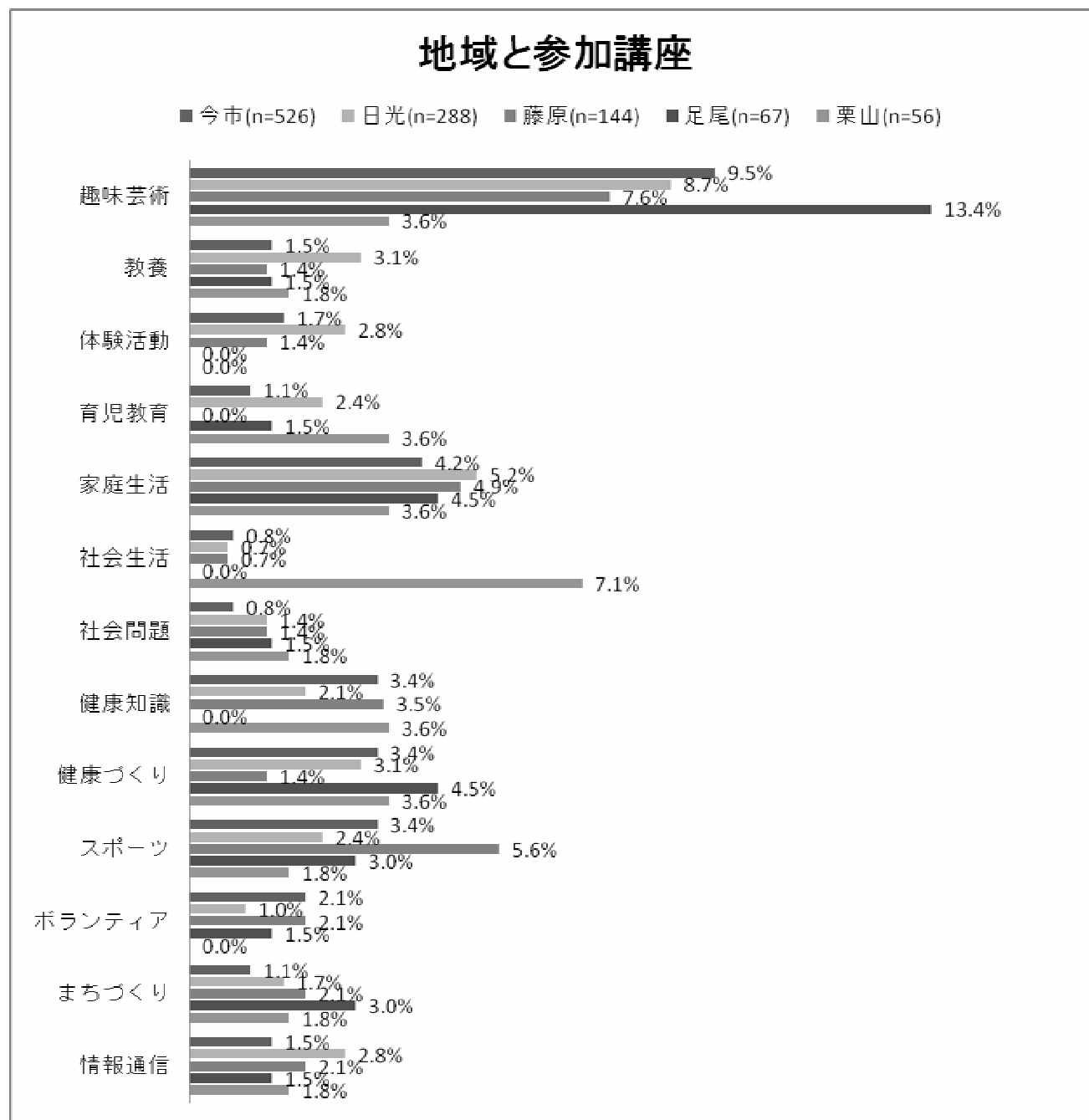
年齢ごとに見ると、多くの講座で 60 代、70 代が中心になっていることがわかる。子どもがいる世代が中心となる「育児教育」はその例外である。

各性別・年齢グループごとの、参加講座の種類の割合については、50 代以下の年齢層が参加している講

座の種類が少なすぎるため、分析は不可能だった。

③ 地域別

図 6-7



日光地域で教養、体験活動、情報通信が多く、藤原地域ではスポーツが多い。

足尾地域で趣味芸術、健康づくり、まちづくりが多く、栗山地域では育児教育、社会生活が多い。

表 6-1

	趣味芸術	教養	体験活動	育児教育	家庭生活	社会生活	社会問題	健康知識	健康づくり	スポーツ	ボランティア	まちづくり	情報通信
今市	1.1	0.8	1.0	0.8	1.0	0.8	0.7	1.2	1.1	1.1	<u>1.3</u>	0.7	0.8
日光	0.9	<u>1.5</u>	<u>1.5</u>	<u>1.5</u>	1.1	0.7	1.2	0.7	0.9	0.7	<u>0.6</u>	1.0	<u>1.4</u>
藤原	0.9	0.8	0.8	<u>0.0</u>	1.1	0.7	1.3	1.2	<u>0.5</u>	<u>1.8</u>	1.3	1.4	1.1
足尾	<u>1.5</u>	0.8	<u>0.0</u>	1.0	1.0	<u>0.0</u>	1.3	<u>0.0</u>	<u>1.4</u>	0.9	0.9	<u>1.8</u>	0.8
栗山	<u>0.4</u>	1.0	<u>0.0</u>	<u>2.5</u>	0.8	<u>7.4</u>	1.6	1.3	1.2	0.6	<u>0.0</u>	1.2	1.0

上の表もこれまでと同様、ある地域においてある選択肢を選んだ人の割合を、全体においてその選択肢を選んだ人の割合で割った数値である。その割合が平均と同じなら1になる。

割合の比較的大きいものを□で囲み、小さいものを下線付きのイタリック体（斜体）で表示している。

大体の傾向は前頁のグラフに関して指摘したとおり。

④ まとめ

- 50代までは女性のほうがよりアクティブな講座に参加。
- 60代以降は男性のほうがより多様な講座に参加。
- 今市地域はボランティアが多い。
- 日光地域は教養・体験活動・育児教育が多くボランティアが少ない。
- 藤原地域はスポーツが多く、育児教育に参加した人がいなかった。
- 足尾地域ではまちづくり、趣味芸術は多いが、体験活動、社会生活、健康知識の講座に参加した人がいなかった。
- 栗山地域は社会生活が飛びぬけて多く、育児教育も多い。

7. 公民館の希望講座の種類

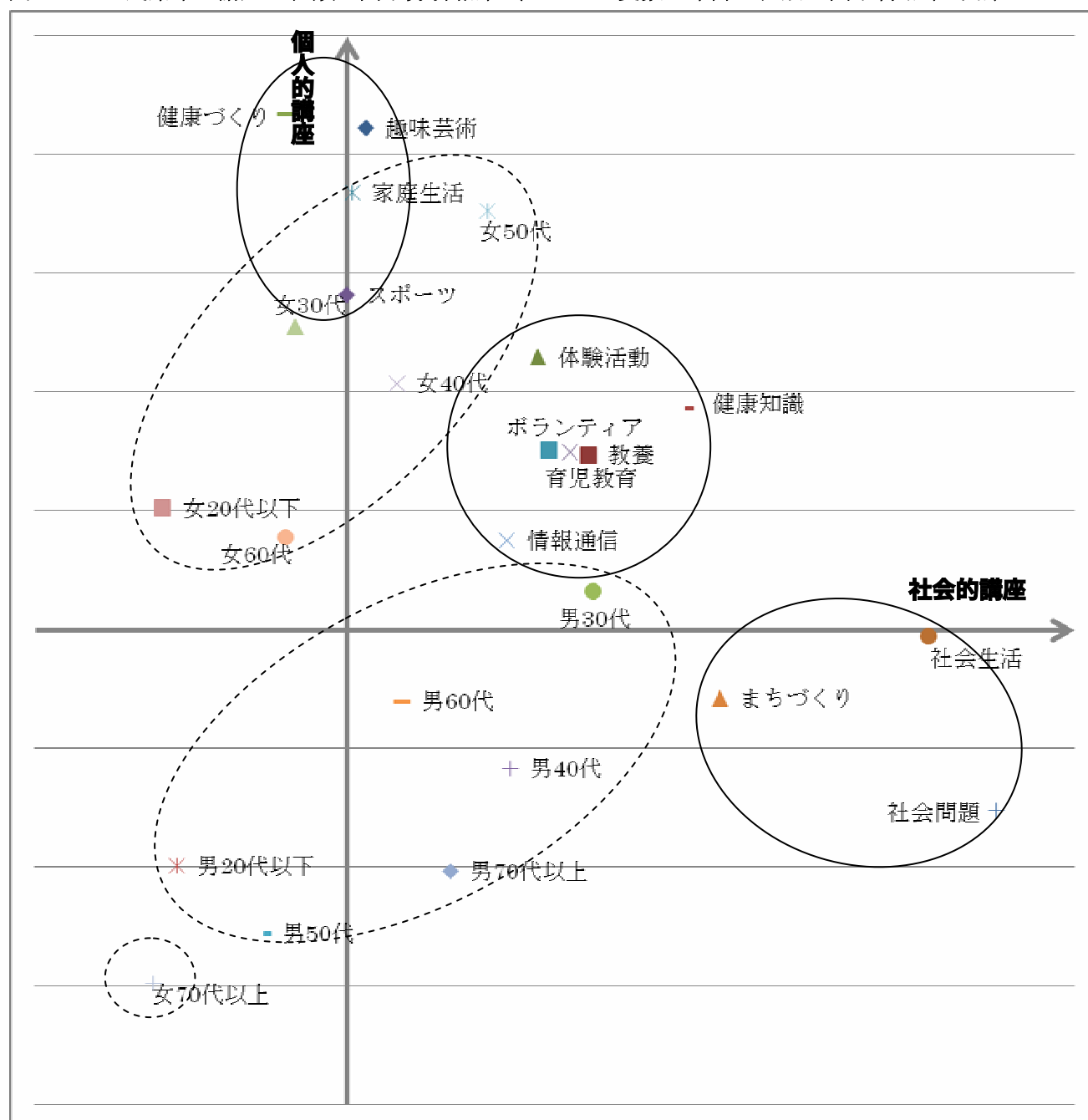
市民が、現在講座に参加できない様々な問題が解決されたことを前提に、参加を希望する講座の種類を、質問票問13に従い、分類した。この分類は前節の希望講座の分類と同じためここでは省略する。

① 回答パターン

問13の数多くの選択肢の回答のパターンを見るため、因子分析を行った。

(因子数2、主因子法 プロマックス回転、因子間の相関は0.35)

図 7-1 公民館希望講座の種類 因子分析結果 (パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点)



図の見方：矢印で示された軸の交点が0であり、そこからの方向によって講座の性格がわかり、その性

格の強さ弱さが交点からの距離によってわかることは参加講座の分析結果と同じである。右方向には社会的な性格の強い講座が、上方向には個人的性格の強い講座が位置している。これらの講座は希望者の重複する傾向によって3つのグループに分類できることがわかる。

1つは「社会問題」「社会生活」「まちづくり」といった講座で、社会性が強く、個人的な性格の比較的弱い講座である。一方グラフ上部には「健康づくり」「趣味芸術」「家庭生活」「スポーツ」といった個人的な性格の強い講座がグループを形成している。そしてそれらの中間的な性格を持つ講座として、「体験活動」「育児教育」「ボランティア」「教養」「健康知識」「情報通信」といった講座がグループを作っている。

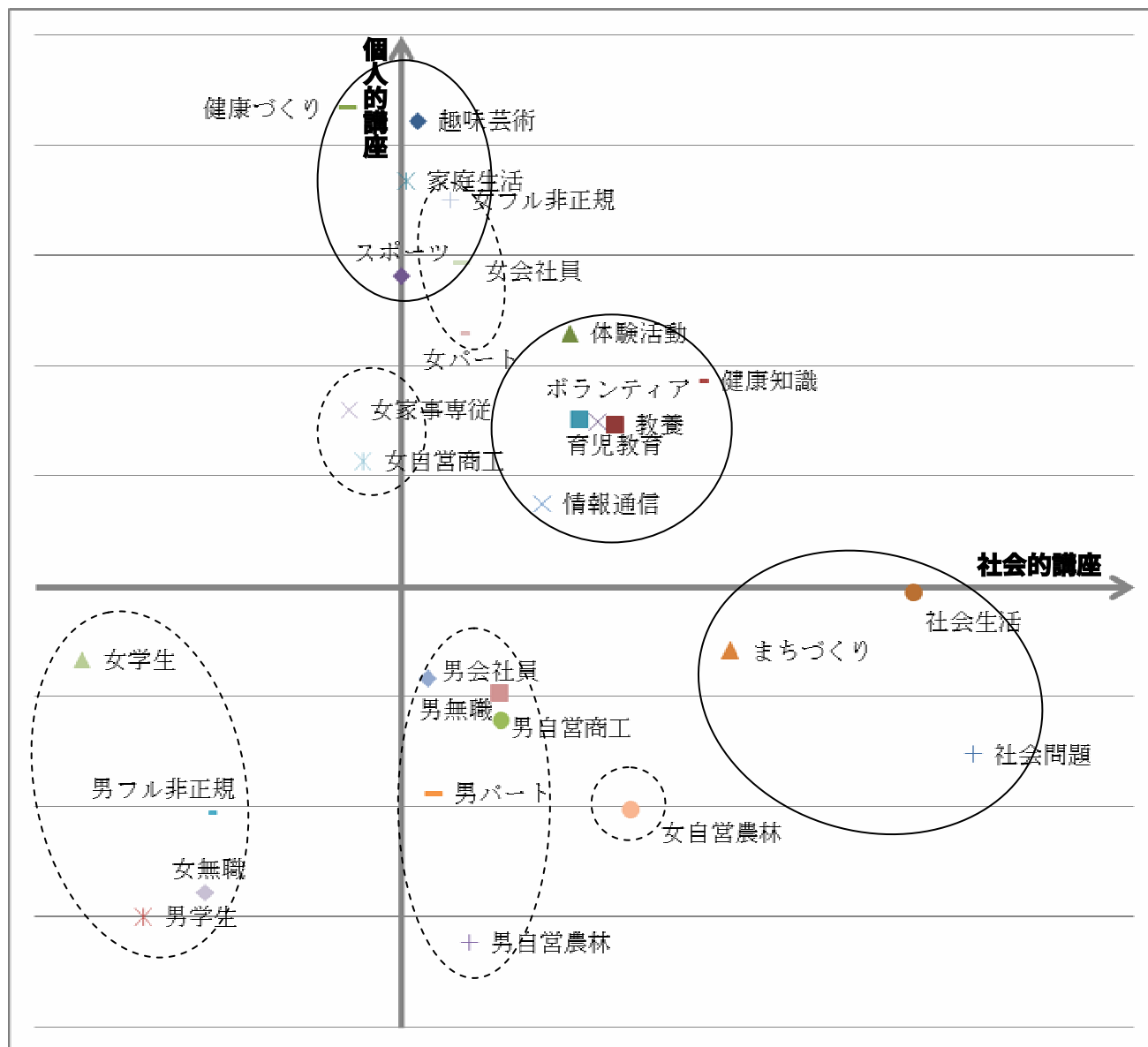
こうした講座のうち、どれを希望するかは、年齢性別の影響を受けている。

男性は年齢層にかかわらず全体として右下方向に位置づけられている。すなわち、社会的な講座を希望する傾向が強く、個人的な講座はあまり希望しない。逆に女性は上方向に並び、個人的な講座を好み、社会的講座はそれほど好まないことがわかる。ただし女性でも70代以上は例外で、どちらの種類の講座も希望していない。

さらに男性を二つに分けると50代、20代以下は希望する講座があまりなく、それ以外は社会的な講座を好んでいる。女性も同様に二つに分けると、20代以下と60代の女性も70代女性ほどではないにしても、比較的希望講座が少ないことがわかる。

なおこの質問（問13）の選択肢は複数選択であり、ある選択肢を選んだ人はほかの選択肢も選んでいる可能性が高い。その結果、0の反対側のマイナスの極（グラフの左下の領域）には希望講座をほとんど選択しなかった人たちが位置している。0はちょうど平均的であることを示している。

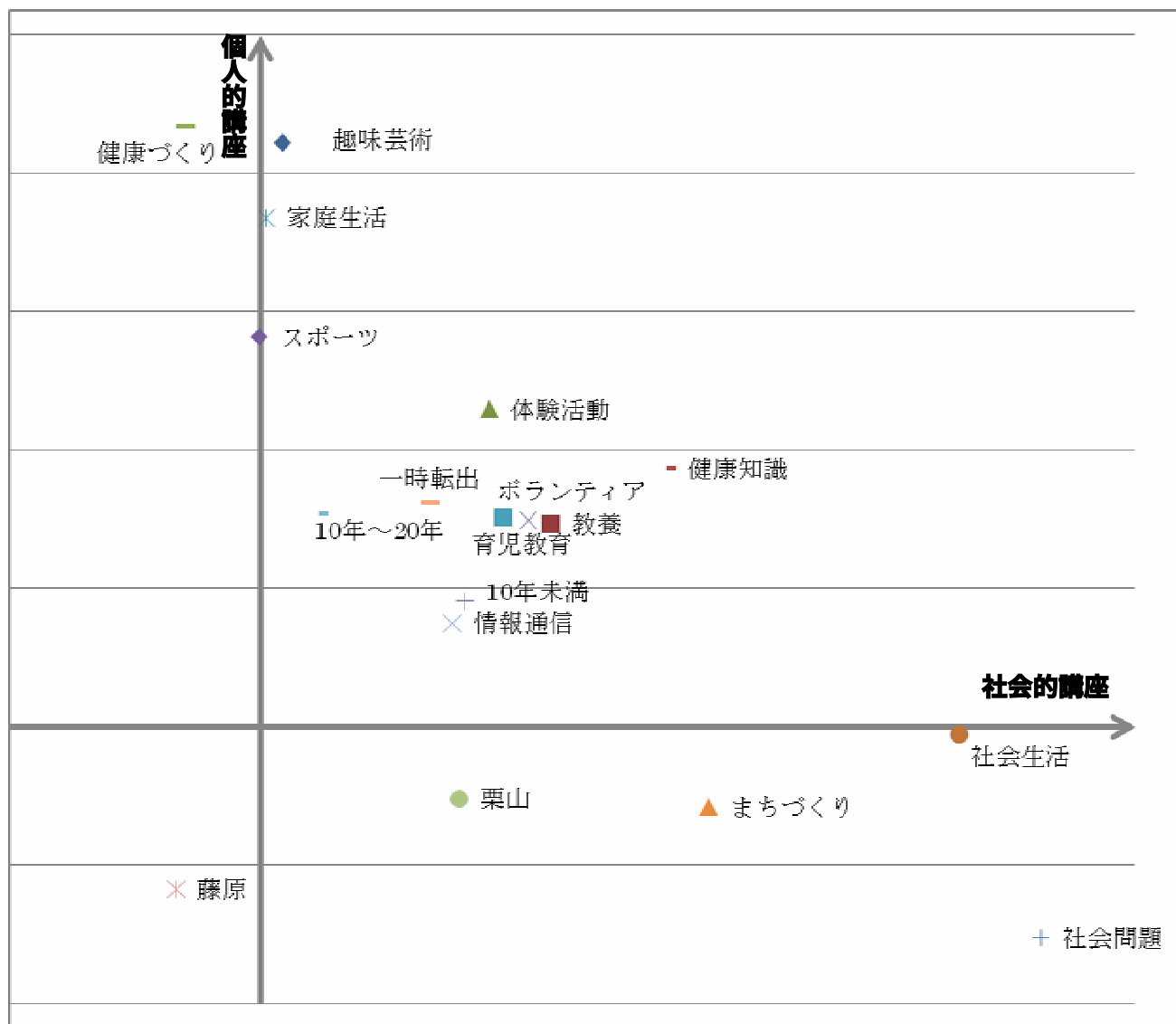
図 7-2 公民館希望講座の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点）



図の見方：

性別職業別にみると、個人的講座を特に強く希望しているのが女性でも外に勤めに出ている人たち（会社員・公務員、フルタイム非正規雇用、パート・アルバイト）であることがわかる。これに次ぐのが家事専従と商工の自営業者である。同じ自営でも農林漁業にかかわる人は男性と同様に社会的な講座を希望している。男女双方においてもっとも消極的なのが学生であり、無職の女性、フルタイム非正規雇用の男性も同様のグループに分類される。

図 7-3 公民館希望講座の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の変数の因子得点平均点）



（因子得点 0.1 以下は項目名を省略した）。

家族構成や居住歴、勤務地などのその他の変数による各グループの因子得点の平均点を表示した。以下特徴的な項目について触れる。

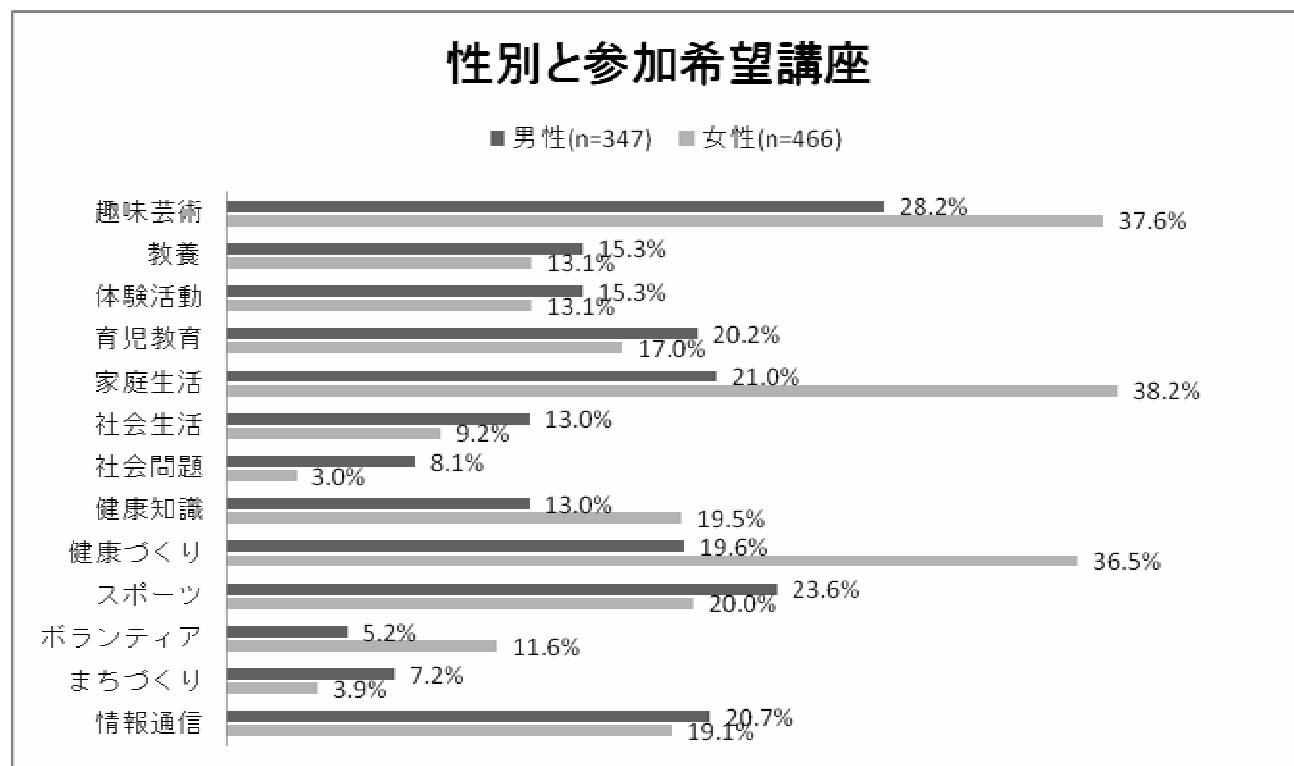
地域に関しては、栗山地域で社会的講座の希望が多く、個人的講座の希望が少ないという結果となった。藤原地域では個人的講座の希望が少なかった。他地域は平均的な値を示した。

居住歴では、20 年未満の居住歴の人と 5 年間以上の一時転出者は社会的・個人的講座双方の種類の希望が多かった。

家族構成や勤務地に関しては希望講座との関係は見られなかった。

② 男女別・年齢別

図 7-4



参加希望講座でも、実際の参加講座と同じような傾向がうかがえる。

男性の希望が比較的多いのは参加講座と同様、「体験活動」「スポーツ」など体を動かす要素が強いもの、「社会生活」「社会問題」「まちづくり」などといった社会的な性格の強いものである。「教養」「情報通信」の希望が多いのも参加講座と同様である。参加講座の傾向と異なるのは、「育児教育講座」の参加希望が多いことである。

一方、女性の希望が多いのは「健康知識」「健康づくり」など個人的な性格が強いもの、「家庭生活」「趣味芸術」など家庭的性格の強い講座で、参加講座の傾向と同様である。

図 7-5

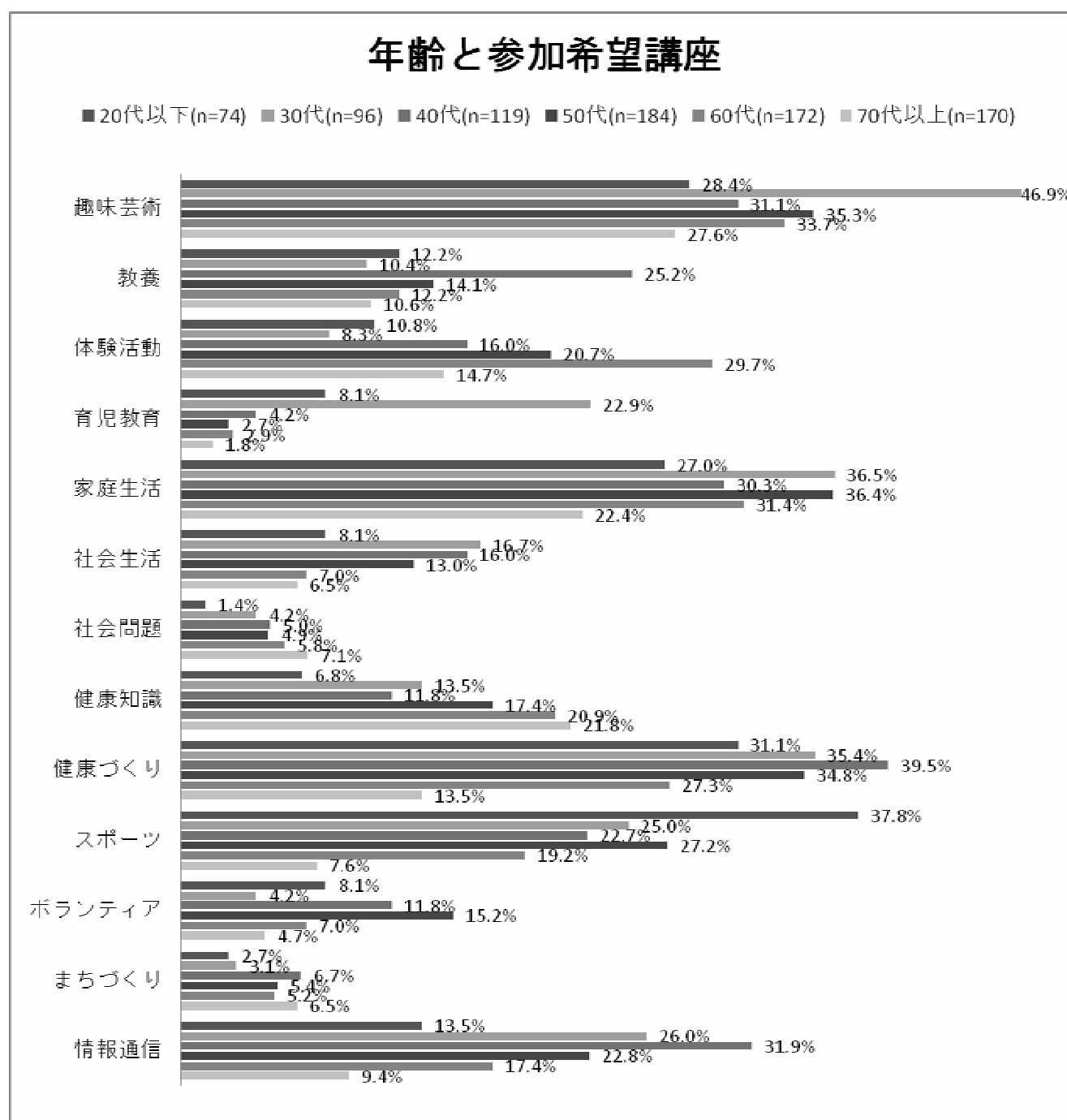


表 7-1

	趣味 芸術	教養	体験 活動	育児 教育	家庭 生活	社会 生活	社会 問題	健康 知識	健康 づくり	スポ ーツ	ボラ ンテ ィア	まち づくり	情報 通信
男 20 代以下	0.8	1.1	1.2	<u>0.0</u>	<u>0.6</u>	1.0	0.7	<u>0.4</u>	0.8	<u>2.9</u>	<u>0.4</u>	<u>1.4</u>	0.9
男 30 代	1.0	0.8	0.6	<u>2.5</u>	0.9	<u>1.9</u>	<u>1.8</u>	1.0	0.7	1.2	<u>0.0</u>	0.9	1.2
男 40 代	0.6	<u>1.8</u>	0.9	<u>0.4</u>	<u>0.5</u>	<u>2.2</u>	1.3	<u>0.6</u>	0.9	1.3	<u>0.5</u>	<u>1.6</u>	<u>1.5</u>
男 50 代	0.9	1.2	1.3	0.7	0.9	<u>1.6</u>	<u>1.5</u>	<u>0.6</u>	0.8	1.2	0.6	0.7	1.3
男 60 代	1.0	1.1	<u>1.6</u>	0.7	0.8	0.8	<u>1.7</u>	0.8	0.8	1.1	0.7	<u>1.6</u>	1.1
男 70 代以上	1.2	1.1	1.2	0.6	0.8	0.9	<u>2.7</u>	<u>1.4</u>	<u>0.5</u>	<u>0.6</u>	1.2	<u>2.4</u>	0.9
女 20 代以下	1.1	0.9	<u>0.3</u>	<u>2.7</u>	1.2	0.7	<u>0.0</u>	<u>0.5</u>	<u>1.5</u>	1.3	<u>1.4</u>	<u>0.0</u>	<u>0.6</u>
女 30 代	<u>1.4</u>	<u>0.5</u>	<u>0.2</u>	<u>4.2</u>	1.1	1.0	<u>0.0</u>	<u>0.5</u>	1.3	0.9	0.7	<u>0.3</u>	1.1
女 40 代	0.9	<u>1.4</u>	0.7	0.8	1.0	0.8	<u>0.6</u>	<u>0.6</u>	1.3	0.7	<u>1.5</u>	0.8	1.3
女 50 代	1.0	0.8	0.9	<u>0.3</u>	1.1	0.9	<u>0.6</u>	1.0	1.1	1.1	<u>1.8</u>	1.0	0.9
女 60 代	1.1	<u>0.6</u>	<u>1.6</u>	<u>0.4</u>	1.2	<u>0.5</u>	<u>0.6</u>	<u>1.6</u>	1.1	0.7	0.9	<u>0.4</u>	0.7
女 70 代以上	1.2	1.1	1.0	<u>0.3</u>	<u>1.4</u>	0.9	1.1	<u>2.3</u>	0.8	<u>0.4</u>	<u>0.2</u>	1.1	<u>0.4</u>

上の表もこれまでと同様、ある性別・年齢層においてある選択肢を選んだ人の割合を、全体においてその選択肢を選んだ人の割合で割った数値である。その割合が平均と同じなら 1.0 になる。

割合の比較的大きいものを□で囲み、小さいものをイタリック体（斜体）で表示している。

趣味芸術は女性 30 代が多く、教養は男女とも 40 代が多い。体験活動は男女とも 60 代が多い。

育児教育は男性 30 代と女性 20 代から 30 代が多い。家庭生活は女性が高めだが、特に 70 代以上が多い。

社会生活と社会問題の割合は全般的に男性が多く、女性が少ない。特に社会問題は 50 代以上の男性の割合が高い。

健康知識は男性 70 代以上、女性 60 代以上が多い。健康づくりは女性が多めで、特に若い層の割合が高い。スポーツは男女とも 20 代以下が多い。ボランティアは全般的に女性が多めで、特に 20 代以下と 40 代、50 代が多い。

まちづくりは男性が多めで、特に 20 代以下、40 代、60 代以上が多い。

情報通信は男性 40 代が多い、という結果になった。

③ 地域別

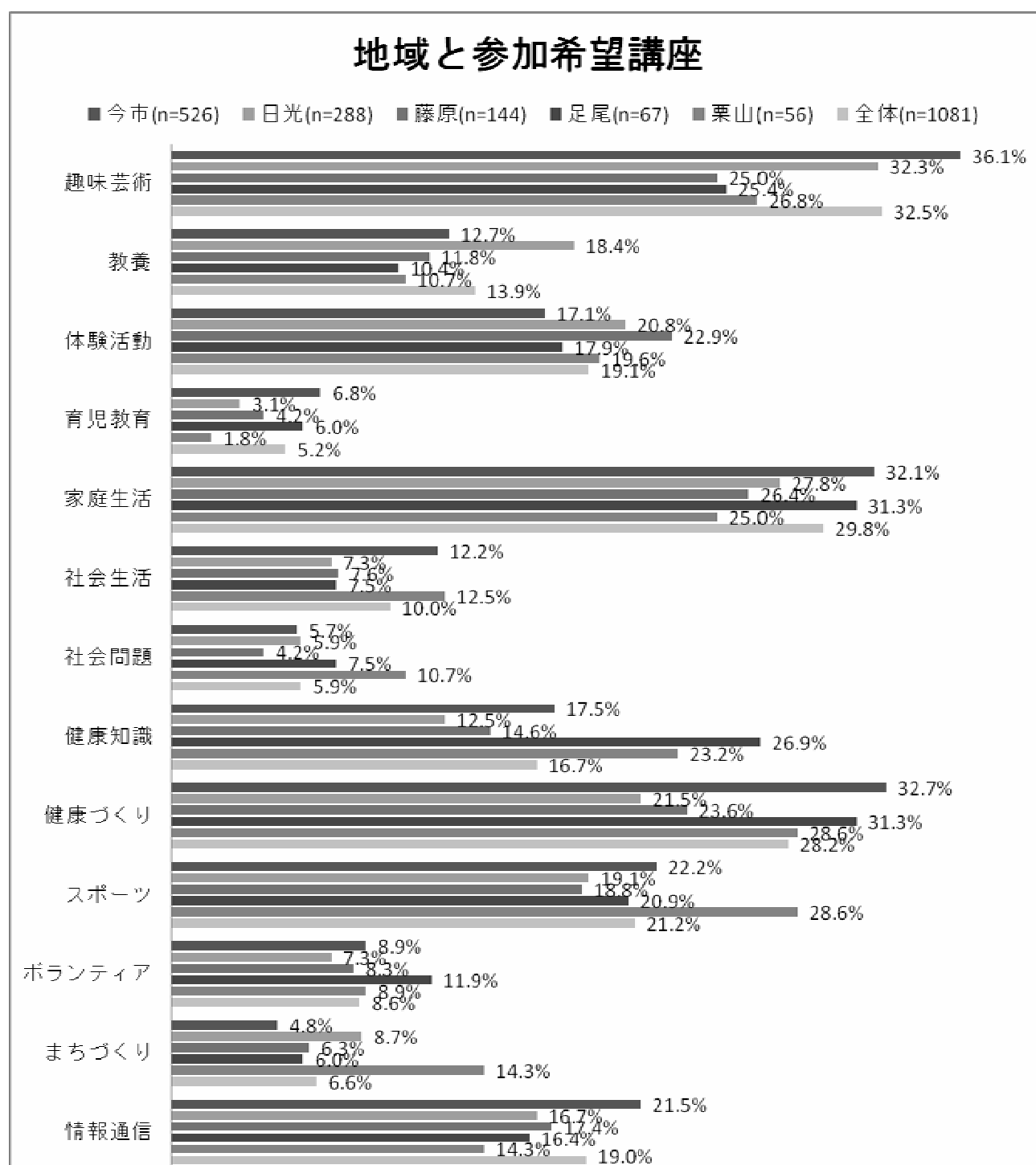


表 7-2

	趣味 芸術	教養	体験 活動	育児 教育	家庭 生活	社会 生活	社会 問題	健康 知識	健康 づくり	スポ ーツ	ボラ ンテ ィア	まち づくり	情報 通信
今市	1.0	0.9	0.8	1.2	1.0	1.1	0.9	1.0	1.1	1.0	1.0	0.7	1.1
日光	1.1	1.4	1.2	0.6	1.0	0.8	1.1	0.8	0.8	1.0	0.9	1.4	0.9
藤原	0.9	1.0	1.4	0.9	1.0	0.9	0.8	1.0	0.9	1.0	1.1	1.1	1.0
足尾	0.8	0.7	0.9	1.1	1.0	0.7	1.3	1.6	1.1	1.0	1.4	0.9	0.9
栗山	0.8	0.7	1.0	0.3	0.8	1.2	1.7	1.3	1.0	1.3	1.0	2.1	0.7

これまでと同様、ある地域においてある選択肢を選んだ人の割合を、全体においてその選択肢を選んだ人の割合で割った数値である。その割合が平均と同じなら1になる。

割合の比較的大きいものを□で囲み、小さいものをイタリック体（斜体）で表示している。

再掲した下の表（参加講座の地域ごとの割合の比）と比較すると、希望講座の地域差は実際に参加した講座の地域差ほどは大きくないことがわかる。

（表 6-2 再掲）

	趣味芸術	教養	体験活動	育児教育	家庭生活	社会生活	社会問題	健康知識	健康づくり	スポーツ	ボランティア	まちづくり	情報通信
今市	1.1	0.8	1.0	0.8	1.0	0.8	0.7	1.2	1.1	1.1	1.3	0.7	0.8
日光	0.9	1.5	1.5	1.5	1.1	0.7	1.2	0.7	0.9	0.7	0.6	1.0	1.4
藤原	0.9	0.8	0.8	0.0	1.1	0.7	1.3	1.2	0.5	1.8	1.3	1.4	1.1
足尾	1.5	0.8	0.0	1.0	1.0	0.0	1.3	0.0	1.4	0.9	0.9	1.8	0.8
栗山	0.4	1.0	0.0	2.5	0.8	7.4	1.6	1.3	1.2	0.6	0.0	1.2	1.0

参加講座とのずれを見るために、希望の割合を示す数値を、参加の割合を示す数値で割ったものが下表である。

表 7-3

	趣味 芸術	教養	体験 活動	育児 教育	家庭 生活	社会 生活	社会 問題	健康 知識	健康 づくり	スポ ーツ	ボラ ンテ ィア	まち づくり	情報 通信
今市	0.9	1.1	0.8	1.5	1.0	1.4	1.3	0.8	1.0	0.9	0.8	1.0	1.4
日光	1.2	0.9	0.8	0.4	0.9	1.1	0.9	1.1	0.9	1.4	1.5	1.4	0.6
藤原	1.0	1.3	1.8	XX	0.9	1.3	0.6	0.8	1.8	0.6	0.8	0.8	0.9
足尾	0.5	0.9	XX	1.1	1.0	XX	1.0	XX	0.8	1.1	1.6	0.5	1.1
栗山	2.0	0.7	XX	0.1	1.0	0.2	1.1	1.0	0.8	2.2	XX	1.8	0.7

数字（およびX X＝参加数がゼロ）を□で囲ったところは、その地域の公民館において、その種類の講

座に対して潜在的な期待が大きいと考えられるものである。

④ 公民館希望講座のまとめ

- 男性はより社会的な性格を持つ講座を希望している。
- 女性（30－50 代）はより個人的あるいは中間的な講座を希望している。
- 男性でも 20 代以下と 50 代はどのような種類の講座への関心もなく、女性では 70 代以上が特に無関心な人が多い。
- 職業で見れば、女性でも被雇用者が個人的な性格を持つ講座への関心が強い。
- 学生（男女とも）、女性無職、男性フルタイム非正規雇用就業者は希望する講座が少ないようである。
- 栗山地域は社会的講座を好み、藤原地域は個人的講座の希望が少ない

8. 最近三年間の生涯学習の実践

日光市民の生涯学習実践の状況についてたずねた。具体的にはこの3年間にどのような種類の生涯学習を実践しているか、調査票問14に従ってたずねている。生涯学習の定義は調査票問14のとおり。

回答の選択肢は本節では次のように表示している。

- 1 特に行っていない
 - 不参加
- 2 公民館・図書館・歴史民俗資料館など公立施設の講座に参加
 - 公立講座
- 3 PTA・子ども会・婦人会などの団体の事業に参加
 - PTA 事業
- 4 公共施設を借りて行っているサークル・クラブ活動に参加
 - 公共施設利用サークル
- 5 民間施設その他で行っているサークル・クラブ活動に参加
 - 民間施設利用サークル
- 6 高校や大学、大学院などに学生として籍をおいて学習（放送大学以外）
 - （社会人）学生
- 7 通信教育や放送大学などでの学習
 - 通信教育
- 8 大学等で行う公開講座（開放講座）での学習
 - 大学公開講座
- 9 民間のカルチャーセンター、文化センター、各種学校、スポーツクラブなどに参加
 - カルチャーセンター
- 10 お稽古など個人教授などでの学習
 - 個人教授
- 11 個人で、図書館や資料館などを利用した学習
 - 図書館利用
- 12 地域や同好会の中でのスポーツ活動
 - 地域スポーツ
- 13 図書・テレビ・ラジオなどでの独学
 - 本・テレビ独学
- 14 インターネットやパソコンのソフトを利用した学習
 - インターネット
- 15 その他

なおその他の回答としては、個人で行う楽器の練習や個人的なスポーツ（マラソン、スキーなど）などが挙げられた。

① 回答パターン

問14の数多くの選択肢の回答のパターンを見るため、因子分析を行った。生涯学習には性格の異なる多種多様な活動が含まれているため、これまでとは違い、2因子に基づく2次元のグラフではなく、3因子で表現し、各因子への負荷値を表にまとめた。

(因子数3、主因子法 プロマックス回転、各因子間の相関は次表のとおり)

因子相関行列

因子	1	2	3
1	1.000	.291	.169
2	.291	1.000	.195
3	.169	.195	1.000

	因子		
	1	2	3
本・テレビ独学	.754		
インターネット	.519		
図書館利用	.490	.206	
公立講座		.560	
公共施設利用サークル		.545	
地域スポーツ		.473	
民間施設利用サークル		.280	.178
PTA事業		.240	.117
カルチャーセンター	.107	.163	.141
通信教育		-.103	.609
大学公開講座		.196	.295
個人教授		.116	.250
(社会人) 学生			

(0.1以下の負荷値は表を見やすくするため、省略)

まずこの表から、生涯学習の実践の仕方は次のような種類に分けられることがわかる。

第一は本やテレビ、インターネットなどによる純粋な独学である。図書館利用などもここに含められる。

第二は公民館講座や公共施設、民間施設などを利用したサークル、スポーツ活動などによる集団学習である。

第三は通信教育や大学公開講座や個人教授などによる学習で、有料で行われる準個人的な学習である。

またこれらの生涯学習と全く性格が違うのが「（社会人）学生」であり、大学や大学院などに正式に籍をおいて学習するタイプの生涯学習であり、いわゆる社会人学生と、高卒後そのまま大学短大専門学校などに入学した若年齢層が双方含まれている。こうしたかたちで学習をするかどうかは、他の種類の生涯学習への参加とほとんど無関係であることがわかる。それは本調査の対象に 20 代以下の若年齢層とそれ以上のいわゆる社会人とが双方含まれているためであると考えられる。

次のグラフはこの表のうち、因子 1 を水平方向、因子 2 を垂直方向の座標に置きなおしたものと（図 8-1,3,5）、因子 3 を水平方向、因子 2 を垂直方向の座標に置きなおしたものである（図 8-2,4,6）。どちらの図でも垂直方向は共通しており、水平方向だけ変わっている。これまで同様、性別・年齢ごとのグループの平均点と、性別・職業ごとの平均点を表示する。

図 8-1 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点） 1

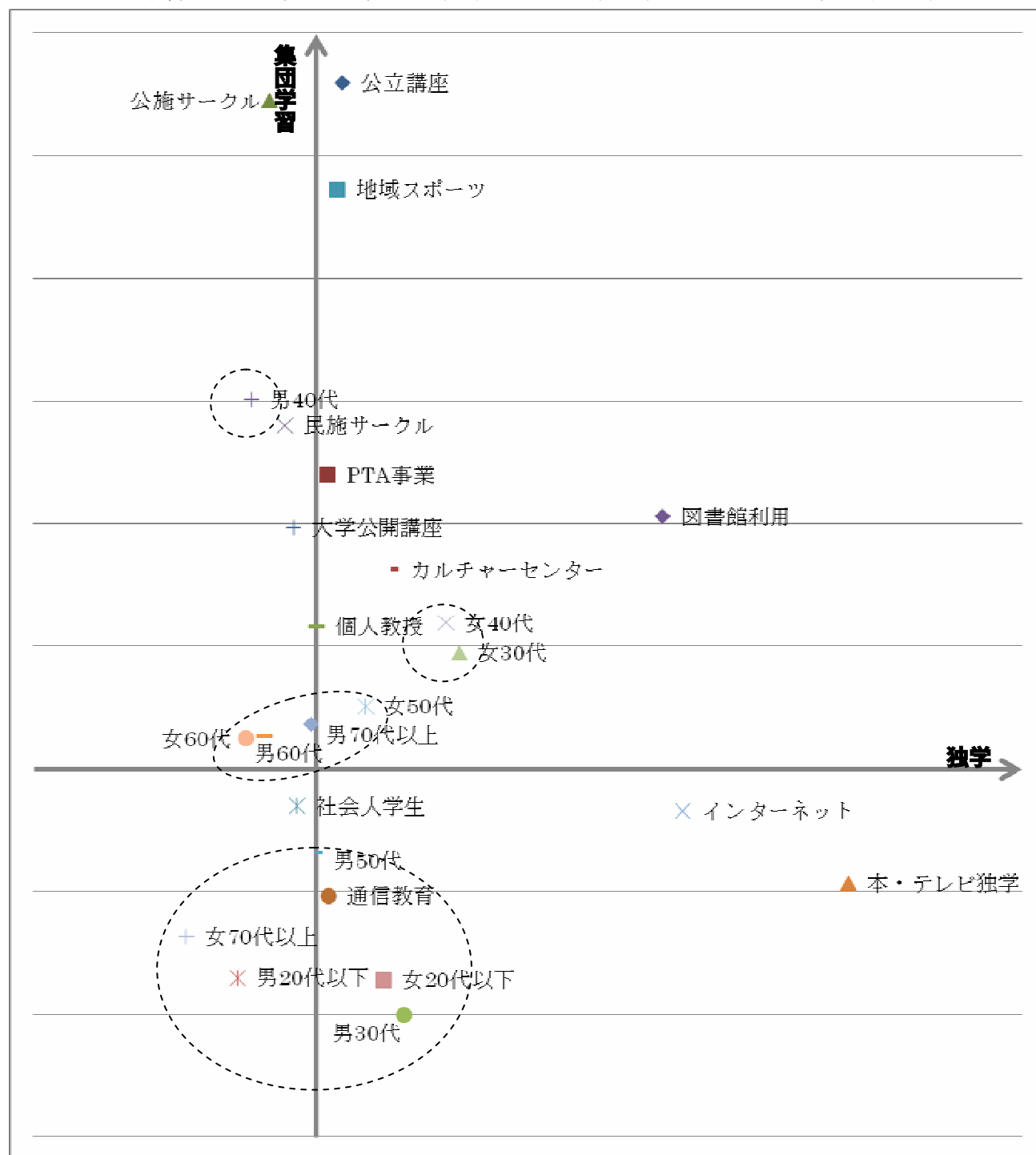
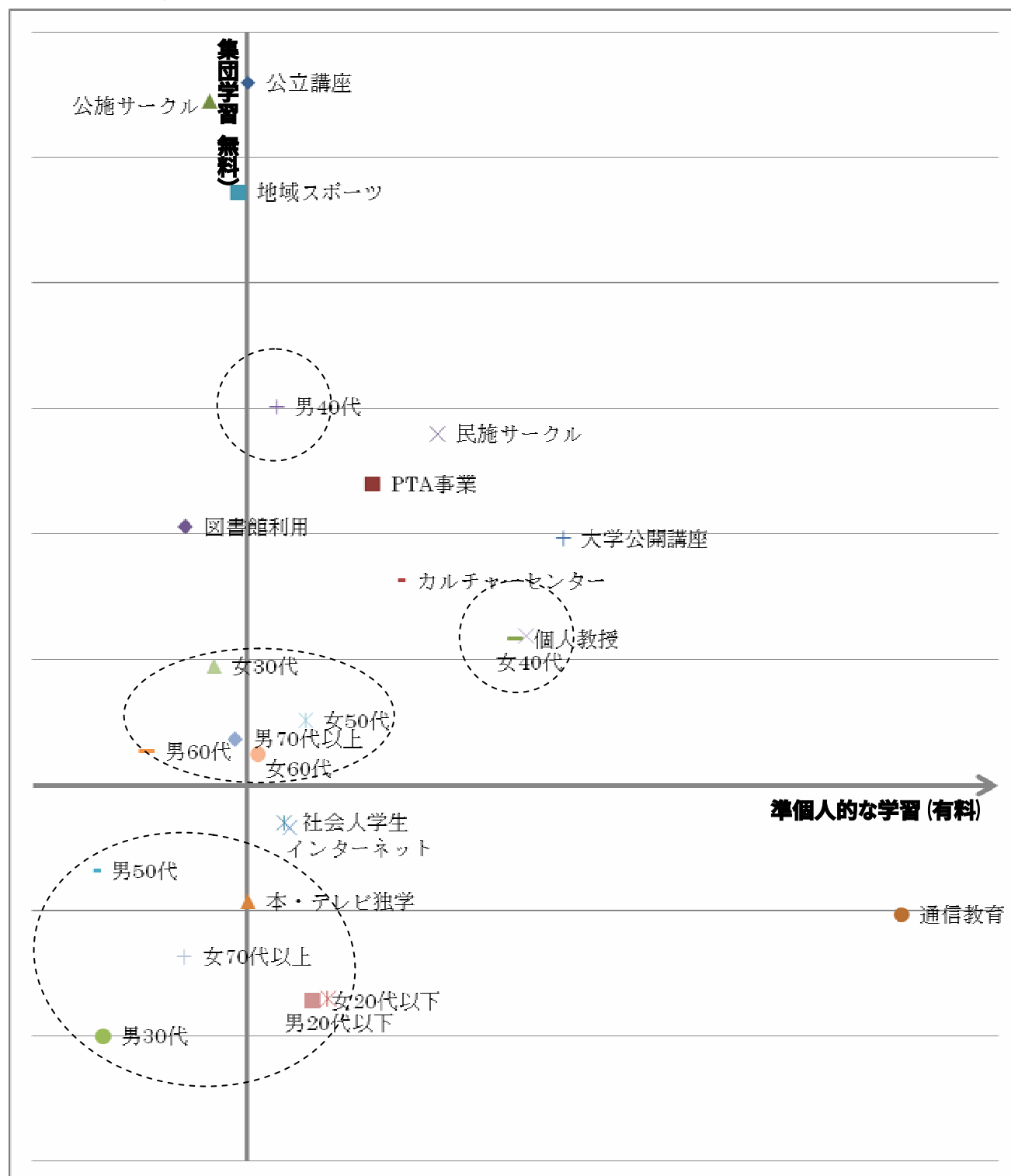


図 8-2 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点） 2



表の見方：一つ一つのグラフの見方は、これまでの因子分析の結果の見方と同様であるが、三次元のデータを示すため、二つのグラフで一組のデータを示していることがこれまでとは異なる。

図 8-1 の右側には独学的な性格の強い学習（本・テレビ・ラジオなどによる独学やインターネットなどを利用した学習、個人で図書館などを利用した学習など）が位置し、図 8-2 の右側には有料で行われる準個人的な学習（通信教育、大学公開講座、個人教授、民間施設でのサークル・クラブ活動など）が位

置している。

両方の図の上部には、無料に近い値段で行われる集団の中での学習（公民館の講座に参加、公共施設を利用したサークルに参加、地域や同好会などでのスポーツ）が位置している。

両方の図を合わせて性別・年齢別にみると、4つのグループにわけてみることができる。

まず第一が男性 40 代で集団的な生涯学習を最も活発に実践している層である。第二が女性 30 代、40 代とともに集団的学習と独学をともに比較的活発に行っている層である。そのうち女性 40 代は通信教育や大学の公開講座など有料の学習機会も利用している。第三は 20 代以下の男女、30 代と 50 代の男性、70 代以上の女性という集団的学習も独学もどちらも行っていないグループである。最後はそれ以外で平均的なグループである。

図 8-3 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点） 1

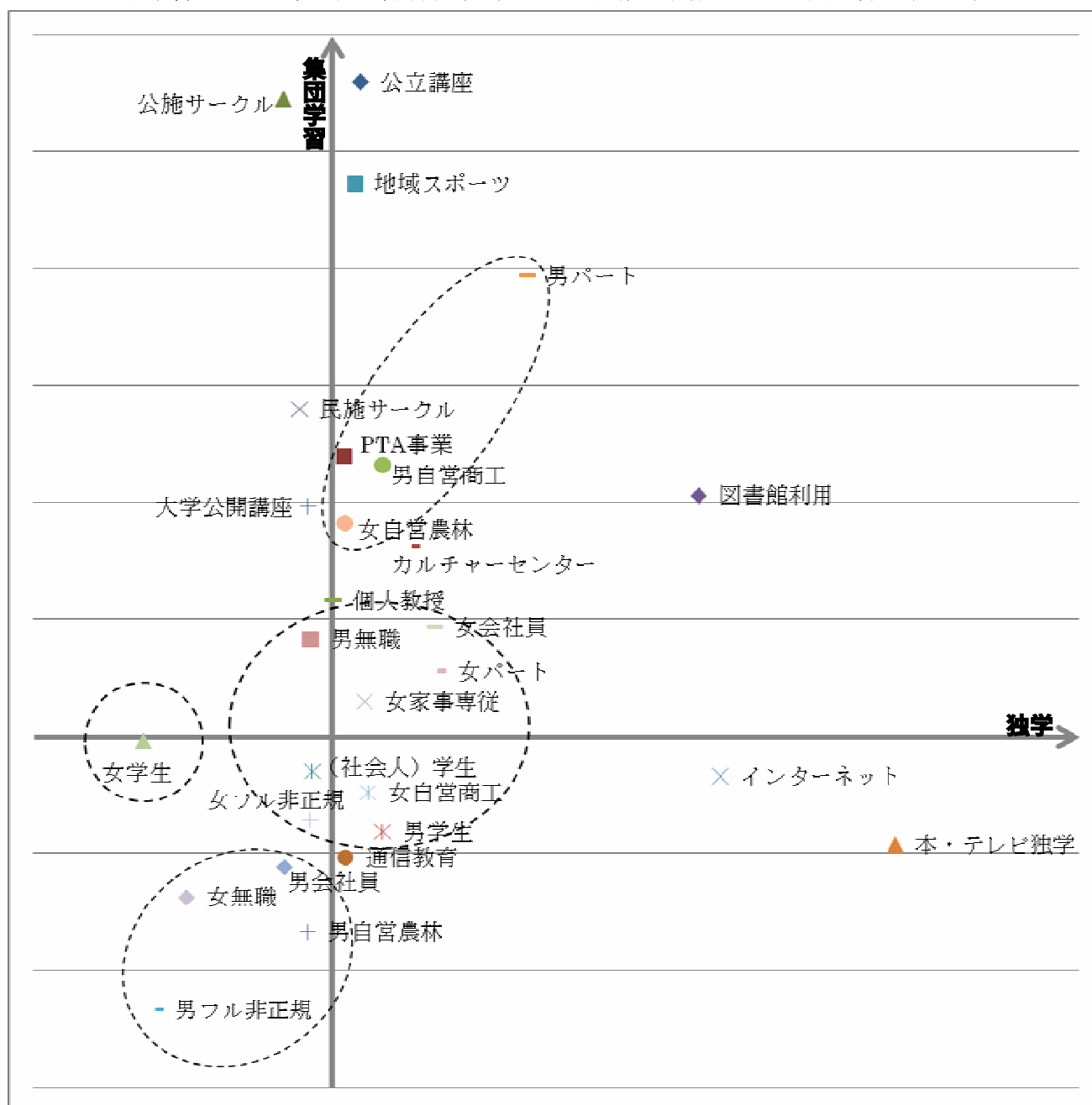
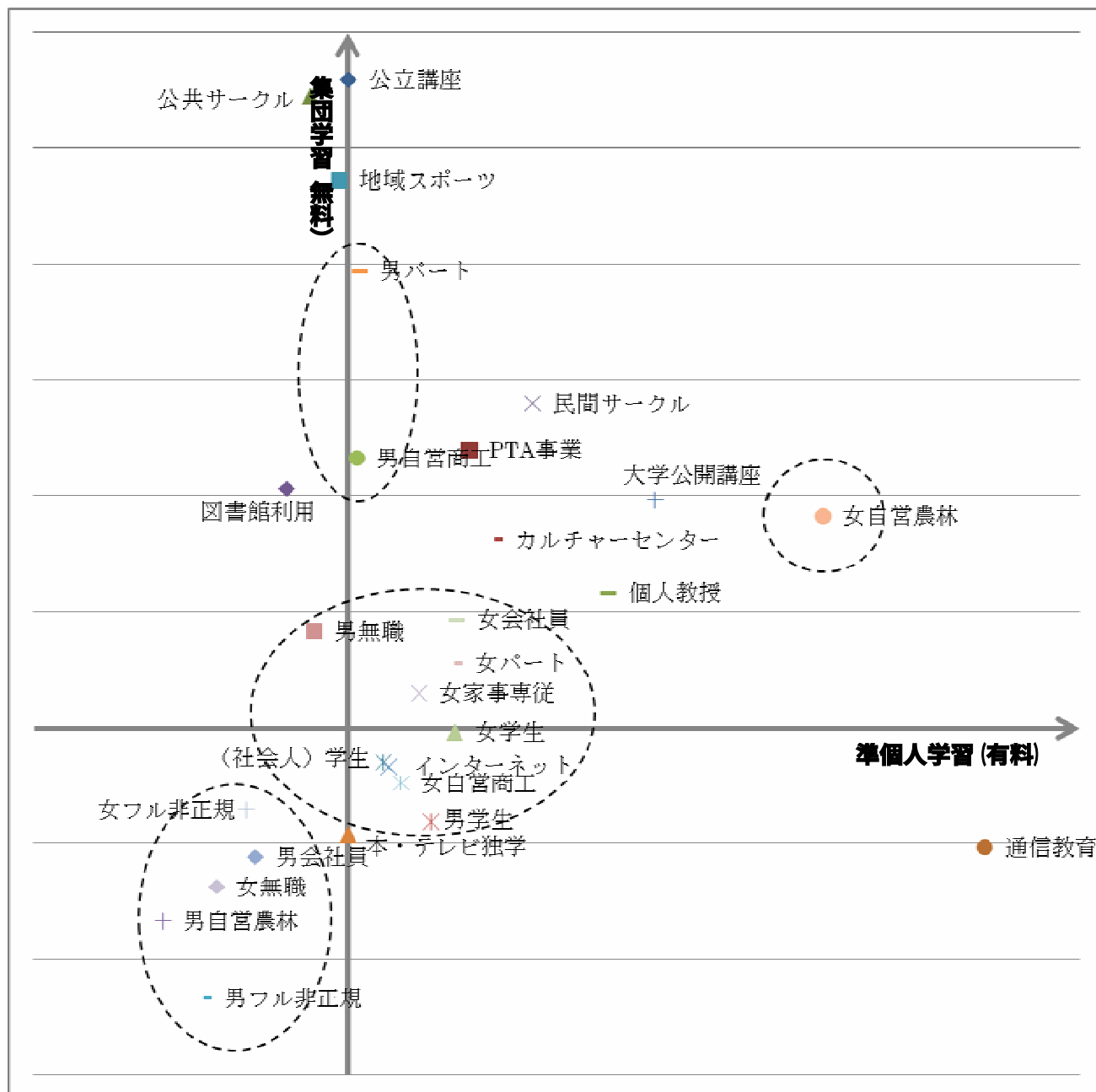


図 8-4 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点） 2



図の見方：

性別職業ごとに見ると、大きく3つのグループに分けることができる。

第一は集団的な生涯学習にもっとも積極的なグループで、男性パートタイム就業者、男性自営商工業者、女性自営農林漁業者が含まれる。このうち、女性自営農林漁業者は有料の準個人学習にもっとも積極的であり、男性パートタイム就業者は独学にも積極的である。

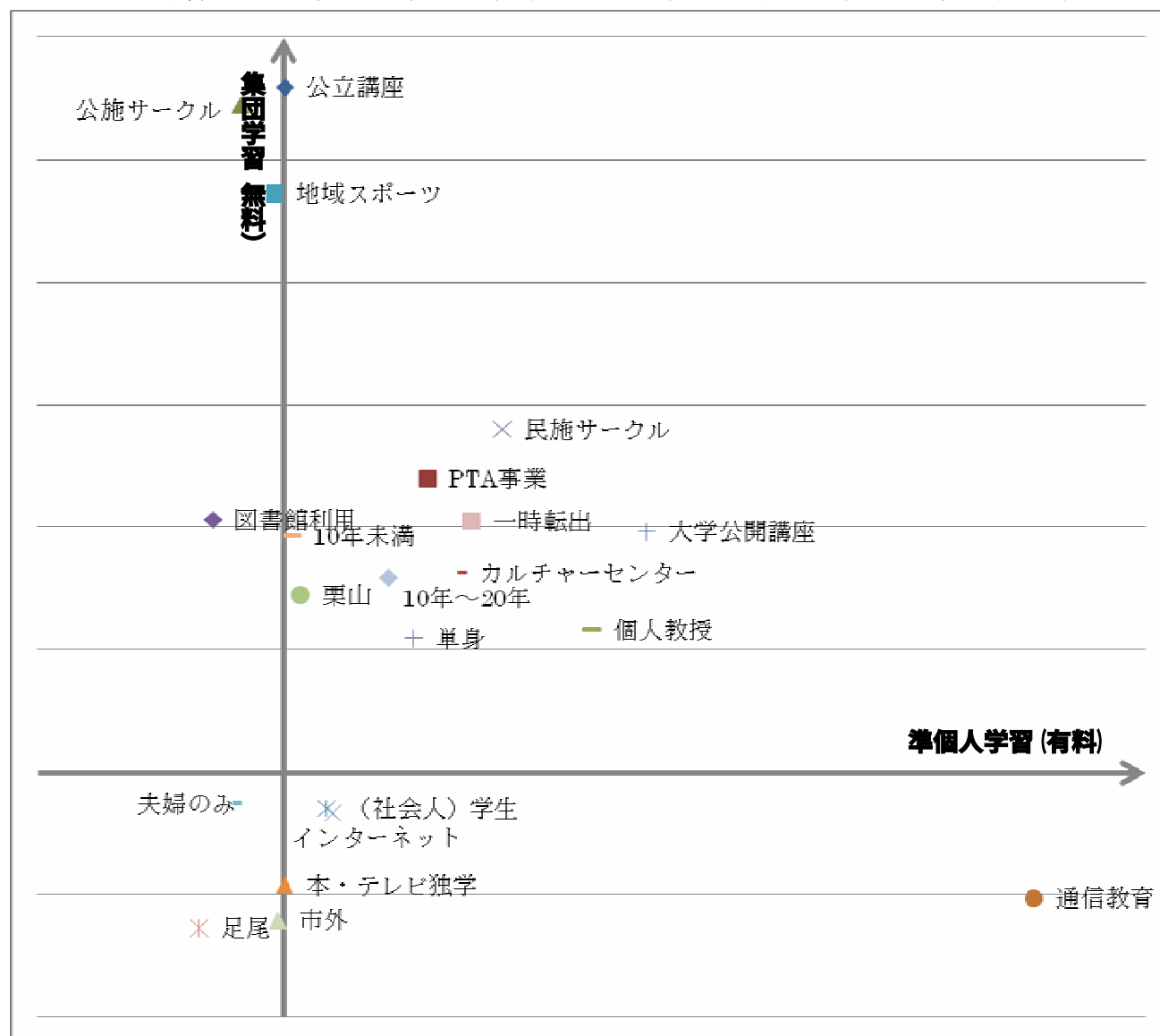
第二のグループは男性会社員・公務員、男性自営農林漁業者、男性フルタイム非正規雇用就業者、女性無職であり、どのような種類の生涯学習にも非積極的である。第三のグループは残りのものであり平均的な性格を持つ。ただし女子学生は、独学の生涯学習に関しては非積極的である。

なお、男性非正規雇用就業者はパートタイム・フルタイムで正反対の性格を持つが、この集計に含まれる男性パートタイム就業者の人数は11名、フルタイム非正規雇用就業者は8名にすぎず、統計的な偏りの可能性は考えられる。

図 8-5 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の変数の因子得点平均点） 1



図 8-6 生涯学習実践の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の変数の因子得点平均点） 2



（因子得点 0.1 以下は項目名を省略した）。

家族構成や居住歴、勤務地などのその他の変数による各グループの因子得点の平均点を表示した。以下特徴的な項目について触れる。

地域に関しては、足尾地域で集団学習と独学の生涯学習の実践が少なく、栗山地域では独学が少なく、集団学習が多いという結果となった。他地域は平均的な値を示した。

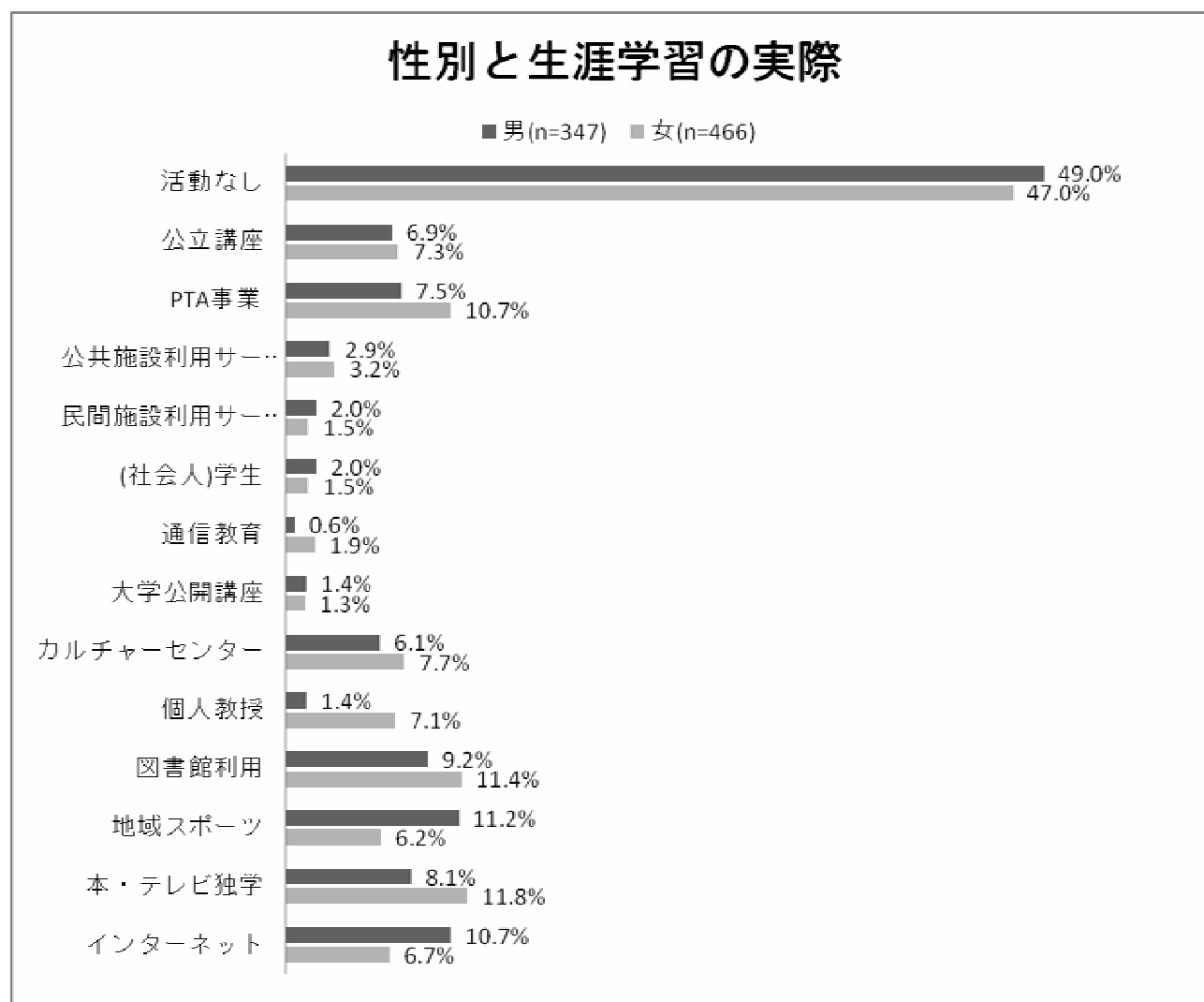
家族構成では、単身者で集団学習と、有料の準個人学習がより多く、夫婦のみで独学が少なかった。

居住歴では、20 年未満の居住歴の人と 5 年間以上の一時転出者はすべての種類の生涯学習の実践がより多く行われていた。

勤務地に関しては市外勤務で、集団学習の実践が少なかった。

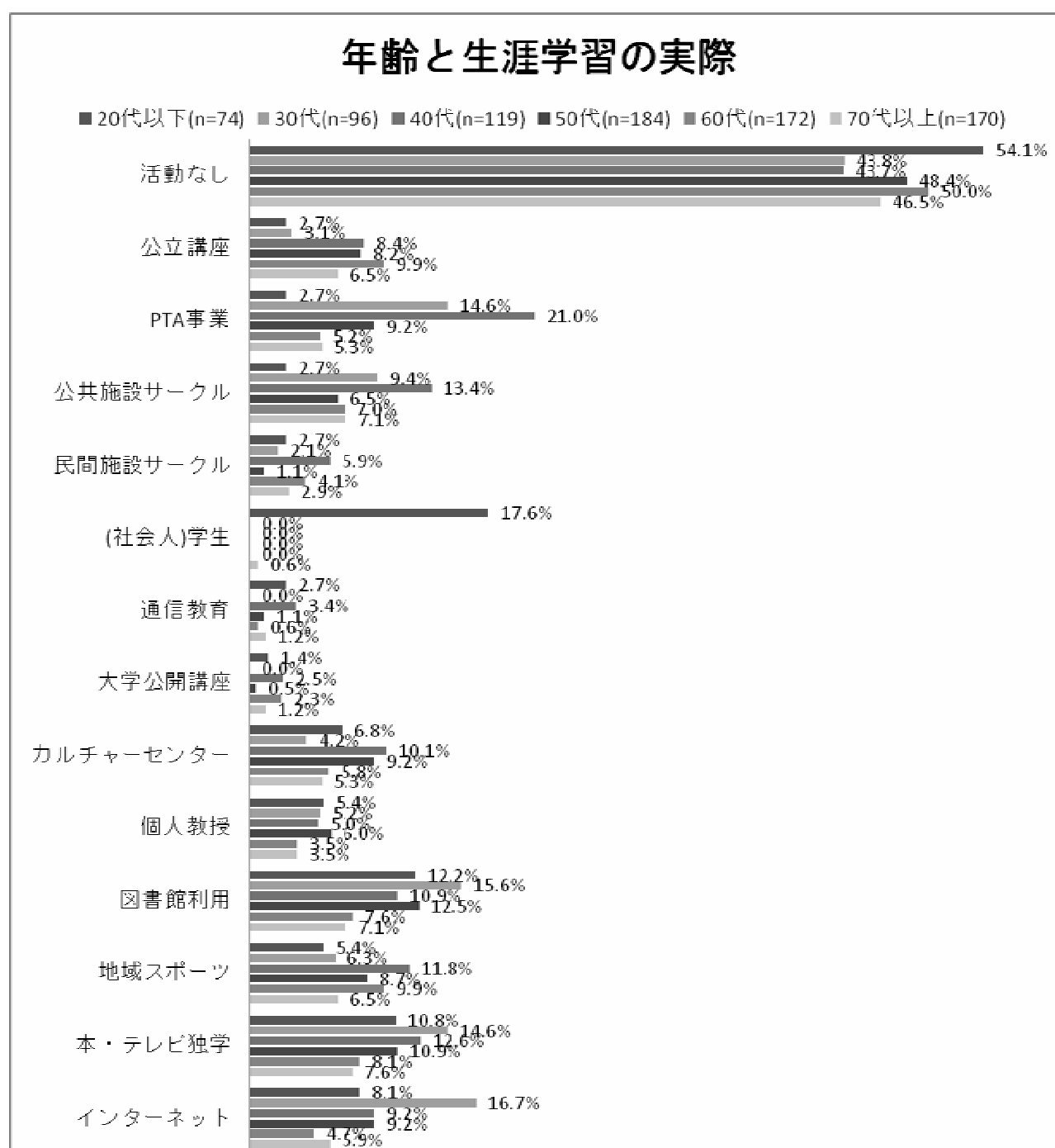
② 男女別・年齢別

図 8-7



本調査票の定義による生涯学習を実践しているのは男女とも全体の半数程度で半数は特に何もしていないと答えている。男女で比較すると、生涯学習の種類として男性の方が多いのは、地域スポーツとインターネットであった。女性のほうが多いのは、PTA事業、カルチャーセンター、個人教授の稽古事、図書館利用の独学、本・テレビなどによる独学であった。

図 8-8



比較的に生涯学習活動に積極的な年齢層は、30代、40代であり、もっとも消極的なのは20代である。30代では特に、インターネット、本・テレビ独学、図書館利用などの個人で行う活動を行い、PTA事業などにも参加している。40代では地域スポーツ、公共施設利用のサークル活動、PTA事業などの集団的学習活動、およびカルチャーセンターなどでの有料の学習を行っている。

表 8-1

	公立講座	PTA事業	公施サークル	カルチャーセンター	個人教授	図書館利用	地域スポーツ	本・テレビ独学	インターネット
男 20 代以下	0.6	<u>0.0</u>	0.6	1.2	0.9	<u>1.7</u>	1.0	0.8	1.0
男 30 代	<u>0.0</u>	<u>1.4</u>	<u>0.4</u>	0.5	<u>0.0</u>	<u>1.6</u>	0.8	<u>1.6</u>	<u>2.8</u>
男 40 代	0.9	<u>2.1</u>	<u>1.6</u>	0.7	<u>0.0</u>	<u>0.4</u>	<u>1.5</u>	<u>0.3</u>	0.9
男 50 代	1.3	0.6	0.7	1.0	<u>0.0</u>	1.2	<u>1.7</u>	1.1	<u>2.0</u>
男 60 代	1.2	0.4	1.1	1.0	<u>0.3</u>	0.8	<u>2.0</u>	0.9	0.8
男 70 代以上	<u>1.5</u>	<u>0.4</u>	1.0	1.2	0.9	0.9	1.1	0.8	1.4
女 20 代以下	<u>0.4</u>	0.6	<u>0.4</u>	1.2	<u>1.8</u>	1.3	0.7	<u>1.6</u>	1.3
女 30 代	0.5	<u>1.4</u>	1.3	0.5	<u>1.4</u>	1.2	0.6	1.1	1.4
女 40 代	0.8	1.2	1.0	1.2	1.2	0.9	0.7	1.2	0.7
女 50 代	1.0	1.1	0.9	<u>1.4</u>	<u>1.8</u>	1.1	0.7	1.0	0.7
女 60 代	<u>1.9</u>	0.8	1.0	0.9	<u>1.4</u>	0.8	0.8	0.9	0.5
女 70 代以上	0.8	1.2	<u>1.4</u>	0.8	1.2	0.9	0.9	1.1	<u>0.2</u>

これまでの表と見方は同じである。行われている割合の少ない種類は省いている。

公立講座の参加の割合が高いのは男性 70 代以上、女性 60 代以上。

P T A 事業の参加の割合が高いのは男女とも 30 代、40 代。

公共施設を利用したサークルへの参加の割合が高いのは男性 40 代、女性 70 代。

カルチャーセンターへの参加の割合が高いのは女性 50 代。

個人教授（お稽古事）への参加の割合は女性一般で高く、特に 20 代以下、50 代で高い。

地域スポーツ参加の割合が高いのは男性 40 代から 60 代。

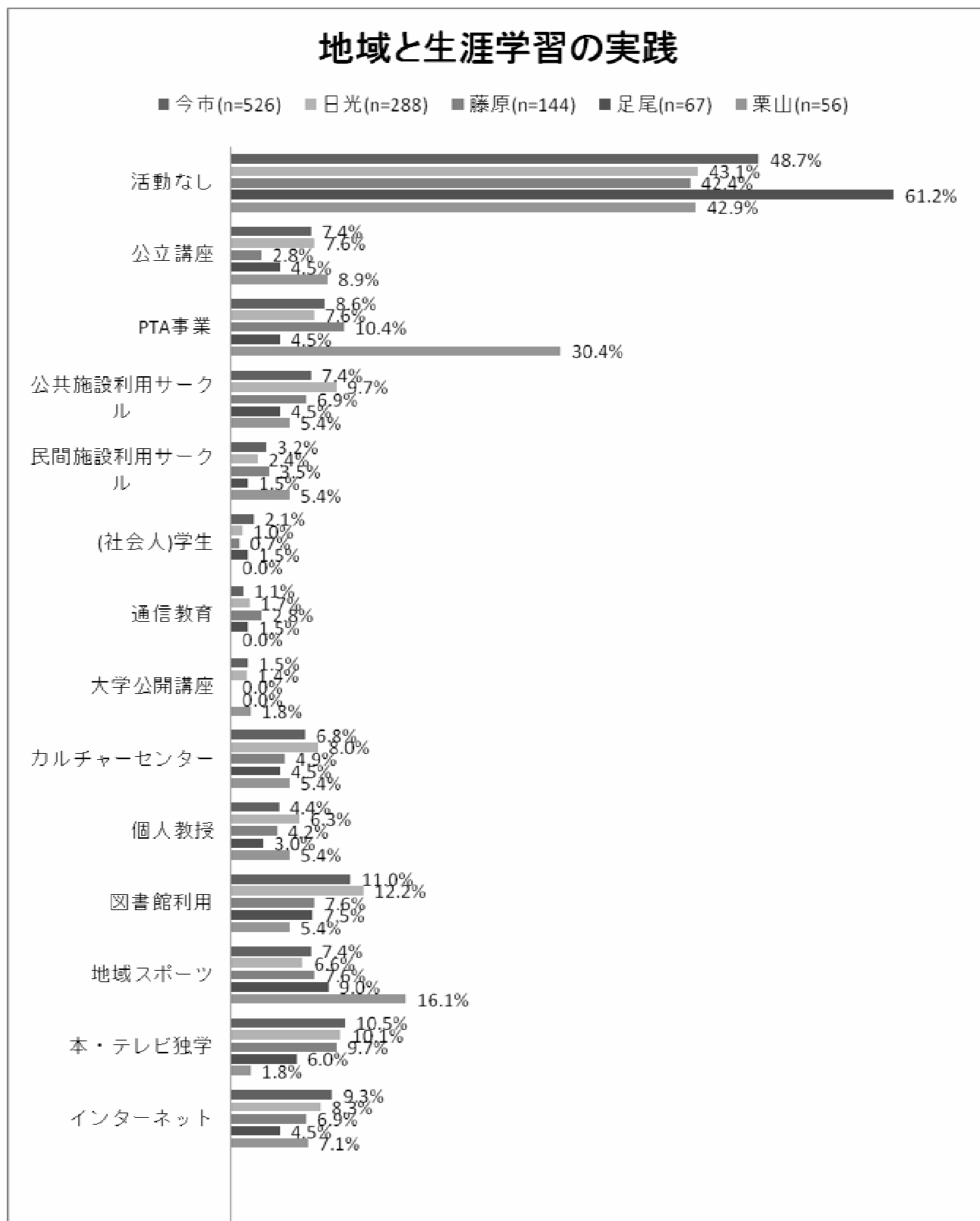
本、テレビなどによる独学の割合が高いのは男性 30 代、女性 20 代以下。

インターネットによる独学の割合が高いのは男性 30 代と 50 代という結果になった。

なおこの結果はあくまで、それぞれの性別年代層において、どの種類の生涯学習に参加しているかという割合が、全体に比べて高いかどうかだけを問題にしている。

もともとその性別年代層における生涯学習が低調であれば、たとえある種の生涯学習を選んだ割合が高いとしても、その種類の生涯学習を活発に行っているということにはならない。

③ 地域別



足尾地域で活動なしが多い。

栗山地域でPTA事業が突出しており、地域スポーツの割合も高い。

今市地域と日光地域では図書館利用の独学が多い。

④ 生涯学習の実践のまとめ

- 男性 40 代は集団的な生涯学習をよく行い、
- 女性 30 代、40 代は独学の生涯学習もよく行っていて、
- 特に女性 40 代は有料の学習機会も積極的に利用している。
- 男性 30 代以下と 50 代、女性 20 代以下と 70 代がもっとも消極的である。
- 男性パートタイム就業者、男性自営商工業者は集団的な生涯学習を最もよく行い、
- 女性自営農林漁業者は集団的な生涯学習以外に、有料の学習機会も積極的に利用している。
- 男性フルタイム雇用者（正規雇用、非正規雇用とも）、男性自営農林漁業者、女性無職の人はもっとも生涯学習の実践種類が少ない。
- 日光市居住歴 20 年未満、および 5 年以上の一時転出者の人の生涯学習が活発。
- 足尾地域で生涯学習、実践なしの回答が多かった。

9. 来年度以降この数年間に取り組みたい生涯学習

日光市民が取り組みたいと考えている生涯学習についてたずねた。現在すでに行っている生涯学習を含めて、調査票問15にしたがってたずねている。

回答の選択肢は前節の問14と同じものを用いた。

① 回答パターン

問15の数多くの選択肢の回答のパターンを見るため、因子分析を行った。前節同様、3因子で表現し、各因子への負荷値を表にまとめた。

(因子数3、主因子法 プロマックス回転、各因子間の相関は次表のとおり)

因子相関行列

因子	1	2	3
1	1.000	.252	.150
2	.252	1.000	.435
3	.150	.435	1.000

因子2と因子3の間にかなり強い相関がある。

パターン行列^a

	因子		
	1	2	3
本・テレビ独学	.647		
図書館利用	.584		
インターネット	.387		.166
公共サークル		.661	
スポーツ		.416	
公立講座	.299	.371	
民間サークル	-.128	.343	.238
PTA事業	.131	.330	-.211
大学公開講座	.203		.409
通信教育			.384
カルチャーセンター		.146	.366
個人教授			.231
(社会人) 学生			.164

(0.1以下の負荷値は表を見やすくするため、省略)

まずこの表から、生涯学習の希望は、前節にみた生涯学習の実践と同じように分けられることがわかる。第一は本やテレビ、インターネットなどによる純粋な独学である。図書館利用などもここに含められる。第二は公民館講座や公共施設、民間施設などを利用したサークル、スポーツ活動などによる集団学習である。第三は大学公開講座や通信教育、カルチャーセンターでの学習で、有料で行われる準個人的な学習である。

次のグラフはこの表のうち、因子1を水平方向、因子2を垂直方向の座標に置きなおしたものと（図9-1,3,5）、因子3を水平方向、因子2を垂直方向の座標に置きなおしたものである（図9-2,4,6）。どちらの図でも垂直方向は共通しており、水平方向だけ変わっている。これまで同様、性別・年齢ごとのグループの平均点と、性別・職業ごとの平均点を表示する。

表の見方：グラフの見方は、前節の生涯学習実践の分析結果と同様である。両方の図を合わせて性別・年齢別にみると、5つのグループにわけてみることができる。まず第一が30代から50代の女性と男性40代で、あらゆる種類の生涯学習をしたいと考えている。第二が男性30代で、集団的学習に関しては平均的だが、本やテレビ、インターネットなどによる独学をしたいと考えている。第三は20代以下の男性で、集団的学習に関しては消極的だが、有料で行われているような通信教育、カルチャーセンターの講座などについては平均以上の関心がある。第四は50代の男性と70代以上の女性で、どのような種類の生涯学習に関しても無関心である。最後はそれ以外で平均的なグループである。

図 9-1 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点） 1

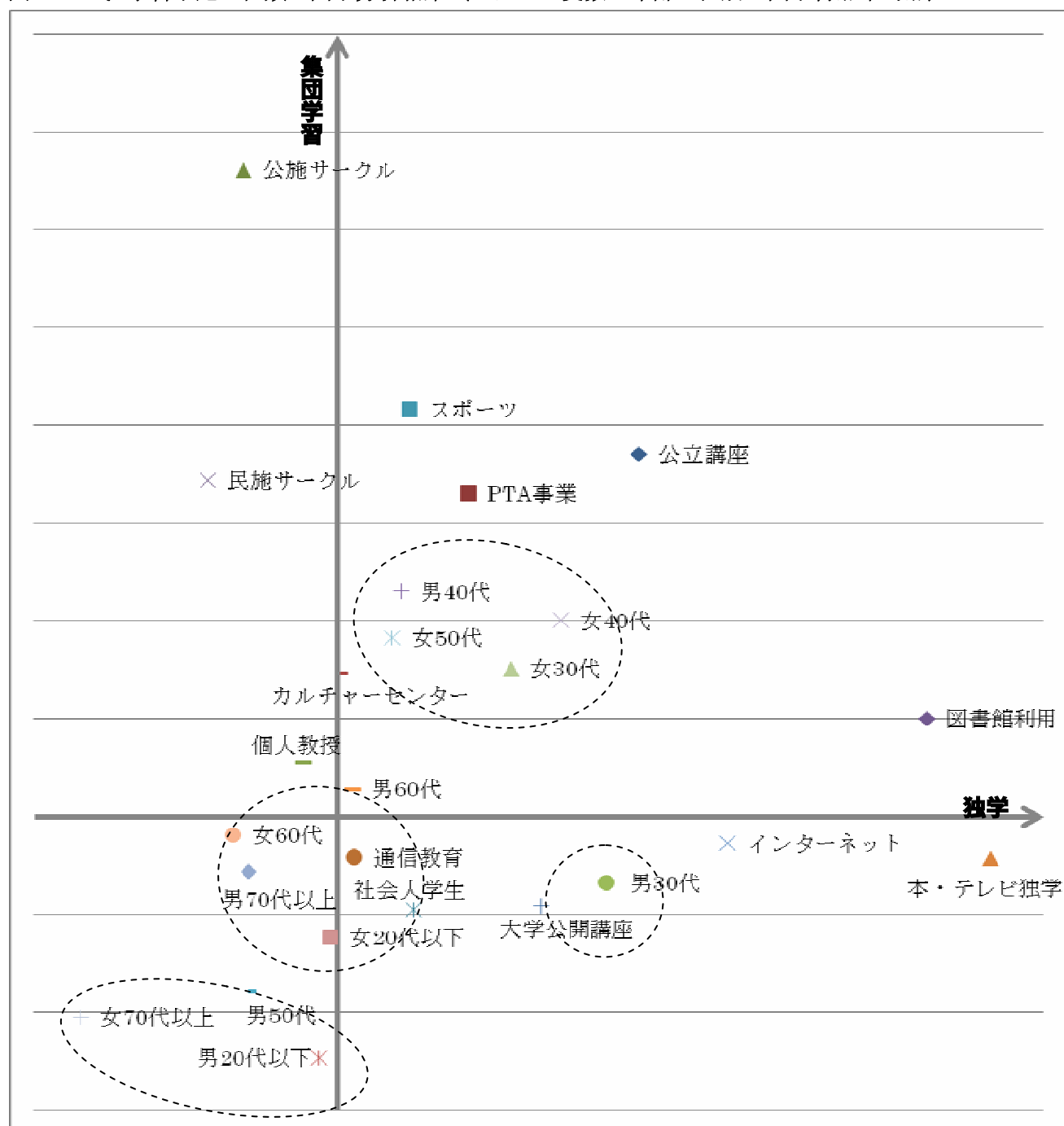


図 9-2 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数と年齢・性別の因子得点平均点） 2

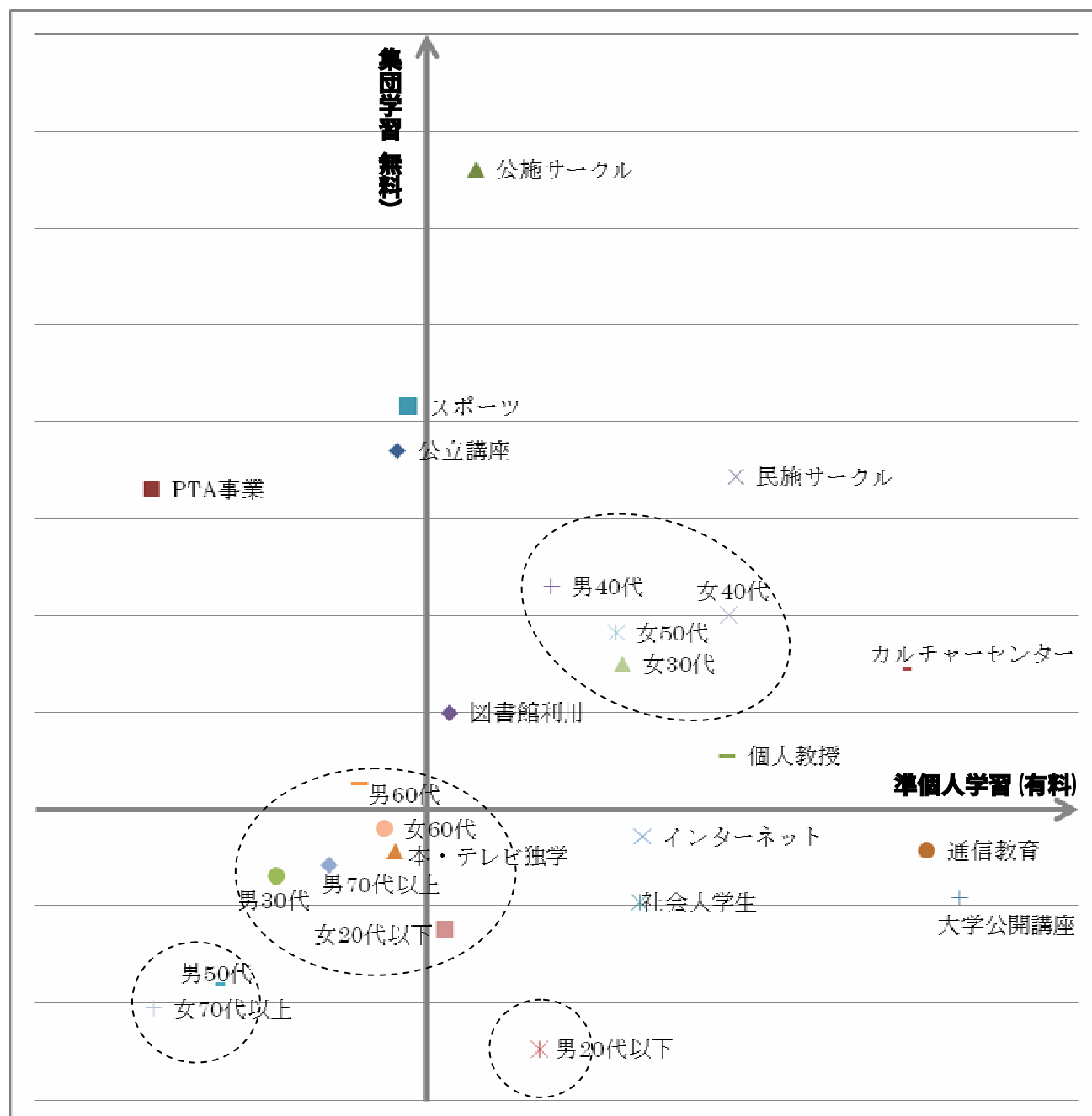


図 9-3 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点） 1

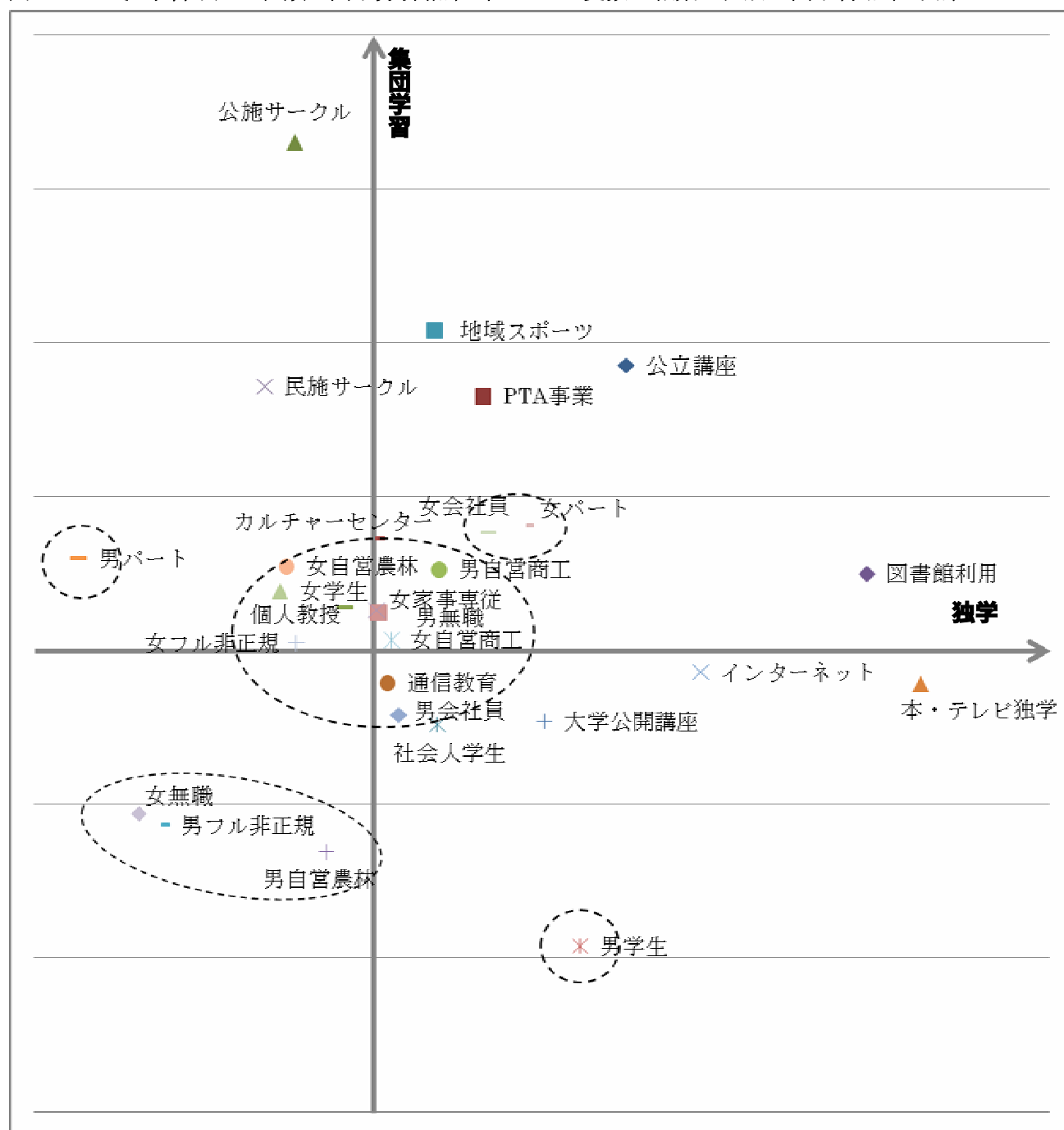
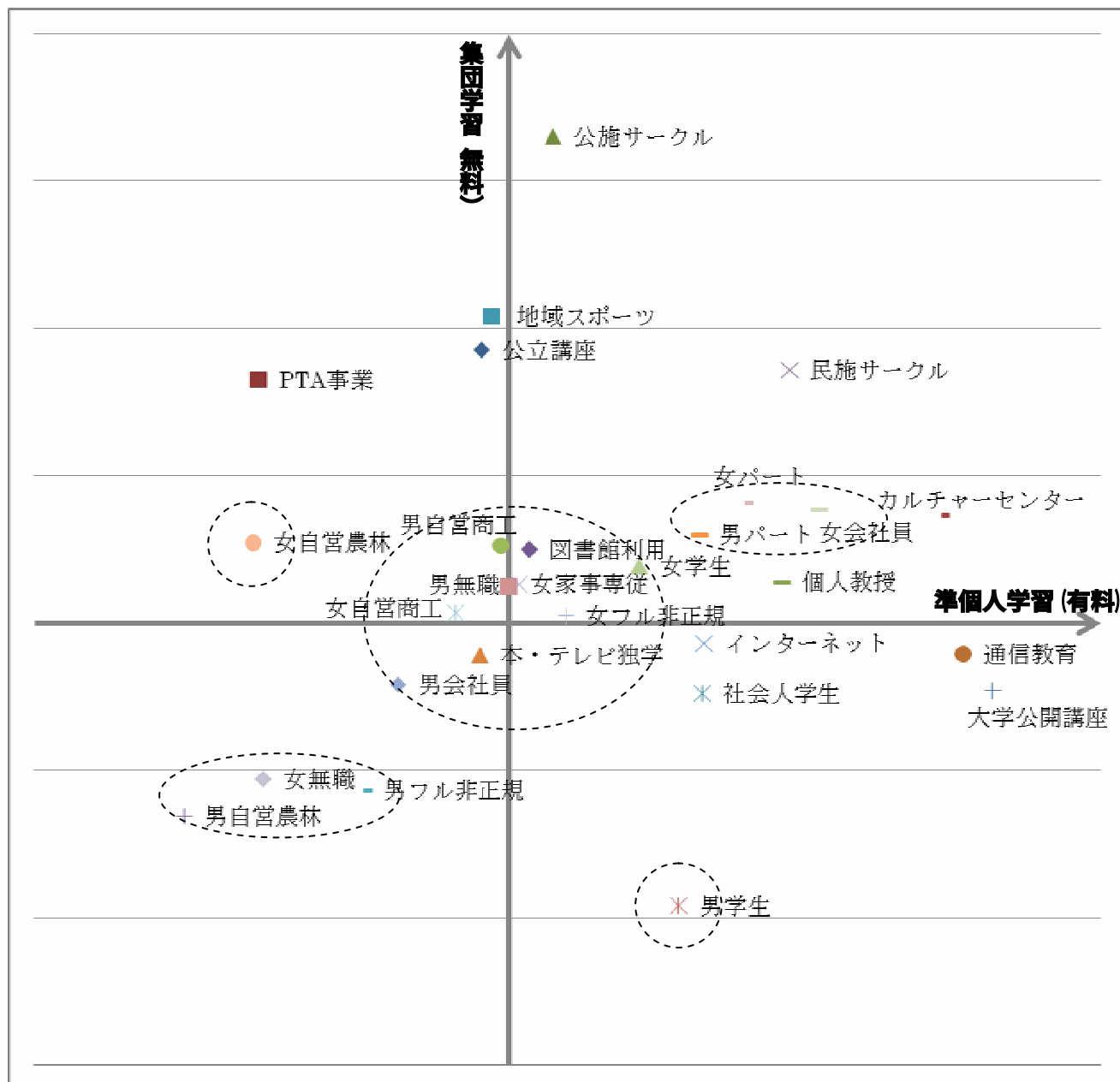


図 9-4 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数と職業・性別の因子得点平均点） 2



図の見方：

性別・職業ごとに見ると、予定している生涯学習の仕方は5つのグループに分けられる。

第一は女性会社員・公務員、女性パートタイム就業者で有料無料問わず個人学習に熱心で、集団学習に関しても平均以上に熱心なグループである。

第二は、女性会社員・公務員やパートタイム就業者同様、有料無料問わず個人学習に熱心だが、集団的な生涯学習から背を向けている男子学生。

第三は有料の準個人学習については熱心だが、純粋な独学については無関心な男性パートタイム就業者。

第四は有料の準個人学習に関してだけ不熱心な女性農林漁業者、第五はどのような生涯学習についても無関心な女性無職、男性フルタイム非正規雇用就業者、男性自営農林漁業者。

第六が平均的なグループでその他が含まれる。

図 9-5 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の因子得点平均点） 1

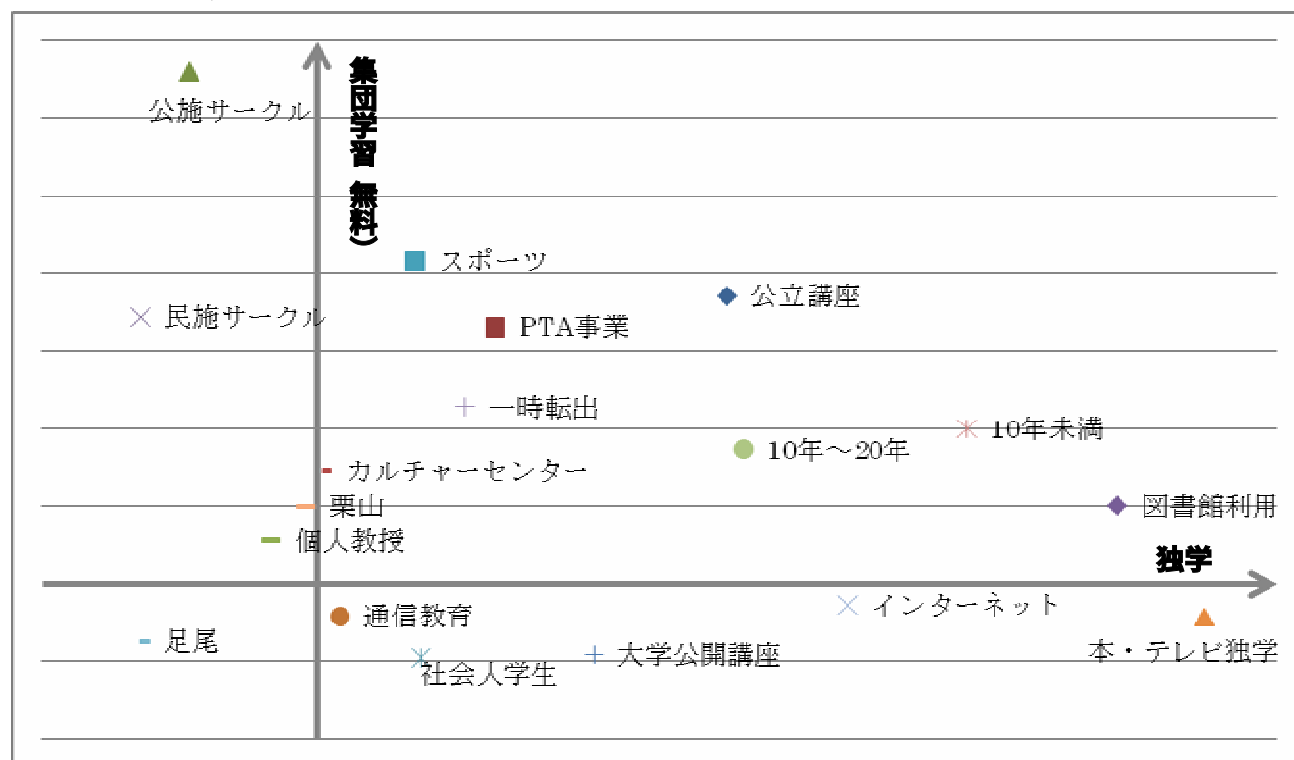
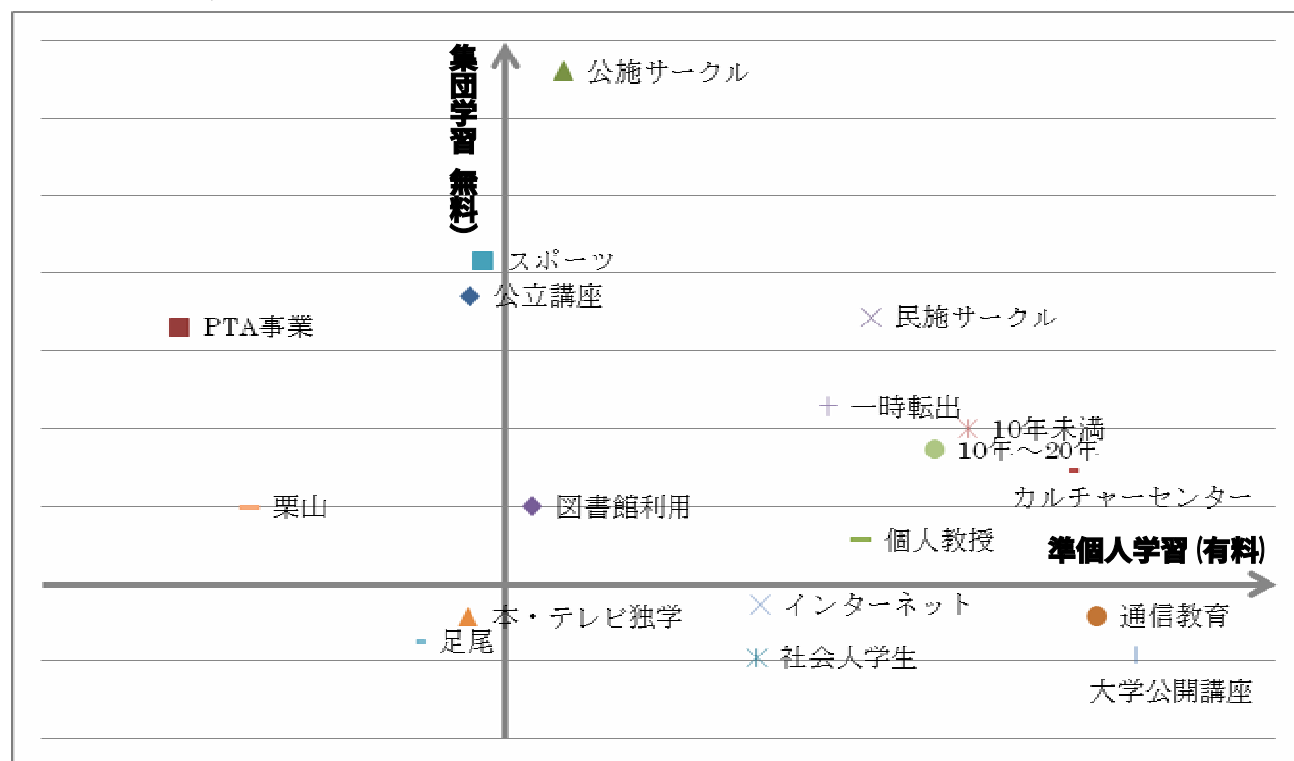


図 9-6 生涯学習予定の種類 因子分析結果（パターン変数とその他の因子得点平均点） 2



（因子得点 0.1 以下は項目名を省略した）。

家族構成や居住歴、勤務地などのその他の変数による各グループの因子得点の平均点を表示した。以下特徴的な項目について触れる。

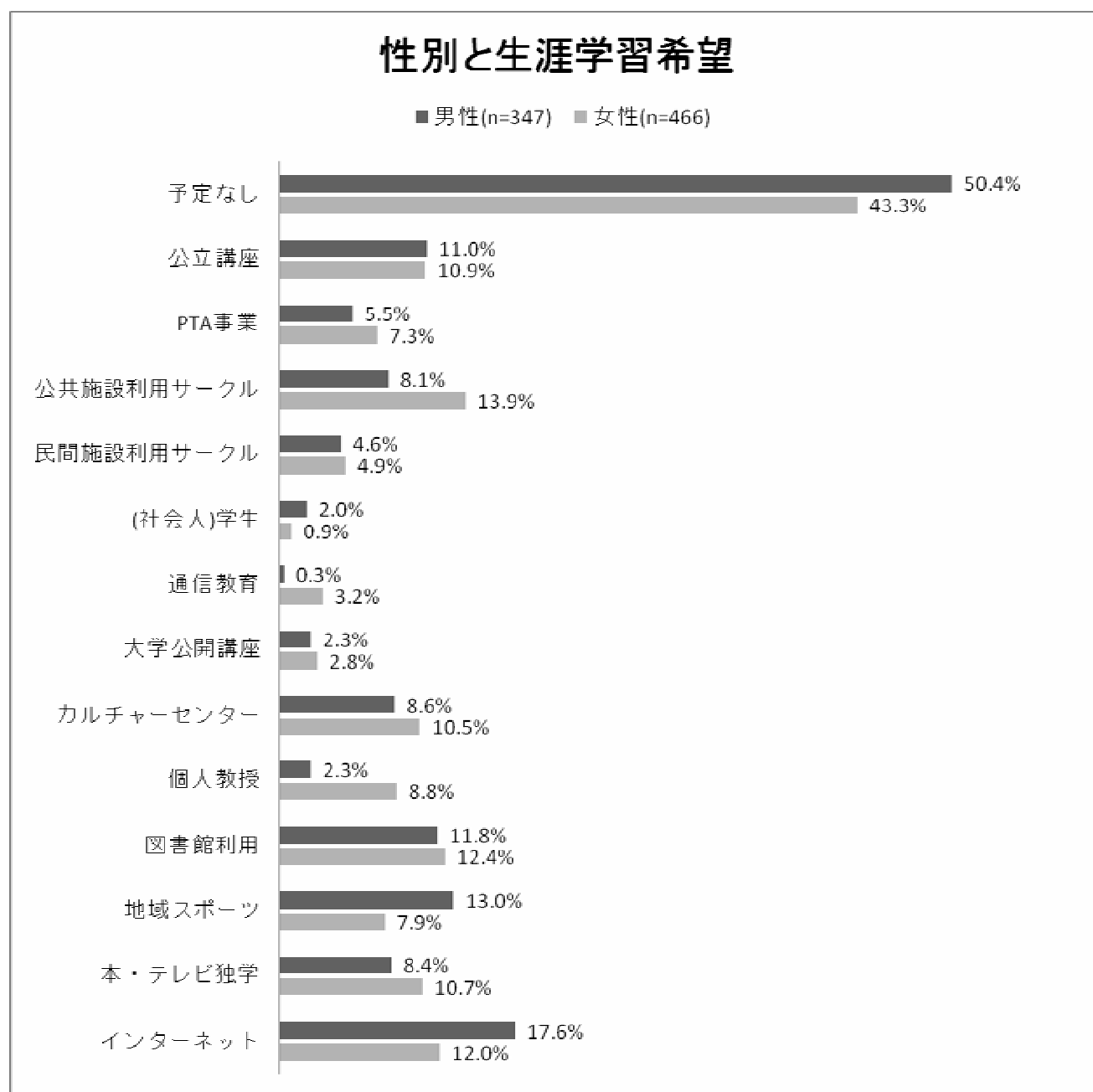
地域に関しては、足尾地域で独学の生涯学習を予定する者が少なく、栗山地域では有料の準個人学習を予定する者が少ないという結果となった。他地域は平均的な値を示した。

居住歴では、20年未満の居住歴の人と5年間以上の一時転出者はすべての種類の生涯学習を予定する者が多かった。

家族構成と勤務地に関しては予定する生涯学習とのかかわりは見られなかった。

② 男女別・年齢別

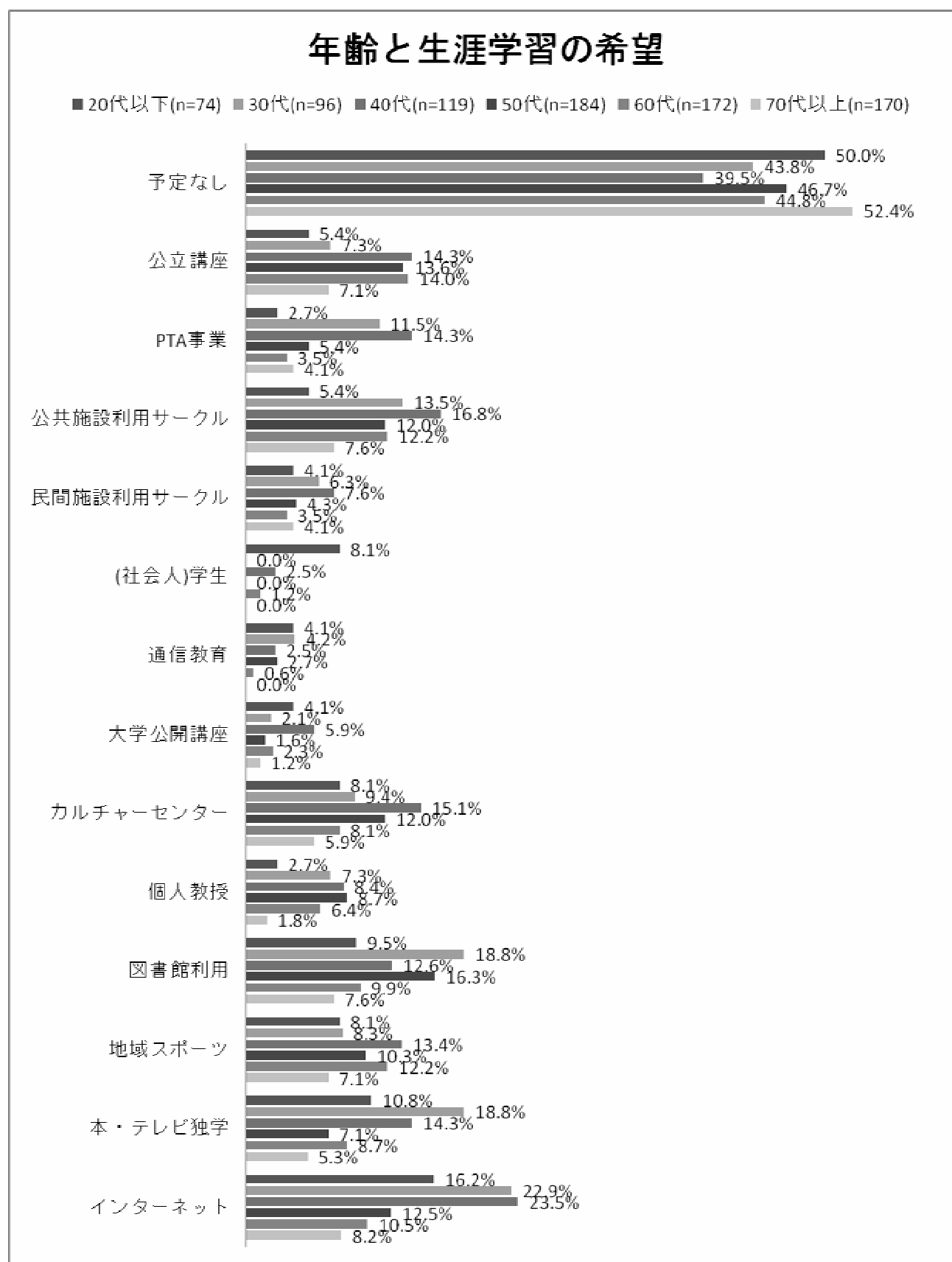
図 9-7



実践と予定の数値はそれほど変わらない。男女の傾向も実践の傾向をなぞり、男性の方が多いのは、地

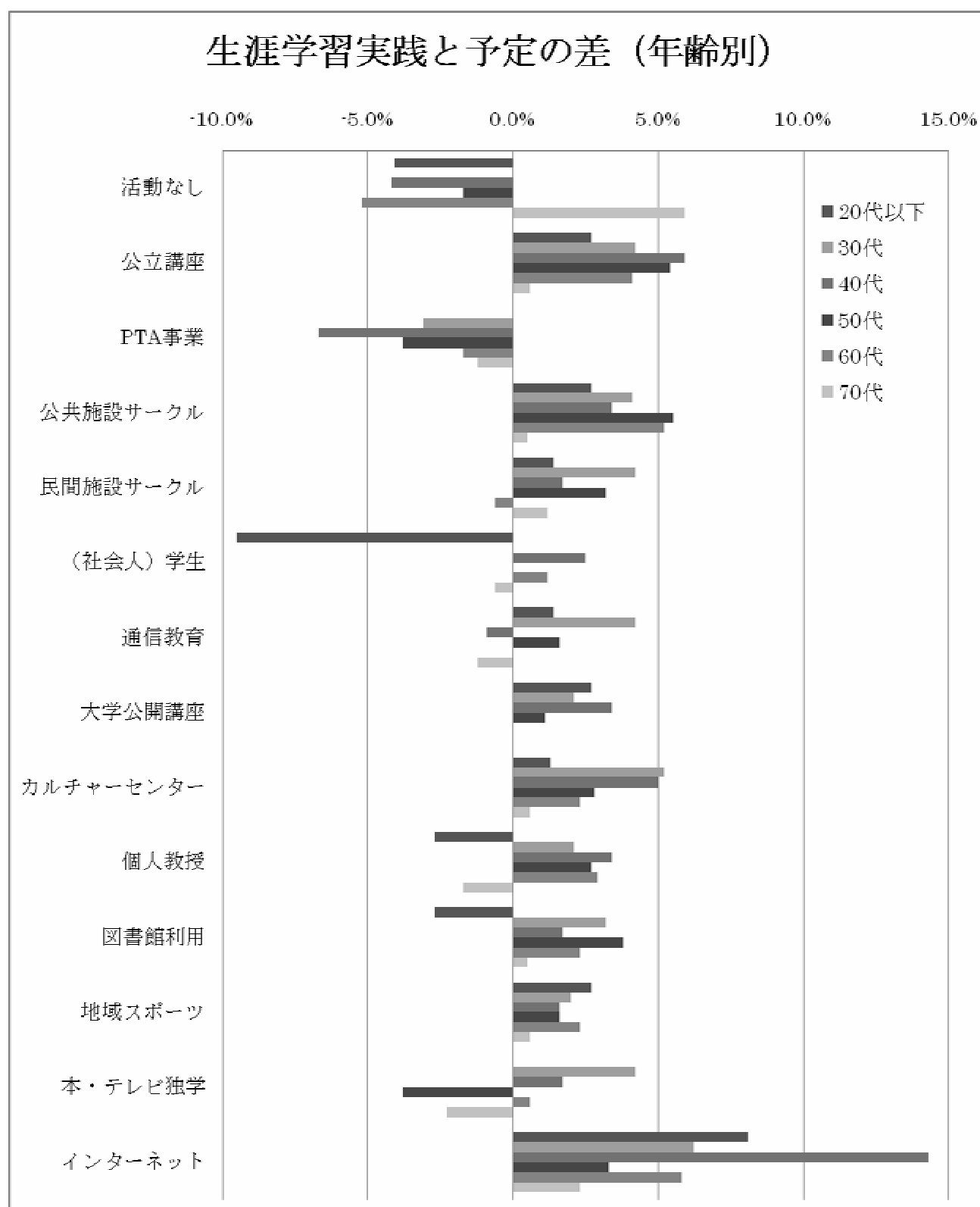
域スポーツとインターネット、女性のほうが多いのは、PTA事業、カルチャーセンター、個人教授の稽古事、図書館利用の独学、本・テレビなどによる独学であった。

図 9-8



年代ごとの傾向も生涯学習の実践の傾向をなぞっている。

図 9-9



年齢ごとに実践と予定の差を見ると、活動なしは 70 代以外では減り、積極性を見せている。それ以外に減る傾向が強いのは PTA 事業と学生で、PTA 事業に関しては、おそらく子どもの成長に合わせて PTA 事業への参加が減ることを予定しており、20 代の学生に関しては自分自身の卒業を見込んでいるものと

考えられる。

プラスの数値が全年代層において大きいのはインターネットであった。

それ以外では、公立講座は 40 代、50 代、公共施設利用サークルでは 50 代、60 代、カルチャーセンターで 30 代、40 代の伸びが目立った。

表 9-1

	公立講座	PTA事業	公施サークル	カルチャーセンター	個人教授	図書館利用	地域スポーツ	本・テレビ独学	インターネット
男 20 代以下	0.8	1.1	1.2	0.0	0.6	1.0	0.7	0.4	0.8
男 30 代	1.0	0.8	0.6	2.5	0.9	1.9	1.8	1.0	0.7
男 40 代	0.6	1.8	0.9	0.4	0.5	2.2	1.3	0.6	0.9
男 50 代	0.9	1.2	1.3	0.7	0.9	1.6	1.5	0.6	0.8
男 60 代	1.0	1.1	1.6	0.7	0.8	0.8	1.7	0.8	0.8
男 70 代以上	1.2	1.1	1.2	0.6	0.8	0.9	2.7	1.4	0.5
女 20 代以下	1.1	0.9	0.3	2.7	1.2	0.7	0.0	0.5	1.5
女 30 代	1.4	0.5	0.2	4.2	1.1	1.0	0.0	0.5	1.3
女 40 代	0.9	1.4	0.7	0.8	1.0	0.8	0.6	0.6	1.3
女 50 代	1.0	0.8	0.9	0.3	1.1	0.9	0.6	1.0	1.1
女 60 代	1.1	0.6	1.6	0.4	1.2	0.5	0.6	1.6	1.1
女 70 代以上	1.2	1.1	1.0	0.3	1.4	0.9	1.1	2.3	0.8

公立講座参加希望の割合が高いのは、女性 30 代。

P T A 事業の参加希望の割合が高いのは男女とも 30 代、40 代。

公共施設を利用したサークルへの参加希望の割合が高いのは男女とも 60 代。

カルチャーセンターへの参加希望の割合が高いのは男女とも 30 代と女性 20 代以下。

個人教授（お稽古事）への参加希望の割合が高いのは女性 70 代。

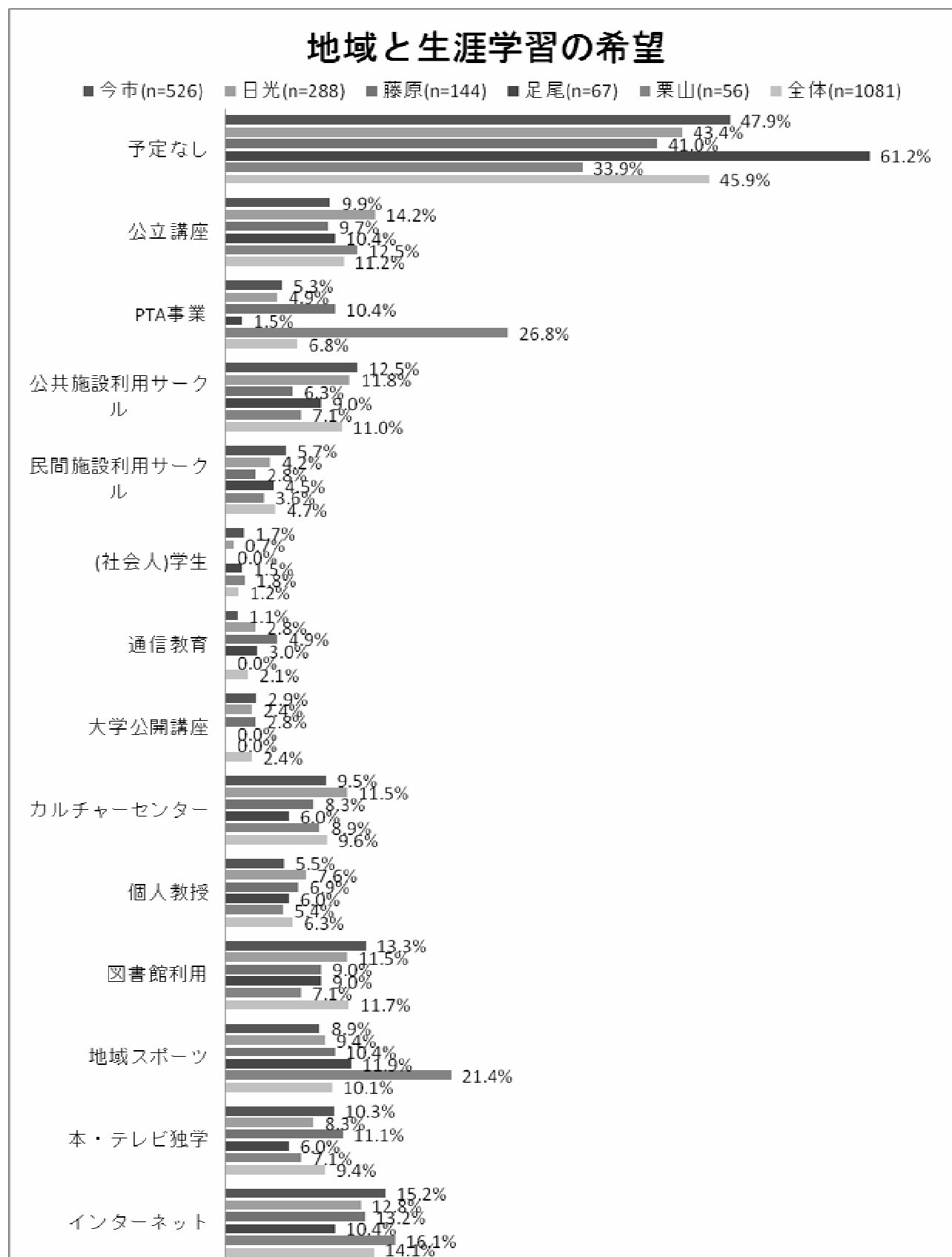
図書館利用の希望の割合が高いのは男性 30 代から 50 代。

地域スポーツ参加希望の割合は 20 代を除く、男性一般で高い。

本、テレビなどによる独学の割合が高いのは男女とも 70 代以上と、女性 60 代。

インターネットによる独学の割合が高いのは女性 20 代以下という結果になった。

③ 地域別



生涯学習の予定の傾向も、実践の傾向をほぼなぞっており、
足尾地域で予定なしの割合が高く、
栗山地域でPTA事業と地域スポーツの、
日光地域で公立講座とカルチャーセンターの、
今市地域で図書館利用の独学を予定している割合が高かった。

④ まとめ

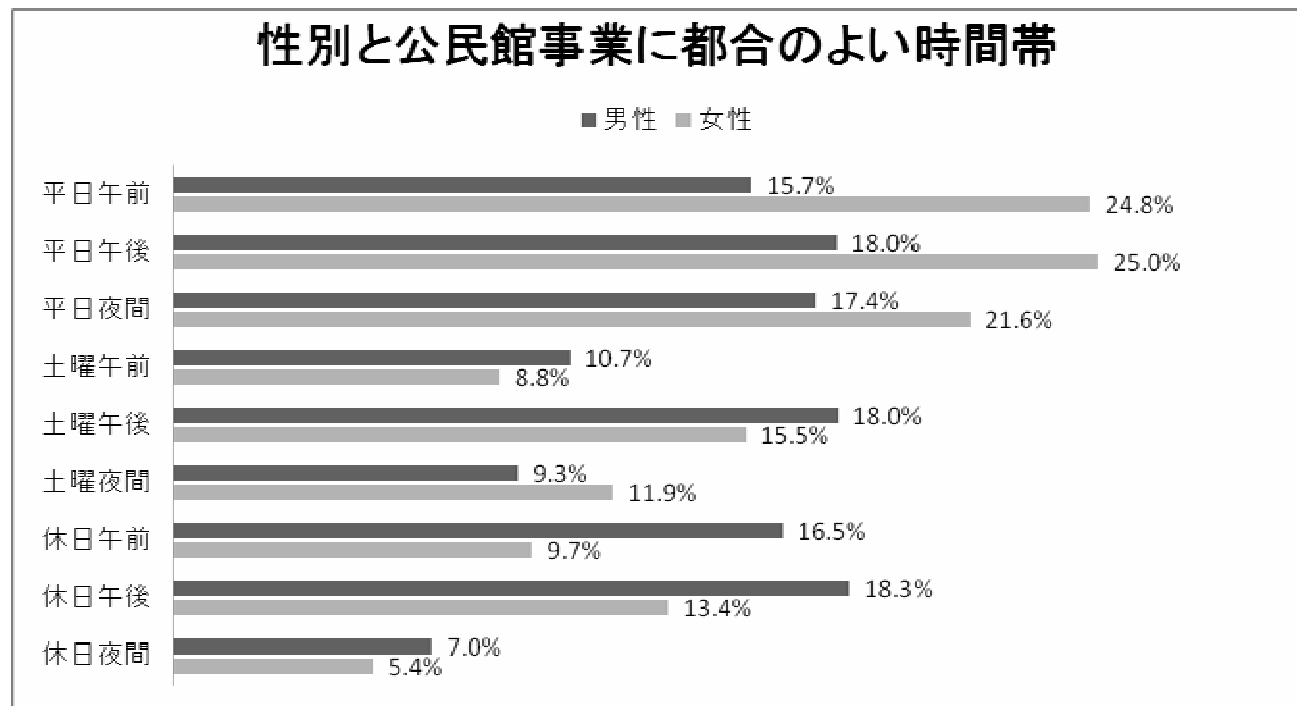
- 女性 30 代から 50 代と男性 40 代はあらゆるものに積極的。
- 男性 30 代は独学にだけ、男性 20 代は有料の学習にだけ関心がある。
- 男性 20 代以下と 50 代、女性 70 代がもっとも消極的。
- 女性パートタイムおよび正規雇用者が多くの種類の生涯学習に積極的。
- 女性無職、男性フルタイム非正規雇用者、男性自営農林漁業者がもっとも消極的。
- 日光市居住歴 20 年未満、および 5 年以上の一時転出者の人の生涯学習希望に積極的。
- 足尾地域で生涯学習の予定なしの回答が多かった。

10. 公民館事業（講座・イベント）に都合の良い時間帯

① 男女別・年齢別

質問票問17の結果に従い、公民館事業の講座やイベント参加に都合の良い曜日・時間帯を男女別、年齢別にまとめる。

図 10-1



女性は平日の午前・午後・夜間を好み、男性は土曜午後と休日の午前・午後を好むことが分かる。

図 10-2

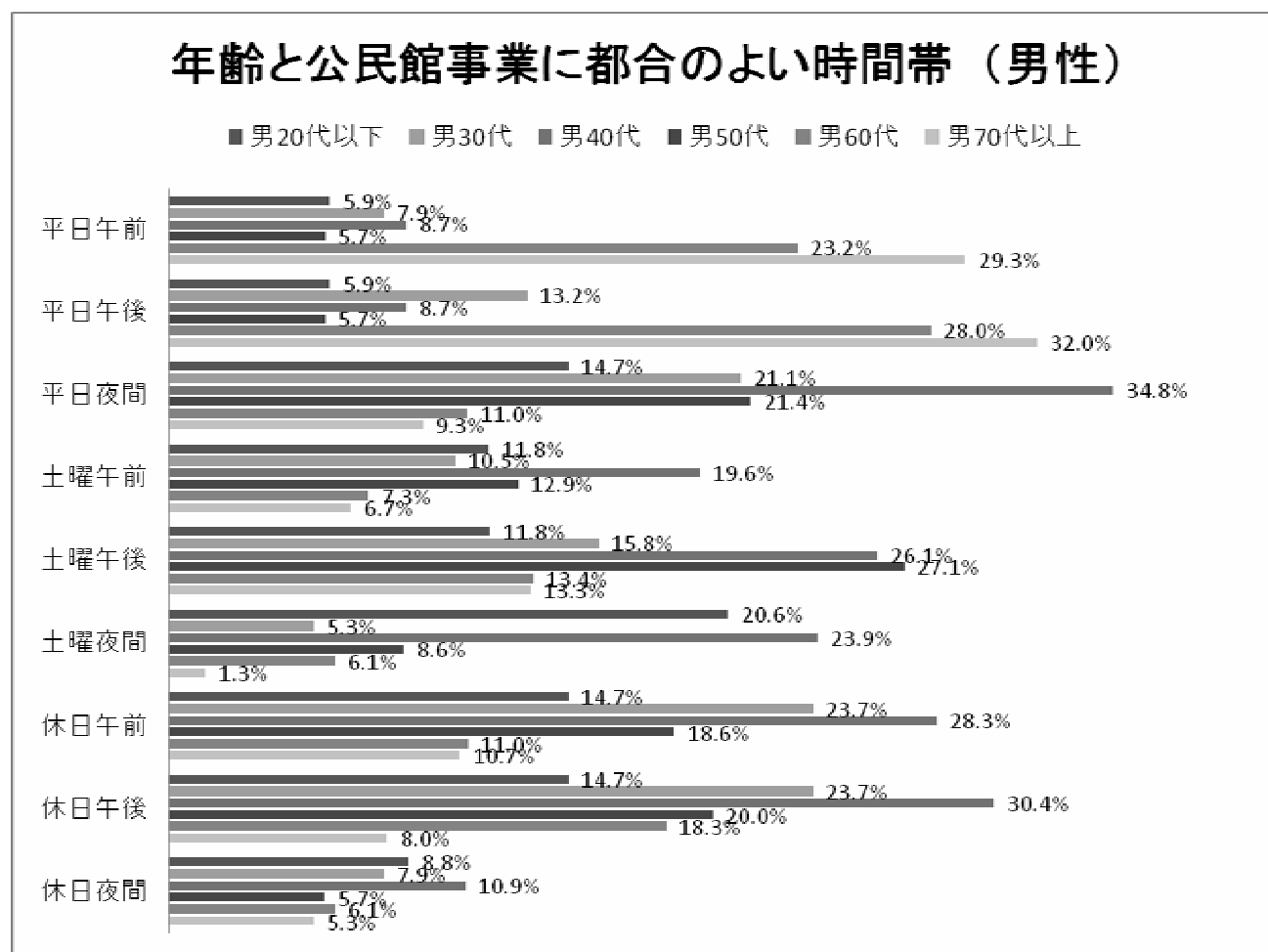


図 10-3

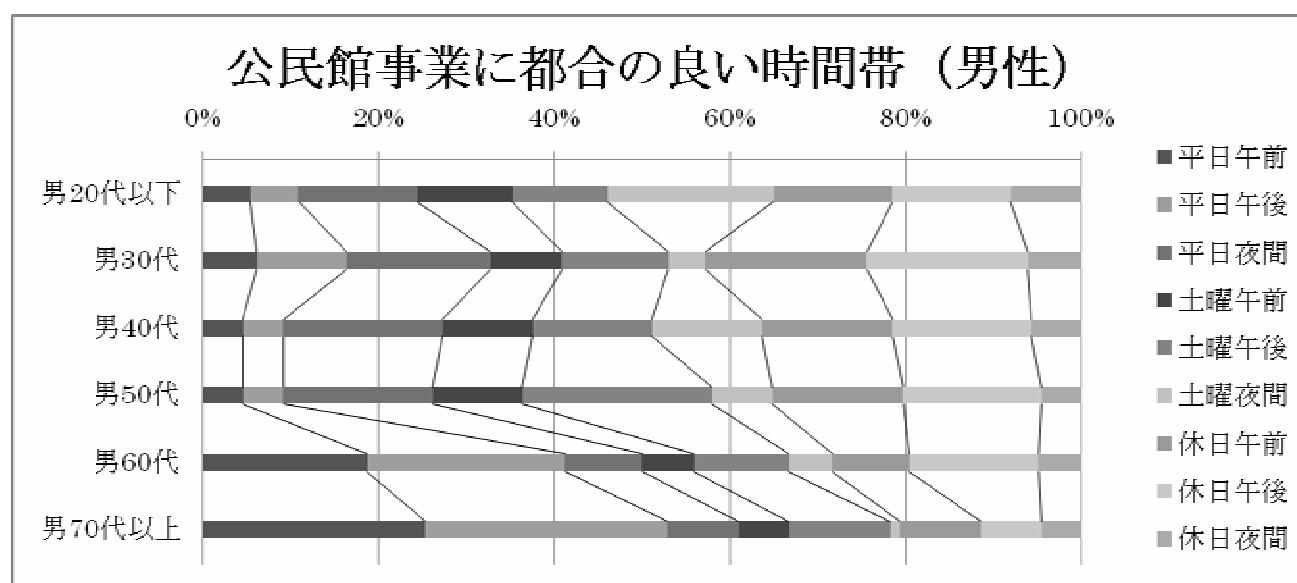


図 10-3 は都合の良い時間帯の回答の割合を示したものである。

男性 20 代以下は土曜夜間を好み、30 代から 50 代は平日夜間と土曜午後、休日午前午後を
60 代以上は平日午前・午後を好むことが分かる。

図 10-4

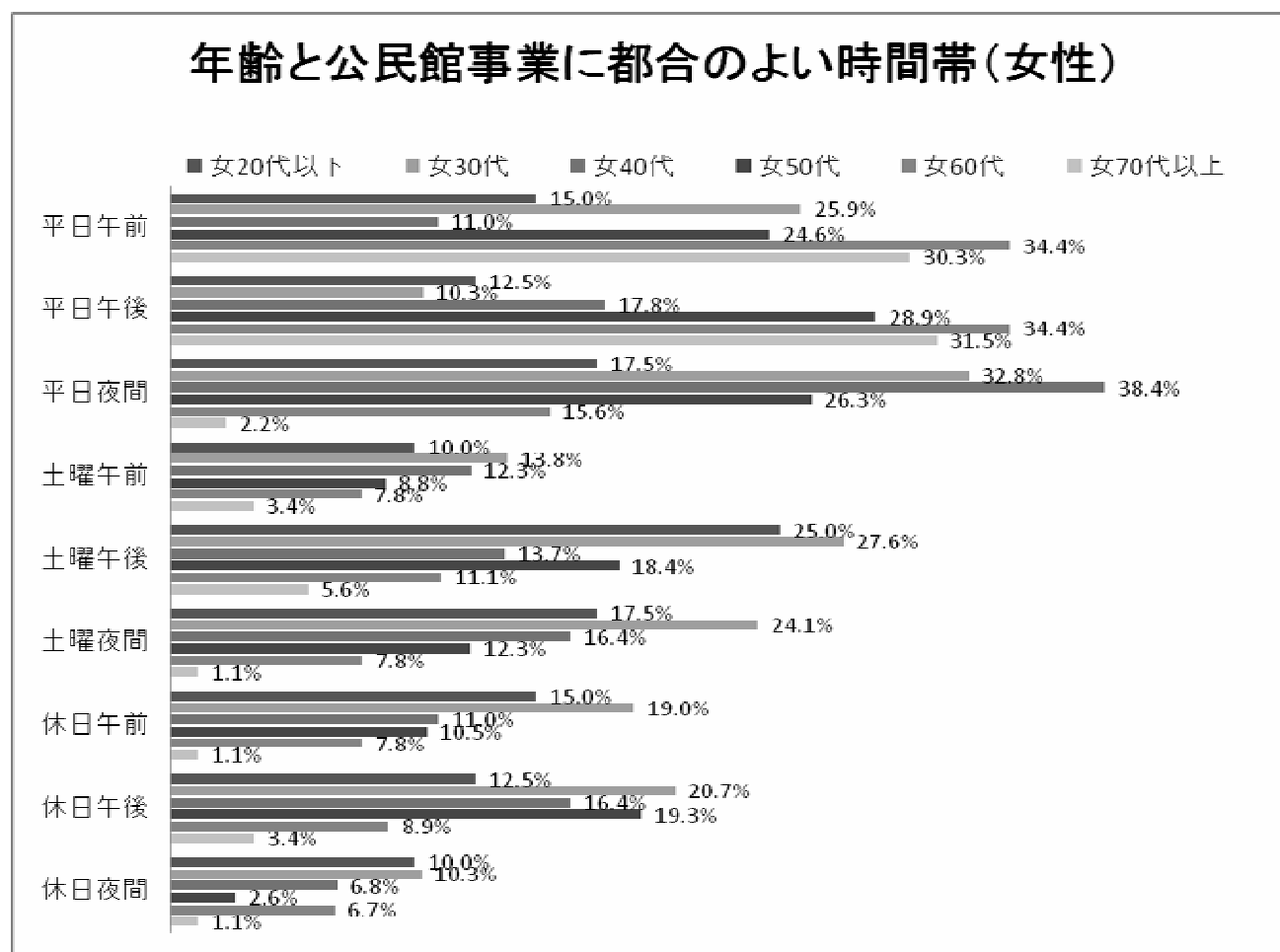


図 10-5

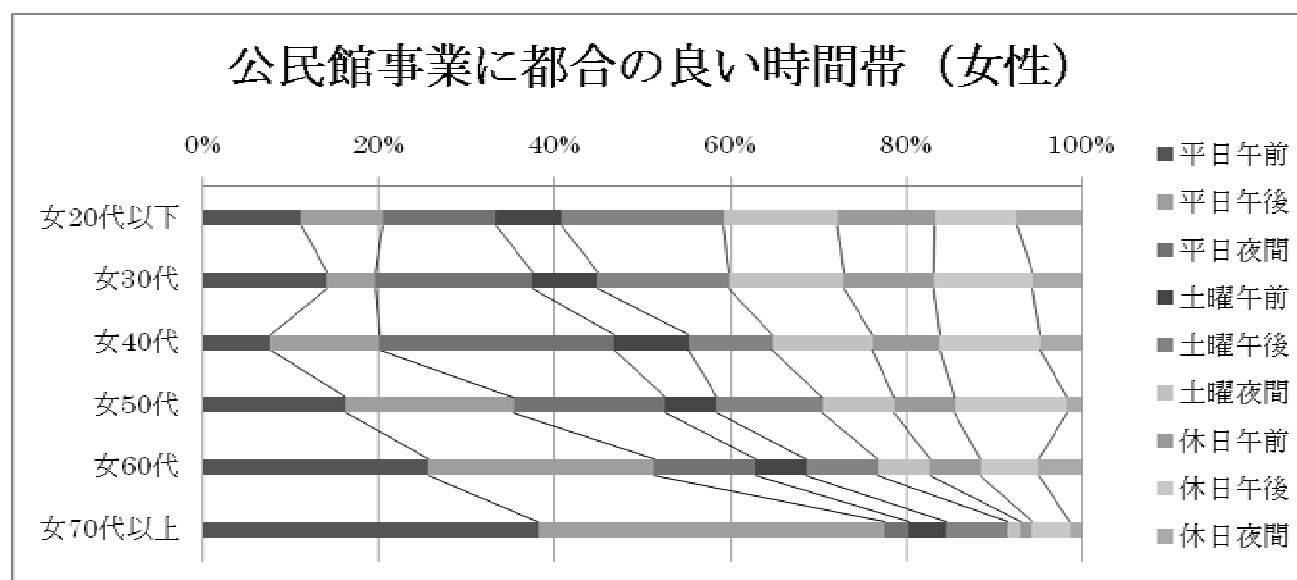


図 10-5 は都合の良い時間帯の回答の割合を示したものである。

女性 20 代以下、30 代は平日夜間と土曜午後を好み、40 代は平日夜間を、50 代は平日午前・午後・夜間を、60 代以上は平日午前・午後を好むことが分かる。

② 職業別

図 10-6

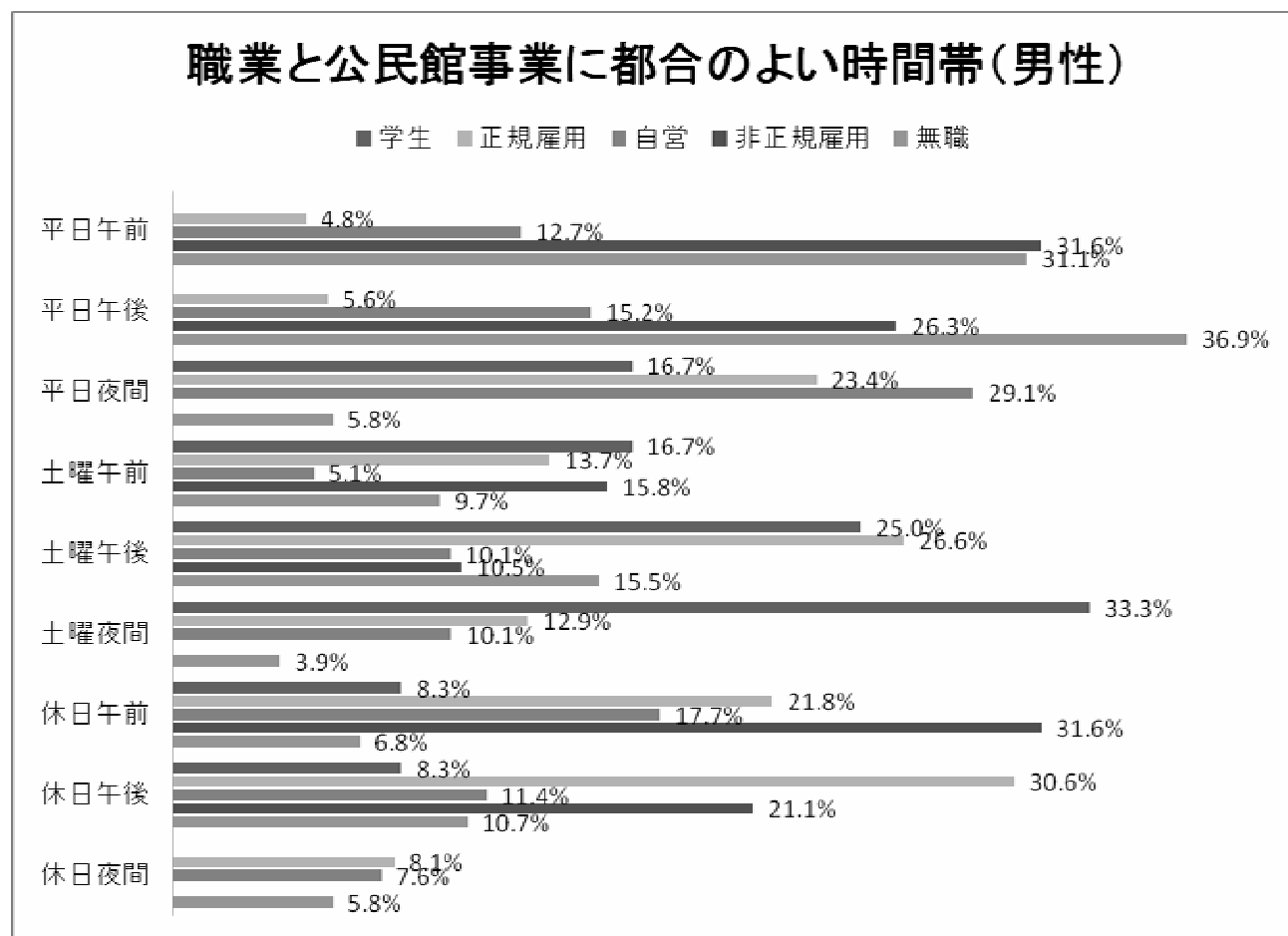
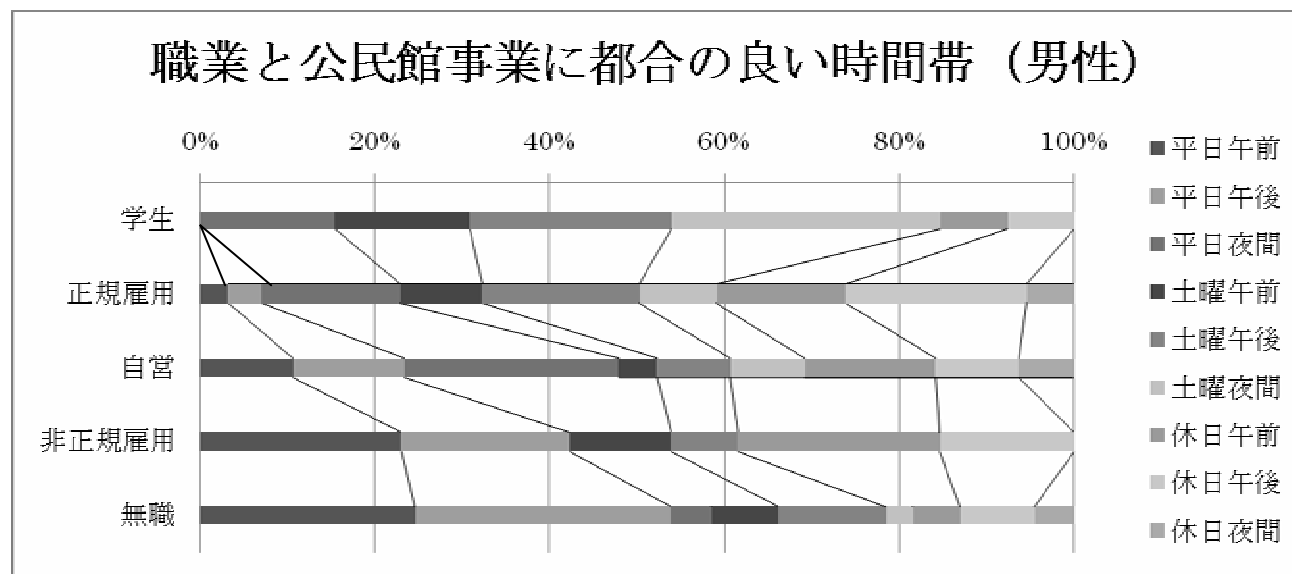


図 10-7



男性の学生は土曜の午後と夜間を好み、正規雇用者（会社員・公務員）は土曜と休日の午後を、自営業者は平日夜間を、非正規雇用者は平日午前・午後と休日午前を、無職の人は平日午前・午後を好む。

図 10-8

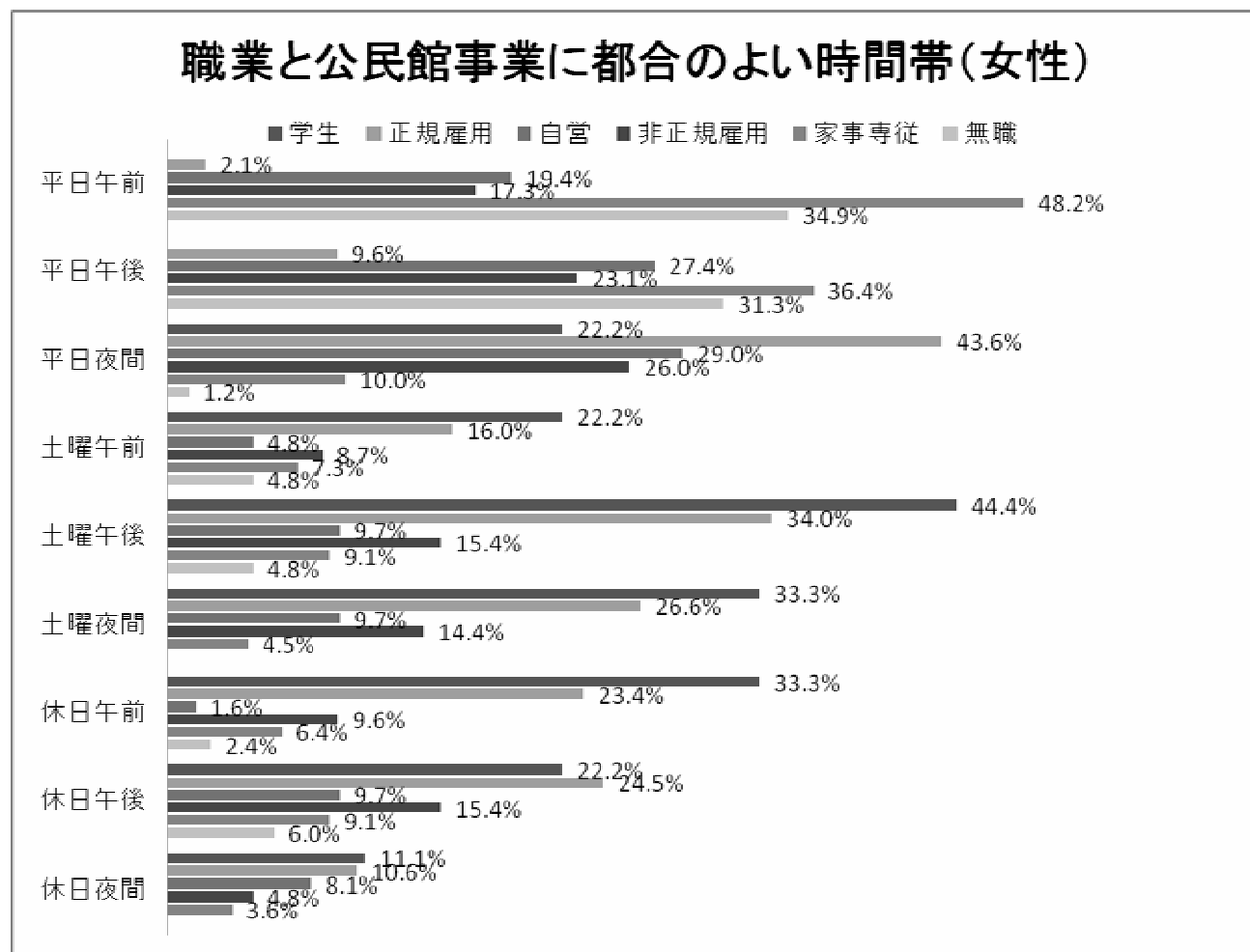
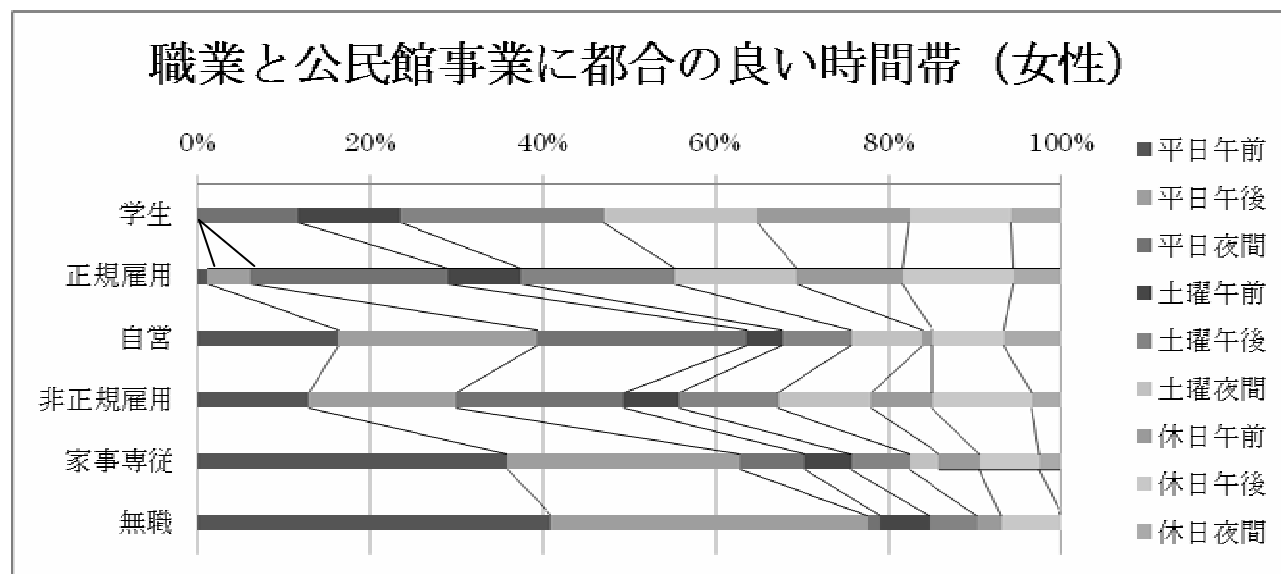


図 10-9



女性の学生は土曜の午後を、正規雇用者（会社員・公務員）は平日夜間と土曜の午後を、自営業者は平日午後と夜間を、非正規雇用者も平日の午前・午後・夜間を、家事専従者と無職の人は平日の午前・午後を好む。

③ 地域別

図 10-10

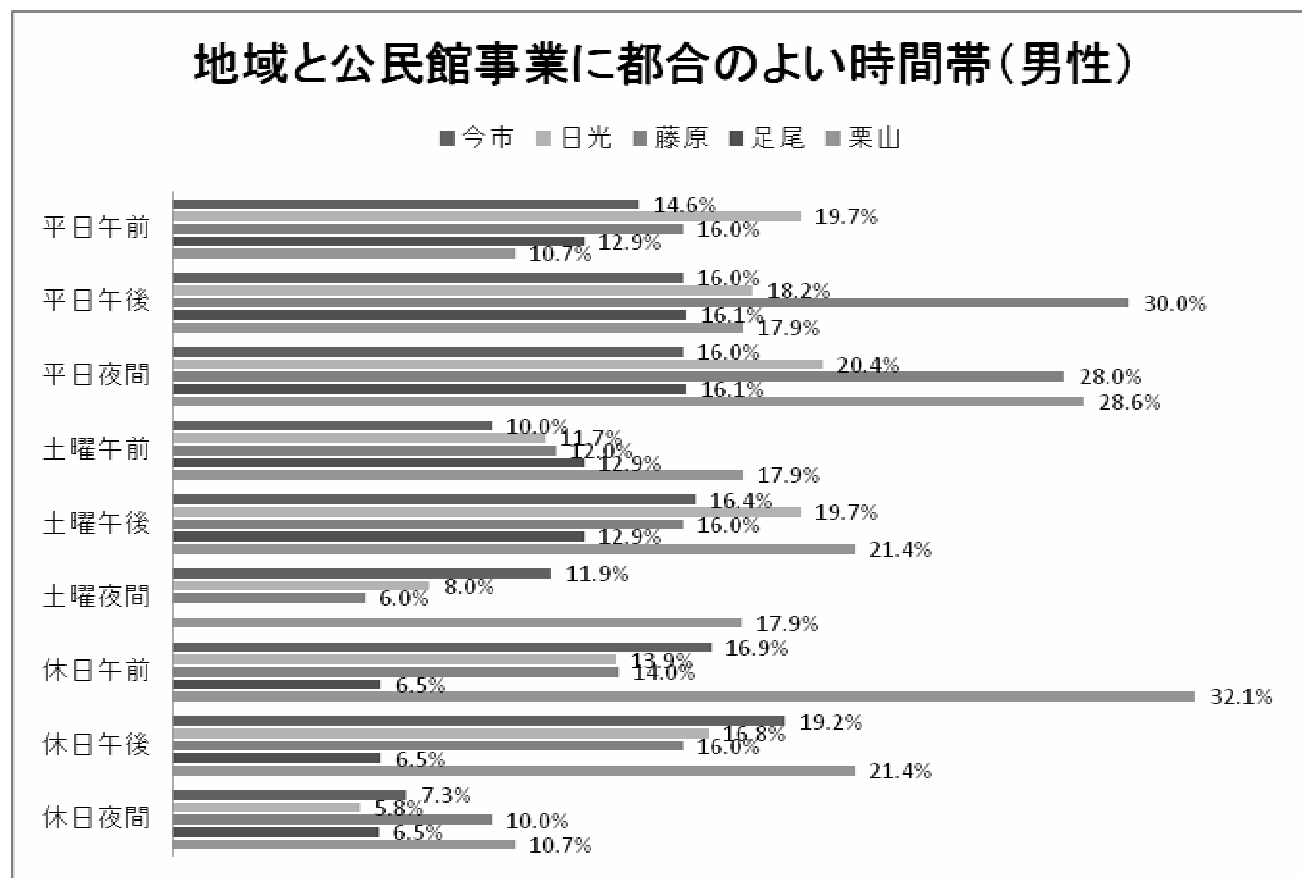
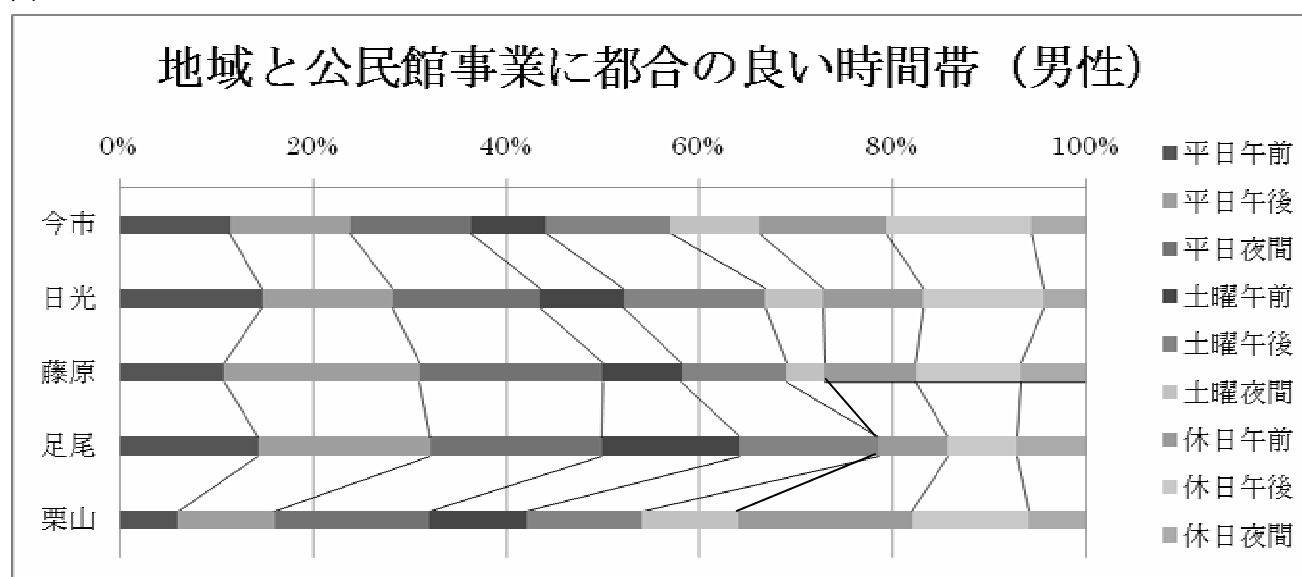


図 10-11



男性を見ると今市地域はどの時間帯もほぼ同じように好まれ、藤原・足尾地域は平日の午後と夜間が好

まれる。

日光地域は今市地域と藤原・足尾地域の中間程度。栗山地域では休日午前が好まれている。

図 10-12

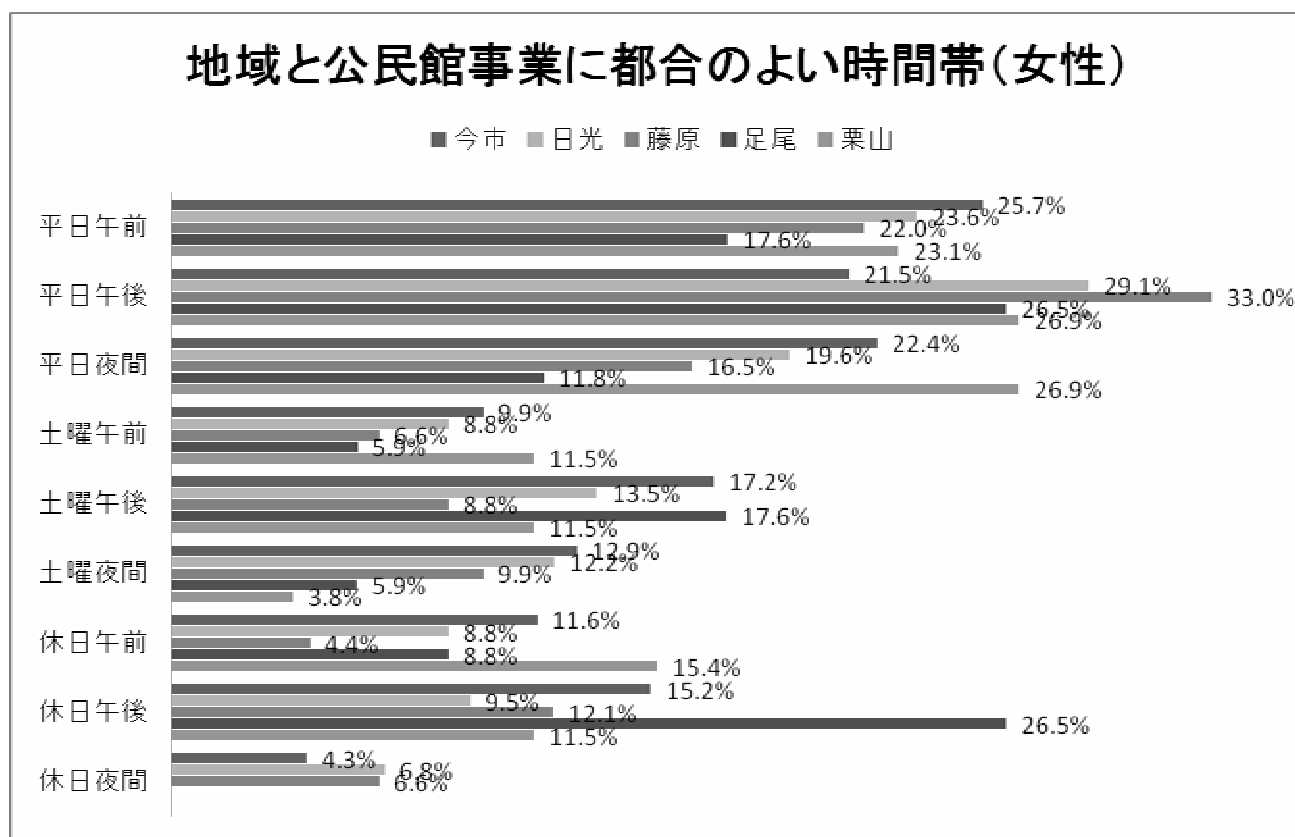
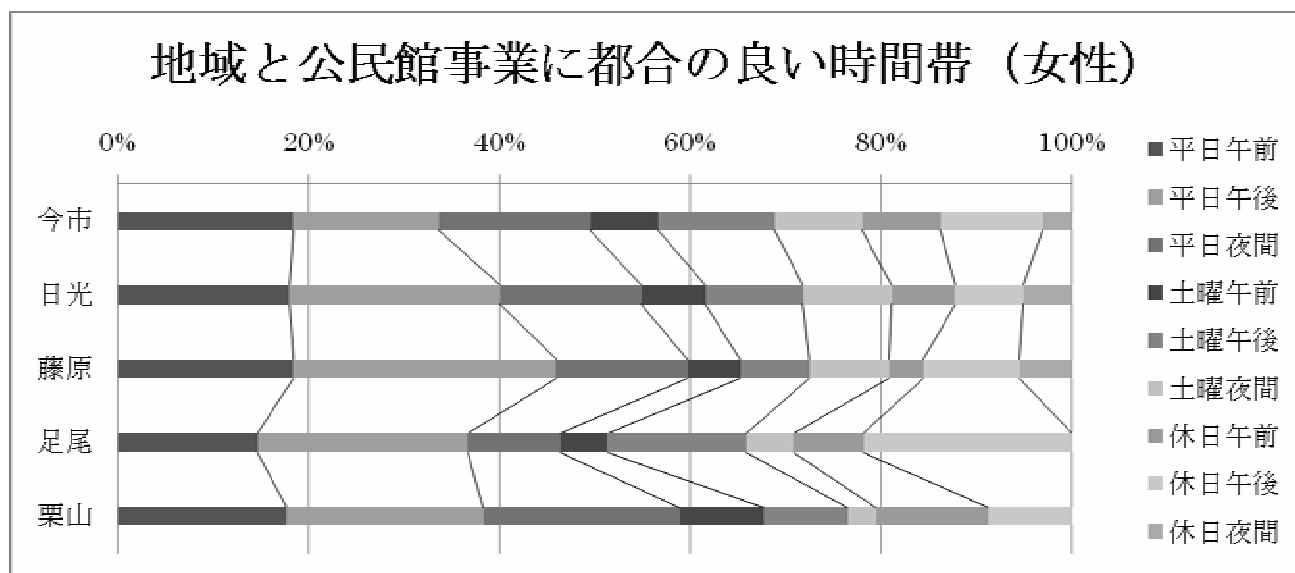


図 10-13



女性では藤原地域で平日の午後が特に好まれ、足尾地域で休日の午後が特に好まれる傾向がある。

第三章 まとめと結論

1. 年齢・性別ごとの特徴

① 公民館利用

- 市立公民館は 20 代、30 代にあまり利用されていない傾向にある。
- 公民館利用の中心は、女性は 50 代から 70 代、男性は 60 代から 70 代である。
- リピーターは女性が男性の倍近い。
- 男性は集会の、女性はサークル、作品鑑賞、公民館主催講座の利用が多い。
- 40 代は集会の利用が、60 代はサークル、講座の利用が、70 代は作品鑑賞の利用が多い。

② 公民館講座

- 男性 20 代から 50 代はあまり参加していない傾向にある。
- 女性の利用は年齢が上がるにつれて徐々に増えていき 60 代がもっとも多い。
- リピーター的利用は女性は 60 代から 70 代、男性は 70 代が中心。
- 講座の不参加理由は男性は講座にそもそも興味がないなど直接的、
- 女性は一人での参加に抵抗があるや、決まった人だけなど人間関係的理由が多い。
- 女性 40 代以下、男性 40 代は人間関係的理由と忙しさで、
- 女性 50 代、男性 30 代以下と 50 代は忙しさだけ、
- 男女とも 60 代以上はそもそも興味がなく、健康不安などという理由が多い。
- 50 代までは女性のほうがよりアクティブな講座に参加。
- 60 代以降は男性のほうがより多様な講座に参加。
- 男性はより社会的な性格を持つ講座を希望している。
- 女性（30－50 代）はより個人的あるいは中間的な講座を希望している。

- 男性でも 20 代以下と 50 代はどのような種類の講座への関心もなく、女性では 70 代以上が公民館講座に無関心であり、リピーター層と二極化の傾向が見られる。

③ 生涯学習

- 男性 40 代は地域の集団的な生涯学習に現在もっともよく参加し、様々な種類の生涯学習に関心を持っている。
- 女性 30 代、40 代は集団的な生涯学習以外に独学の生涯学習もよく行っていて、様々な種類の生涯学習に対して積極的である。
- 女性 50 代は現在はまだ参加できていないが意欲は旺盛である。
- 男性 20 代以下と 50 代、女性 70 代が生涯学習にもっとも消極的である。

2. 職業ごとの特徴

① 公民館利用

- 男性は職業ごとにあまり大きな差はないが、女性は職業によって利用に差が大きい。フルタイム非正規就業者の利用が男女とも少なく、無職の女性ではリピーター的な利用とまったく利用しない人たちの二極化が見られる。女性で市外に勤めている人はほとんど公民館を利用できていない。

② 公民館講座

- 講座参加でも男性は職業ごとにあまり大きな差はないが、女性は職業によって参加頻度に差が大きい。女性で年に一度も参加していない人の割合が高いのはフルタイム雇用者（正規雇用、非正規雇用とも）で、逆に年に一度は参加している人の多いのは自営業（特に農林漁業）と家事専従である。リピーターが最も多いのは女性は無職で、男性はパートタイム就業者、次に無職である。
- 希望講座は、女性の被雇用者（フルタイム・パートタイムとも）は特に個人的な性格を持つ講座への関心が強く、女性自営農林業者は他の男性と似たような社会的性格の強い講座への関心が強い。
- 学生（男女とも）、女性無職、男性フルタイム非正規雇用就業者は希望する講座が少ない。

③ 生涯学習

- 男性パートタイム就業者、男性自営商工業者は集団的な生涯学習をよく行い、
- 女性自営農林漁業者は集団的な生涯学習以外に、有料の学習機会も積極的に利用している。
- 女性パートタイム就業者および正規雇用者は、現在の生涯学習実践は平均的だが、今後の生涯学習にもっとも積極的。
- 女性無職、男性フルタイム非正規雇用者、男性自営農林漁業者は現状も将来に関しても、もっとも消極的。

3. 居住歴ごとの特徴

① 公民館利用

- 日光市在住 10 年から 20 年の女性（40 代が多い）は、年 1 回以上利用する人の割合が突出して多い。

② 公民館講座

- 男性では、18 歳以降に日光市に転入し、在住 10 年以上の人の利用が活発である。
- 女性では、やはり 18 歳以降に日光市に転入し、在住 10 年から 20 年の女性の利用が突出して多い。

③ 生涯学習

- 18 歳以降に日光市に転入し、在住 20 年未満、および 5 年間以上の一時転出者の人の生涯学習が活発。

4. 地域ごとの特徴

① 公民館利用

- 栗山地域の利用が多く、藤原地域の女性の利用が少ない傾向にある。
- 特に栗山地域で作品鑑賞としての公民館利用者が少ない傾向にある。
- 栗山地域の女性と足尾地域の男性で年 1 回以上の参加が多い。
- 足尾地域と栗山地域で地理的不便を訴える理由が突出していた。

② 公民館講座

- 今市地域はボランティアが多い。

- 日光地域は教養・体験活動・育児教育が多くボランティアが少ない。
- 藤原地域はスポーツが多く、育児教育に参加した人が少なかった。
- 足尾地域ではまちづくり、趣味芸術は多いが、体験活動、社会生活、健康知識の講座に参加した人がいなかった。
- 栗山地域は社会生活が飛びぬけて多く、育児教育も多い。
- 栗山地域では社会的講座への希望が多く、藤原地域では個人的講座への希望が少ない傾向にある。

③ 生涯学習

- 足尾地域で生涯学習、実践なし・予定なしの回答が多く見られた。

5. 結論

日光市において、市立公民館は男女ともに広く利用されているが、サークル、講座などでのリピーターの利用は50代以上の女性に偏っている。また30代以下の男女にはあまり利用されていないことは今後の課題といえる。若者を対象としたイベントなどで、まずは公民館の存在自体を認知してもらうことが必要だろう。

公民館講座に関してもやはり、リピーターの利用は高齢者に偏っている。40代以下の女性については、「決まった人だけが参加している」というイメージを覆すことによって講座への参加を促すことが可能であるはずだ。

男性40代と60代については、講座に関する情報が不十分であり、これらの年代層が目にしやすい形で情報を伝える必要があるだろう。

女性70代以上の利用は二極化しており、特に地理的なアクセスの問題を解消する必要がある。

生涯学習に関しては、男性50代と女性70代以上がもっとも消極的である。

特に男性50代に関しては、同様に働き盛りの年代の男性40代は生涯学習にとっても積極的であり、50代の問題は世代的な性格もあると考えられる。

10年以内にその多くが退職し、まちづくりなどにもっとも大きな力を期待される年代層でもあり、行政からも何らかの働きかけが必要だと考えられる。

地域的にはそれぞれの地区ごとに性格の違いが目立ち、それぞれの地域のニーズに応じた公民館運営が求められるだろう。

【自由意見】

《20歳代男性》

・子どもたちが安心して生活できる町。モラルのある町。人の子を怒れる親の教育。またそれを受け入れることが出来る親・子供との関係づくり。 ・軽音楽、バンドなどが出来たら良い。(自分も楽器をやっているの) ・日光市には映画館が無いので映画鑑賞をやっていただければ幸いです。
・公民館会議室を利用申込みする際にインターネットから申込みができるようになると便利である。
・何もやらなくてよいので、税金をムダにしないでほしい。
・高額な手当を支払い、有能な講師を使うべきです。 ・健康（ヘルス）に関する、講師はレベルが低いと思います。内容を見るだけでそう感じます。
・私たちが理解出来て、いつでも、どこでも、きがるにいけるようにしてもらいたいと思います。 ・わからないことがあれば、おしえてくれるようにしてもらいたいと思います。 ・これからきたいしています。がんばってください。
・就職難なので資格の講義があるといい。

《30歳代男性》

・公民館活動について、正直あまり知りませんでした。もっとより多くの人に知ってもらうために、宣伝等、アピールした方がいいと思います。自分は音楽活動をしており、趣味として大変満足しております。ですので、あまり他の事には興味がなく、音楽1本でいきたいと思っております。ただ、勉強はしたいと思いますので、これから前向きに考えていきたいと思います。
・やりたい活動 ホットヨガ、中禅寺湖でカヌー、快眠のための健康教室 ・あれやこれやとイロイロな活動があるよりも、テーマがあって少しは、片寄った内容でもいいと思う。あまりありすぎると何だかどれに参加していいのやらわからなくなる事もあるので…
・子供と親のために（最近の親子は触れ合いが不足） ベビーマッサージ、チャイルドマッサージ（子育てサークルでやったとき、とても良かったと妻が言っていたので） ・子供と一緒に楽しめる講座 何かを体験し（作ったり）楽しむ感じのもの。 ハーブやアロマで何かを作る（香りは心身に良いと聞いたので） 木や葉、自然の物を使い、クラフトづくり 食育（とても大切だと思うので） ヨガや体操
・社会に出る為、仕事をする為に必要な資格を取得できるような学習や講座を開いてほしい。 ・夕方、夜間など選択の広いものが好ましい ・子供のいる人や時間を自由に使えない方でも行くことが出来る学習を行ってほしい。 ・どちらかと言えば、高齢者向けの講座・学級が多く参加できない。

・最近クライミングを始めました。日光にはクライミングを練習できる施設がありません。日光連山には多くのハイキング客が来たりするので、もう少し登山（ハイキング）などの講座などを行ってみてはどうでしょうか？できれば、クライミングジムを作ってもらえればありがたいと思います。県外からの人も多く訪れる日光なので、もう少し地域の人達も興味をもてる登山の案内があるとよいと思います。
・公民館での講座やイベントが、市民にとって必要なのか疑問。災害時の避難所としての利用だけでいいと思う。

《40歳代男性》

・昭和から平成（現在）までの体験談、特に戦前・中・後について、写真や映像を含め話を聞きたいと思います。
・公民館まつりなど（文化祭・収穫祭等）気軽に足を運べるイベントがあるといいと思います。
・社会人向けに初級から英会話教室を開講してほしい。
・どんな活動をしているのか情報を出してほしい。
・学校では、地域支援本部事業が始まります、その中で、学校が事務局となるのは難しい。ぜひ公民館に社教主事をおいて、地域支援本部事業の事務局になってもらいたい。学校教育と社会教育の間をうけもつものは、公民館しかあり得ない。
・日々の活動ごくろうさまです。 さて、趣味やスポーツ等の公民館活動を希望する方も多いと思いますが、私は将来必要と思われる内容を企画してほしいと思います。その内容とは、私が感じているのは語学です。日常会話能力です。英語・中国語・韓国語でしょうか。そのような内容を少しずつでも長期に渡って実施してほしいと思います。税金や法律なども必要と思いますが、私は仕事の関係で語学の必要を痛感しております。できれば日光市をあげて実施みてはいかがでしょうか？その拠点を公民館とするのです。外国人を職員としてみてはどうでしょうか。
・活動の曜日が平日が多いのと、平日の日中が多く、働く者にとって参加できる設定となっていない。 ・公民館に限らず、公共施設の予約や利用がしづらい。また、ネットやポール、マシンの様な設備も管理状態が悪く、ガッカリしたことがある。 ・公民館活動に差がある地域がある。他の地区への参加は多少気が引ける。
・地域（町内と町内）の活性化のために行政による強制的な参加をうながしたイベントが必要であると思う。
・堅苦しくない様なレクリエーション。バザーや出店などある。
・若い人のために、就職相談、職業相談などを行ってほしいですね。
・公民館を借りてサークル活動などを行いたいが、夜9時までなど時間制限があること、常連に人たちが独断的に使用しているところもあるので使いづらい状況である。
・既に実施しているかもしれませんが、市内の企業が社員を対象に行う講座やイベントに公民館の施設を利用してもらってはいかがでしょうか？ ・「優先的に」というのは難しいとは思いますが、企業が就業時間内に行えば比較的利用頻度の少ないと思われる平日の昼間に施設が利用できるのではないのでしょうか。

- ・スポーツ施設がある公民館もあるので各種スポーツ大会も催せると思います。
- ・職場の人たちと公民館に足を運べば「初めて」という不安感も少なくなり、公民館の掲示物などで一般の講座や講習の情報を同時に目にするので、「情報が得られない…」「ひとりでは…」という問題も少しは解消するのではないかと思います。

《男性50歳代》

- ・交通が不便で駐車場の確保が難しい。多数のイベントには市営バス等の送り迎えが必要では？
- ・2011年7月24日、地デジ対応によるテレビ・アンテナe t c 詳細説明講座。特に費用面で大きな違いが生じるので市民の関心も高いと思われます。
- ・(行ってほしいイベント)
大規模な交通規制を年に数回、定期的を実施し、日光市の住民や観光客も含め、多くの人たちが滞留し、にぎやかに楽しむ行事を行ってほしい。現状を見ると「自動車」がにぎやかに行き交う町づくりになっており、「人」がにぎやかに行き交う方向にすべきではないかと思います。
利害関係、既得権、マンパワー、予算、実施後の成果見込み、具体的な行事計画づくりなど、いろいろな困難な問題があります。イメージとしては鎌倉の小町通り商店街を参考にしてもいいでしょうか。
まず、人の活動ペースに合わせて集まり、行き交うことのできる時間と場所を提供し、そこからでてくる話題や希望から集約されるものが「公民館」活用の一つになるとも考えています。
- ・行政が真剣になって考えるのが役割であり、アンケートにもとずいて「やればよい」とはあまりにも市民をグローしている。
- ・公民館活動もインターネットでわかりやすく広報活動をすれば良いと思います。図書館もインターネット検索が十分にできるので非常に助かっています。公民館も地元住民に活用しやすいようにした方がよいのではないかと思います。組内の特定に人達が使っているような気がします。子供たちの勉強の場所にも開放してみたら良いと思います。
- ・公民館活動とは別かと思いますが、夜間照明（ナイター設備）のあるグラウンド、コートなど合併前は予約等取れて使用できていましたが、合併後は学生などで予約も取れず利用できません。市民全員が公平に利用できる様、システムを考えていただけたらと思います。
- ・公民館だよりやイベント情報などを新聞のチラシ（広告）に入れてほしいと思います。新聞なら毎日見ますので…
- ・中央公民館、地域の公民館での年間行事スケジュールを広報等で3月に掲示してほしい。
- ・そばうち講習会等定期的に開催してほしい。
- ・芋煮会並みの地域交流会等計画してみてもいい
- ・野菜づくり、土づくり講習会
- ・地産地消講習会
- ・盆栽、さつき講習会
- ・料理教育
- ・介護、育児講習会
- ・年金、定年後の暮らし方

・税の問題 ・デジカメ講習会、自然を楽しむ ・水墨画、水彩画講習会 ・俳句、 ・日光自然ウォッチング
・パソコン、インターネットの講座を開講してほしい。 ・講座の情報を知りたい。

《60歳代男性》

・新日光市になってから、月よう日の利用を断られているが何故ですか？
・少子化、少子化と言われているが、私の知っている廻りの人も独身者が多いですね。各自治体が同じくして出会いの場を作ったら良いと思います。
・とにかく、時間がないので、出かけて、学習やら、スポーツの時間が取れないので、自宅付及び近隣でスポーツ、学習をするようになってくるでしょう。ただ、こまりごとや法律、人権問題等は公共で、支所にも専門家を、対応してほしい。※専門家とのコンタクト方式でも良いと思う。
・現在おかげ様でまだ仕事をさせていただいております。退職した時には又考えも変わると思います。その時はよろしくお願いいたします。
・例幣使街道の歩行者天国で、茶屋、みやげ屋、カゴ、馬車、自然鑑察 ・日光線に蒸気機関車
・現在、今だ忙しい日々の自営業者ですので、趣味、教養の研鑽を積む時間がありません。将来、仕事から無事引退する事が出来たら、今のスポーツ関係のイベントに参加したい。 ・シニアのアイスホッケー、ゴルフ大会、あまり無理をせずに長い楽しみになれるように参加してみたいと思っています。
・講座の情報を具体的に得られると良い。 ・説明不足の点もあるのではないかな？
・俳句、短歌、書道等の講座があれば参加したい。
・最近パソコン教室が無い様に思われますのでよろしくお願い申し上げます。
・趣味、芸術的な講座、教室は継続して永く続けられる様な制度を作っていただきたい。
・現在仕事を持っており、趣味の指導をしている関係で時間不足で参加出来ないが、公民館としての色々行事や講習会を行うことは非常に良いことです。地域の為になる事を沢山行ってください。 ・老朽化が進んでいます。若い人～老人まで色々な人の参加出来る事を沢山やってください。お願いします。
・各種講座を実施しているとありますが、その担当の先生方がどんな人なのか何を主力におしえるのか、もっとOPENにして紹介してもらいたい。広報では何名募集のみで終わっている様な気がします。私自身もまだまだ勉強中ですが、門を大きく開いて気軽に入れる様お願いします。ありがとうございました。
・公民館活動に対する費用の支援を行なってほしい。
・老人が身体を動かして身体と心がリフレッシュするような運動講座（遊びで本気度）を希望します。

・個人的なイベントに利用出来るのですか？利用出来た時の料金は？
・トレッキング教室

《男性 70 歳代以上》

・公民館活動すべて知っている。下記の件で、1. 公民館、1. 社会教育、1. 人権教育（大きく分けて此の様になっている） ・中央公民館利用者の管理業務として臨時職員として約 5 年程勤務して居たものです。現在の状況はわかりませんが、公民館活動全て知って居ます。 お茶、日本舞踊、カラオケ、歌謡曲、暖房、日光彫り、花、会議、ダンス、特に社交ダンスは自分は大勢の方を個人教授していた、山岳会、他知れず、旧今市公民館は全然知らないけど。
・参加の希望はあるが、老齡につき、健康上に不安がある。耳、足、腰に不安あり。
・杉大写真講座…花の撮影、IT 講習会…年賀状作り、登山…断念 以上学んでリタイヤの生活に生きがいと張り合いを感じました。 現在は身体を毀し、活動が出来なくなりましたが、趣味として継続しています。学習の有難さを分野ごとの思い出が浮かび忘れられない一時が懐かしさにひたっています。
・私達夫婦は車運転が出来ないので、行事があっても出席できないのが事実です。ガッペイして大きくなった事によりサービスも少なくなって来たように思います。もう少し、目を届かせてもらいたいです。
・音楽活動を活発にするよう講座（演歌・民謡・童謡・歌謡・クラシック等）と巾を広くしてください。
・今回のアンケート結果を受けて、身近に存在する「(財) 栃木県農業振興公社」と「(財) とちぎ生涯学習文化財団」の知恵と経験を借り、相談して日光市民にはどんな講座がよいか検討実施してください。 例えば、「日光市を知る講座」 1. 世界遺産と日光市 2. 文化財の見方と日光市の文化財 3. 日光市の産業①米と麦②野菜③果物④花⑤畜産⑥林業⑦酒⑧観光⑨温泉…など 4. 日光の自然 5. 日光市で活躍する「まちづくり」の人々など… ※1 講座原則。1 日 2 時間、3 ～ 5 回コース。見学多用。 中央公民館だけではなく、他の公民館でも実施。 今回の市民アンケートが、唯単にアンケートを取ってその意見を集約し、発表して、これを参考に今後の指針としますで終わらないことを切望します。2009 年度の「公民館活動」の具体的実行に移そう！！ 10 実施して 1 ～ 2 回成功であれば全体として大成功！！ 成功するか否かは告知で決まる。広報に載せた、パンフレットを配布しただけでは告知したことにならない。告知方法にも知恵と汗と苦がなければ成功はないでしょう。
・私は消極的な性格なのかあまり活動的でないので、特に意見はありません。広報を見て興味を覚えたものに参加させていただきます。一度パソコン教室に参加致しましたが、失念したところが多く、

できればまたと思っています。
・地元栗山でも公民館は有りますが、余り利用する集まりが有りません。合併したとて、日光公民館迄はいきません。
・私はじん肺（労災）心臓が弱いため、公民館活動は行えません。
・参加希望の多い行事については、回数を多くして下さい。（申し込んでもなかなか参加できない。） ・設備を充実してほしい。
・私は地域の老人クラブに加入しています。老人クラブの事務局は社会福祉協議会が担当しています。生涯学習や老人学級等々の面で公民館を管轄する教育委員会（地区にあつては1教育事務所）と連絡をとりあつて作業を進めているようですが、現今の学習事業は合併前の旧村時の事業を延長した範囲内にて行っているように見受けられます。これは新期に事業を起案しても予算（お金）が付けてもらえないから新期の事業が出来ないのだと感じています。 市の財政が用意でないことは広報やその他の情報などで大よそ承知はしています。随つて教育委員会も同様な状況であると認識していますが、合併前の事業をただまん然と進めるのではなく、合併によって環境も変わってきたのですから何か新期の老人クラブにあった事業を起こしていただきたいと思います。公民館を老人クラブが単独で活利用することは仲々難しいかとは思われますが、教育委員会との指導や連けいによって個人々々の公民館の利用度が多くなるかと思われまますので御一考くださるお願い申し上げます。
・日光市瀬川に来て6年目です。何かお手伝い出来たらいつでもいいからこえをかけてください。いつでも手つだいします。
・公民館事業に予算があり、募集人員の定員は仕方有りませんが、ある公民館の配慮には感謝しております。定員オーバーした時に前期と後期に分け申し込み者全員が参加出来ました。 又、常連者の申し込みのなか、新期応募者を優先にしている公民館もあり、定員に拘らず臨機応変に対処してくれたら参加者が多く利用できるのではないかと。
・本年度、高令者対象の講座（出前）が開かれましたので、参加してみました。健康づくり、健康維持のためのストレッチとても楽しく、日常生活に役立っています。 ・絵画の展示会に出品への推進の熱心さに、意志がなかったのに、つい出品し、継続していますが、公民館の担当者に感謝しています。 ・高畑の自然の家跡地に文化関係の施設（E x ・美術館）を建ててはいかがでしょう。 ●碁、将棋の推進館 ●学習、趣味～講座、自主学習
・現在体調不良の為、一切の活動を休んでいます。
・市の財政が心配です。
・私等の様に高齢者と成ると今の社会は人間不信、なぜならば今迄の人生で昔は他人の前で公言する人はそれなりに教養を身につけ、社会に恥じない生活行動に責任を以って望んでいた。だから講演を聞く前に講師を尊敬していたものだが、其れが現代の人はどうか、法を守る人が自ら法を脅し、子供、青年に良し悪しを教える人が自ら目、耳を疑う行動を起し、大事な人生を棒にふるってしまう。だから言っている事が先ず信用出来なくなってしまう。社会が色々な面で進歩する事は大事なことであるが、日本人が持つ良い面を捨てて改革しなくてはならない。日本の国は日本人が守り（愛国

心) 悪くは皆で守り幸せは自分だけでなく皆んな幸せになる事を望む様な講演講師を望む物である。今迄の様な名ばかりの講演会では感銘をえることは出来ないし、足も向かない。

- ・この地域に住んでいるからこそもっと地元（この地域）の歴史、自然、環境保護等について知識を深めたいと思うし、又深めるべきであると思う。
- ・我が身をもって体験（感）する機会を創ること、又公民館活動に一環として取り込み（機会を多く持つことで底が広がる）
- ・観光地（観光業に従事している者は）の人々は商いは頑張っているが、日光の歴史や豊かな自然や足元の情報をお客様に伝えられない人々が多く目に付く。

《女性10代》

- ・障害者を対象とした講座（スポーツ、レクレーション etc）を開いてほしいと思います。
- ・学生としては、休日に講座をやっていただけるとありがたい。（ダンスなどの参加したい講座がいつも平日の午前中が多いので）
- ・日光公民館での講座を増やしてほしい。
- ・CBCなどのボランティアクラブを大学生までの募集にしてほしい。
- ・一人暮らしのお年寄りの方とかが楽しくすごせるような仲間とか友達とかが出来る場所になるといいと思います。
- ・お年寄り向けのレクリエーションとか…あるといいかなと思いました。送り迎えとか…
- ・一人暮らしのおじいさんが、朝、コンビニ弁当を買っていて、とても表情が暗かったので、なんか楽しいこと見つけられればいいなあと思って書かせていただきました。
- ・私が個人的にやってほしいものは3つあります。
1つは音楽系の講座です。大人になると音楽に携わる機会が減ってしまいます。なので、音楽を楽しむ機会をもっと増やしてほしいと思い、音楽系の講座を希望します。例えば、若者や年配の方でも一緒にできる合唱であったり、ベースやギターなどでグループ演奏をするのであったりとかの講座をやってほしいです。最終的には文化会館などで合唱コンクールをしたり、自分たちグループの演奏を聞かせたりなどの発表をすると目的があっていいと思います。
もう1つはミシンの講座です。今までミシン講座というのは耳にしたことがなかったので楽しいかいなど。実際、私が最近興味をもっただけなんですけど…。勉強になるし、実用品も作れるしでいいと思います。
もう1つは、ダンスの講座です。個人的にはヨガは続かなくて。ダンスであれば、音楽があって楽しく体を動かせるし、体力もつくと思います。また、今までにはなかったものだと思うので、この講座も希望します。ダンスといっても「マイムマイム」のようなものでなくて、少し激しめのものがやりたいです。めったにダンスをやる機会がないのでいいかと。以上、3つの講座をやっていただくと、私は行きたいな…と思います。
長々と乱筆乱文でスミマセンでした。

《女性20代》

- ・ソフトテニス（無料で）

・講座、教室等の情報を得にくい。 ・ヨガやピラティスの講座を開催してほしいです。
・やはり、古武術介護について学びたいです。来年の中頃以後であれば、休みをとってでも行き、習ったことを知人に教え広めたいです。ただ、スーパーに行った時位しか地域の情報は手に入りにくいです。(自治会に入っていないので…) よく病院を利用するので、お知らせのポスターをはっていただければありがたいです。
・ヒップホップのダンス教室に行きたい…
・子供からお年寄りまで幅広い年齢層が興味を持つような講座やスポーツ活動を実施してもらいたいです。仕事をしている人が参加できる時間帯の活動はむずかしいと思うが月に2回とかでも開くと、今後、公民館活動が盛んになるのではないのでしょうか。あとは、そういった活動をしているという宣伝の仕方を少し変えていくとよいと思います。 日光市広報以外にも、若い人からお年寄りまで目につき興味をもたせるような宣伝をすると参加者が増えるのではないのでしょうか。 個人的には日光市はスポーツジムなど体を動かす施設がとても少ないので、スポーツや健康のために体を動かす活動をどんどんしてほしいと思います。メタボリック症候群の方たくさんいると思います。
・私は今仙台に住んでいて実家が日光です。仙台に何年かいて感じたことを書かせてください。 仙台は公民館や市民センターなどを利用して活動を行うサークルが小どもからおとしよりまで沢山あります。私もチアリーディングの活動を上記の施設をお借りしてやらせていただいております。これらのサークルはなかなか自分たちの力を一般の方々に見てもらう機会がないですが、仙台では市民センターまつりやイベントで精力的に出演依頼をして沢山の団体に出てもらい地域の活性化を図っています。「地域センターまつりはバザー(?)などをしているイメージだが、これらの活動を見れるんだ～」と意識変化が起きる人はたくさんいると思い、毎回足を運んでくれる人もいます。 正直言わせていただくと、日光はこれらイメージがなく、サークルや生涯学習が活動的に見えない部分があります。ゴメンなさい。活動していることを知ってもらうことが生涯学習を広げる第1歩だと思います。生涯学習を広げ継続させるためには行政側からも大きく働きかけてほしいです。特に高齢者には。(消極的になりやすい年頃なのでね。)日光には高齢化が進んでいる市だと思います。生涯学習でいきいき老後をすごしてもらいたいです。 私は日光が大好きなので将来帰ってきます。いろんな分野で日光市にがんばってもらえるよう期待しておりますので頑張ってください。末筆ながら失礼させていただきます。
・大学から講師を招いて古文や漢文を購読する講座があったら参加したいです。

《女性30代》

・広報紙を有料でもいいので郵送してくれると助かります。町内会に入っていない人(アパート入居の方等)には情報がわかりません。公共施設で広報をもらえた頃にはイベントが終わっていたりします。 ・子供とお年寄りが同時に触れ合えるイベントがあったら興味持ちます。
・イベント お笑い芸人やミュージシャンを呼んでほしい。 フリーマーケットをやる

アコースティックギター（初級）講座 P C 講座（パワーポイント、パブリッシャー使用法） バンド活動（メンバー集め、練習など） ・仕事が市外なので平日は夜間（PM7：00すぎ）だとありがたい。 ・アパート暮らしなので自治会がなく、市の広報が手に入りづらいため。講座やイベント等ネット検索できれば。
・参加した事がないのでわかりませんが、ヨガ、料理教室やりたいです。 バドミントン、バレーボールもいいですね。
・子供と一緒にやる野外活動、親子ハイキング、季節の行事
・家族で参加しても楽しい「おまつり」見たいなイベント ・フラワーアレンジメント
・スポーツ講座 ヨガ教室、ホットヨガ教室、フラダンス教室 ・陶芸教室、英会話教室、ポルトガル教室
・参加したいと思いますが、少人数の定員なので少々ためらってしまいます。参加してみたい思いは常にあるので、募集を続けて（講座を開講し続けて）ほしいと思います。費用はなるべくなら安くおさえられるとうれしいです。よろしく願いいたします。
・いつも公民館などの講座や講演会では託児所があり、見てくださっているのが本当にありがたく思っております。その時間だけは子供とはなれ、自分の事だけに集中でき楽しい時間です。 ・今後開設してほしい講座で、簡単なスキンケア、メイク、ネイル、ヘアー、ファッション講座があると楽しめそうです。あと、イベントで雑誌やTVに出てくるモデルさんによるトークセミナーやマナー講座などがあると楽しいと思います。子供が小さいとなかなか手がかかり自分の為に時間をかける事が難しく、ストレスもためてしまわない為、こんなのがたまにあるといいです。
・子育てをしているお母さん同士が交流できる場所がもっとあればと思います。今も親子の健康相談が月に1回程度ありますが、できればもう少し回数を増やしてほしいです。保健士さんの相談がなくても場所だけ開放してくれたらいいかな？と思います。
・いつかみたい講座などは時間帯が、午前や午後で行きたくても行けません。主婦対象といった感じがします。夕方から夜などの時間帯があればもっと若い人の利用も増えるのではないかと思います。
・各地域（全日光市内、町ごとに）それぞれ公民館がありますが、おもにお年寄りの集まり（老人会）がほとんどで30代、40代の若い人達が利用する機会なんてまったくと言っていい程ないので、意見と言われても解答に困る。各世帯で公民館費を払っているが、若い人達が利用することがないので支払っているのがバカバカしい。
・旧藤原町に住んでいます。週末は観光客が多く、週中は子供の学校業事など、土日は子供の部活、なかなか時間の都合がつかないです。自分の時間がとれないのが現状です。

《女性40代》

・今まで同様で良いと思います。ただ、受けたい講座があっても受け付けが月～金の9：00～17：00申し込みで申し込みできない事が多々有り。FAXでの受け付け等も行ってほしいです。人員わ

くで入れない時等、FAXにての返信などあれば良いと思います。受講が土日等の日光検定3級等の申し込みも、したくても出来ない為、よろしくお願いします。
・働いて人が参加しやすいスポーツの講座、お花の講座 etc. ・仕事によって休みが違うのですが、できるだけ色々な時間帯曜日に振り分けてほしいです。
・今は、仕事や子供の事で時間に余裕がないので、将来もっと余裕ができたらいろいろ参加してみたいと思います。情報提供をお願いします。
・以前料理講習参加させていただき初めて作る料理にチャレンジし、楽しく過ごさせていただきました。私の場合、毎週など決めて参加すると言うことは、少し無理なので、1回限りの講座なと思います。
・私たちの回りには素晴らしい自然、生態系を持つ、奥日光の山々、森、湖、野生動物があります。これらの事にふれたい知りたいと思ってもなかなか機会がありません。最近、熊の出没もあります。しかも、熊も生態系の1つです。これを壊す訳には行きません。これを踏まえて専門の人達を招き勉強会を行う様な講座があってもいいのではないのでしょうか？例えば軽井沢町のような自然動物の保護活動など日光市も四方が山に囲まれた環境で動物と人、“共存”無視できないと思います。
・フォークダンスのサークルが出来たらうれしいです。
・参加しやすければしてみたいです。 ・まったく関係ありませんが、最近あちこちでゴミを燃やしている人が多すぎです。田畑の草はわかりますが、ゴミのにおいはキツイです。
・英会話を学び、外国の観光客の方々と何かコミュニケーションをとってみたい。 ・日々運動不足のため、スポーツをしてストレスをなくして、健康でありつづけたい。
・日常英会話の教室を希望、外国人の方々とコミュニケーションできるイベントに参加したい。 ・外国人へのボランティアでもよい。 ・音楽会、演奏会、絵画展などをもっと多く行ってほしい。 ・すてきな生き方をしている人によるトークショーを希望。 ・カラーコーディネイトや話し方教室など ・幸せになる生き方教室
・地域の公民館はその地域の「寺子屋」的であってほしい。つまり<u>歩いていける範囲で</u>、その地域の住民が望んでいる講座をひらいてほしいということ。 合併して大きな日光市になったからこそ、<u>大きな範囲に</u>公民館活動を広げるのではなく、<u>小さい地域</u>の特色を大切にしてほしい。(各公民館単位で個別の講座を立ち上げという地域の特色を重視した手法) 合併してからは、何ごとも中央公民館に集まる講座が多く「また、中央公民館…」と思うことが多。広域の人々に共通に考えてほしい講座は、全公民館で一つの同じ講座を立案し、ほとんど同じプログラムを（歩いて行けるために）各公民館へ出張して行うという手法と、<u>小さい、大きい、2つの視点の手法</u>を並行してほしい。以上、ご考慮下さい。
・広報誌すら毎月見ていないので、既に行われているかもしれませんが、広報誌「活動紹介（年間予定）」を載せた上で、各活動の紹介を各号に入れるというのはどうでしょうか。
・前に参加したい講座がありましたが、働いている人に限るとあったのでさんかできませんでした。そういうふう決められてしまうと、参加する意欲が冷めてしまいました。誰でも参加できるといいで

す。
・決まって出る方の輪がある気がして、どうも参加しにくい。 ・子供がある程度成長しなければなかなか時間がつくれない。 ・フルタイムで仕事していると目がいかない。もともと、日光市民ではないので、回覧板などの資料もあまり興味をもって見ないことが多い。どこでもやっているようなイベントだけだなど思うことがある。 ・パソコンの研修などは是非行っていただけると、忙しくてもなんとかやりくりして参加したいと思います。初級ではなく、中級～ワード・エクセルなど
・勤ム先では、2ヶ月先位の予定で、休みをとるので、早めに予定をすることが必要です。年間予定がわかるとよいと思います。
・参加したい講座があっても、時間的に都合がつかなかったりして、あきらめてしまう事もたびたびあります。同じ講座を再度実施する場合、例えば夜間に開講した講座の場合、翌年は昼間とか、時間に変化をつけてほしいです。 ・親子講座の内容を充実させてほしいと思います。
・年齢を分けて講座を行ってほしい。 たとえば、エアロビクスとかでも高年令（老人）の参加が多すぎて30代、40台に人が参加できないし、運動量も違うのです。事が違ってきってしまう
・一人の人間は60兆の細胞で出来てると言われていますが、同様に「日光市」もひとつひとつの家庭がたくさん集って出来上がっていると考えます。 それぞれの家庭の主婦たちは、家族の心と身体を健全に保っていかなければなりません。 そこで、「家族の心と身体を健全に保つ」方法（アドバイスの講座）を是非多く企画していただきたいと思います。 具体的に、まず「心の健康」に関してですが、例えば 「ストレスをためないものの考え方」 「子供が反抗期の時のつきあい方」 「夫婦の会話、コミュニケーションのとり方」 「自分がいつも機嫌よく生活できる方法、心の持ち方」など そして「身体の健康」に関しては 「家族がかぜ気味の時の食事」 「旬の食材を使った健康的な料理」 「子供の心をこめた手づくりおやつ」 「疲れをためないための体操、療法」など如何でしょう。 ひとつひとつの家庭をレベルアップすることにより、日光市全体の「心と身体のレベルアップ」が可能になると思っています。是非ワクワクするような楽しい企画、生活に即使える充実した企画を期待しています。

《女性50代》

・栗山に温泉が出るのに何か利用法はないですか？

温泉プールなど（塩原に温泉プールがあるのです。市内の人は１００円ぐらいで利用できて、二階には卓球ができるのです。運動ができるのです。毎日できて、土日もできて（特に春、夏、冬休み）は毎日できるみたいです。私も子供が小さい時、４回ほど行きました。プールでおよいで、二回で卓球やって楽しい日々をすごせました。 ・栗山にはママさんバレーしかなくて、他にも何かできないですか。 ・映画も月に１回とかみられないですか。昔の映画。 ・今市までは通えないですね。
・いつもお世話になっています。 私は、ピアノサークルのドリーミングというグループで活動していますが、介護しせつなどのいもんに行ったりします。その時にキーボードを使用するのですが、数を調達するのに大変努力します。公民館のキーボードを貸していただけたら助かるのにな、といつも思います。ぜひ貸してください。お願いします。
・日光市在住２０年以上となりますが、以前に比べ、活動内容も多様化し充実して来ているように思います。数年前、日光市内の様々な活動（趣味を含む）をされている方々の紹介があったように記憶していますが、とても参考になり、これからもぜひお願いしたいと思います。 また、個人的にされている方と何か自分に向いている事を始めたい、チャレンジしたい方々との橋渡しの活動も希望します。（サークルの発足を含め） 私個人的には現在家庭的な理由より参加を見合わせていますが、機会があればまたぜひ利用したいと思っています。 その他、一部公民館職員の利用者に接する際の対応に不満を感じたこともありましたが、反面とてもころよくしていただいた方もあり、公的な施設とは言っても、利用者あってのこととご自覚いただければ幸いです。 今後も市民の方々の文化的、意識向上の為のご活躍を期待します。
・日光市における公民館活動を知らず、公民館がどこにあり、どのように申し込むのかあまり注目していなかった様に思います。自分個人としては習いたいもの（例えば、語学、フランスししゅう）などがありますが、そのような講座はなかったようにも思えます。 忙しい中でそのような心の余裕をもち、講座に参加できれば有難いことだと思います。 春には、花を見に行くハイキング 春を植える、寄せ植えなどの講座 夏には、海に行くツアー、ハイキング 秋には、紅葉を見に行くツアー、ハイキング 冬には、部屋の中でできる、そば打ち、手芸、料理など あれば参加したいと思います。
・自然豊かな日光市なので、この内容を生かした活動をしてほしい。
・公民館活動といってもやはり地域性が如実に現れてくると思います。特に文化面ではなかなか日光市全体としての活動は無理があると思われます。旧市町村での地域の公民館でのみ参加したいと思います。 ・図書館を利用しますが、何かと旧今市市有位に図書等がそろえられているように思われます。新刊等、他地域での充実をお願いします。

・鬼怒川の文化会館の公民館では遠いし、足もない。川治のコミュニティーハウスなら午後の2時間くらいなら、何かやって活動したいと思います。これからは、老人、一人暮らしが多いので、おしゃべりしたり、ちょっとしたお茶のみ位でいいのかなと思います。 ・年に2回くらいのお料理とか編み物、書道なんかもいいかなあと私としては思っています。以上
・平日の午前中の講座がふえればと思います。 ・常日、もっとたくさんの作品が展示されていれば気軽に拝見出来ると思う。
・現在はお元気な高齢者の方々もたくさんいらっしゃるので、高齢の方が肩肘はらずに集える様な楽しい講座がたくさんあっても良いと考えます。
・学習とかいろいろやってる講座があるので、行って参加したいと思っています。健康とか病気、社会勉強をしたいと思っています。
・私は県外出身者で結婚で日光市に来ました。30歳前半に地域活動しようと自治会や公民館のイベントに参加したりしました。しかし、当時はよそ者を受け入れるというふんい気ではありませんでした。それ以降、お金がかかっても民間のクラブやイベントに参加するようになりました。市でやってる講座など参加したいのがありますが、臆病になっています。
・公民館の市民講座がいろいろ開催されているが、平日だけでなく土曜、日曜と休みの日の講座開催を希望したい。 ・講座で人気のある講座は、抽選になってしまうので、できれば希望人数を参加できるようにお願いしたい。 ・婦人会活動について 今、どこの地域でも婦人会参加者の減りが多く見受けられます。昔の婦人と違い今の婦人は自分意志で行動を起すことが出来る人が多くなってきたと思います。ですから、団体にははいらなくてもそれなりに楽しみは出来ると思います。でも、地域にとって大切なのは一人ひとりが、地域のために自分の持っている力を地域活動に生かせることが大切だと考えます。それには各公民館での担当者の積極的な地域婦人会への働きかけ、魅力ある企画が大切だと思います。現在婦人会活動で、地域婦人のサポートを必要とするときだけの公民館ではいけないように思います。もっと地域の婦人が喜んで公民館の活動に参加できるような地域に副った公民館であることを希望します。
・講座の申し込みを全市に配布してほしい。 ・絵手紙教室を受講したが、一年間しか受けられなかったもので、毎年続けて受けられたら良いと思った。 ・趣味の教室をもっと幅広くしてほしい。
・気軽に相談出来る場所がほしい。
・料理教室
・私は栗山地域に住んでおります。平日は勤めているため、公民館でどのような生涯学習等の活動が行われているのか知りません。(書道教室など行われているようですか…) - 以前は、教育委員会が入っていたため活気がありましたが、今はその活動の日以外は閉まっているために、公民館の役割を果たしているのか疑問です。将来、時間が取れたら何か活動したいと思います。が、もっと地域住民に活動内容をアピール(報告・お知らせ)してほしいと思います。
・各自治会で楽しみの出きる料理を味わいながら、老人も一緒になって食べられる機会を行ってもらえれば良いかと思います。

・登山教室の先生の事です、もっとしっかりした人が良いと思います。 ・日曜日に活動が多少あると参加できるのですが、係の人達は大変かと思いますが、よろしくお願い致します。
・自力全体の講座など ・料理の講座など
・各自治会で公民館活動やイベントをやっているのでも市におけるとなると限られてしまうようですね。 ・現在も市で英会話教室などやっているのでしょうが、一部の大きな市だけでしょうか。旅館・ホテルの密集地だけでなく、月に何回かに分けて各自治会への訪問講座も検討して下さい。 ・英語講座に限らず、パソコン等の講座も各地区に派遣講師が、各公民館へ訪問してくれば良いと思います。 ・大きな公民館に人達を集中的に集めるだけでなく、市の隅々で気を使っただけなら有難いです。
・土日を利用したハイキングなど軽く身体を使う事を行ってほしい。 ・家族全員で行動できる事なども楽しそうだと思います。
・音楽、コンサートなど身近で聞きたいですね
・市立公民館を利用した事は一度もありません。一般的に公民館という場合、自治公民館が身近に考えられます。地域活動の場として気軽に行けると思います。自治公民館でも市立公民館で行っているような事が少しでもできると良いのではないのでしょうか。
・公民館活動は地域活性化には大いに有効的だと思いますが、活動時間、内容等がウイークデー対象である為、家に居る、又、時間に余裕のある人だけと考えられます。 現在は働いている人が多いのですから、土日等の休日に行われる様にしてほしいと思います。 ・定年退職してからでないと活動に参加できない、働きながらも地域の活動や発展に参加できれば…と思います。ちなみに私はリタイアです。参加したい講座とかのありましたが、やはり仕事優先、このような事のない様にしてほしいと思います。来年から参加出来る事が今から楽しみです。宜しくお願い致します。
・生活におわれていつ参加できるかわかりませんが、地域地域にあった公民館活動を望みます。 ・画一化されずに、地域の現状にあったその場しのぎでなく、未来に一步繋がる継続的な地域に生きづく学習をお願いします。
・お茶の茶道を習いたい！ ・お花の花道を習いたい！ ・食生活のボランティアの学習をしたい！ ・老人の介ごの学習をしたい！
・趣味、芸術的なものサークル活動を！ 前期と後期に別けて数多くチャンスがほしい！
・鹿沼市の福祉センターでパン教室に1年位通ってました（H20年10月まで）日光市になるまでは今市の公民館で習っていましたが、日光市になってからは出来ないとのことで鹿沼に移行しました。驚いたことは鹿沼の方がとっても近代化されていて作業もスムーズに進みました。地元にいながら隣の町で出かけるのもさびしい気がします。日光市もみなさんに喜んでいただけるような使いやすい教室にしていきたい、活動も大事ですが活動する場所も多くの方が興味を持つような物にして下さい。

・市民全員でポスター作って日光を元気にする ・日光の宝さがし 市民に自分の好きなものや大切にしてもらったものを教えてもらう ・ポスター募集 ○原画、アイデア（知りたいこと、市や公民館の資料などから） ○ 展示 ○選ぶ ○ポスター化 ・個人、家族、趣味やサークルなどの仲間、保育園や幼稚園、学校、職場、老人の施設、医療関係、図書館や資料館など、いろいろな人達に参加してほしい。 ・風景、地域の行事、暮らし、仕事、学校、趣味、自分の伝えたいことなどをポスターにしてもらう。 ・ポスター化の方法、キャラクター、ネーミングなども募集 ・評判のよいものは商品化する、内容によっては観光地などで販売する。
--

《女性60代》

・市民にとっては、公民館は必要です。特に年金暮らしでお金が高い所には個人では借りる事はできないのです。高齢者が皆で集って出来る事は、公民館を使用させてもらえるから楽しくできます。今後も宜しくお願い致します。
・パッチワーク ・ステンドグラス
・数年前までは楽しく講座や教室に通っていました。知識を得ること。生活に役立つ技能等は楽しかったことを思い出します。 年齢を重ねても修得できる喜びは嬉しいことです。私は「問5」2に○をつけました。幼き昔、父の転勤で今市に住んだことから学校がかわり、悲しい一時期を過ごした経験があります。随分と我慢した時期を時折脳裏に浮かびます。でも、両親には話せませんでした。その頃、母には厳しかった祖母が遊び相手になってくれたことで乗り越えられたのです。 現在主人と二人の日常生活は「地味であっても」が私達の口癖です。年齢に関係なく自分の好きな講座、イベントに参加できる自身の健康に気をつけ、新たな年を迎えたいと思っております。
・私は毎週体操と卓球で公民館を利用させてもらっています。すごく楽しく。楽しみにして居ります。その他健康講座にも出席しています。これからは是非利用させてもらいたいと思います。よろしくお願い致します。
・芸術鑑賞教室で、落語や劇場などに行きたい。
・冬期間、週1回でも良いので柔軟体操を指導して頂く、機会があれば幸いに思います。
・若者向けの料理、パン作りなどの講座はあるようですが、年齢制げんなしにしてもらえたらいいのと思う事しばし思います。
・公民館活動の情報があまり伝わってこない。（広報紙中に掲載されているが、特版的に発行しても良いのではないかな。） ・各地区を会場とする企画をしてはどうか。（中央へ出向くよりは、参加し易いように思われる。一出前一
・公民館主催で、会場を市内の由緒あるところで実施してほしい。 たとえば、輪王寺の写経を単発的に公民館主催で

真光教会で その時々聖歌を学ぶ講座、さらにはパイプオルガンを備えてオルガン教室開講。 田母沢で 書道、謡曲 中禅寺 イタリア大使館別荘跡地で、種々夏期集中講義 等
・いつも何かお役に立つ事があれば、私で出来る様でしたらお手伝いさせて頂きたいと思って居ります。美化のため、ゴミ拾い等でしたら出来ると思って居ります。 ・図書館は週に3回～4回利用させて頂いております。ウォーキングもよくして居ります。自然観察は大好きです。自然を沢山残してほしいと思います。
・日光市は合併して3年になります。各地域の郷土料理とかいろいろな事がうすれていってしまいます。今の若い人達に学んでいただければいいと思っています。
・以前（ずっと前です）豊岡公民館で美術館めぐりがあり、毎回友達を誘って楽しみに参加しました。又杉大への料理に2年間参加しましたが、その時も課外研修があり、宇都宮市や那須地方等の美術館やレストランでの食事等楽しかったです。趣味はさまざまですが、私や同年代の友達はバスを利用して県内外の視察、研修などを希望します。（個人負担で）
・色々な活動があると思いますが、参加希望が多数あるのに、定員オーバーで参加できないのはとても残念です。希望者が多い活動は日数を増やして2回行うとか、希望する人が出来るだけ参加出来る様にさせていただけたらと思います。参加の少ない活動は見直してもいいのではないのでしょうか。（1年間計画をしてしまうとその通りにしないといけないのかも知れませんが…） ・自分1人では年齢的にも続けられなくても教えてくださる方があって学習できる機会がある事はとても嬉しい事だと思います。今後共色々企画していただければと思います。楽しみにしています。
・公民館情報が少ない。
・パソコン教室 ・料理教室
・就学前の子供とお年寄りが都合のよい人たちが集って色々な物、例えば学具、遊技で一緒に行動し、お互いに時間を楽しくすごす。お互いに勉強になったり、元気になったりと思う。
・私は3年前から体調が悪いので、早く良くなって参加したいと思っています。
・ウォーキングなどを希望します。（地域交流、コミュニケーション、健康保持等を目的とする。）
・15年位以前に一度習字のサークルに入った事がありましたが、講師があわずすぐにやめてしまいました。その後は生活に追われ公民館活動は何もしていませんでした。やっと自分の時間が持てる様になった現在何かをやってみたいという気持ちはあります。民間のカルチャースクールで入会する前に一度だけ見学という形で体験出来るシステムがあります。公民館活動ではその様な事は無理でしょうか。
・日光市になって大きくなったのだから、イベントがある時、市民でも少ない人数でもよいから活動できるよう ・そば打ちなど竹ざいくの先生も町の中にはいます。歴史などの講座、午後2時から ・子供が学校に行っている時は、親子で図書館を楽しく利用させていただきました。自分の家の本棚のように子供の質問に答えるため、小学校用の歴史の本を楽しかったです。時間が出来たら又図書館に行きたいです。

《女性 70 歳代以上》

・今から 5 年くらい前、それより以前かもしれません。公民館で若い女性のピアノとバイオリンの演奏会がありました。素晴らしくて感動しました。年に 1 度ぐらいはクラシックの生演奏とか落語などをやってほしいと思います。何もプロでなくても、夏休みや冬休みなど大学には落研もあり、クラシックの学生もたくさんいます。実現してくださりますよう学生の勉強の場として。公営ですからむしろかしいとは思いますが、友人とでも 1 人でももっとリラックスして人と交流出来る場として、喫茶コーナーがあっても良いのではと思います。楽しくて行きたい人が多くなれば進展はありません。
・今市と合併してからは、日光市総合会館のもよおしも少ないと思います。又、合併してからは税金（公共料金）も高くなり私共は今市との合併には反対でした。東照宮の拝見券もなくなりました。今までは気がるに東照宮の中まで行けましたが今では残念に思います。日光市在住の一人です。誰でも相思っている方も多いと思います。
・老化による脳の劣えを防ぐため積極的に種々の研修に参加して居ります。企画する係りの方に感謝して居ります。願わくは①もっと回数を増やしていただけたらと思って居ります。年々回数が減っているのが残念です。②魅力ある研修で参加したいと思っても夜間の時間帯に多いのが残念です。なるべく昼間帯で老人でも参加できるよう企画して下さい。③旧日光市の公民館で企画している「ふるさと日光学」は本年は大変すばらしい企画が多く、市民号での奥日光探訪や栗山村、足尾などの歴史巡りや世界遺産の候補地等の研修は大変楽しく、よい研修になり感謝して居ります。今後もこのような企画を希望して居ります。④公民館の視聴覚室や歩いて研修した研修は毎年同じ講師の方の講義や二社一寺の関係の方の説明などが多いように思えます。多方面の講師の方々の講義を拝聴いたしたく思います。来年度はぜひご考慮くださるようお願いいたします。⑤現在私は旧日光市の公民館活動だけ参加して居りますが、来年度からは健康を保つことに努力して他地域で開かれている企画に参加して見聞を広め、有効に行動し見聞を広め老化防止に努めたいと思って居ります。
・ 80 才代のため記入が少なく申し訳ありません。但し、60 才代は 10 年位前陶芸教室、杉大に入り勉強させていただきました。ありがとうございました。
・簡単な木工講座を希望します。 ・毎月土曜日か日曜日にウォーキング、ハイキング等スポーツを機希望します。
・今まで並木大学などで陶芸、絵画、料理等の講座で学ばせていただき有りがとうございました。これら学習を通して、日常生活が多少なりとも豊かになったと思います。それと同時にクラスメートと講座が終わりましてもおつき合いが続き、年に何度かはお食事会などをもち、楽しい思い出ができます。まだまだ、いろいろ学びたいと気持はあるのですが、年齢的（82 才）に一寸無理になってきましたので、残念乍ら個人的な学習にとどめたいと思っております。ありがとうございました。
・受講したいものがあっても、一人で行くの気後れしたり、日時が合わなかったりで出そびれてしまいました。 ・初回に出席しないと後でなくなってしまう、続かなくなる原因です。 ・いろいろな会（婦人会とか合唱会とか）に働きかけてくださると出席し易くなると思います。 ・毎年今年度こそはと思ひ乍ら過ぎてしまいます。21 年度こそはと考えています。宜しく願いいたします。
・栗山地区は車での移動が必要なので、今市方面ではなかなか参加できないので、当地区の公民館でも

参加できるような活動をお願いします。
アンケートの記入に自分自身の姿を見たようです。これまでただただ動く事だけを身に、学校も高校しか出ていません。動く事で70才を過ぎてしまいました。これから何をしようか、その1歩が体も頭も切り変える事が出来ないのです。
何かの集りがあり、出席したいと思っても車がないため行けない事が多くあります。公民館活動の時はぜひ車の用意をお願い致します。
- 特殊な技能を必要とする内容より、生活に役立つ健康づくり、法律関係（やさしい）等がやってみたい内容です。 - 技能的なものでは、中高年向けのパソコン講座、（NHKなどでもやっていますが）等でもよいのでは… - 参加しやすいよう、ハードルはなるべく低くした方がよいのではないかと思います。 - 何回かで終了してしまうのではなく、その後のフォロー等もしていただけると嬉しいです。 - 単発的なものでも、健康づくりに関するものであれば、年に何回か開催していただければ参加したいと思います。
・拝啓 私は恵まれた環境に在住、充実した老後を送っています。これも僥に行政に携わる方々の気配りの賜と感謝してます。但し、苦言がございます。公民館、コミニティーの管理人の件ですが永い事その役にいると公共の施設が、とかく私物化本末転倒の感です。自己中心主義、自分の気に入らぬ人はソッポ向き、除外され人間関係が嫌です。こんな辛い目に遭っている人が多々いられるようです。これは公僕に反してると思います。管理人も5年位に任期で人身一新していただければ、何時も新鮮な雰囲気は保たれると思います。残り少ない人生です。老いも若きもおつき合い出来るようになったら幸いです。敬具
70才を以上になりますと、自分のこともそうですが、相手の健康状態や家事のことで仲々出かけることがむずかしくなってきます。新しいものに挑戦しようとしてもそれが実施されている所へ出かけるのに交通手段を確保することも大変です。そのような訳で仲々やってみたいという気持ちはあっても参加できないのが実情です。これは参加できない、参加しない私だけの言い訳かもしれませんね。
日光市のいちばん北の方なので何んの楽しみもなく年寄りのせでしょう、まして日光市になってからの方が多いです。
私は76才に成ります、2人の子供が折りますが、上の娘は東京、下の長男は宇都宮に居ます。孫も3人居ます。今は主人と2人暮らしですが、今の所体も不自由なく動いて居ます。幸せです。私は手先の仕事が好きです。近所でやれるなら参加したいと思います。（私も病気しないよう用に頑張ります）
（栗山地区日向公民館を対象として記入） 1. 小さな集落の小さな講座に目をむけてほしい。 2. 山間地で高齢者の足がない。輸送手段を検討してほしい。 3. 中心地での講座の開催でなく、遠かく地の講座に目を向けてほしい。 4. 旧今市の講座でなく、新市として、遠かく地を考えてほしい。 5. 日向地区の婦人会が合併後、栗山地区から脱退した。今市市内の集りが多く、ガソ 6. リンと時間のロスが多いため。現在に日向地域内で活発に活動している。今後課題である。

7. 日向地区公民館は川治ダム建設の時に建築された。備品・図書も大がかりに整備された。現在閉館同様。利用方法を検討されたい。
8. 日向地区公民館は簡単で強いコピー機があったので、老人会、婦人会、自治会が活用できた。用紙は各団体で持参して活動も活発だった。あの頃はよかった。
日向地区公民館の除草作業年2回実施してきた。現在予算なし、3万円を日向老人会に支給されてきた。すべてボランティアとの考えはいかが。

日光市公民館活動に関する市民アンケート

*** ご協力をお願い ***

皆さまには、日頃より公民館活動にご理解、ご協力をいただき、ありがとうございます。

日光市は合併して3年目をむかえました。現在、市内の市立公民館では、地域に住むだれもが気軽に学べるように、場所や講座を提供し、学びをとおして人々の暮らしや地域を豊かにしていくために、各種講座や教室を実施しているところです。

この市民アンケートは、公民館が市民の皆さんに親しまれ、より活発に利用されるために、皆さんの公民館活動に関するお考えやご意見を幅広くお伺いし、今後の公民館を運営するうえでの、資料とさせていただくことを目的に実施するものです。

お答えいただく方は、日光市にお住まいの18歳以上の方の中から、男女あわせて3,000人無作為に選ばせていただきました。このアンケートにはお名前を書いていただく必要はありません。また、ご記入されました内容につきましては、全て統計的に集計処理いたしますので、秘密の厳守は当然のことながら、ご迷惑をおかけすることは一切ございません。

お忙しいところ誠に恐れ入りますが、アンケートの趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成20年12月 日光市教育委員会

*** ご記入にあたってのお願い ***

○できるだけあて名のご本人の判断でお答えください。(代筆でも結構です。)

○黒のボールペンまたは鉛筆などで、はっきりと記入してください。

○お答えは、あてはまる回答の番号に○をつけるものです。特にことわりのない限り、1つだけ選んでください。(あてはまるものすべて) など回答が限られている質問では、示された数の範囲で選んで、その番号に○をつけてください。

○「その他」にあてはまる場合は、お手数ですが()内になるべく具体的にその内容を記入してください。

○質問の中には回答できないとお考えになるものもあるかと思います。

万一未回答の質問が残りましたが、ぜひご返送くださいますようお願いいたします。

○ご記入いただきましたアンケート用紙は、同封の返信用封筒に入れて、平成20年12月31日(水)までにポストに投かんしてください。切手は必要ありません。

○このアンケートについての質問などがありましたら、下記までお問合せください。

日光市教育委員会 中央公民館

〒321-1262 日光市平ヶ崎 160

電話 (0288) 22-6211

FAX (0288) 22-8798

E-mail chuouou-ph@city.nikko.lg.jp

《 調 查 票 》

問1 あなたの性別についてお答えください（あてはまる性別の番号に○をつけてください）

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年齢についてお答えください

(平成 20 年 11 月 1 日現在で、あてはまる年代の番号に○をつけてください)

- | | | | | | | | |
|---|-----|---|-----|---|-------|---|-----|
| 1 | 10代 | 2 | 20代 | 3 | 30代 | 4 | 40代 |
| 5 | 50代 | 6 | 60代 | 7 | 70歳以上 | | |

問3 あなたの主な職業についてお答えください。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- 1 学生 2 家事専業 3 自営業（商工・サービス業）
4 自営業（農・林・漁業）
5 フルタイムパート、派遣（1日の労働時間及び1週間の労働日数が正社員とほぼ同じ方）
6 パート・アルバイト、派遣
（1日の労働時間及び1週間の労働日数が正社員より短い方）
7 勤め人（会社員・公務員・教員など） 8 無職 9 その他（

問4 あなたの世帯構成についてお答えください。（あてはまるものを一つ選んでください。）

- 1 単身世帯（一人暮らし） 2 一世代世帯（夫婦のみ）
3 二世帯世帯（親と子） 4 三世帯世帯（親・子・孫）
5 その他（ ）

問5 あなたはいつから日光市に住んでいますか。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- 1 18歳以前から日光市にずっと在住（5年未満の期間、日光市を離れていた方を含む。）
2 18歳以前から日光市に在住だが、5年以上日光市を離れていた時期がある
3 18歳以降に他市町村から転入

問6 あなたは日光市にどれくらいの期間住んでいますか。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- 1 5年未満 2 5～10年未満 3 10～20年未満 4 20年以上

問7 あなたの勤務地・通学先についてお答えください。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- | | | |
|---------------|-----------|--------|
| 1 日光市内 | 2 栃木県内 | 3 栃木県外 |
| 4 勤務・通学をしていない | 5 その他 () | |

問8 あなたはこの3年間(平成18年春以降)に日光市立公民館／コミュニティセンター(自治会運営の自治公民館、コミュニティセンターを除く)を利用したことがありますか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

- | |
|-------------------------------------|
| 1 利用しなかった |
| 2 スポーツ少年団やPTA等団体の集会場所として利用した |
| 3 趣味のグループやサークル活動の場として利用した |
| 4 作品などを鑑賞した (映画・音楽会・演奏会・演劇・絵画・写真など) |
| 5 公民館主催・共催の行事(作品鑑賞以外)に参加した |
| 6 公民館主催・共催の学級、講座などに参加した |
| 7 公民館主催・共催以外の、講演会・行事などに参加した |
| 8 公民館講座OBのクラブ活動の場として利用した |
| 9 その他(具体的に:) |

問9 この3年間の日光市立公民館やコミュニティセンターなど公的な施設の利用頻度はどの程度ですか。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- | | | |
|----------|---------------|----------|
| 1 週に1回以上 | 2 月に1回以上 | 3 年に数回程度 |
| 4 年に1回程度 | 5 ほとんど利用していない | |

問10 あなたはこの3年間(平成18年春以降)に公民館で実施する講座や教室に、どのくらい参加しましたか。(あてはまるものを一つ選んでください。)

- | | | |
|--------------|--------------------|----------|
| 1 参加したことはない | 2 年に1回程度 | 3 年に数回程度 |
| 4 複数の講座に定期的に | 5 ほぼ毎週、何らかの講座に定期的に | |

※「1 参加したことはない」と答えた方は問11へお進みください。

※ それ以外の方は問12へお進みください。

問１１ 「問１０」で「１ 参加したことはない」と答えた方におたずねします。あなたが公民館で実施する講座・教室にこの３年間参加したことがない理由は何ですか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

- １ 公民館の講座にそもそも興味・関心がない
- ２ 自分の希望に合う講座がない
- ３ 講座の情報（内容・費用など）が得られない
- ４ 地理的に交通が不便だから、通えない
- ５ 興味はあるが一人では参加しにくい
- ６ 参加する時間がない、あるいは時間が合わない
- ７ 家族や職場など周囲の理解が得られない
- ８ 自主的に活動したり民間施設を利用しているから
- ９ 健康上の不安がある
- １０ かつて参加してみたが、つまらなかった・役に立たなかった
- １１ 公民館の講座は、決まった人だけが参加していて入っていきにくいイメージがある
- １２ 公民館の講座は、まじめでかたそうなイメージがある
- １３ その他（具体的に： _____）

問１２ 「問１０」で「２．年に１回」から「５．ほぼ毎週」と答えた方におたずねします。あなたがこの３年間に参加した講座や教室はどのような内容ですか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

- １ 趣味・芸術的なもの（音楽・美術・華道・舞踏・書道・園芸・囲碁など）
- ２ 教養的な知識を学ぶもの（文学・歴史・科学・語学など）
- ３ 自然体験や歴史体験、地域探訪などの体験活動（自然観察、史跡散策、地域探訪など）
- ４ 育児・教育（子育て・家庭教育・教育問題など）
- ５ 家庭生活に役立つ技能（料理・そば打ち・編み物・手工芸・しめ飾りづくりなど）
- ６ 社会生活に役立つ知識（行政の仕組み・裁判員など新しい制度・税金・法律）
- ７ 社会問題（時事問題・環境問題・人権問題・経済問題・少子化問題など）
- ８ 健康や医学に関する知識を学ぶもの（生活習慣病予防・応急処置など）
- ９ 健康・体力づくり（エアロビクス、ヨガ、ジョギング、ウォーキングなど）

- 1 0 スポーツ・レクリエーション（各種スポーツ、ハイキング、トレッキング）
- 1 1 ボランティアや社会福祉活動（子ども会などの団体活動・手話・介護など）
- 1 2 まちづくりや地域の活性化に関するもの（地域環境美化、駅前活性化、観光促進など）
- 1 3 情報通信技術（パソコン・インターネットなど）
- 1 4 その他（具体的に： _____ ）

※ ここからは全ての方が答えてください。

問 1 3 来年度以降、ここ数年のうちに参加してみたいと考えている講座はありますか。これまで参加したことのある講座も含め、すべて選んでください。問 1 1 であげたような問題が全て解決したとすれば、という前提でお答えください。（あてはまるものをすべて選んでください。）

- 1 趣味・芸術的なもの（音楽・美術・華道・舞踏・書道・園芸・囲碁など）
- 2 教養的な知識を学ぶもの（文学・歴史・科学・語学など）
- 3 自然体験や歴史体験、地域探訪などの体験活動（自然観察、史跡散策、地域探訪など）
- 4 育児・教育（子育て・家庭教育・教育問題など）
- 5 家庭生活に役立つ技能（料理・そば打ち・編み物・手工芸・しめ飾りづくりなど）
- 6 社会生活に役立つ知識（行政の仕組み・裁判員など新しい制度・税金・法律）
- 7 社会問題（時事問題・環境問題・人権問題・経済問題・少子化問題など）
- 8 健康や医学に関する知識を学ぶもの（生活習慣病予防・応急処置など）
- 9 健康・体力づくり（エアロビクス、ヨガ、ジョギング、ウォーキングなど）
- 1 0 スポーツ・レクリエーション（各種スポーツ、ハイキング、トレッキング）
- 1 1 ボランティアや社会福祉活動（子ども会などの団体活動・手話・介護など）
- 1 2 まちづくりや地域の活性化に関するもの（地域環境美化、駅前活性化、観光促進など）
- 1 3 情報通信技術（パソコン・インターネットなど）
- 1 4 その他（具体的に： _____ ）

問14 あなたはこの3年間にどのようなかたちで生涯学習を行いましたか。(あてはまるものをすべて選んでください。)

生涯学習とは

「生涯学習」とは、人々が、生涯のいつでも、どこでも、自由に行う学習活動のことで、学校教育や、公民館における講座等の社会教育などの学習機会に限らず、自分から進んで行う学習やスポーツ、文化活動、ボランティア活動、趣味などのさまざまな学習活動のことをいいます。(生涯学習には、学校における学習活動(正規課程、公開講座等)や、自宅で行う学習活動も含みます。)

(生涯学習の例)

学校教育での学習

社会教育での学習(学校外における組織的な教育活動での学習)

- ・国、地方公共団体、公民館等が行う講座
- ・大学、短大等の学校が行う公開講座
- ・民間教育事業者の行う通信教育
カルチャースクール等
- ・個人経営のピアノ教室等
- ・企業内教育
- ・職業訓練施設での教育

家庭教育での学習

自己学習活動(読書、図書館、博物館美術館などでの利用者の自主的な学習等)

スポーツ活動、文化活動、奉仕活動
体験活動(自然体験、社会体験、生活体験)
趣味、レクリエーション活動等
での学習

- 1 特に行っていない
- 2 公民館・図書館・歴史民俗資料館など公立施設の講座に参加
- 3 PTA・子ども会・婦人会などの団体の事業に参加
- 4 公共施設を借りて行っているサークル・クラブ活動に参加
- 5 民間施設その他で行っているサークル・クラブ活動に参加
- 6 高校や大学、大学院などに学生として籍をおいて学習(放送大学以外)
- 7 通信教育や放送大学などでの学習
- 8 大学等で行う公開講座(開放講座)での学習
- 9 民間のカルチャーセンター、文化センター、各種学校、スポーツクラブなどに参加
- 10 お稽古など個人教授などでの学習
- 11 個人で、図書館や資料館などを利用した学習
- 12 地域や同好会の中でのスポーツ活動

1 3 図書・テレビ・ラジオなどでの独学

1 4 インターネットやパソコンのソフトを利用した学習

1 5 その他 (具体的に:)

問 1 5 来年度以降、ここ数年のうちに、どのようなかたちで生涯学習に取り組みたいと思いますか。(現在行っているものを継続する場合も含め、あてはまるものをすべて選んでください。)

1 特に予定はない

2 公民館・図書館・歴史民俗資料館など公立施設の講座に参加

3 P T A・子ども会・婦人会などの団体の事業に参加

4 公共施設を借りて行っているサークル・クラブ活動に参加

5 民間施設その他で行っているサークル・クラブ活動に参加

6 高校や大学、大学院などに学生として籍をおいて学習 (放送大学以外)

7 通信教育や放送大学などでの学習

8 大学等で行う公開講座 (開放講座) での学習

9 民間のカルチャーセンター、文化センター、各種学校、スポーツクラブなどに参加

1 0 お稽古など個人教授などでの学習

1 1 個人で、図書館や資料館などを利用した学習

1 2 地域や同好会の中でのスポーツ活動

1 3 図書・テレビ・ラジオなどでの独学

1 4 インターネットやパソコンのソフトを利用した学習

1 5 その他 (具体的に:)

問 1 6 あなたのお住まいの地域についてお答えください。

1 今市地域 (旧今市市) 2 日光地域 (旧日光市) 3 藤原地域 (旧藤原町)

4 足尾地域 (旧足尾町) 5 栗山地域 (旧栗山村)

問 17 あなたが公民館事業（講座・イベントなど）に参加すると仮定した場合、都合のよい曜日、時間帯はいつですか。（あてはまるものをすべて選んでください。）

- 1 都合のよい曜日・時間はない
- 2 平日の午前 3 平日の午後 4 平日の夜間（午後6時以降）
- 5 土曜日の午前 6 土曜日の午後 7 土曜日の夜間（午後6時以降）
- 8 日曜・祝祭日の午前 9 日曜・祝祭日の午後 10 日曜・祝祭日の夜間（午後6時以降）
- 11 その他（具体的に： _____ ）

【最尾に…】日光市における「公民館活動」を促進するためのご提案や、開講して欲しい講座、行って欲しいイベント、その他「公民館活動」に対するご意見・ご感想などがあれば自由にお書きください。



公民館事業市民意識調査 調査報告書

平成 2 1 年 4 月発行

編集・発行 日光市教育委員会

問合せ先 日光市中央公民館

〒321-1262 日光市平ヶ崎 160

TEL 0288-22-6211

FAX 0288-22-8798

e-mail chuuou-ph@city.nikko.lg.jp
